

元総社蒼海遺跡群（32）

元総社蒼海遺跡群（33）

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

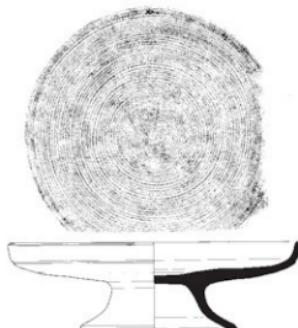
2011. 3

前橋市教育委員会

元総社蒼海遺跡群（32）

元総社蒼海遺跡群（33）

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書



元総社蒼海遺跡群（33）H32号住居跡出土の高脚形土器

2011. 3

前橋市教育委員会



元總社蒼海遺跡群（32） 2区全景（北から）
左上に見える丸は宮鍋神社の場所である。



元總社蒼海遺跡群（32） 3区全景（西から）
右上の丸は大型掘立柱建物跡が確認された元總社蒼海遺跡群（9）である。



元總社蒼海遺跡群（33）2区～5区全景（南から）



元總社蒼海遺跡群（33）H-32号住居跡出土 高盤

はじめに

前橋市は関東平野の北西部に位置し、名山赤城山を背に利根川や広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情に溢れる県都です。市域は豊かな自然環境に恵まれ、2万年前から人々が生活を始めました。そのため市内のいたる所から、人々の息吹を感じることのできる遺跡や史跡、多くの歴史遺産が存在します。

古代において、広大に分布する穀倉地帯を控えた前橋台地には、八幡山古墳や前橋天神山古墳をはじめ、總社二子山古墳、天川二子山古墳といった大型古墳が連綿と築かれ、上毛野国を中心として栄えました。また、続く律令時代になってからは總社・元總社地区に山王廃寺、国分僧寺、国分尼寺、國府など上野国の中核をなす施設が次々に造されました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎧をけざった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東三名城の一つに数えられる厩橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の大生産地であり、横浜港から前橋シルクの名前で遠く海外に輸出され、日本の発展の一翼を担いました。

今回、報告書を上梓する元總社蒼海遺跡群（32）、（33）は上野國府の中核域と推定していた場所に隣接することから、調査成果に多くの期待が寄せられています。今回の調査では、古墳時代の竪穴住居跡と中世蒼海城の堀跡などのほかに粘土探掘坑を検出したしました。広範囲の粘土探掘坑から探掘された粘土は、その成分から土器の製作が目的ではなく、國府の諸施設の基礎に使用された事と考えられます。

今は一本の糸に過ぎない調査成果も織り上げて行けば、國府や國府のまちの姿を再現できるものと考えております。

残念ながら、現状のまでの保存が無理なため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、この調査事業を円滑に進められたのは、関係機関や各方面のご配慮の結果といえます。また、炎天下の中、直接調査に携わってくださった担当者・作業員のみなさんに厚くお礼申しあげます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成23年3月

前橋市教育委員会
教育長 佐藤博之

例　　言

- 1 本報告書は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う元総社蒼海遺跡群（32）・（33）発掘調査報告書である。
- 2 調査主体は、前橋市教育委員会である。
- 3 発掘調査の要項は次のとおりである。

調　　査　　場　　所　　群馬県前橋市元総社町1816番地1 ほか
発　　掘　　調　　査　　期　　間　　平成22年5月10日～平成22年12月27日
整理・報告書作成期間　　平成22年12月28日～平成23年3月18日
発　　掘　　・　　整　　理　　担　　当　　者　　山下歳信・瀧澤重雄・坂本高弘・並木勝洋・福田貴之・阿久澤智和
- 4 本書の原稿執筆・編集は山下・瀧澤・坂本・並木・福田・阿久澤が行った。
- 5 発掘調査・整理作業にかかわった方々は次のとおりである。

青木あつ子・青木麻耶・阿部シゲ子・石倉稔夫・大木伸二・神山早苗・小畠恵治・佐藤修・品川祐二・下平勇樹・杉渕富雄・関根その子・高澤京子・高野繁・瀧上政信・多田啓子・角田節子・角田昌幸・渡木秋子・中澤光江・中林美智子・奈良啓子・仲野正人・庭山皓正・橋本ちづる・平林しのぶ・星野和子・堀込よ江・町田妙子・町田敏彦・眞庭武志・峰岸あや子・村越純子・矢島忠・山田哲也・湯浅道子
- 6 発掘調査で出土した遺物は、前橋市教育委員会文化財保護課で保管されている。

凡　　例

- 1 指図中に使用した北は、座標北である。
- 2 指図に国土交通省国土地理院発行の1：200,000地形図（宇都宮、長野）、1：25,000地形図（前橋）、1：6,000前橋市現形図を使用した。
- 3 遺跡の略称は、元総社蒼海遺跡群32は（22A130-32）、元総社蒼海遺跡群33は（22A130-33）である。
- 4 遺構及び遺構施設の略称は、次のとおりである。

H…古墳・奈良・平安時代の堅穴住居跡　T…堅穴状遺構　W…溝跡　A…道路状遺構　D…土坑
DB…土壤墓　P…ピット・貯蔵穴（住居内Pを貯蔵穴とした。）　X…性格不明遺構　O…落ち込み
- 5 遺構・遺物の実測図の縮尺は、原則的に次のとおりである。その他、各図スケールを参照されたい。

遺構・全体図…1/200・1/200・住居跡・堅穴状遺構・溝跡・土坑・ピット…1/60　竈・炉断面図…1/30
遺物　土器・鉄製品…1/3、1/4　石器・石製品・土製品…2/3、1/3　鉄器・鉄製品…1/2　瓦…1/6
- 6 計測値については、（　）は現存値、〔　〕は復元値を表す。
- 7 セクション注記の記号は、縦まり・粘性の順で示し、それぞれ以下のように表現する。

◎ 非常に縦まり・粘性あり、○ 縦まり・粘性あり、△ 縦まり・粘性ややあり、× 縦まり・粘性なし
なお、セクション注記と遺物観察表の色調について新版標準土色帳（小山・竹原1967）を基準とした。
- 8 遺構平面図の-----は推定線を表す。
- 9 スクリーントーンの使用は、次のとおりである。

遺構平面図　焼　土…　粘土…
遺構断面図　構築面…
遺物実測図　須恵器断面…
　　灰釉陶器断面…
　　綠釉陶器断面…
　　内黒…
　　いぶし焼成…
　　煤、炭化物付着…
　　石：煤、被熱痕…
- 10 主な火山降下物等の略称と年代は次のとおりである。

As-B（浅間B軽石：供給火山・浅間山、1108年）
Hr-FP（榛名二ッ岳伊香保テフラ：供給火山・榛名山、6世紀中葉）
Hr-FA（榛名二ッ岳渋川テフラ：供給火山・榛名山、6世紀初頭）
As-C（浅間C軽石：供給火山・浅間山、4世紀前半）

目 次

は じ め に

I 調査に至る経緯 1

II 遺跡の位置と環境

1 遺跡の立地 1

2 歴史的環境 1

III 調査の方針と経過

1 調査方針 7

2 調査経過 7

IV 元總社蒼海遺跡群 (32) 18

V 元總社蒼海遺跡群 (33) 19

VI ま と め 57

図 版

- | | |
|---|--|
| 口絵 1 元総社蒼海遺跡群 (32) 2区全景 | PL. 22 元総社蒼海遺跡群 (33) 3区粘土探掘坑 |
| 2 元総社蒼海遺跡群 (32) 3区全景 | PL. 23 元総社蒼海遺跡群 (33) 3区粘土探掘坑、1~8
~11号井戸跡 |
| 3 元総社蒼海遺跡群 (33) 2~5区全景 | PL. 24 元総社蒼海遺跡群 (33) 3区KW—5・6号溝跡、
D—23~25・45・47号土坑 |
| 4 元総社蒼海遺跡群 (33) H—32号出土 高盤 | PL. 25 元総社蒼海遺跡群 (33) 3区I—7号井戸跡、DB
—2・3号土坑墓、O—2号落ち込み、中世面全景 |
| PL. 1 元総社蒼海遺跡群 (32) 2区全景、H—1号住居
跡 | PL. 26 元総社蒼海遺跡群 (33) 3区D—28~31・33~36
号土坑 |
| PL. 2 元総社蒼海遺跡群 (32) 2区H—2~6号住居跡 | PL. 27 元総社蒼海遺跡群 (33) 4区H—29・31~33・35・
36号住居跡 |
| PL. 3 元総社蒼海遺跡群 (32) 2区H—6・8~12号住
居跡 | PL. 28 元総社蒼海遺跡群 (33) 4区H—37~40号住居跡 |
| PL. 4 元総社蒼海遺跡群 (32) 2区H—14~16号住居跡、
T—1・2号竪穴状遺構 | PL. 29 元総社蒼海遺跡群 (33) 4区H—41・42号住居跡、
D—48~50号土坑、中世土坑群分布状況 |
| PL. 5 元総社蒼海遺跡群 (32) 2区D—2・3号土坑、
W—1・2号溝跡 | PL. 30 元総社蒼海遺跡群 (33) 4区D—51~54号土坑、
中世土坑群分布状況 |
| PL. 6 元総社蒼海遺跡群 (32) 3区全景、H—1~3号
住居跡 | PL. 31 元総社蒼海遺跡群 (33) 4区D—55~59号土坑、
W—8号溝跡、I—14号井戸跡 |
| PL. 7 元総社蒼海遺跡群 (32) 3区H—4~8号住居跡 | PL. 32 元総社蒼海遺跡群 (33) 5区H—43~48号住居跡 |
| PL. 8 元総社蒼海遺跡群 (32) 3区H—8~11号住居跡 | PL. 33 元総社蒼海遺跡群 (33) 5区D—62・64~69号土
坑 |
| PL. 9 元総社蒼海遺跡群 (32) 3区H—11~14号住居跡 | PL. 34 元総社蒼海遺跡群 (33) 5区D—71・72号土坑、
W—10号溝 |
| PL. 10 元総社蒼海遺跡群 (32) 3区H—14~20号住居跡 | PL. 35 元総社蒼海遺跡群 (33) 5区W—12~15号溝跡、
I—15・16号井戸跡 |
| PL. 11 元総社蒼海遺跡群 (32) 3区H—19・22~25号住
居跡 | PL. 36 元総社蒼海遺跡群 (32) 2区出土遺物 |
| PL. 12 元総社蒼海遺跡群 (32) 3区H—25・26号住居跡、
D—4号土坑、W—1・2号溝跡 | PL. 37 元総社蒼海遺跡群 (32) 2区出土遺物 |
| PL. 13 元総社蒼海遺跡群 (33) 1区全景、H—1・2号
住居跡 | PL. 38 元総社蒼海遺跡群 (32) 2区出土遺物 |
| PL. 14 元総社蒼海遺跡群 (33) 1区H—3~6号住居跡、
基本層序 | PL. 39 元総社蒼海遺跡群 (32) 3区出土遺物 |
| PL. 15 元総社蒼海遺跡群 (33) 1区D—1~4号土坑、
P—1・2号井戸跡、I—1号井戸跡、作業風景 | PL. 40 元総社蒼海遺跡群 (32) 3区出土遺物 |
| PL. 16 元総社蒼海遺跡群 (33) 2区H—7・8号住居跡 | PL. 41 元総社蒼海遺跡群 (32) 3区出土遺物 |
| PL. 17 元総社蒼海遺跡群 (33) 2区H—9・10号住居跡、
W—1・2号溝跡、DB—1号土坑墓、I—2号井
戸跡 | PL. 42 元総社蒼海遺跡群 (33) 1・2区出土遺物 |
| PL. 18 元総社蒼海遺跡群 (33) 2区I—3~6号井戸跡、
O—1号落ち込み、H—13・14号住居跡 | PL. 43 元総社蒼海遺跡群 (33) 2・3区出土遺物 |
| PL. 19 元総社蒼海遺跡群 (33) 3区H—12号住居跡、T
—1~3号竪穴状遺構、W—3・4号溝跡 | PL. 44 元総社蒼海遺跡群 (33) 3区出土遺物 |
| PL. 20 元総社蒼海遺跡群 (33) 3区H—15~19・21~24
号住居跡 | PL. 45 元総社蒼海遺跡群 (33) 3区出土遺物 |
| PL. 21 元総社蒼海遺跡群 (33) 3区H—23・25~28号住
居跡 | PL. 46 元総社蒼海遺跡群 (33) 4区出土遺物 |
| | PL. 47 元総社蒼海遺跡群 (33) 4区出土遺物 |
| | PL. 48 元総社蒼海遺跡群 (33) 4・5区出土遺物 |
| | PL. 49 元総社蒼海遺跡群 (33) 5区出土遺物 |
| | PL. 50 元総社蒼海遺跡群 (33) 5区出土遺物 |
| | PL. 51 元総社蒼海遺跡群 (33) 石製品、鉄製品 |

挿 図

- Fig. 1 元總社蒼海遺跡群位置図
- Fig. 2 周辺遺跡図
- Fig. 3 元總社蒼海遺跡群位置図とグリッド設定図
- Fig. 4 元總社蒼海遺跡群 (32) 基本層序
- Fig. 5 元總社蒼海遺跡群 (32) 2区全体図
- Fig. 6 元總社蒼海遺跡群 (32) 3区全体図
- Fig. 7 元總社蒼海遺跡群 (32) 1区全体図、H-1号住居跡、D-1号土坑、P-1号ピット、A-1号道路状造構
- Fig. 8 元總社蒼海遺跡群 (32) 2区H-1号住居跡
- Fig. 9 元總社蒼海遺跡群 (32) 2区H-2~4号住居跡
- Fig. 10 元總社蒼海遺跡群 (32) 2区H-5~6号住居跡
- Fig. 11 元總社蒼海遺跡群 (32) 2区H-5~8号住居跡
- Fig. 12 元總社蒼海遺跡群 (32) 2区H-9~11~13号住居跡、T-1号
- Fig. 13 元總社蒼海遺跡群 (32) 2区H-10~14号住居跡
- Fig. 14 元總社蒼海遺跡群 (32) 2区H-15号住居跡
- Fig. 15 元總社蒼海遺跡群 (32) 2区F-2号窓穴状造構、D-3号土坑、W-1~2~3号溝跡
- Fig. 16 元總社蒼海遺跡群 (32) 3区H-1~3号住居跡
- Fig. 17 元總社蒼海遺跡群 (32) 3区H-4~12号住居跡
- Fig. 18 元總社蒼海遺跡群 (32) 3区H-5~7号住居跡
- Fig. 19 元總社蒼海遺跡群 (32) 3区H-8~16号住居跡
- Fig. 20 元總社蒼海遺跡群 (32) 3区H-9~10~13号住居跡
- Fig. 21 元總社蒼海遺跡群 (32) 3区H-11号住居跡
- Fig. 22 元總社蒼海遺跡群 (32) 3区H-14~15~21号住居跡
- Fig. 23 元總社蒼海遺跡群 (32) 3区H-17~18~20号住居跡
- Fig. 24 元總社蒼海遺跡群 (32) 3区H-19号住居跡
- Fig. 25 元總社蒼海遺跡群 (32) 3区H-22~24号住居跡
- Fig. 26 元總社蒼海遺跡群 (32) 3区H-25号住居跡 (1)
- Fig. 27 元總社蒼海遺跡群 (32) 3区H-25号住居跡 (2)
- Fig. 28 元總社蒼海遺跡群 (32) 3区H-26号住居跡、D-1~7号土坑、P-5~8号ピット
- Fig. 29 元總社蒼海遺跡群 (32) 3区P-1~4号ピット、W-1~2号溝跡
- Fig. 30 元總社蒼海遺跡群 (32) 2区H-1~2号住居跡出土遺物
- Fig. 31 元總社蒼海遺跡群 (32) 2区H-3~6号住居跡出土遺物
- Fig. 32 元總社蒼海遺跡群 (32) 2区H-8~12号住居跡出土遺物
- Fig. 33 元總社蒼海遺跡群 (32) 2区H-14~15号住居跡、T-1号窓穴状造構、D-2号土坑出土遺物
- Fig. 34 元總社蒼海遺跡群 (32) 2区D-2号土坑、O-1号落ち込み出土遺物
- Fig. 35 元總社蒼海遺跡群 (32) 3区H-1~2~4~6号住居跡出土遺物
- Fig. 36 元總社蒼海遺跡群 (32) 3区H-4~6~11号住居跡出土遺物
- Fig. 37 元總社蒼海遺跡群 (32) 3区H-11~12~14~15~18号住居跡出土遺物
- Fig. 38 元總社蒼海遺跡群 (32) 3区H-11~19~21号住居跡出土遺物
- Fig. 39 元總社蒼海遺跡群 (32) 3区H-19~21~25号住居跡出土遺物
- Fig. 40 元總社蒼海遺跡群 (32) 3区H-20~24~26号住居跡出土遺物
- Fig. 41 元總社蒼海遺跡群 (32) 3区H-24~26号住居跡出土遺物
- Fig. 42 元總社蒼海遺跡群 (32) 3区石製品
- Fig. 43 元總社蒼海遺跡群 (32) 3区鉄製品・土製品
- Fig. 44 元總社蒼海遺跡群 (32) 3区瓦 (1)
- Fig. 45 元總社蒼海遺跡群 (32) 1区瓦、3区瓦 (2)、繩文
- Fig. 46 元總社蒼海遺跡群 (33) 基本層序
- Fig. 47 元總社蒼海遺跡群 (33) 全体図
- Fig. 48 元總社蒼海遺跡群 (33) 1区、2区北側全体図
- Fig. 49 元總社蒼海遺跡群 (33) 2区、3区北側全体図
- Fig. 50 元總社蒼海遺跡群 (33) 3区東側全体図
- Fig. 51 元總社蒼海遺跡群 (33) 3区西側全体図
- Fig. 52 元總社蒼海遺跡群 (33) 4区全体図
- Fig. 53 元總社蒼海遺跡群 (33) 5区全体図
- Fig. 54 元總社蒼海遺跡群 (33) 1区H-1~2号住居跡
- Fig. 55 元總社蒼海遺跡群 (33) 1区H-3~5号住居跡
- Fig. 56 元總社蒼海遺跡群 (33) 1区H-6号窓穴住居跡、I-1号井戸跡、D-1~3号土坑、P-1号・2号ピット
- Fig. 57 元總社蒼海遺跡群 (33) 2区H-7~9号住居跡
- Fig. 58 元總社蒼海遺跡群 (33) 2区H-10号住居跡、I-1~2~4号井戸跡、W-1号溝跡、DB-1号土坑墓、O-1号落ち込み
- Fig. 59 元總社蒼海遺跡群 (33) 2区I-5~6号井戸跡、W-2号溝跡、D-5~6~8号土坑
- Fig. 60 元總社蒼海遺跡群 (33) 2区D-7~9~11号土坑、P-3~6号ピット
- Fig. 61 元總社蒼海遺跡群 (33) 2区P-7~17号ピット
- Fig. 62 元總社蒼海遺跡群 (33) 3区H-11~12号住居跡
- Fig. 63 元總社蒼海遺跡群 (33) 3区H-15~20号住居跡、
- Fig. 64 元總社蒼海遺跡群 (33) 3区H-16~18~28号住居跡
- Fig. 65 元總社蒼海遺跡群 (33) 3区H-21~24号住居跡、

- O-3号落ち込み
Fig. 66 元總社蒼海遺跡群(33) 3区H-25~27号住居跡、D-42号土坑
- Fig. 67 元總社蒼海遺跡群(33) 3区粘土探掘坑
- Fig. 68 元總社蒼海遺跡群(33) 3区D-12~28号土坑
- Fig. 69 元總社蒼海遺跡群(33) 3区D-29~41・45号土坑
- Fig. 70 元總社蒼海遺跡群(33) 3区D-46号土坑、T-1・2号竪穴状造構
- Fig. 71 元總社蒼海遺跡群(33) 3区W-3号溝跡、DB-2号土坑墓、硬化面
- Fig. 72 元總社蒼海遺跡群(33) 3区W-6号溝路
- Fig. 73 元總社蒼海遺跡群(33) 3区H-29号住居跡、W-4・8号溝跡
- Fig. 74 元總社蒼海遺跡群(33) 3区P-18~35号ピット
- Fig. 75 元總社蒼海遺跡群(33) 3区O-2号落ち込み、I-7~9号井戸跡
- Fig. 76 元總社蒼海遺跡群(33) 3区I-10~13号井戸跡
- Fig. 77 元總社蒼海遺跡群(33) 4区H-31号住居跡
- Fig. 78 元總社蒼海遺跡群(33) 4区H-31~33号住居跡
- Fig. 79 元總社蒼海遺跡群(33) 4区H-34~36号住居跡
- Fig. 80 元總社蒼海遺跡群(33) 4区H-37~39号住居跡
- Fig. 81 元總社蒼海遺跡群(33) 4区H-40~42号住居跡、5区43号住居跡
- Fig. 82 元總社蒼海遺跡群(33) 5区H-44・45号住居跡
- Fig. 83 元總社蒼海遺跡群(33) 5区H-46~48号住居跡、W-13号溝跡
- Fig. 84 元總社蒼海遺跡群(33) 5区D-48~59号土坑
- Fig. 85 元總社蒼海遺跡群(33) 5区D-60~71号土坑
- Fig. 86 元總社蒼海遺跡群(33) 5区W-10号溝跡
- Fig. 87 元總社蒼海遺跡群(33) 5区W-9・11・12号溝跡
- Fig. 88 元總社蒼海遺跡群(33) 5区W-13・14号溝跡、O-1号落ち込み、炉跡
- Fig. 89
- Fig. 90 元總社蒼海遺跡群(33) 1区H-1~6号住居跡、I-1号井戸跡出土遺物
- Fig. 91 元總社蒼海遺跡群(33) 2区H-7号住居跡出土遺物
- Fig. 92 元總社蒼海遺跡群(33) 2区H-8~10号住居跡、
- D-6号土坑、I-5・6号井戸跡出土遺物、表採
- Fig. 93 元總社蒼海遺跡群(33) 3区H-11・12・14・16~18・21号住居跡出土遺物
- Fig. 94 元總社蒼海遺跡群(33) 3区H-21・23~25・28号住居跡出土遺物
- Fig. 95 元總社蒼海遺跡群(33) 3区H-28号住居跡、D-28・41号土坑、粘土探掘坑出土遺物
- Fig. 96 元總社蒼海遺跡群(33) 3区I-5・7・12号井戸跡出土遺物
- Fig. 97 元總社蒼海遺跡群(33) 3区I-12号井戸跡出土遺物
- Fig. 98 元總社蒼海遺跡群(33) 3区I-12号井戸跡出土遺物
- Fig. 99 元總社蒼海遺跡群(33) 3区I-2・12号井戸跡、T-2号竪穴状造構、W-4号溝跡、硬化面、グリッド、造構外出土遺物
- Fig. 100 元總社蒼海遺跡群(33) 3区グリッド出土遺物、表採
- Fig. 101 元總社蒼海遺跡群(33) 4区H-31~33号住居跡出土遺物
- Fig. 102 元總社蒼海遺跡群(33) 4区H-34~36・38・39号住居跡出土遺物
- Fig. 103 元總社蒼海遺跡群(33) 4区H-40~42、5区44・45号住居跡出土遺物
- Fig. 104 元總社蒼海遺跡群(33) 5区H-46・48号住居跡、D-55・58号土坑出土遺物
- Fig. 105 元總社蒼海遺跡群(33) 5区D-58・67・68・72号土坑出土遺物
- Fig. 106 元總社蒼海遺跡群(33) 5区W-15号溝跡、I-16号井戸跡出土遺物
- Fig. 107 元總社蒼海遺跡群(33) 5区I-16号井戸跡出土遺物
- Fig. 108 元總社蒼海遺跡群(33) 5区I-16号井戸跡出土遺物
- Fig. 109 元總社蒼海遺跡群(33) 5区I-16号井戸跡出土遺物
- Fig. 110 元總社蒼海遺跡群(33) 5区I-16号井戸跡出土遺物

表

- Tab. 1 元總社蒼海遺跡群周辺遺跡概要一覧表
- Tab. 2 住居跡等一覧表
- Tab. 3 溝跡・道路計測表
- Tab. 4 土坑・ピット・井戸跡・落ち込み計測表
- Tab. 5 銛文土器觀察表
- Tab. 6 古墳・奈良・平安時代出土土器觀察表

- Tab. 7 石器・石製品觀察表
- Tab. 8 鉄器・鉄製品觀察表
- Tab. 9 土製品觀察表
- Tab. 10 銅銛觀察表
- Tab. 11 瓦觀察表

I 調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴い実施され、11年目にあたる。本調査地は、周辺で埋蔵文化財調査が長年に渡って行われていることから、遺跡地であることが確認されている。

平成22年4月19日付けで、前橋市長 高木政夫より前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出された。平成22年4月20日、調査依頼者である前橋市長高木政夫に対して、受託回答をし、5月10日に現地での発掘調査を開始するに至った。

なお、遺跡名称「元総社蒼海遺跡群（32）・（33）」（遺跡コード：22A130-32・33）の「元総社蒼海遺跡群」は区画整理事業名を採用し、数字の「（32・（33）」は過年度に発掘調査を実施した遺跡と区別するために付したものである。

II 遺跡の位置と環境

1 遺跡の立地

前橋市は、利根川が赤城・榛名の両火山の裾合を経て関東平野を望むところに位置し、地形・地質の特徴から、北東部の赤城火山斜面、南西部の前橋台地利根川右岸、南部から南西部にかけての前橋台地の利根川左岸、東部の広瀬川低地帯という4つの地域に分けられる。

本遺跡の立地する前橋台地は、約24,000年前の浅間山噴火によって引き起された火山泥流堆積物とそれを被覆するローム層（水成）から成り立っている。台地の東部は、広瀬川低地帯と直線的な崖で画されていて、台地の中央には現利根川が貫流している。現在の利根川の流路は中世以降のもので、旧利根川は現在の広瀬川流域と推定される。台地の西部には榛名山麓の相馬ヶ原扇状地が広がり、榛名山を源とする中小河川が利根川に向かって流下し、台地面を刻んで細長い微高地を作り上げている。總社・元総社付近の染谷川や牛池川は、微高地との比高3m～5mを測り、段丘崖上は高燥な台地で、桑畠を主とした畠地として利用されてきた。

本遺跡は、前橋市街地から利根川を隔て、西へ約3kmの地点、前橋市元総社町地内に所在している。南東へ約1kmの所に上野国總社神社があり、すぐ西には関越自動車道が南北に走っている。さらに、遺跡地の南側には国道17号線、主要地方道前橋・群馬・高崎線が東西に走り、東側には市道大友・石倉線が南北に走り、これらの幹線道路を中心にオフィスビルや大規模小売店が進出している。本遺跡はこれらの幹線道路から奥に入ったところに位置し、周囲には田畠が多い住宅地という静かで落ち着いた環境である。

2 歴史的環境

本遺跡地周辺には、古墳時代後期から終末までの上野地域と中央政権との関連をうかがわせる總社古墳群と山王庵寺、古代の中心地であった上野国府、さらに、中世には長尾氏により国府の堀割を利用し築かれたとされる蒼海城があり、歴史的環境に優れている。周辺の埋蔵文化財発掘調査によって、これまで連綿と続いてきた歴史を物語る多くの新しい知見が集積されている。

縄文時代の遺跡としては、前期・中期の集落跡が検出された産業道路東・西遺跡や上野国分僧寺・尼寺中間地域が筆頭に挙げられ、縄文文化を考える上で重要な資料といえる。

弥生時代の調査例は少ない。当時の稲作の様子を示す水田・集落跡等が検出された日高遺跡、後期住居跡が検出された上野国分僧寺・尼寺中間地域や桜ヶ丘遺跡、下東西遺跡等に散見するだけである。

古墳時代の遺跡としては、まず本遺跡の北東に広がる總社古墳群が挙げられる。總社古墳群を代表するものには、前方後円墳である遠見山古墳、川原石を用いた積石塚である王山古墳、前方部と後円部にそれぞれ横穴式両袖型の石室が築造された前方後円墳の總社二子山古墳、両袖型横穴式石室をもつ方墳の愛宕山古墳、県内古墳最終末期と考えられ仮文化の影響を強く受けた方墳の宝塔山古墳があり、この地域と中央との関係を考えるうえで重要な意味をもつ古墳群といえる。また、宝塔山古墳の南西500mには白鳳期の建立と考えられる山王庵寺跡（放光寺）がある。さらにこの寺の塔心礎や石製鶴尾、根巻石等の石造物群は、宝塔山古墳の石棺や蛇穴山古墳の石室と同系統の石造技術を駆使して加工されている。これらのことから、この寺は上野地域を治めていた「上毛野氏」の氏寺であり、この古墳群には「上毛野氏」一族が葬られているとも考えられている。これらから、この地が「車評」の中心地として、仮文化が古墳文化と併存しながら機能していた様子が窺える。なお、平成18年度から5ヵ年計画で「山王庵寺範囲内確認調査」が実施され、平成18年度では「講堂」の版築基壇や「回廊」の北東根石、平成19年度では「金堂」の版築基壇や「回廊」の西側根石が、平成20年度では「塔」の基壇とその周辺部が確認された。平成21年度では「推定中門」と「西側南側回廊」の周辺部が確認された。

奈良・平安時代になると、上野国府、国分僧寺、国分尼寺の建設と相まって、本地域は古代の政治的・経済的、文化的中心地としての様相を呈してくる。律令期における国司の政治活動拠点で地方を統治する機能をもつ国府は、元總社地区に置かれたとされる。

国府に関連する遺跡には、県下最大級の掘立柱建物跡が検出された元總社小学校校庭遺跡や「國厨」「曹司」「國」「邑厨」等と書かれた墨書き土器や人形が出土した元總社寺道遺跡などがある。また、国府城の推定を可能にした大規模な東西方向の溝跡が検出された閑泉橋遺跡や元總社蒼海遺跡群（7）（9）（10）と南北方向の溝跡が検出された元總社明神遺跡の調査成果により、国府城の東北外郭線が想定されるに至った。さらに、周辺遺跡からは、官人が用いたと考えられる円面鏡、巡方（腰帶具）、綠釉陶器も出土し、国府について考えるうえで貴重な資料となっている。

国分僧寺は大正15年に国指定史跡となり、昭和40年代から部分的ながら調査が進められるようになった。本格的な発掘調査は昭和55年12月から始まり、主要伽藍の礎石、築垣、礎等が確認されている。さらに、国分尼寺の調査では、昭和44・45年に推定中軸線上のトレンチ調査が行われ伽藍配置が推定できるようになった。さらに平成12年に前橋市埋蔵文化財発掘調査団で南辺の寺域確認調査を行い、東南隅と南西隅の築垣、それと平行する溝跡や道路状遺構が確認された。国分僧寺、国分尼寺周辺では、閑越自動車道建設に伴う発掘調査が行われ、上野国分僧寺、尼寺中間地域では、当時の大規模な集落跡や掘立柱建物群が検出されている。

また、群馬町（現高崎市）の調査等により、本遺跡から約1.5km南の地点にN-64°-E方向の東山道（国府ルート）があることが推定されている。推定日高道は、日高遺跡で検出された幅約4.5mの道路状遺構を国府方面へ延長したものである。これらは、当時の交通網を物語る重要な遺構である。

中世に至り、永享元年（1429）、上野国守護代の長尾氏によって古代国府跡に築かれた蒼海城は城郭としての機能を有し県内でも最古級に位置づけられる。しかも、県下最初の城下町を形成したと考えられている。蒼海城の縄張りは国府と関係が深く、現在の本地域の主要道路はこの縄張りに沿って造られていると推測される。

このように歴史的に重要な役割を果たしてきた總社・元總社地区であるが、その中でも上野国府が所在したと推定される元總社地区は注目される地域の一つである。元總社蒼海地区画整理事業に伴い、平成11年より継続的に本地域の発掘調査が行われている。これにより、手付かず状態であった本地域の全容が明らかになっていくであろう。今後、この調査の進捗によって、上野国府や蒼海城が解明していくことを期待する。

Tab.1 元總社蒼海遺跡群周辺遺跡概要一覧表

番号	遺跡名	調査年度	時代・主な遺構・出土遺物
1	元總社蒼海遺跡群 (32) 元總社蒼海遺跡群 (33)	2010	本道路
2	上野国分寺跡 (県教委)	1980~88	奈良：金堂基壇・塔基壇
3	上野国分尼寺跡	(1999)	奈良：西南隅・東南隅基壇
4	山王庵寺跡	(1974)	吉備：塔心礎・根巻石
5	東山道 (推定)		
6	日高道 (推定)		
7	王山古墳	1972	古墳：前方後円墳 (6 C 中)
8	蛇穴山古墳	1975	古墳：方墳 (8 C 初)
9	稻荷山古墳	1988	古墳：円墳 (6 C 後半)
10	愛宕山古墳	1996	古墳：円墳 (7 C 初)
11	總社二子山古墳	未調査	古墳：前方後円墳 (6 C 末~7 C 初)
12	遠見山古墳	未調査	古墳：前方後円墳 (5 C 後半)
13	宝塔山古墳	未調査	古墳：方墳 (7 C 末)
14	元總社小学校校庭遺跡	1962	平安：掘立柱建物跡・柱穴群・周溝跡
15	産業道路東遺跡	1966	繩文：住居跡
16	産業道路西遺跡		繩文：住居跡
17	中尾遺跡 (事業団)	1976	奈良・平安：住居跡
18	日高遺跡 (事業団)	1977	弥生：水田跡・方形周溝墓・住居跡・木製農耕具。平安：条里制水田跡
19	正願寺遺跡 I~IV (高崎市)	1978~81	弥生：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・中世：溝跡
20	上野国分僧寺・尼寺中間地域 (事業団)	1980~83	繩文：住居跡・配石遺構。弥生：住居跡・方形周溝墓・古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・中世：掘立柱建物跡・溝状遺構・道路状遺構
21	清里南部遺跡群・Ⅲ	1980	繩文：ビット・奈良・平安：住居跡・溝跡
22	中鳥遺跡	1980	奈良・平安：住居跡
23	下東西道路 (事業団)	1980~84	繩文：屋外埋甕、弥生：住居跡・古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・棚列、中世：住居跡・溝跡
	岡分境遺跡 (事業団)	1990	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡
24	岡分境II遺跡	1991	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡
	岡分境III遺跡 (群馬町)	1991	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・高溝・中世：土壤基
25	元總社明神遺跡 I~Ⅲ	1982~96	古墳：住居跡・水田跡・縄跡・奈良・平安：住居跡・溝跡・大形人形・中世：住居跡・溝跡・天目茶碗
26	北原遺跡 (群馬町)	1982	繩文：土坑・集石遺構、古墳：水田跡・奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡
27	鳥羽遺跡 (事業団)	1978~83	古墳：住居跡・鍛冶場跡・奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡 (神跡跡)
28	闇泉横道跡	1983	奈良・平安：溝跡 (上幅6.5~7 m、下幅3.24m、深さ 2 m)
29	柳木遺跡・II遺跡	1983,88	奈良・平安：住居跡・溝跡
30	草作遺跡	1984	古墳：住居跡・平安：住居跡・中世：井戸跡
31	桜ヶ丘遺跡		弥生：住居跡
	總社桜ヶ丘遺跡・II遺跡	1985,87	奈良・平安：住居跡
32	闇泉横道跡	1985	古墳：住居跡・奈良・平安：溝跡
33	後丸間遺跡 I~Ⅲ (群馬町)	1985~87	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・中世：道路状遺構
34	塙田村東道路 (群馬町)	1985	平安：住居跡
35	寺田遺跡	1986	平安：溝跡・木製品
36	火神遺跡・II遺跡	1986,88	奈良・平安：住居跡
37	屋敷遺跡・II遺跡	1986,95	古墳：住居跡・平安：住居跡・中世：縄跡・石敷遺構
38	大友屋敷 II・III遺跡	1987	古墳：住居跡・平安：住居跡・溝跡・地下式土坑
39	坂越遺跡	1987	奈良・平安：住居跡・溝跡
40	堀越II遺跡	1988	平安：住居跡
41	昌業寺廻向遺跡・II遺跡	1988	奈良・平安：住居跡

番号	遺跡名	調査年度	時代：主な遺構・出土遺物
42	村東遺跡	1988	古墳：住居跡・溝跡、奈良・平安：住居跡、中世：廻跡
43	熊野谷遺跡	1988	縄文：住居跡、平安：住居跡・溝跡
43	熊野谷II・III遺跡	1989	平安：住居跡
44	元總社寺田遺跡I～III（事業団）	1988～91	古墳：水田跡・溝跡、奈良・平安：住居跡・溝跡・人形・畜串・黒唐土器、中世：溝跡
45	弥勒遺跡・II遺跡	1989、95	古墳：住居跡、平安：住居跡
46	大星敷遺跡 I～VI	1992～2000	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：掘立柱建物跡・地下式土坑・溝跡
47	元總社稻葉遺跡	1993	縄文：土坑、平安：住居跡・瓦塔
48	上野国分寺参道遺跡	1996	古墳：住居跡、平安：住居跡
49	大友宅地派遺跡	1998	平安：水田跡
	總社開泉明神北遺跡	1999	古墳：墓跡・水田跡・溝跡、中世：溝跡
	總社開泉明神北II遺跡	2001	古墳：住居跡・溝跡、平安：住居跡・溝跡
50	總社開泉明神北IV遺跡	2004	古墳：水田跡、奈良・平安：住居跡
	元總社蒼海遺跡群（7）	2005	奈良・平安：住居跡・溝跡
	元總社蒼海遺跡群（9）・（10）	2006	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡
51	元總社宅地遺跡 I～23トレンチ	2009	古墳：住居跡・平安：住居跡・掘立柱建物跡・鍛冶場跡・溝跡・道路状遺構、中世：溝跡、近世：住居跡・五輪塔・桜頬
52	元總社小見遺跡	2009	縄文：住居跡・古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡・道路状遺構
53	元總社西川遺跡（事業団）	2009	古墳：住居跡・墓跡・奈良・平安：住居跡・溝跡
54	總社甲橋荷塚大道西遺跡	2001	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：墓跡・近世：溝跡
	總社甲橋荷塚大道路日遺跡	2001	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・溝跡、近世：溝跡
	元總社小見内田遺跡	2001	古墳：住居跡・溝跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡、中世：掘立柱建物跡・溝跡
55	元總社小見内Ⅲ遺跡	2003	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：井戸跡
	元總社蒼海遺跡群（12）	2006	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：井戸跡
	總社甲橋荷塚大道西Ⅲ遺跡	2002	古墳：住居跡・墓跡・奈良・平安：住居跡・墓跡・溝跡
56	總社開泉明神北田遺跡	2002	縄文：住居跡・古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡
	總社甲橋荷塚大道西Ⅳ遺跡	2003	古墳：墓跡・中世：墓跡
	元總社小見II遺跡	2002	縄文：住居跡、古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・中世：溝跡・道路状遺構
57	元總社小見IV・V遺跡	2003	縄文：住居跡、古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・中世：掘立柱建物跡
	元總社小見VI・VII遺跡	2004	縄文：住居跡、古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡
	元總社蒼海遺跡群（4）	2005	縄文：住居跡、古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡
58	元總社小見田遺跡	2002	縄文：住居跡、古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・溝跡・中世：溝跡
	元總社草作Ⅳ遺跡	2002	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・中世：溝跡
	元總社小見内Ⅳ遺跡	2002	奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡、中世：土壤基・掘立柱建物跡・溝跡
	元總社小見内Ⅷ遺跡	2003	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：壁穴状遺構
59	元總社小見内IX・X遺跡	2004	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・工房跡・粘土探掘坑・金片・金片・中世：溝跡・土壤基
	元總社蒼海遺跡群（2）・（6）	2005	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・井戸跡・中世：溝跡
	元總社蒼海遺跡群（11）	2006	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・中世：溝跡
60	元總社北川遺跡（事業団）	2002～04	古墳：水田跡、奈良・平安：住居跡・墓跡・中・近世：掘立柱建物跡・水田跡・火葬基
61	稲荷塚東遺跡（事業団）	2003	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・溝跡・竈構築材採掘痕・井戸跡
62	元總社小見内Ⅹ遺跡	2003	縄文：住居跡・奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・中世：墓跡・溝跡
	元總社蒼海遺跡群（1）・（5）	2005	奈良・平安：住居跡・溝跡・中世：溝跡・土坑墓
63	元總社蒼海遺跡群（8）	2006	奈良・平安：住居跡・綠釉陶器

* 調査年度の欄の（ ）は調査開始年度を表す。※遺跡名の欄の（事業団）は（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団を表す。



Fig. 1 元總社蒼海道路群位置図

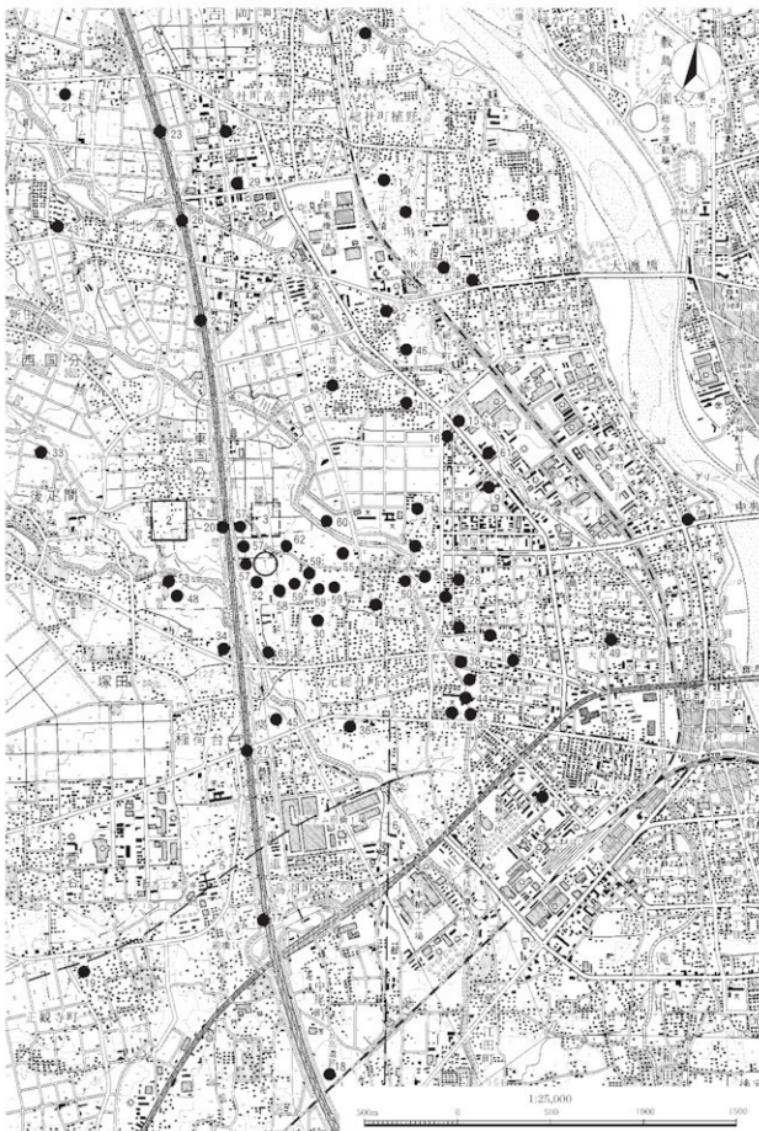


Fig. 2 周辺遺跡図

III 調査方針と経過

1 調査方針

委託された調査箇所は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴い築造予定の道路用地である。総調査面積は元総社蒼海遺跡群（32）で約1,510m²、元総社蒼海遺跡群（33）で約1,930m²である。現地での調査では、遺構の付番等における混乱をさけるため、調査区全体を元総社蒼海遺跡群（32）では1～3区に、元総社蒼海遺跡群（33）では1～5区に区分した。遺構番号は、各区ごとに個別に付番することとし、1区H—1号住居跡、2区H—1号住居跡のように遺構の前に必ず地区名を付すこととした。

グリッド座標については国家座標（日本測地系）X = +44000 · Y = -72200を基点（X 0 · Y 0）とする4mピッチのものを使用し、2区においては、西から東へX51、52、53…、北から南へY84、85、86…と付番し、グリッド呼称は北西杭の名称を使用した。

本遺跡のX52・Y85の公共座標は以下のとおりである。

日本測地系	X = +43,660,000	Y = -71,992,000
緯 度	36°23'27" .3193	経 度 139°01'53" .5311
子午線取差角	28°32" .6	増 大 率 0.999964

調査方法については、表土掘削・遺構確認・方眼杭等設置・遺構掘下・遺構精査・測量・全景写真の手順で行うこととした。このうちの遺構確認については、基本的にAs-C・Hr-FP軽石とAs-B軽石が混入する土層を手がかりにした。

図面作成は、平板・簡易造り方測量を行い、遺構平面図は原則として1/20、住居跡は1/10の縮尺で作成した。遺物については平面分布図を作成し、台帳に各種記録を記載しながら収納した。包含層の遺物はグリッド単位で収納し、重要遺物については分布図・遺物台帳の記載を行い収納した。

2 調査経過

現地調査は平成22年5月10日から12月27日まで行った。調査経過は下記一覧表のとおりである。

元総社蒼海遺跡群（32）の調査地は3ヶ所に分かれており、調査着手順で西から1区、2区、3区とした。

1区…平成21年度に調査を行った元総社蒼海遺跡群（29）2区に隣接する調査区である。5月18日から重機による表土掘削を行い、プラン確認後、遺構の掘り下げを進めていった。精査の結果、住居跡1軒、土坑1基、道路状遺構1条等を検出した。5月21日に調査区全景写真撮影を行い、6月7日に埋め戻しを行った。

2区…3区に隣接し設市、元総社蒼海遺跡群（27）の東側に位置する調査区である。11月10日よりプラン確認を実施し、遺構の掘り下げを行った。精査の結果、住居跡14軒、堅穴状遺構2軒、溝跡2条、土坑2基等が検出された。12月20日にラジコンヘリによる調査区全景写真撮影を行い、12月24日から埋め戻しを行った。また、12月1日から3日にかけて中学生職場体験学習を受け入れをした。

3区…牛池側を挟み、前橋市立元総社北小学校の南に位置する調査区である。平成21年度に発掘調査を行った元総社蒼海遺跡群（30）に隣接する。7月21日から重機による表土掘削、7月26・28日に杭打ち測量を行った。精査の結果、住居跡26軒、土坑7基、溝跡2条等を検出した。10月1日にラジコンヘリによる調査区全景写真撮影を行い、10月13・14日に埋め戻しを行った。また、9月7日から9日、9月13日から15日、10月5から7日にかけて中学生職場体験学習を受け入れた。

元総社蒼海遺跡群（33）の調査地は5ヶ所に分かれており、調査着手順で西から1区、2区…5区とした。

1区…10月4日から重機による表土掘削を開始した。10月6日に杭打ち測量を行い、遺構掘り下げを進めていっ

た。精査の結果、土師住居跡6軒、土坑4基、井戸跡1基等を検出した。11月8日に調査区全景写真撮影を行い、11月10日に埋め戻しを行った。

2区…5月10日から2区から5区の表土掘削を行う。5月19日に杭打ち測量を行った。精査の結果、住居跡4軒、土坑7基、土坑墓1基、溝跡2条、井戸5基等を検出した。10月1日にラジコンヘリによる2区から5区の調査区全景写真撮影を行った。

3区…6月11日からプラン確認、遺構掘り下げに着手した。精査の結果、住居跡10軒、土坑14基、土坑墓2基、竪穴状遺構1基、溝跡1条、井戸1基等を検出した。10月1日にラジコンヘリによる2区から5区の調査区全景写真撮影を行った。

4区…5月28日重機による表土掘削を開始し、プラン確認後、遺構掘り下げを進めていった。精査の結果、土師住居跡12軒、掘立柱建物跡1軒、堀1条、土坑12基等を検出した。10月4日から埋め戻しを行った。

5区…5月20日から表土掘削を行った。5月21日から遺構の掘り下げ、精査を進めていった。精査の結果、住居跡5軒、溝跡4条、落ち込み上遺構1基等を検出した。10月4日から埋め戻しを行った。

12月27日より文化財保護課庁舎に戻り、出土遺物・図面・写真当の整理作業及び報告書作成にあたり、翌年3月18日までに全ての作業を終了した。

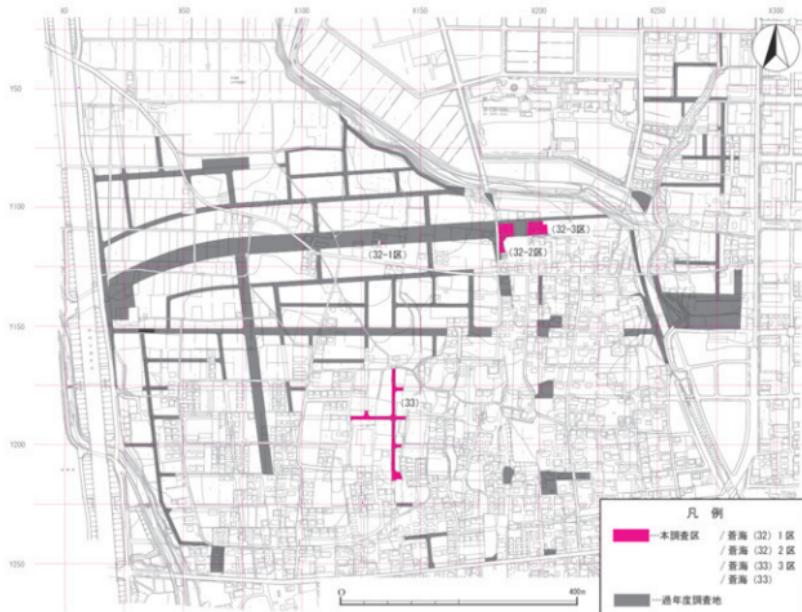


Fig. 3 元總社菅海遺跡群位置図・グリッド設定図

IV 元総社蒼海遺跡群 (32)

1 基本層序

本遺跡は先述のとおり1～3区と調査区が分かれた状況にあるが、いずれも牛池川の南岸段丘上の平坦地に立地している。各区の土層堆積状況はほぼ似通っているが、浅間B軽石の堆積に若干の差異が見受けられる。

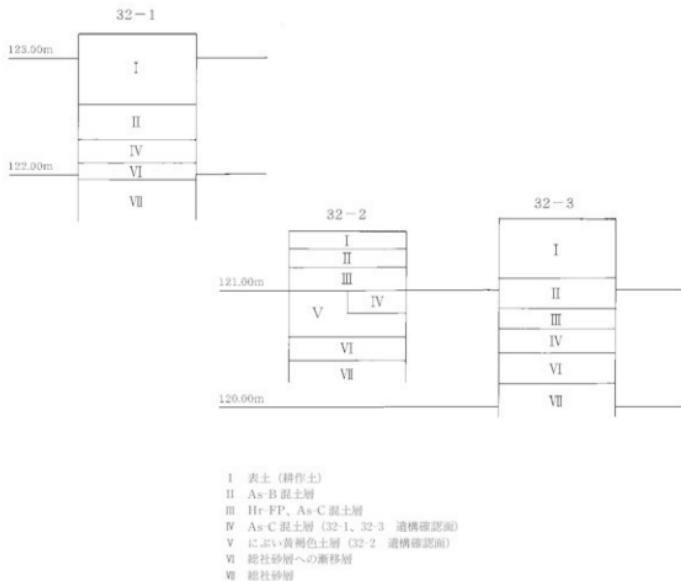


Fig. 4 元総社蒼海遺跡群 (32) 基本層序



Fig. 5 元總社蒼海遺跡群 (32) 2区全体図

X206
Y=-71, 376

Y106
X=43, 576

X204
Y= -71, 384

Y108
X=43, 568

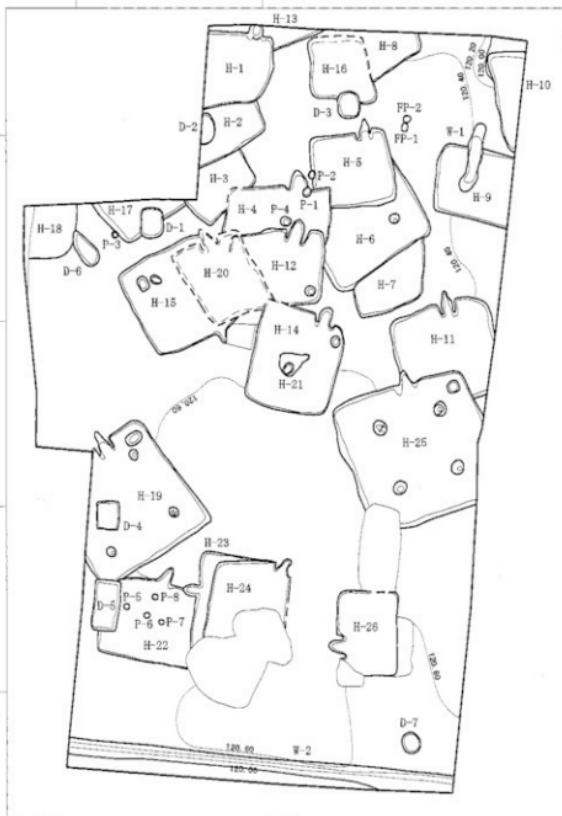
Y110
X=43, 560

X202
Y= -71, 392

X200
Y= -71, 400

X198
Y= -71, 408

Y112
X=43, 558



X196
Y= -71, 416

Fig. 6 元總社蒼海道路群(32) 3区全体図

2 遺構と遺物

元總社蒼海遺跡群（32）調査区の概要

1区概要 (Fig. 7)

隣接する元總社蒼海遺跡群（29）の2区では多くの住居跡や土坑墓等が検出されたが、本調査区では調査範囲が狭小であり、遺構の検出数は少なかった。竪穴住居跡1軒、土坑1基、道路状遺構1条、柱穴1基が検出された。

2区概要 (Fig. 5、PL. 1)

竪穴住居跡15軒、土坑2基、溝3条、竪穴状遺構2基、土坑墓1基が検出された。竪穴住居跡は調査区の中央から北側にかけて多く分布している。竪穴住居跡の時期は古墳時代と奈良・平安時代に大別される。3条確認された溝の内、W-1号とW-2号は蒼海城に関連する遺構と考えられる。特にW-1号は元總社蒼海遺跡群(23)の23地点などの成果から蒼海城本丸（新段階）西側を南北に走行する堀の延長線上に位置している。W-2号溝は東西方向に走行し、W-1号と接する。西側で隣接する元總社蒼海遺跡群（27）では検出されていないため区画としての性格をうかがわせる。

3区概要 (Fig. 6、PL. 6)

竪穴住居跡26軒、土坑7基、溝2条が検出された。特に調査区東側では複数の住居跡が密接に重複した形で検出された。検出した住居跡の年代は古墳時代と平安時代を中心であり、国府が機能していた時代の住居跡は検出されていない。国府が近似に存在しているため、何らかの居住制限がかけられていたことが推測される。西端から検出されたW-2号溝跡は隣接する元總社蒼海遺跡群（30）でも確認されており蒼海城に関連する遺構と考えることができる。

1区

(1) 竪穴住居跡

H-1号住居跡 (Fig. 7)

位置 X135、Y114・115グリッド 主軸方向 N-31°-E 形状等 東西(0.73)m、南北(0.5)m、壁現高36cm。
面積 (0.26)m² 床面 地表面を床面とする。堅緻面は確認されなかった。 隅 検出されず。 貯蔵穴等 検出されず。 周溝 精査を行なったが確認されなかった。 出土遺物 土師器8点、須恵器9点、瓦5点。 時期 出土遺物が破片で覆土出土であることから詳しい年代は不明であるが、8世紀から9世紀代と考えられる。

(2) 道路上遺構

A-1号溝跡 (Fig. 7)

位置 X133・134、Y114.115グリッド 主軸方向 N-43°-E 形状等 長さ4.21m 深さ25.0cm 最大上幅100cm、最小上幅80cm 時期 不明。

(3) グリッド等出土遺物

土師器150点、須恵器58点、瓦5点を出土。

2区

(1) 竪穴住居跡

H-1号住居跡 (Fig. 8、PL. 1・13)

位置 X186～187、Y107～109グリッド 主軸方向 N-78°-E 形状等 方形を呈する。東西4.5m、南北4.7

m、壁現高53cmを測る。面積 19.45m² 床面 ロームを中心とした貼床でほぼ平坦。竈前面を中心に堅緻面が広がるが、壁際はやわらかい。竈 東壁中央の南寄に敷設され、主軸方向はN-86°-E、全長1.3m、最大幅110cm、焚口部幅45cmを測る。構築材は灰白色粘土を用いる。燃焼部には凝灰岩の支脚を据える。焚口部からは焚口天井部に配されたと思われる長形80cm、厚さ15cm、幅25cmの凝灰岩が検出された。両袖は灰白色粘土で構築されており、左袖には凝灰岩の袖石が配されている。残存長は左袖50cm、右袖60cmである。燃焼部の両壁は被熱により焼土化している。焚口部から燃焼部は平坦であり、燃焼部から煙道にかけて緩やかに立ち上がる。煙道部は東壁より60cm程張り出す。貯蔵穴等 南東隅で検出され、70×60cmの円形。貯蔵穴確認面より10cm下がった付近から、20×40cmの楕円形状に40cm程下がる。柱穴は検出されなかった。周溝 北壁の一部と東壁を除いて全周する。幅12cm前後、深さ6～10cmを測り、断面は逆台形を呈する。重複 北東でD-1号、東でH-9号と重複する。重複関係はH-9号→本住居跡→D-1号の順である。出土遺物 東側を中心に覆土中からの出土が多い。土師器壺片が多く、須恵器は少ない。東壁寄りと西壁寄りの床面から蓮瓣石が26点出土した。土師器(2-1～2-8)を図化した。時期 床面出土遺物から7世紀前葉に帰属すると思われる。

H-2号住居跡 (Fig. 9, PL. 2・13)

位置 X186～187、Y110～111グリッド 主軸方向 N-95°-E 形状等 北側が検出されていないが、南北に長い長方形を呈する。東西2.9m、南北(3.4m)、壁現高17cm前後を測る。面積 (9.34)m² 床面 堅緻面は黒色粘質土による貼床で、ほぼ平坦。その他は地山を床面とする。竈 東壁南寄に敷設され、主軸方向はN-93°-E、全長1m、最大幅70cm、焚口部幅80cmを測る。構築材は灰褐色粘質土を用いる。燃焼部には凝灰岩の支脚を据える。煙道部に凝灰岩が配される。左袖は確認されたが、右袖は確認されなかった。左袖の残存長は20cmを測る。焚口部は若干凹み、煙道は急傾斜で立ち上がる。煙道部は東壁より30cm程張り出す。貯蔵穴等 南西隅で検出され、60×60cmの円形で、深さは30cmを測る。柱穴は確認されなかった。H-8号を精査中に本住居跡の床下土坑を検出した。床下土坑は床面より20cm下がり、底面からは竈構築材と類似した灰褐色粘質土が確認された。周溝 精査を行なったが確認されなかった。重複 東側でH-8号、北側でW-2号と重複する。重複関係はH-8号→本住居跡→W-2号の順である。出土遺物 出土遺物は少ないが、竈から出土した羽釜(2-17)、須恵器椀(2-13)、覆土から出土した鉢(2-14)などを図化した。時期 竈出土遺物から10世紀中葉と思われる。

H-3号住居跡 (Fig. 9, PL. 2・13)

位置 X189～190、Y106グリッド 主軸方向 N-140°-E 形状等 大半が調査区外であるが、方形を呈するものと思われる。東西(3)m、南北(2)m、壁現高40～56cmを測る。面積 (3.22)m² 床面 地山面を床面とする。堅緻面は確認されなかった。南側コーナー部付近から垂木と推察される炭化材が検出され、焼土や炭化材を主体とした覆土(8層・10層)から、本住居跡は焼失家屋と思われる。竈 検出されず。貯蔵穴等 検出されず。周溝 精査を行なったが確認されなかった。重複 H-4号、DB-1号と重複する。重複関係はH-4→本住居跡→DB-1号 出土遺物 土師器片が多い。覆土中から出土した高杯(2-19)を図化した。時期 出土遺物が極めて少なく時期決定に苦慮するが、出土遺物等から5世紀中葉以前と推察される。

H-4号住居跡 (Fig. 9, PL. 2・13)

位置 X189～190、Y106グリッド 主軸方向 不明 形状等 調査範囲が狭く、大半が調査区外であるが、方形と推察される。調査した範囲で東西(4.5)m、南北(1)mを測る。面積 (3.68)m² 床面 地山面を床面とする。堅緻面は一部で確認された。竈 検出されず。貯蔵穴等 検出されず。周溝 精査を行なったが確認されな

かった。 重複 H-3号、DB-1号、道跡と重複する。重複関係は本住居跡→H-3号→道跡→DB-1号の順である。 出土遺物 土師器など 時期 出土遺物がほとんどなく時期決定に苦慮するが、重複関係から5世紀以前と思われる。

H-5号住居跡 (Fig.10・11、PL. 2・13)

位置 X186～187、Y106グリッド 主軸方向 N-87°-E 形状等 大半は北側の調査区であるが、方形と思われる。検出された範囲で東西3.8m、南北(1.8)m、壁現高45cm前後を測る。 面積 (4.83)m² 床面 窓前面は貼床で堅く締まる。壁際は地山面を床面とする。覆土中にロームブロックが多量に含まれていることから本住居は人為的な埋没が推察される。 窓 東壁中央の南寄に敷設され、主軸方位はN-88°-E。全長1.7mを測り、最大幅50cm、焚口部幅70cmと推察される。構築材は灰白色粘質土を用いる。燃焼部には凝灰岩の支脚を据える。窓覆土から天井石として凝灰岩が配されていたことが推察される。煙道部は東壁から90cm張り出す。確認された右袖は灰白色粘質土により構築されており、残存長は40cmを測る。燃焼部の右壁は被熱により焦土化し、覆土(3層)からも燃焼の強さがうかがえる。焚口部は若干凹み、煙道部にかけて緩やかに立ち上がる。 貯蔵穴等 東南隅で検出され、60×60cmの円形で深さは30cmを測る。柱穴は確認されなかった。 周溝 調査範囲内では南東隅を除いて全周する。幅7～15cm前後、深さ5～10cmを測り、断面は逆台形を呈する。 重複 H-6号と重複する。重複関係はH-6号→本住居跡の順である。 出土遺物 土師器、須恵器片などが覆土中より出土。貯蔵穴の上に長胴壺(2-24)が出土。 時期 出土遺物から9世紀中頃に帰属すると思われる。

H-6号住居跡 (Fig.10・11、PL. 2・13)

位置 X186～188、Y106～107グリッド 主軸方向 N-80°-E 形状等 北壁は調査区外にあるが、方形を呈すると思われる。検出された範囲で東西(5.6)m、南北(3.8)m、壁現高35cm前後を測る。 面積 (19.39)m² 床面 平坦な貼り床。窓全面は堅く締まる。 窓 東壁中央の南寄に敷設され、主軸方位はN-65°-E。全長1.3m、最大幅55cm、焚口部幅40cmを測る。構築材は灰白色粘質土を用いる。確認された両袖は灰白色粘質土により構築されており、右袖の残存長は45cm、左袖の残存長は40cmを測る。燃焼部の右壁は被熱により焦土化している。焚口部は若干凹み、煙道部にかけて緩やかに立ち上がる。煙道部は東壁から65cm張り出す。 貯蔵穴等 貯蔵穴は確認されなかった。柱穴は南側2個所確認された。P₁は50×40cmの楕円形、深さ61cmを測り、P₂は66×52cmの梢円形、深さ78cmを測る。 周溝 窓付近を除いてほぼ全周する。幅10cm前後、深さ7cm前後を測る。 重複 H-5号と重複する。重複関係は本住居跡→H-5号の順である。 出土遺物 窓左袖付近の床面から、扁平な川原石と接し、正位置に置かれ口縁を住居内に向ける状態で瓶(2-29)が出土した。このほかに土師器、須恵器などが出土した。このうち床面からは土師器壺(2-25・26)が出土した。 時期 出土遺物から7世紀前葉に帰属するものと思われる。

H-7号住居跡

欠番。当初は住居跡として調査を進めていったが、調査中にT-2号と変更した。

H-8号住居跡 (Fig.11、PL. 3・14)

位置 X186～188、Y109～111グリッド 主軸方向 N-98°-E 形状等 北側でW-2号と重複するが、方形を呈すると思われる。検出された範囲で東西(5.4)m、南北(5.1)m、壁現高37～45cmを測る。 床面 平坦な貼り床。壁際は柔らかい他は堅緻面が広がる。南東隅の貯蔵穴周辺に3～5cm程の高まりが確認された。本住居跡の覆土は中層から上層にかけて乱れる(4～7層)。乱れる層内には8層の黒褐色土が筋状に混在することから、

後世に攢拌されていることがうかがわれる。 炉 中央から北東よりの箇所に炉が設けられる。24×9cm、深さ8cm前後の長楕円形を呈する。中央と南西隅が焦土化している。 貯蔵穴等 南東隅に設けられ、50×50cmの円形で、深さは41cmを測る。柱穴は4個所確認された。 P_1 は30×25cmの楕円形、深さ35cm、 P_2 は20×20cmの円形、深さ33cm、 P_3 は28×20cm、深さ44cm、 P_4 は28×24cm、深さ21cmを測る。 周溝 南壁と西壁の一部に周溝が設けられ、幅10~18cm前後、深さ10cm前後を測る。南側中央付近の周溝内に50×18cm、深さ25cmの掘り込みが確認された。出入り口に関する痕跡の可能性を窺わせる。 重複 H-2号、W-2号と重複する。重複関係は本住居跡→H-2号→W-2号の順である。 出土遺物 土師器など 時期 出土遺物から4世紀中葉と思われる。

H-9号住居跡 (Fig.12、PL. 3・14)

位置 X187~188、Y107~108グリッド 主軸方向 N-93°-E 形状等 東側でH-1号住居跡と重複するが、方形を呈するものと思われる。検出された範囲で東西(3.10)m、南北3.47m、壁現高36~54cmを測る。 面積 (9.57)m² 床面 平坦な貼り床で堅黒面が広がる。本住居跡の覆土は上層付近で掘り込み痕跡が確認される(2層)。 炉 北西寄りの箇所に設けられる。85×60cmを測り、楕円形を呈する。覆土中には焼土粒が含まれるが、炉底面からは明瞭な焼土は確認されなかった。 周溝 精査を行なったが確認されなかった。 重複 H-1号と重複する。重複関係は本住居跡→H-1号の順である。 出土遺物 土師器が少量出土した。 時期 出土遺物から4世紀中葉から後葉と思われる。

H-10号住居跡 (Fig.13、PL. 3)

位置 X184、Y107~108グリッド 主軸方向 N-78°-E 形状等 西側の大半をW-1号と重複するが南北に長い方形を呈すると思われる。検出された範囲で東西(1.3)m、南北2.2m、壁現高5cm前後を測る。 面積 (3.72)m² 床面 平坦な貼り床。堅黒面はまばらに分布する。 窓 東壁の南寄りに敷設され、主軸方位はN-78°-E。全長70cm、最大幅45cm、焚口部幅60cmを測る。構築材は褐色粘質土を用いる。煙道部は東壁から55cm張り出す。右袖は確認されなかつたが、左袖は褐色粘質土で構築されており、残存長15cmを測る。焚口部は若干凹み、煙道にかけて緩やかに立ち上がる。 貯蔵穴等 精査を行なったが貯蔵穴、柱穴は確認されなかつた。 周溝 精査を行なったが確認されなかつた。 重複 H-12号とW-1号と重複する。重複関係はH-12号→本住居跡→W-1号の順である。 出土遺物 須恵器など僅か。 時期 出土遺物が極めて少なく時期決定に苦慮するが、竈位置とH-12号との重複関係から平安時代に帰属するものと思われる。

H-11号住居跡 (Fig.12、PL. 3・14)

位置 X184~185、Y108~109グリッド 主軸方向 N-73°-E 形状等 H-12号、H-13号、T-1号、W-2号と重複しているため全容は不明であるが、方形を呈すると思われる。検出された範囲で東西(2.78)m、南北(3.00)m、壁現高3cm前後を測る。 面積 (7.15)m² 床面 平坦で薄い貼り床 窓 検出されなかつたが、南東隅に敷設されると考えられる。 貯蔵穴 確認されなかつた。 周溝 精査を行なったが確認されなかつた。 重複 北でH-12号、東でH-13号、T-1号、南でW-2号と重複する。重複関係はH-13、H-12→本住居跡→T-1、W-2の順である。 出土遺物 カワラケ、羽釜など。このうち床面出土のカワラケ(2-39)、鉢(2-41)、羽釜(2-43)などを図化。 時期 出土遺物が極めて少なく時期決定に苦慮するが、出土遺物と重複関係から10世紀中葉と思われる。

H-12号住居跡 (Fig.12、PL. 3・14)

位置 X184~185、Y107~108グリッド 主軸方向 N-63°-E 形状等 南側でH-11号とT-1号と重複し

ているが、方形を呈すると思われる。検出された範囲で東西3.5m、南北(2.05)m、壁現高10~30cmを測る。面積 (6.80)m² 床面 褐色土とロームの混土からなる平坦な貼り床。竈前面部は堅く縮まるが、その他の箇所においては薄い貼り床であり、比較的軟らかい。竈 東壁に敷設される。大半はT-1号との重複により破壊されているが、主軸方位はN-63°-E。全長1.3m、最大幅55cm、焚口部幅40cmを測る。貯蔵穴 精査を行なったが、貯蔵穴、柱穴は確認されなかった。周溝 精査を行なったが確認されなかった。重複 南側でH-11号、T-1号と西側でH-10号と重複する。いずれも本住居跡のほうが古い。ただしH-11号との前後関係は不明である。出土遺物 土師器片など。このうち、竈左袖の壁際から出土した杯(2-45)などを図化した。時期 出土遺物から7世紀中葉から後葉に帰属すると思われる。

H-13号住居跡 (Fig.12)

位置 X185~186、Y108~109グリッド 主軸方向 N-65°-E 形状等 西側でH-11号とT-1号、南側でW-2号と重複するが、方形を呈すると思われる。検出された範囲で東西3.02m、南北(2.5)m、壁現高25cm前後を測る。面積 (4.27)m² 床面 ロームブロックと褐色土の混土による平坦で薄い貼り床 竈 東壁に敷設されるが、大半をW-2号溝との重複により消失している。主軸方位はN-67°-E。全長0.7m、最大幅(30)cm、焚口部幅(20)cmを測る。残存している左袖は灰褐色粘質土で構成されており、残存長は50cmを測る。煙道部は東壁から若干張り出す程度である。貯蔵穴 精査を行なったが貯蔵穴、柱穴は確認されなかった。周溝 精査を行なったが確認されなかった。重複 西側でH-11号、北側でT-1号、南側でW-2号と重複するが、いずれも本住居跡のほうが古い。ただし本住居跡とH-12号との前後関係は不明である。出土遺物 土師器など極少量。時期 出土遺物が極めて少なく時期決定に苦慮するが、重複関係から10世紀以前と考えられる。

H-14号住居跡 (Fig.13, PL.4・14)

位置 X185~186、Y106~107グリッド 主軸方向 N-73°-E 形状等 大半が調査区外であるが、方形を呈するものと思われる。検出された範囲で東西5.21m、南北(4.00)m、壁現高34~57cmを測る。面積 (16.20)m² 床面 褐色土ブロックとロームブロックの混土による貼り床。壁際は軟らかいが、それ以外は堅く縮まる。覆土中にロームブロックが多く含まれる土層(4・5層)から、本住居跡の廃絶後に人為的な埋没が考えられる。竈 検出されなかったが、北東の床面は比較的堅く縮まっているため、東壁に敷設されるものと思われる。貯蔵穴等 貯蔵穴は確認された。南壁際の中央付近に床面からの掘り込み70×30cm、深さ22cm、さらに掘り込み面からは25×15cm、深さ27cmを測る柱穴が確認された。底面には礎石の剥剝を果たしていたと思われる川原石4点が検出された。出入り口施設に伴うものであろうか。周溝 南壁の一部と南西隅を除いて全周する。幅10cm前後、深さ5~10cmを測る。重複 なし 出土遺物 土師器、須恵器片など。ただし須恵器の出土量は少ない。床面付近の杯(2-47)、壁際の杯(2-46)を図化した。また、南東壁際に編物石が出土した。時期 出土遺物から8世紀前葉に帰属すると思われる。

H-15号住居跡 (Fig.14, PL.4)

位置 X183~185、Y112~114グリッド 主軸方向 N-75°-E 形状等 東側は調査区外、西側はW-1号と重複しているが正方形を呈すると思われる。東西(5.3)m、南北5.4m、壁現高23~43cmを測る。面積 (21.48)m² 床面 ロームブロックと褐色土による平坦な貼り床。全般的に堅く縮まる。覆土中にロームやHr-FAがブロック状に含まれている土層(7・10層)から、本住居跡は廃絶後に人為的な埋没が考えられる。ただし、自然堆積と思われる土層(8・9・11層)もあるため、廃絶後しばらく時間が経過した後に埋め戻されたと思われる。竈 検出されなかったが、東壁に設けられると推察される。貯蔵穴等 貯蔵穴は確認されなかった。柱穴は西側

で南北列2本確認された。P₁は40×40cmの円形で深さ40cmを測り、P₂は34×34cmの円形で深さは30cmを測る。周溝 精査を行なったが確認されなかった。重複 西側でW-1号、東側でD-2号と重複する。いずれも本住居跡のほうが古い。出土遺物 土師器など少量。床面から10~30cmの川原石が7点確認された。時期 出土遺物が極めて少なく時期決定に苦慮するが、出土遺物から8世紀前葉と推察される。

H-16号住居跡 (Fig.14、PL. 4)

位置 X116~117、Y85グリッド 形状等 W-1号との重複により竈のみが検出されたため、形状は不明である。竈 東壁に敷設され、主軸方向はN-73°-E、全長1.3m、最大幅60cm、焚口部幅40cmを測る。構築材は灰黄褐色粘土を用いる。燃焼部には凝灰岩の支脚を据える。両袖はW-1号との重複により消失している。燃焼部の右壁と煙道部は被熱により若干焦土化している。焚口部から燃焼部は平坦であり、燃焼部から煙道にかけて緩やかに立ち上がる。重複 W-1号と重複する。本住居跡のほうが古い。出土遺物 土師器片など、ごく少量。時期 出土遺物は破片であり、遺構の大半も失われているため、時期の特定はできない。

(2) 壁穴状遺構

T-1号壁穴遺構 (Fig.12、PL. 4)

位置 X186~187、Y108~109グリッド 主軸方向 N-65°-E 形状等 南側でH-13号、西側でH-11・12号と重複する。方形を呈し、東西1.9m、南北2.7m、壁現高20~25cmを測る。面積 4.56m² 床面 平坦 重複 H-11・12・13号と重複するが、本遺構のほうが新しい。出土遺物 土師器、須恵器等の破片がごく少量。流れ込みと考えられる土師器壊(2-51)を同化した。時期 重複関係から平安時代以降と考えられる。

T-2号壁穴遺構 (Fig.15、PL. 4)

位置 X184~185、Y109~110グリッド 主軸方向 N-87°-E 形状等 大半は北側でW-2号と重複するが、方形を呈し、東西3.9m、南北(2.0)m、壁現高10~22cmを測る。面積 (6.48)m² 床面 棕色土とロームの混土による平坦で薄い貼り床。出土遺物 土師器、須恵器などごく少量。時期 重複関係から中世と考えられる。

(3) 溝跡

W-1号溝跡 (Fig. 5・15、PL. 5)

位置 X183~184、Y106~110グリッド 調査区の西端で確認され、南北方向に走行する。北寄りでW-2号と接する。主軸方向 N-87°-E 規模等 調査区西壁が脆弱であり完掘すると崩落の恐れがあるため、完掘は北より2箇所とした。ただし、全体の形状を把握するため上端から80~50cm下の傾斜が変換する箇所までの調査を行なった。標高では119.80~119.90mで傾斜変換点となる。2箇所で完掘を行なったが、いずれも底面まで達することができず、本遺構の東壁立ち上がりを押さえたのみとなつた。底面は西側に走行する現道の直下にあるものと推測される。調査した範囲では長さ48m、最大幅4.5m、深さ2.3mを測る。形状等 底面まで達していないため全体の形状は不明である。重複 北寄りでH-10号、W-2号、中央付近でH-15、南寄りでH-16と重複する。重複関係はH-10・15・16→W-2→本遺構の順である。出土遺物 土師器、須恵器、瓦などの破片少量と緑泥片岩の破片が出土した。時期 覆土の状況と出土遺物から中世と思われる。

W-2号溝跡 (Fig. 5・15、PL. 5)

位置 X183~189、Y109~110グリッド 調査区の中央から北寄りにかけて検出され、東西方向に走行する。西

側はW—1号と接する。 主軸方向 N—5°—E 南に向かって緩やかに曲がる。 規模等 調査した範囲では長さ23m、最大幅3.7m、深さ73~100cmを測る。中央から西側にかけて近世以降と思われる多数の獣骨と一体分の人骨が確認された。人骨は副葬品を有していないかった。覆土はW—2号覆土と類似しており、いずれも平面プランは確認できなかったが、本遺構の底面付近にまで達しているものもある。推測の域をでないが⁵、溝が完全に埋没する前の窪地を利用して埋葬されたものと考えられる。 形状等 断面は逆台形を呈し、底面は非常に硬化している。堀(溝)としての機能の他に道としての機能も十分に考えられる。 重複 中央付近でH—2号とH—8号、西側でH—11号とH—13号、T—2号、W—1号、東側でW—3号と重複する。 重複関係はH—2・8・11・13・T—2→本遺構→W—1の順である。 出土遺物 土師器、瓦などの破片少量 時期 覆土の状況から中世と考えられる。

W—3号溝跡 (Fig. 5・15)

位置 X188、Y106~111グリッド 調査区東側で確認され、南北方向に走行する。 主軸方向 N—84°—E 規模等 調査した範囲内で長さ22m、最大幅 深さ 形状等 「U」字状を呈す。重複 H—9、W—2と重複する。重複関係はH—9、W—2→本遺構の順である。 出土遺物 土師器などの破片が少量 時期 覆土と重複関係から中世以降に帰属すると推察される。

(4) 土坑、ピット (Fig. 5、PL. 5・14・15)

調査区からは3基の土坑が検出された。このうちD—2号は重機による表土掘削の際に多量の土器が出土した。土器の大半は土師器であり、須恵器は少なく、土師器内でも杯が大半を占め、長胴甕はごくわずかであった。土器は7世紀前半から8世紀中葉から後葉にかけてであり、多くは7世紀後葉から8世紀前葉である。掘り込みは浅く、土質も検出された他の遺構とは異なるため、後世に一括廃棄された可能性がある。

その他の土坑の計測は別表に示してある。

(5) 落ち込み

0—1 (Fig. 5)

位置 X184~187、Y107~108グリッド 平面プラン確認段階で、若干の遺物出土がみられ、As-Cが混入する黒褐色土を覆土とするため、当初は住居の重複と考えていた。その後H—12を調査する過程の北壁土層とサブトレンチをいた結果、床面や壁の立ち上がりも無く、緩やかな立ち上がりであるため、落ち込み若しくは窪地と判断した。

3 区

(1) 積穴住居跡

H—1号住居跡 (Fig.16、PL. 6)

位置 X204・205、Y107・108グリッド 主軸方向 N—94°—E 形状等 東西(3.74)m、南北(2.88)m、壁現高20.5cm。 面積 (8.03)m² 床面 平坦な貼り床。 龕 東壁中央やや南寄りに敷設。主軸方向 N—92°—E 全長69cm、最大幅78cm、焚口部幅32cm。左袖部から袖石として使用していた凝灰岩が検出された。右袖奥にも凝灰岩のブロックがあり、袖石の一部であったと考える。焚口部は若干凹む。煙道部は調査区外。 貯蔵穴等 検出されず。 周溝 精査を行なったが確認されなかった。 重複 H—2、13と重複しており、新旧関係はH—2、13→本遺構の順である。 出土遺物 土師器171点、須恵器24点、瓦5点。そのうち須恵器壺1点、灰釉陶器高台椀2点、丸瓦1点、平瓦2点を図示。 時期 覆土や出土遺物から10世紀前半と考えられる。

H-2号住居跡 (Fig.16、PL. 6)

位置 X203・204、Y107・108 グリッド 主軸方向 N-71°-E 形状等 東西3.60m、南北(3.35)m、壁現高29.0cm。面積 (11.87)m² 床面 平坦な床面。竈 東壁中央に敷設されたと考えられるが、調査区外のため確認できず。貯蔵穴等 検出されず。周溝 精査を行なったが確認されなかった。重複 H-1、3と重複しており、新旧関係はH-3→本造構→H-1の順である。出土遺物 土師器93点、須恵器2点。そのうち須恵器1点を図示。時期 覆土や出土遺物から9世紀後半と考えられる。

H-3号住居跡 (Fig.16、PL. 6)

位置 X203、Y107グリッド 主軸方向 N-63°-E 形状等 東西(2.40)m、南北(3.20)m、壁現高10.5cm。面積 (4.78)m² 床面 平坦な床面。竈 東壁に敷設されたと考えられるが、重複関係により確認できず。貯蔵穴等 検出されず。周溝 精査を行なったが確認されなかった。重複 H-2、17と重複しており、新旧関係はH-17→本造構→H-2の順である。出土遺物 土師器9点。時期 覆土や重複関係から9世紀代と考えられる。

H-4号住居跡 (Fig.17、PL. 7・16)

位置 X202・203、Y107・108グリッド 主軸方向 N-88°-E 形状等 東西(2.20)m、南北5.25m、壁現高5.0cm 面積 (8.92)m² 床面 平坦な貼り床。竈 東壁南寄りに敷設。主軸方向 N-94°-E。全長90cm、最大幅95cm、焚口部幅58cm。右袖はP-1で破壊され確認できなかった。焚口部は若干凹み、煙道部は緩やかに立ち上がる。煙道は東壁より60cm程張り出す。貯蔵穴等 検出されず。周溝 東壁竈以南と南壁で確認できた。幅12cm前後、深さ4cm程度であり、断面は逆台形。重複 H-3、12、20と重複しており、新旧関係はH-3、12、20→本造構の順である。出土遺物 土師器148点、須恵器64点、瓦1点、灰釉陶器2点、その他1点。そのうち土師器小甕1点、須恵器环5点、須恵器高台椀1点、灰釉陶器高台椀1点、平瓦1点を図示。時期 覆土や出土遺物から10世紀後半と考えられる。

H-5号住居跡 (Fig.18、PL. 7・16)

位置 X203・204、Y108・109グリッド 主軸方向 N-78°-E 形状等 東西3.48m、南北3.71m、壁現高37.5cm。面積 10.90m² 床面 平坦な貼り床。竈 東壁南寄りに敷設。主軸方向 N-83°-E。全長91cm、最大幅80cm、焚口部幅33cm。焚口部は若干凹み、燃焼部から煙道部にかけて急傾斜で立ち上がる。煙道は東壁より40cm程張り出す。貯蔵穴等 検出されず。周溝 精査を行なったが確認されなかった。重複 H-4、6と重複しており、新旧関係はH-6→本造構→H-4である。出土遺物 土師器245点、須恵器12点、瓦1点、土製品2点、灰釉陶器1点、その他2点。そのうち土師器环8点、土師器甕1点、須恵器蓋1点、須恵器环1点、灰釉陶器高台椀1点、平瓦1点、磨石1点を図示。時期 覆土や出土遺物から7世紀後半と考えられる。

H-6号住居跡 (Fig.18、PL. 7・16)

位置 X202~204、Y108・109グリッド 主軸方向 N-62°-E 形状等 東西5.50m、南北4.97m、壁現高41.5cm。面積 24.86m² 床面 平坦な貼り床。竈 東壁に敷設されたと思われるが、重複関係により確認できず。貯蔵穴等 南西部の柱穴のみ検出。44×42cmのほぼ円形で深さは24.5cm。周溝 東壁のH-5との重複部分以外で確認できた。幅15cm前後、深さ5cm程度であり、断面は逆台形。重複 H-4、5、7、12と重複しており、新旧関係はH-7→本造構→H-5、12、4の順である。出土遺物 土師器186点、須恵器13点、瓦1点、繩文土器1点、鉄製品1点、石製品1点、灰釉陶器2点。そのうち土師器环2点、土師器甕1点、平瓦1点、釣

1点、たたき石1点を図示。 時期 覆土や出土遺物から7世紀前半と考えられる。

H-7号住居跡 (Fig.18, PL.7)

位置 X202、Y108・109グリッド 主軸方向 N-93°-E 形状等 東西3.60m、南北3.01m、壁現高16.0cm。面積 (6.60)m² 床面 平坦な床面。竈 東壁に敷設されたと思われるが、重複関係により確認できず。貯蔵穴等 検出されず。周溝 精査を行なったが確認されなかった。重複 H-6と重複しており、新旧関係は本遺構→H-6である。出土遺物 土師器36点、須恵器8点、瓦2点、石製品2点、灰釉陶器1点、その他2点。そのうち須恵器1点、平瓦1点を図示。 時期 覆土や重複関係から7世紀代と考えられる。

H-8号住居跡 (Fig.19, PL.8・16)

位置 X204・205、Y108・109グリッド 主軸方向 N-34°-W 形状等 東西(3.43)m、南北3.70m、壁現高28.5cm。面積 (7.25)m² 床面 平坦な床面。竈 北壁中央部に敷設。主軸方向 N-38°-W。全長120cm、最大幅86cm、焚口部幅24cm。北壁際から60cm程粘土を貼り出し、両袖部を形成した。燃焼部には支脚を据え、高さ調節のためか支脚の上にはふせた土器が被せられていた。焚口部は若干凹み、燃焼部から煙道部にかけて緩やかに立ち上がる。煙道は北壁より45cm程張り出す。貯蔵穴等 検出されず。周溝 北壁から西壁にかけて検出。幅13cm前後、深さ4cm程度で、断面は逆台形。重複 H-13、16と重複しており、新旧関係は本遺構→H-13、16である。出土遺物 土師器165点、須恵器3点、瓦1点、繩文土器3点、灰釉陶器1点。そのうち土師器5点、土師器長胴甕1点を図示。 時期 覆土や出土遺物から6世紀前半と考えられる。

H-9号住居跡 (Fig.20, PL.8)

位置 X203、Y109・110グリッド 主軸方向 N-95°-E 形状等 東西3.42m、南北(3.40)m、壁現高5.5cm。面積 (9.74)m² 床面 平坦な床面。竈 東壁に敷設されたと思われるが、重複関係により確認できず。貯蔵穴等 検出されず。周溝 精査を行なったが確認されなかった。重複 W-1と重複しており、新旧関係は本遺構→W-1である。出土遺物 土師器34点、須恵器9点、灰釉陶器3点。そのうち土師器1点、須恵器2点を図示。 時期 覆土や出土遺物から10世紀後半と考えられる。

H-10号住居跡 (Fig.20, PL.8)

位置 X203・204、Y110グリッド 主軸方向 N-78°-E 形状等 東西(4.36)m、南北(1.90)m、壁現高37.0cm。面積 (4.68)m² 床面 平坦な床面。竈 住居のほとんどが調査区外のため確認できず。貯蔵穴等 検出されず。周溝 北壁沿いにわずかに検出。幅18cm前後、深さ4cm程度で、断面は逆台形。出土遺物 土師器65点、須恵器12点、瓦1点、繩文土器3点、灰釉陶器1点、その他2点。そのうち土師器1点、須恵器1点、平瓦1点を図示。 時期 不明。

H-11号住居跡 (Fig.21, PL.8・17)

位置 X200～202、Y109・110グリッド 主軸方向 N-81°-E 形状等 東西(4.40)m、南北4.50m、壁現高24.0cm。面積 (13.48)m² 床面 平坦な床面。竈 東壁中央部に敷設。主軸方向 N-83°-E。全長115cm、最大幅92cm、焚口部幅35cm。東壁から50cm程粘土を貼り出し、両袖を形成する。両袖共に凝灰岩の袖石が残存し、袖石の上には天井石がかけられていた。右袖すぐ横からはこの竈で使用されていたであろう長胴甕が押しつぶされた形で出土した。焚口部は若干凹み、燃焼部から煙道部にかけて緩やかに立ち上がる。煙道は東壁より40cm程張り出す。貯蔵穴等 検出されず。周溝 精査を行なったが確認されなかった。重複 H-25と重複して

おり、新旧関係は本遺構→H-25である。 出土遺物 土師器396点、須恵器17点、繩文土器1点、石製品2点、灰釉陶器2点、その他2点。そのうち土師器壊2点、土師器小甕1点、土師器甕2点、土師器長甕1点、須恵器壊2点、土器転用紡錘車1点を図示。 時期 覆土や出土遺物から6世紀後半と考えられる。

H-12号住居跡 (Fig.17, PL.9)

位置 X202・203、Y107・108グリッド 主軸方向 N-94°-E 形状等 東西3.29m、南北4.18m、壁現高19.5cm。面積 12.60m² 床面 平坦な貼り床。竈 東壁やや南寄りに敷設。主軸方向 N-105°-E。全長108cm、最大幅108cm、焚口部幅46cm。焚口部は若干凹み、煙道部にかけて緩やかに立ち上がる。煙道は東壁より30cm程張り出す。貯蔵穴等 南西部の柱穴のみ検出。45×42cmのほぼ円形で深さは43.5cm。周溝 精査を行なったが確認されなかった。重複 H-4、6、14、20と重複しており、新旧関係はH-6、20→本遺構→H-4、14である。出土遺物 土師器144点、須恵器8点、瓦2点、鉄製品1点、灰釉陶器3点。そのうち須恵器羽釜1点、須恵器高台椀1点、平瓦1点、釘1点を図示。 時期 覆土や出土遺物から10世紀前半と考えられる。

H-13号住居跡 (Fig.20, PL.9)

位置 X204・205、Y107・108グリッド 主軸方向 N-60°-E 形状等 東西(1.70)m、南北(2.54)m、壁現高44.5cm。面積 (1.70)m² 床面 地山を床面とする。竈 住居の大半が調査区外のため電を確認することはできなかつたが、おそらく東壁に敷設されたと思われる。貯蔵穴等 検出されず。周溝 精査を行なったが確認されなかつた。重複 H-1、8と重複しており、新旧関係はH-8→本遺構→H-1である。出土遺物 土師器20点、須恵器6点、瓦1点、繩文土器2点、灰釉陶器1点。そのうち手捏土製品1点を図示。時期 不明。

H-14号住居跡 (Fig.22, PL.10)

位置 X200~202、Y107・108グリッド 主軸方向 N-101°-E 形状等 東西(4.62)m、南北(3.78)m、壁現高10.0cm。面積 (15.87)m² 床面 平坦な貼り床。竈 東壁やや南寄りに敷設。主軸方向 N-112°-E。全長96cm、最大幅98cm、焚口部幅40cm。焚口部は若干凹み、煙道部にかけて緩やかに立ち上がる。煙道は東壁より40cm程張り出す。貯蔵穴等 東南隅で確認。60×48cmの楕円形で深さは5.5cm。底部に粘土が薄く貼られていた。周溝 精査を行なったが確認されなかつた。重複 H-12、20、21と重複しており、新旧関係はH-12、20→本遺構→H-21である。出土遺物 土師器158点、須恵器32点、瓦2点、鉄製品5点、灰釉陶器7点。そのうち須恵器壊1点、須恵器羽釜1点、平瓦2点、刀子1点を図示。 時期 覆土や出土遺物から10世紀後半と考えられる。

H-15号住居跡 (Fig.22, PL.10)

位置 X201・202、Y108・109グリッド 主軸方向 N-119°-W 形状等 と推定される。東西4.32m、南北(4.11)m、壁現高0.0cm。面積 (11.78)m² 床面 部分的に堅敏面が確認されたのみ。竈 西壁に敷設。竈主軸方向 N-110°-W。全長158cm、最大幅125cm、焚口部幅23cm。煙道は西壁より35cm程張り出す。貯蔵穴等 検出されず。周溝 精査を行なったが確認されなかつた。重複 H-20と重複しており、新旧関係はH-20→本遺構である。出土遺物 土師器32点。そのうち土師器2点を図示。 時期 覆土や重複関係から10世紀代と考えられる。

H-16号住居跡 (Fig.19、PL.10)

位置 X204・205、Y108・109グリッド 主軸方向 N-87°-E 形状等 東西2.98m、南北2.84m、壁現高15.0cm。面積 (4.11)m² 床面 部分的に堅緻面が確認されたのみ。竈 東壁に敷設されたと思われるが、重複関係により確認できず。貯蔵穴等 検出されず。周溝 精査を行なったが確認されなかった。重複 H-8と重複しており、新旧関係はH-8→本遺構である。出土遺物 須恵器1点。時期 覆土や重複関係から10世紀代と考えられる。

H-17号住居跡 (Fig.23、PL.10)

位置 X202・203、Y106・107グリッド 主軸方向 N-46°-E 形状等 東西(2.92)m、南北(5.10)m、壁現高38.0cm。面積 (4.51)m² 床面 地山を床面とする。竈 住居の大半が調査区外のため竈を確認することはできなかったが、おそらく東壁に敷設されたと思われる。貯蔵穴等 検出されず。周溝 精査を行なったが確認されなかった。重複 H-3と重複しており、新旧関係は本遺構→H-3である。出土遺物 土師器12点、須恵器1点、石製品1点。そのうち石斧1点を図示。時期 不明。

H-18号住居跡 (Fig.23、PL.10)

位置 X202・203、Y105・106グリッド 主軸方向 N-96°-E 形状等 と推定される。東西2.63m、南北(1.86)m、壁現高0.0cm。面積 (4.17)m² 床面 平坦な貼り床。竈 住居の大半が調査区外のため竈を確認することはできなかったが、おそらく東壁に敷設されたと思われる。貯蔵穴等 検出されず。周溝 精査を行なったが確認されなかった。出土遺物 土師器3点、須恵器4点。そのうち須恵器高台碗1点を図示。時期 覆土や出土遺物から10世紀後半と考えられる。

H-19号住居跡 (Fig.24、PL.10・17)

位置 X198~200、Y106・107グリッド 主軸方向 N-54°-E 形状等 東西5.57m、南北(5.54)m、壁現高36.0cm。面積 (23.50)m² 床面 平坦な貼り床。竈 東壁中央部に敷設。主軸方向 N-57°-E。全長119cm、最大幅 80cm、焚口部幅47cm。東壁から40cm程粘土を貼り出し、両袖を形成する。両袖から煙道出口まで粘土を貼り、形を整えている。左袖に凝灰岩の袖石が残存し、右袖すぐ横に上半分で切断された土師器窓が天地逆で配置されていた。焚口部は若干凹み、燃焼部から煙道部にかけて緩やかに立ち上がる。煙道は東壁より45cm程張り出す。貯蔵穴等 東南隅で検出。76×51cmの楕円形で深さは84cm。北東部の柱穴は調査区外のため確認できなかったが、それ以外の3箇所は確認された。北西部P₁は41×40cmの円形で深さは66cm、南西部P₂は41×40cmの円形で深さは58.5cm、南東部P₃は46×36cmの梢円形で深さは54cm。周溝 西壁で検出。幅12cm前後、深さ3cm程度で、断面は逆台形。出土遺物 土師器276点、須恵器4点、石製品19点。そのうち土師器窓7点、土師器窓4点、菰編籠5点を図示。時期 覆土や出土遺物から6世紀前半と考えられる。

H-20号住居跡 (Fig.23、PL.17)

位置 X201・202、Y107・108グリッド 主軸方向 N-57°-E 形状等 東西[4.12]m、南北[3.10]m、壁現高23.0cm。面積 [10.96]m² 床面 地山を床面とする。竈 東壁中央部に敷設。主軸方向 N-53°-E。全長110cm、最大幅 84cm、焚口部幅60cm。東壁から40cm程粘土を貼り出し、両袖を形成する。焚口部は若干凹み、燃焼部から煙道部にかけて急傾斜で立ち上がる。煙道は東壁より40cm程張り出す。貯蔵穴等 検出されず。周溝 精査を行なったが確認されなかった。重複 H-4、12、14、15と重複しており、新旧関係は本遺構→H-4、12、14、15である。出土遺物 土師器76点、土師器3点、縄文土器1点。そのうち土師器窓1点、土師

器長胴壺 1点を図示。 時期 覆土や出土遺物から 7世紀前半と考えられる。

H-21号住居跡 (Fig.22、PL.18)

位置 X201、Y108グリッド 重複 H-14と重複しており、新旧関係はH-14→本遺構である。 出土遺物 須恵器41点、瓦1点、灰釉陶器2点、その他1点。そのうち須恵器高台椀1点、須恵器櫃1点を図示。 時期 覆土や出土遺物から10世紀後半と考えられる。

H-22号住居跡 (Fig.25、PL.11・18)

位置 X198・199、Y106・107グリッド 主軸方向 N-102°-E 形状等 東西3.56m、南北4.93m、壁現高14.0cm。 面積 (13.89)m² 床面 平坦な貼り床。 窯 東壁中央部に敷設。主軸方向 N-168°-E。全長87cm、最大幅75cm、焚口部幅32cm。焚口部から煙道部にかけて緩やかに立ち上がる。煙道は東壁より60cm程張り出す。貯蔵穴等 検出されず。 周溝 精査を行なったが確認されなかった。 重複 H-23、24と重複しており、新旧関係は本遺構→H-23、24である。 出土遺物 土師器98点、須恵器28点、瓦10点、石製品2点、灰釉陶器3点。そのうち須恵器椀1点、灰釉陶器高台椀1点、丸瓦2点、平瓦4点を図示。 時期 覆土や出土遺物から9世紀後半と考えられる。

H-23号住居跡 (Fig.25、PL.11・18)

位置 X198・199、Y107グリッド 主軸方向 N-8°-E 形状等 東西(3.34)m、南北(0.96)m、壁現高13.5cm。 面積 (1.17)m² 床面 平坦な貼り床。 窯 北壁中央部に敷設。主軸方向 N-5°-E。全長86cm、最大幅60cm、焚口部幅24cm。煙道は北壁より55cm程張り出す。 貯蔵穴等 検出されず。 周溝 精査を行なったが確認されなかった。 重複 H-22、24と重複しており、新旧関係はH-22→本遺構→H-24である。 出土遺物 土師器81点、須恵器46点、瓦2点、鉄製品1点、灰釉陶器3点など。そのうち須恵器壺5点、平瓦2点、鉄製鋸鍼具1点、刀子1点を図示。 時期 覆土や出土遺物から10世紀後半と考えられる。

H-24号住居跡 (Fig.25、PL.11・18)

位置 X198・199、Y107・108グリッド 主軸方向 N-100°-E 形状等 東西3.68m、南北3.41m、壁現高14.5cm。 面積 (8.36)m² 床面 平坦な貼り床。 窯 東南角に敷設。主軸方向 N-125°-E。全長78cm、最大幅92cm、焚口部幅26cm。煙道は東壁から15cm程張り出す。 貯蔵穴等 検出されず。 周溝 精査を行なったが確認されなかった。 重複 H-23と重複しており、新旧関係はH-23→本遺構である。 出土遺物 土師器119点、須恵器36点、瓦4点、灰釉陶器2点、その他9点。そのうち須恵器壺1点、須恵器羽釜1点、須恵器櫃1点、平瓦1点を図示。 時期 覆土や重複関係から10世紀後半と考えられる。

H-25号住居跡 (Fig.26・27、PL.11・18)

位置 X199～201、Y108～110グリッド 主軸方向 N-68°-E 形状等 と推定される。東西6.26m、南北6.28m、壁現高54.5cm。 面積 (31.72)m² 床面 平坦な貼り床。ほぼ全面で堅緻面を確認。 窯 東壁中央部に敷設。主軸方向 N-74°-E。全長99cm、最大幅110cm、焚口部幅52cm。焚口部は若干凹み、燃焼部から煙道部にかけて急激に立ち上がる。煙道は東壁より50cm程張り出す。 貯蔵穴等 東南隅で検出。86×85cmの隅丸方形で10cm程深くなつたところから52×50cmの隅丸方形となり、全体の深さは80cm。柱穴は4個所すべて確認された。北西部P₁は60×55cmの梢円形で深さは54cm、南西部P₂は60×53cmの梢円形で深さは82cm、南東部P₃は63×52cmの梢円形で深さは74cm、北東部P₄は60×57cmの円形で深さは60cm。 周溝 調査区外の南西隅部以外全てで検出。

幅22cm前後、深さ8cm程度で、断面は逆台形。重複 H-11と重複しており、新旧関係はH-11→本遺構である。**出土遺物** 土師器503点、須恵器52点、瓦1点、繩文土器8点、石製品1点。そのうち土師器壺7点、土師器甕1点、須恵器蓋1点、須恵器壺4点、須恵器高台碗1点、灰釉陶器高台碗1点、平瓦1点、土器転用紡錘車1点を図示。**時期** 覆土や出土遺物から7世紀前半と考えられる。

H-26号住居跡 (Fig.28、PL.12)

位置 X198・199、Y108・109グリッド **主軸方向** N-2°-E **形状等** 東西3.69m、南北2.68m、壁現高11.5cm。 **面積** (8.80)m² **床面** 平坦な貼り床。竈付近や南壁近くで炭化材が確認されたことから焼失家屋の可能性が高いと思われる。 **竈** 北壁中央部に敷設。主軸方向 N-2°-E。全長84cm、最大幅117cm、焚口部幅46cm。煙道は北壁より15cm程張り出す。 **貯蔵穴等** 検出されず。 **周溝** 精査を行なったが確認されなかった。**出土遺物** 土師器41件、須恵器31件、瓦3件、繩文土器1件、灰釉陶器4件、鉄製品2件。そのうち須恵器甕1点、須恵器壺1点、丸瓦2点、刀1点、鎌1点を図示。**時期** 覆土や重複関係から10世紀後半と考えられる。

(2) 溝跡

W-1号溝跡 (Fig. 6・29、PL.12)

位置 X203・204 Y110グリッド **主軸方向** N-105°-E **形状等** 長さ3.02m 深さ14.5cm 最大上幅68cm、最大下幅48cm。断面は「U」字状。**時期** 覆土の状況から中世と考えられる。

W-2号溝跡 (Fig. 6・29、PL.12)

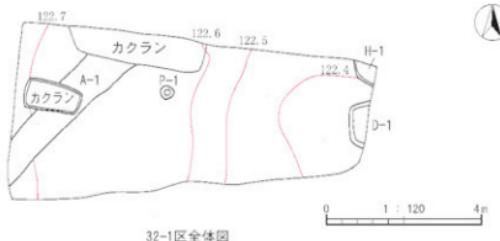
位置 X197、Y105~110グリッド **調査区西端で確認され、南北方向に走行する。** **主軸方向** N-94°-W **形状等** 長さ16.6m 深さ78cm 最大上幅105cm 最大下幅95cm。本遺構の底面と西壁立ち上がりは調査区外であり、今回検出された部分は東壁立ち上がりのみである。**出土遺物** 土師器27点、須恵器13点。そのうち須恵器壺1点を図示。**時期** 覆土の状況から中世と考えられる。**備考** 蒼海(30)のW-2号溝跡と同一遺構と考えられる。

(3) 土坑、ピット、(Fig. 6・29)

土坑、ピットについては、別表を参照のこと。

(4) グリッド等出土遺物

土師器807点、須恵器203点、瓦18点、繩文土器6点、鉄製品8点、石製品2点、灰釉陶器20点、その他10点を出土。そのうち土師器壺2点、須恵器壺1点、須恵器壺1点、須恵器高台碗2点、須恵器碗1点、須恵器甕1点、青磁器高台碗1点、平瓦10点、釘1点、鐵鎌1点、鉄製紡錘車1点、砥石1点を図示。



32-1区全体図

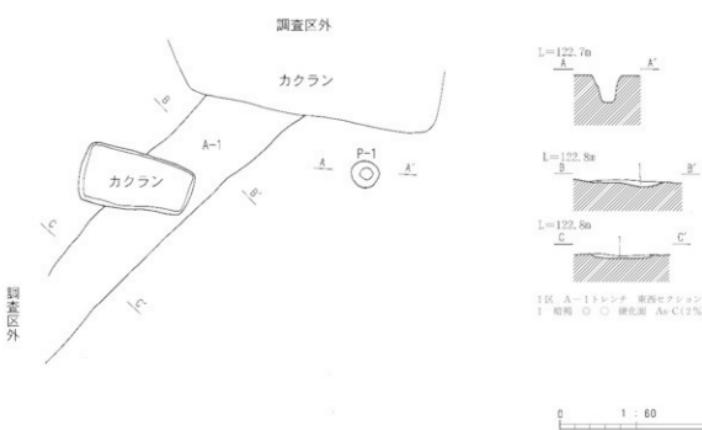


Fig. 7 元総社蒼海遺跡群 (32) 1区全体図、H-1号住居跡、D-1号土坑、P-1号ピット、A-1道路状遺構

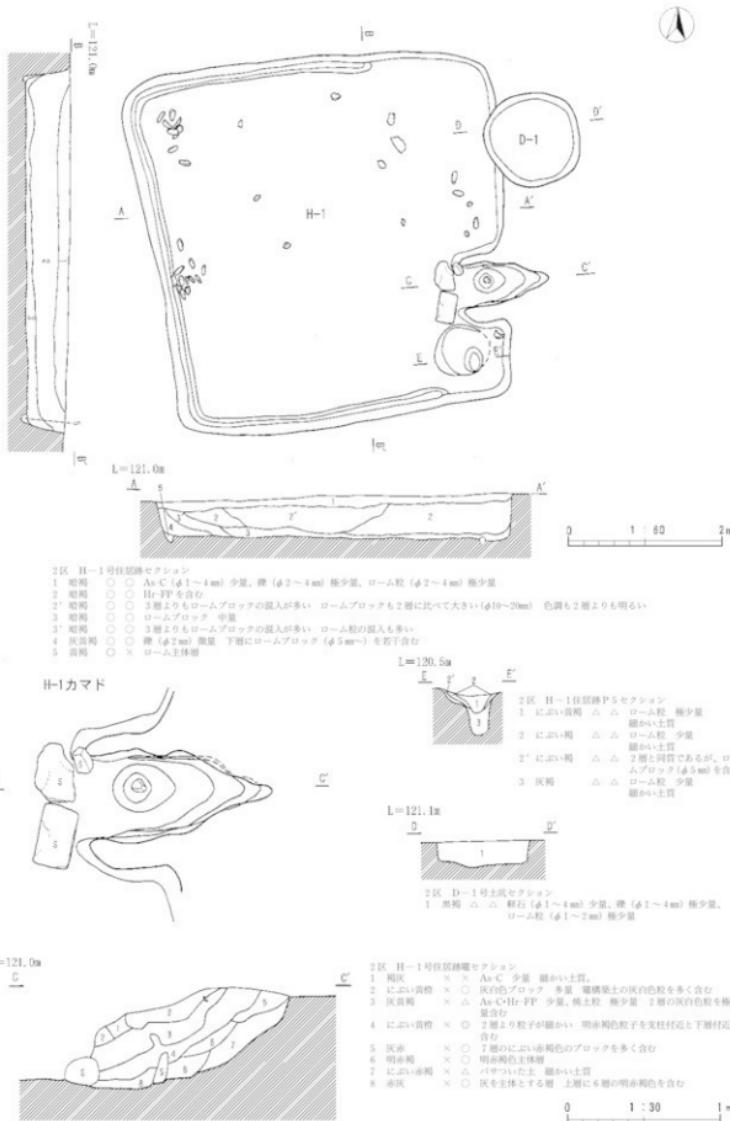


Fig. 8 元總社蒼海遺跡群 (32) 2区H-1号住居跡

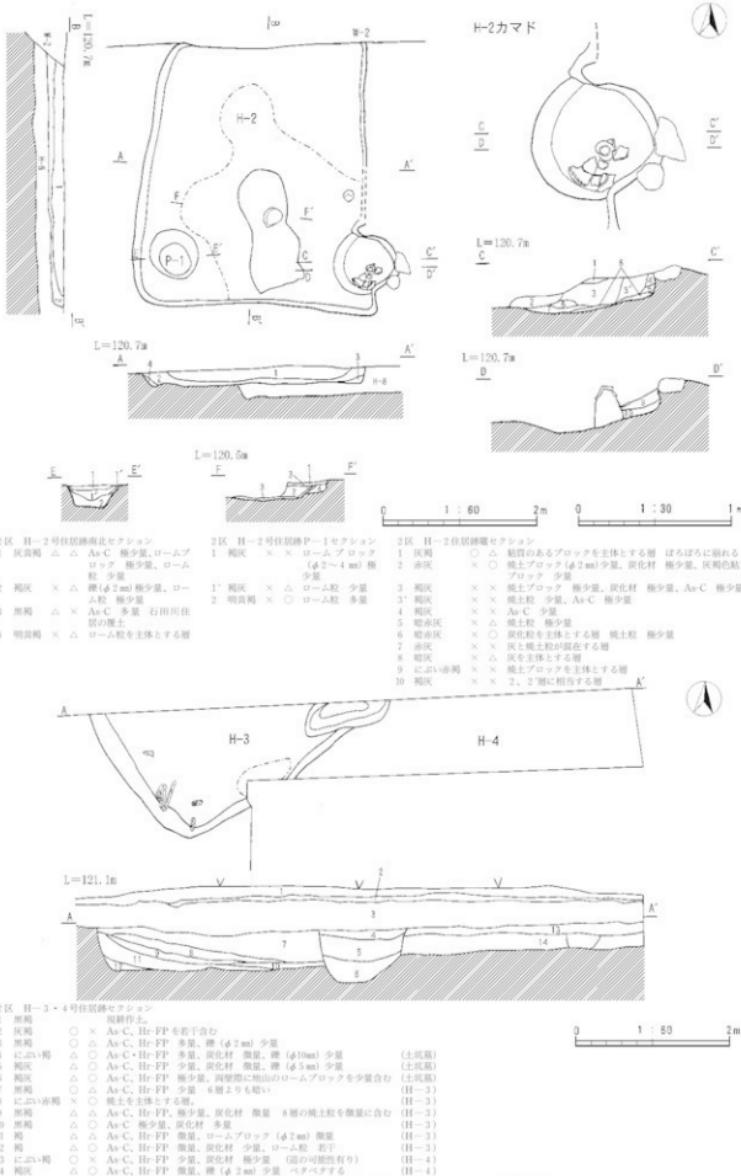


Fig. 9 元總社舊海遺跡群 (32) 2区H-2～4号住居跡

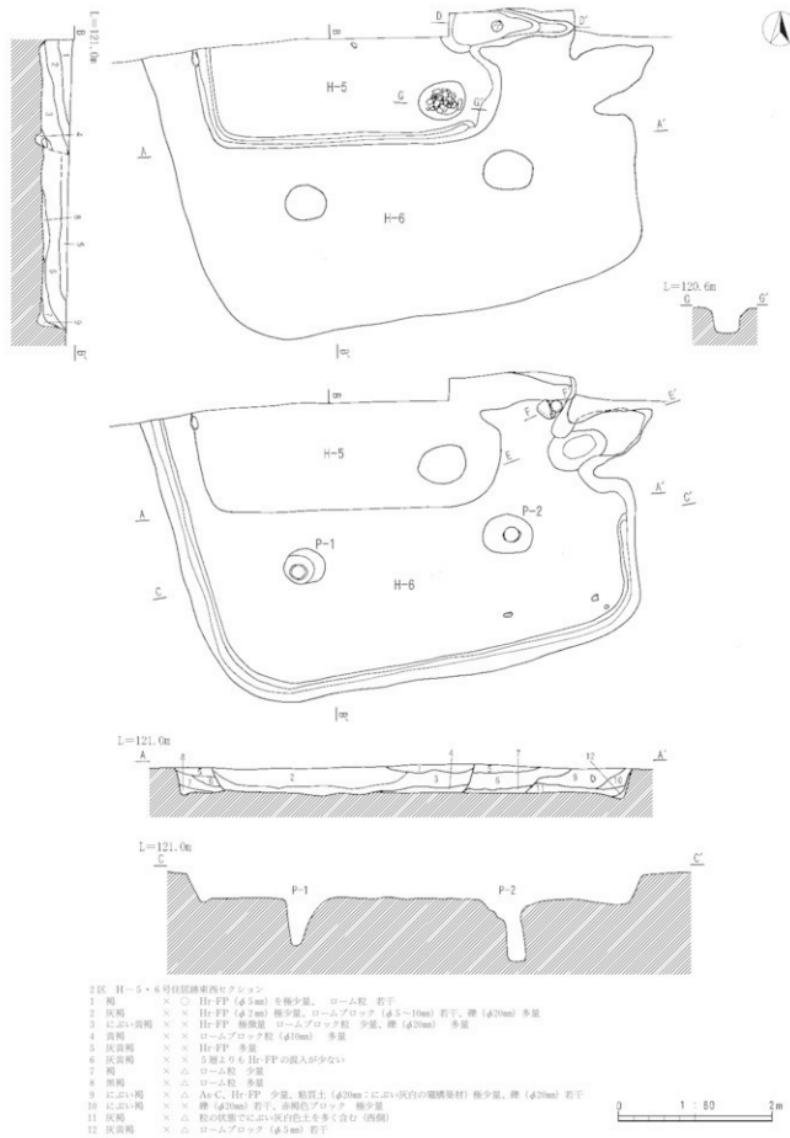
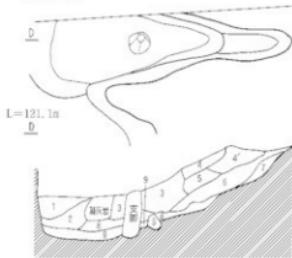


Fig. 10 元總社舊海道跡群 (32) 2区H-5・6号住居跡

H-5カマド



2区 H-5号住居跡断面セクション

- 1 黒鶲 \times \times As-C, Hr-FP 極少量、ローム粒 少量
- 2 開灰 \times \circ 3層の明褐色ブロックを多く含む(天井、石の崩落によるものと思われる)
- 3 明褐色 \times \circ 3層の明褐色ブロックを多く含む地盤の強さを示す。赤褐色部分は崩れやすい。
- 4 開灰 \times \times 3層の明褐色ブロックを多く含む 3層の赤褐色ブロックを少量含む
- 5 灰鶲 \times \times 4層の「崩れやすい」3層の明褐色ブロックを多く含む
- 6 黒鶲 \circ \circ 5層の明褐色ブロックを多く含む。底は灰白色粘土質上にブロック(Φ5mm)を少量含む
- 7 灰鶲 \circ \circ 土の層となる層
- 8 灰 \times \circ 土を主体とする層、まれに赤褐色粘土(飛来土)や砂(砂利)を含む
- 9 黒鶲 \times \times As-C, Hr-FP 少量、ロームブロック(Φ5mm)若干。崩れやすいた。

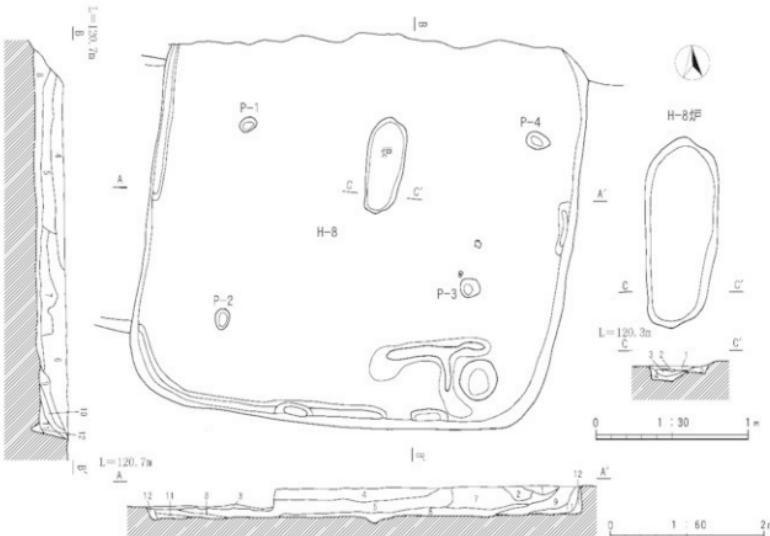
H-6カマド



2区 H-6号住居跡断面セクション

- 1 開灰 \times \circ Hr-FP 極少量、炭化材 極少量、灰白色粘土質 多量
- 2 黒鶲 \triangle \circ Hr-FP 少量、灰白色粘土質 多量
- 3 開灰 \circ 黒鶲、少量(底面付近)、灰白色粘土質 多量
- 4 黒鶲 \triangle \triangle 地上粒 粒子(底面付近)、灰白色粘土質 多量
- 5 に赤い黃鶲 \triangle \triangle 穴土ブロック多量、灰白色粘土質 少量
- 6 に白い土 \circ \circ 地上粒 多量
- 7 灰鶲 \circ \circ 灰色粒 ブロック 多量、灰 少量、炭化材、極少量
- 8 灰 \times \times 土を主体とする層、炭化材 極少量
- 9 塗水層 \times \times 赤褐色ブロック主体の 崩れやすい

0 1 : 30 1m



2区 H-8号住居跡断面セクション

- 1 開灰 \times \times Hr-FP 極少量
- 2 黒鶲 \circ \circ Hr-FP 多量、下層に粘土を多量に含む
- 3 黒鶲 \times \times As-C 少量、Hr-FP 多量、ロームブロック(Φ5mm) 極少量
- 5 に赤い黃鶲 \times \triangle Hr-FP 少量、ローム粒 多量、ロームブロック(Φ5~7mm) 少量、Hr-FPが混入する黒褐色土を崩れに入り
- 6 開灰 \times \times As-C 少量、Hr-FP 多量、ローム粒 多量、ローム土が崩れに入る

- 7 開灰 \triangle \triangle Hr-FP 少量、ローム粒 多量、ロームブロック(Φ2~5mm) 少量、Hr-FP を混入する黒褐色土がブロック状に入り
- 8 開灰 \times \times As-C 少量、Hr-FP 少量、ローム粒 少量
- 9 開灰 \times \triangle ロームブロック(Φ10~20mm) 極少量、上層に Hr-FP 混入の 黒褐色土が崩れに入る
- 10 開灰 \times \triangle Hr-FP 少量
- 11 黒鶲 \times \circ ローム粒 少量
- 12 に赤い黃鶲 \times \circ ローム粒 多量

Fig. 11 元總社舊海遺跡群 (32) 2区H-5・8号住居跡

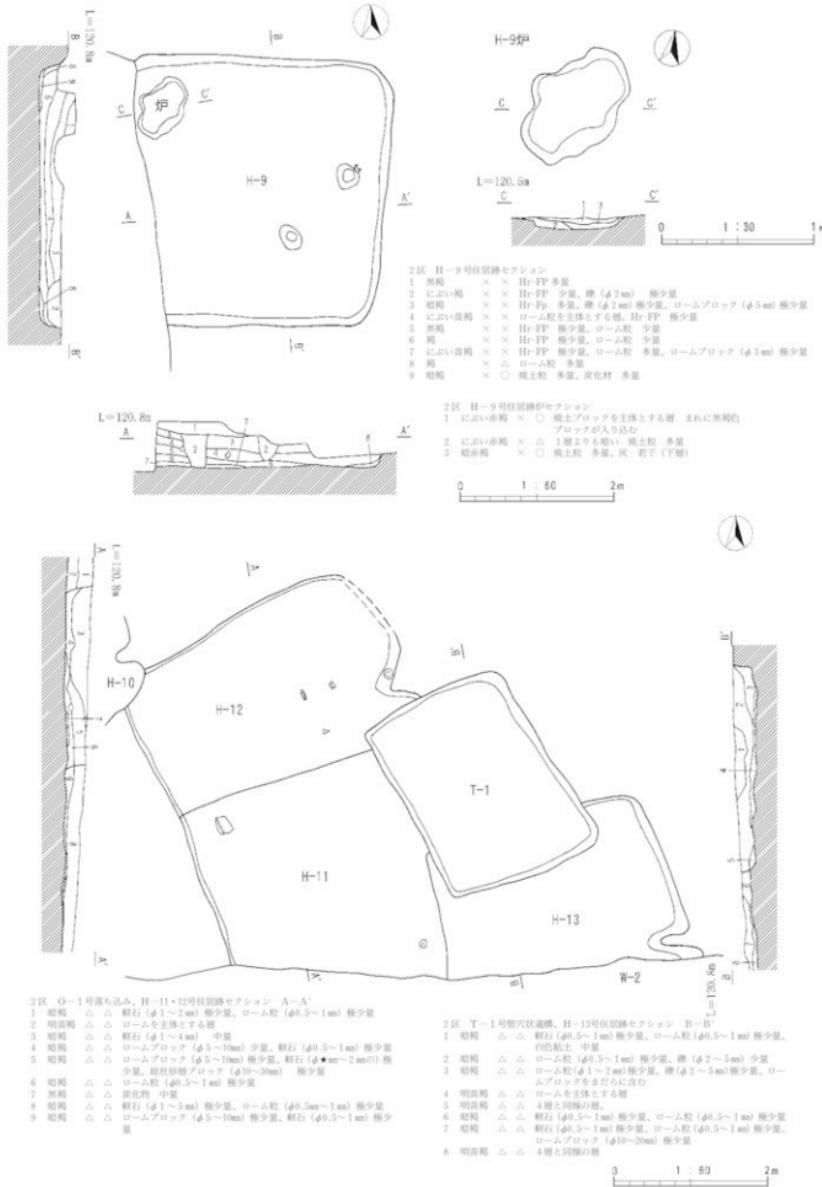


Fig. 12 元総社蒼海遺跡群 (32) 2区H-9・11～13号住居跡、T-1号

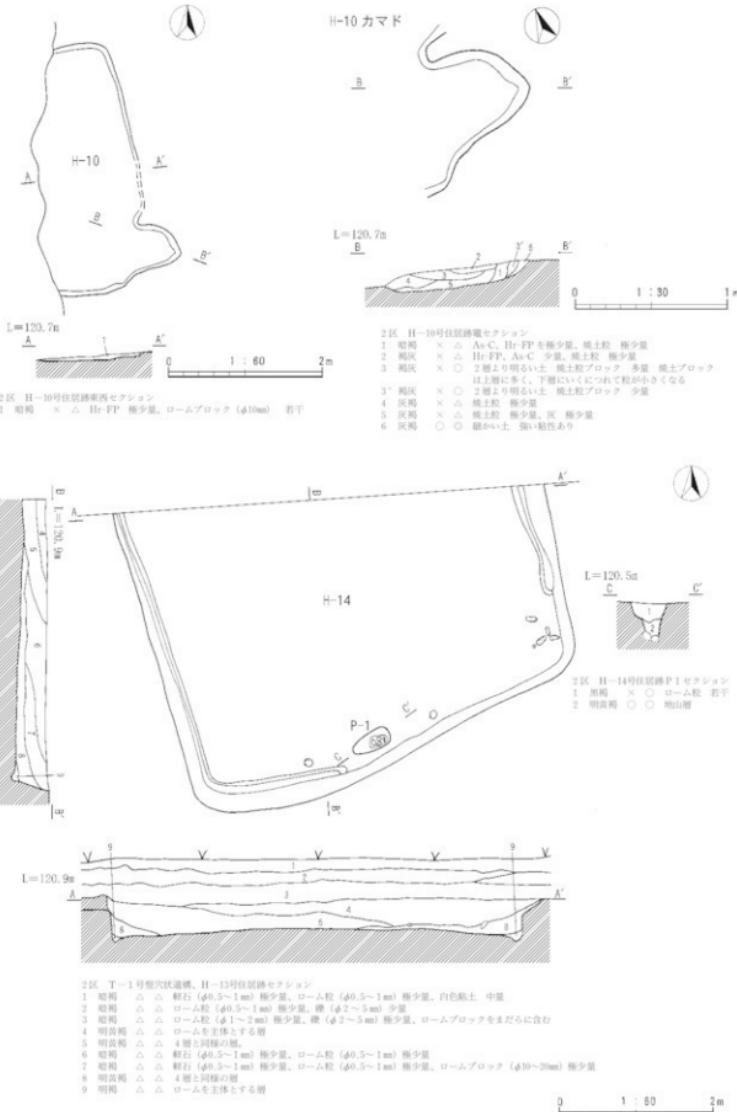


Fig. 13 元總社蒼海遺跡群 (32) 2区H-10・14号住居跡

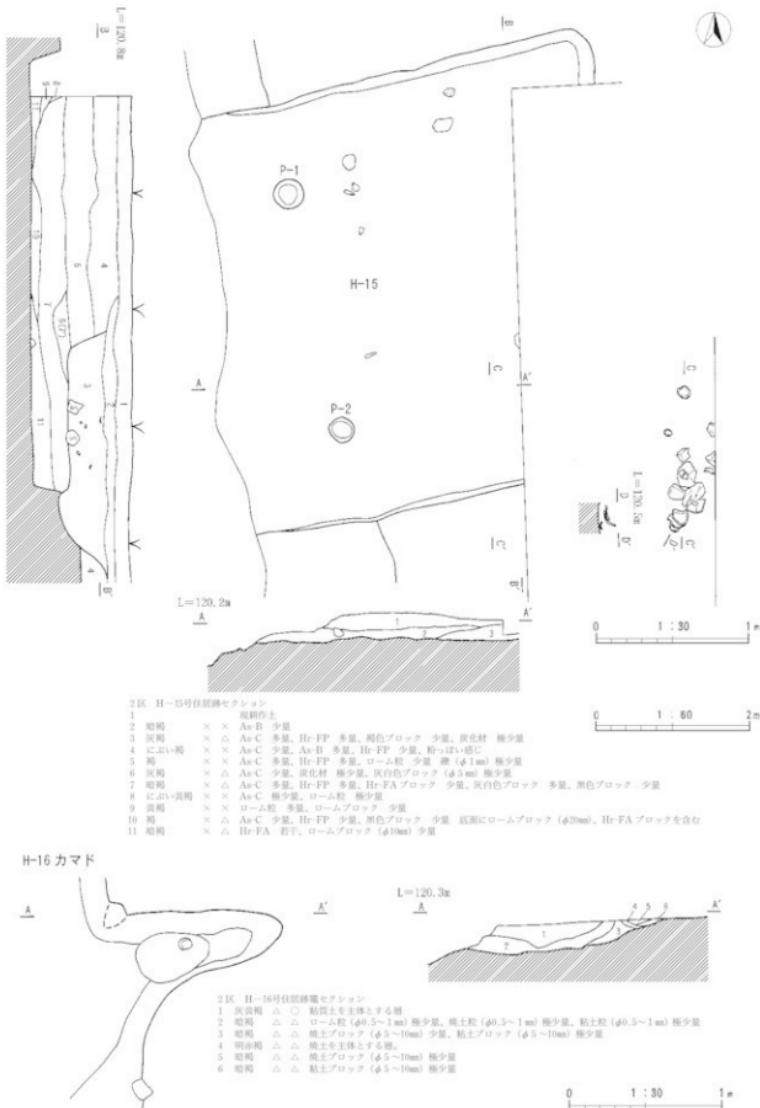


Fig. 14 元總社蒼海道路群 (32) 2区H-15号住居跡

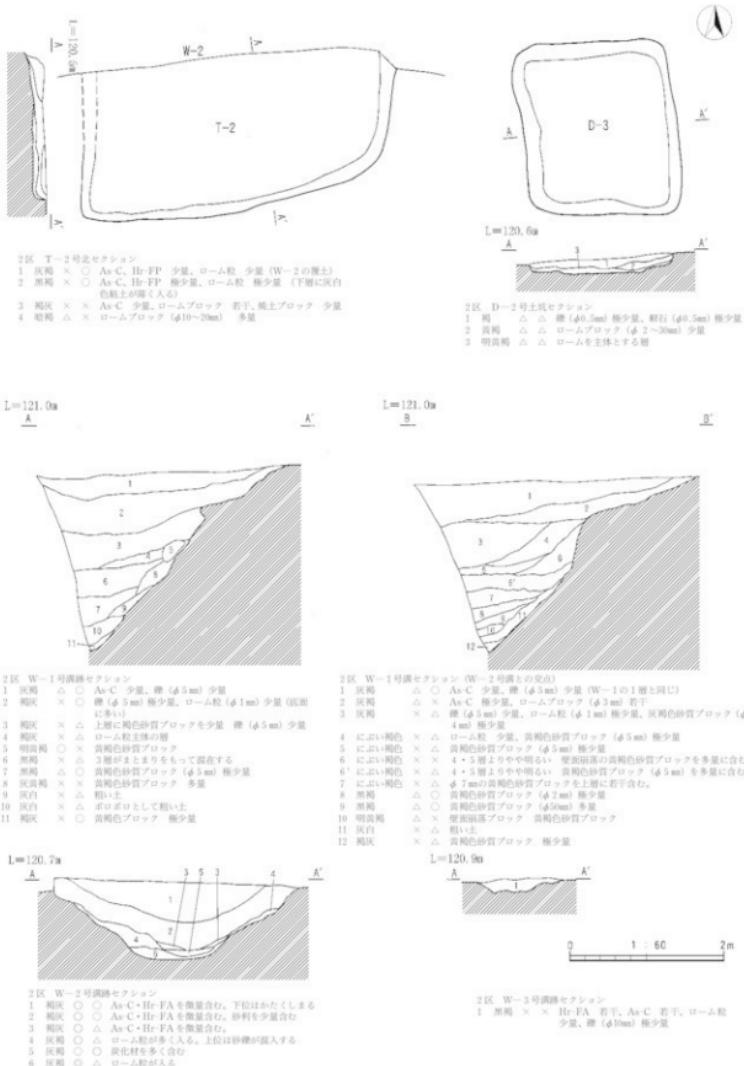


Fig. 15 元總社蒼海遺跡群 (32) 2区T-2号窓穴状遺構、D-3号土坑、W-1・2・3号溝跡

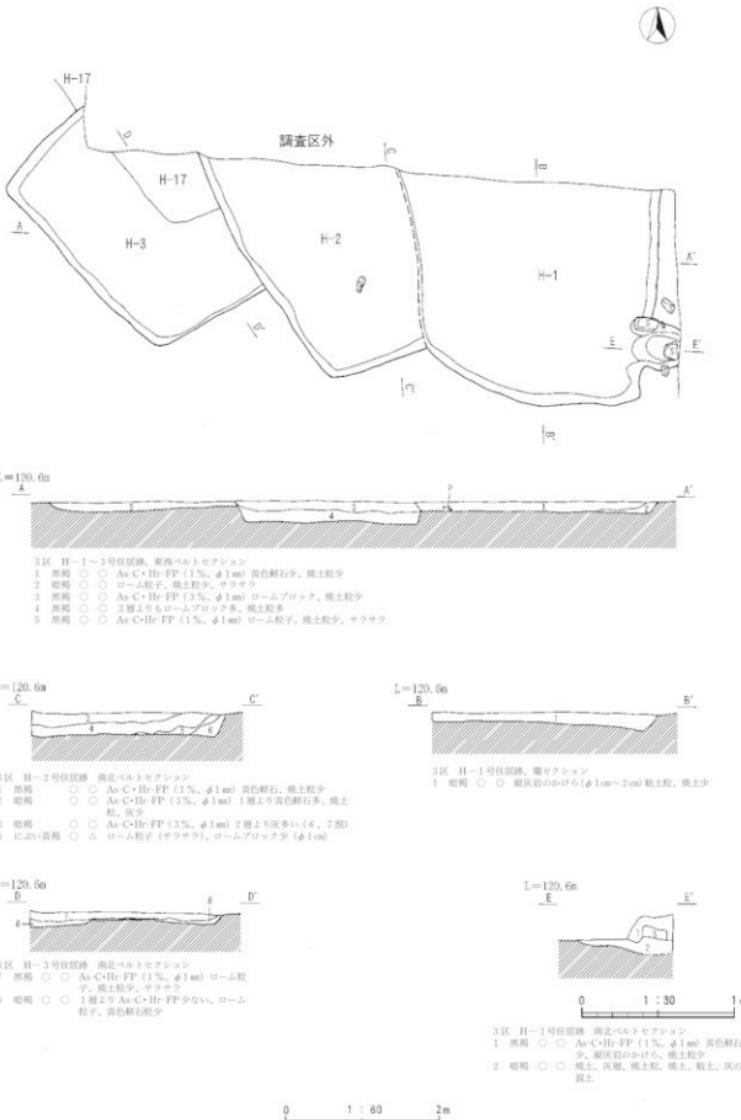


Fig. 16 元総社蒼海遺跡群 (32) 3区H-1～3号住居跡

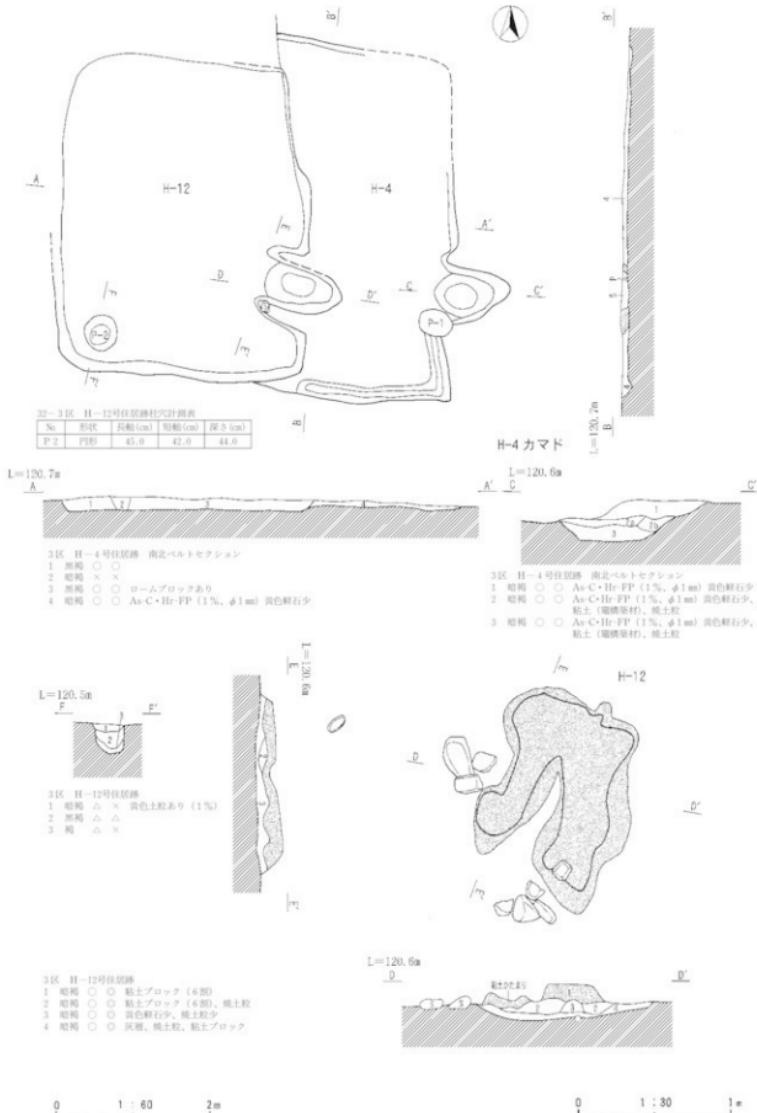


Fig. 17 元總社蒼海遺跡群 (32) 3区H-4・12号住居跡

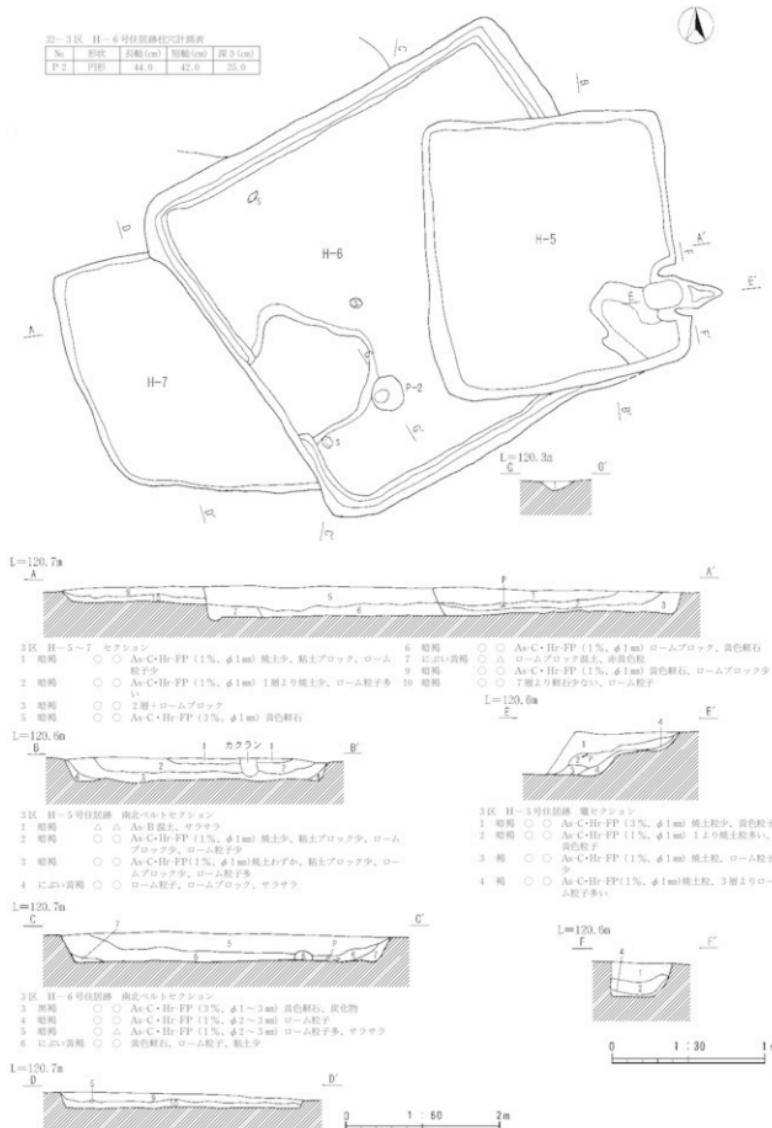


Fig. 18 元總社舊海遺跡群 (32) 3区H-5～7号住居跡

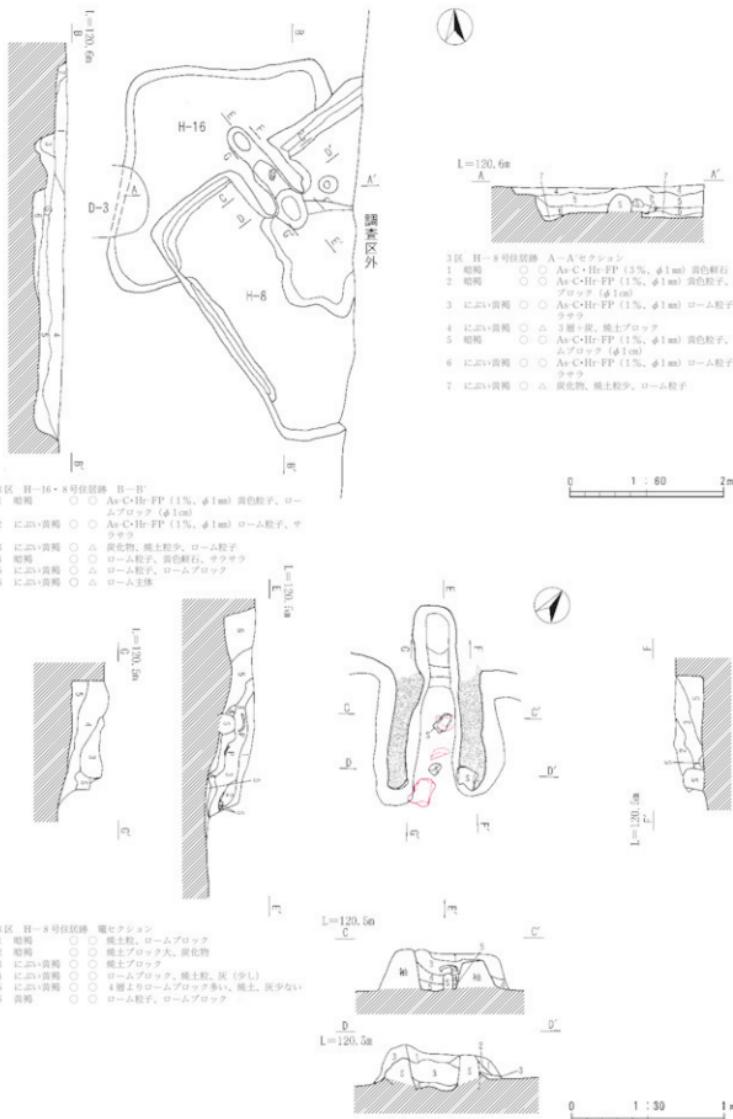


Fig. 19 元總社蒼海遺跡群 (32) 3区H-8・16号住居跡

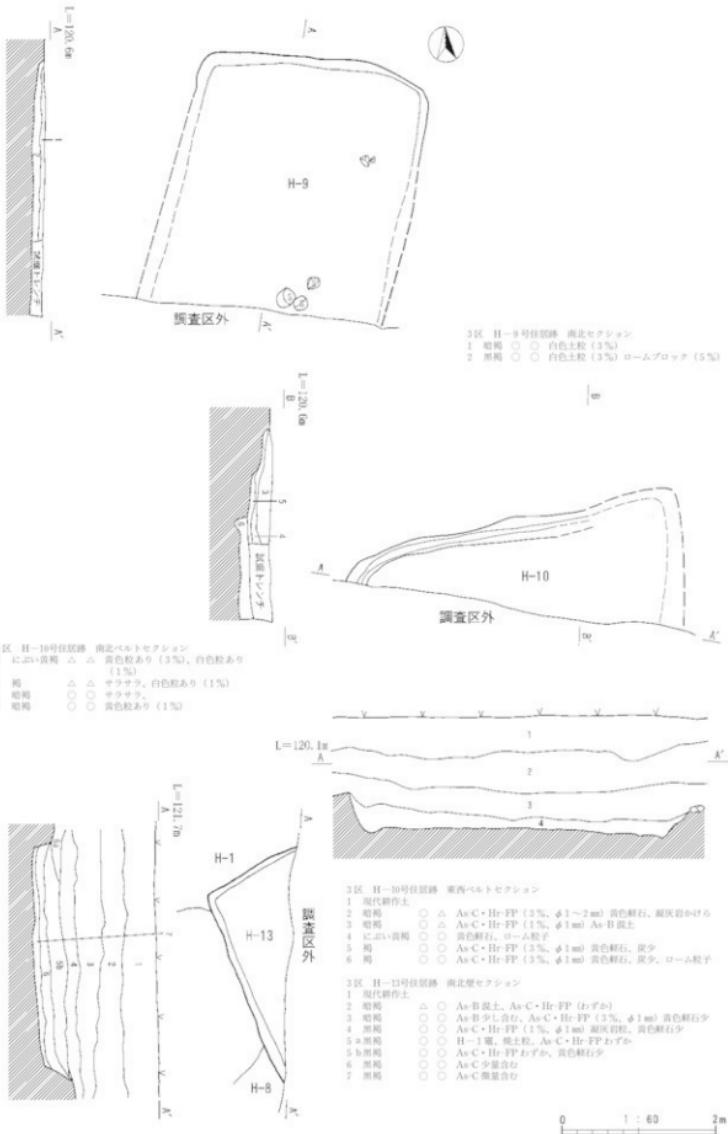


Fig. 20 元総社蒼海道路群 (32) 3区 H-9・10・13号住居跡

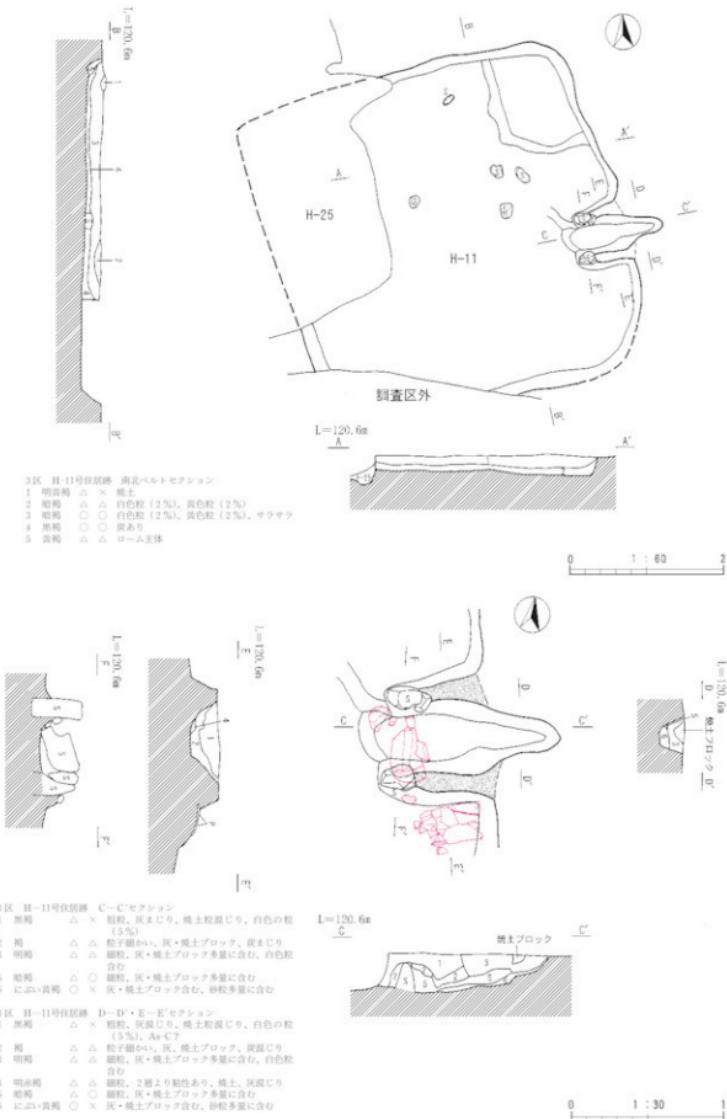


Fig. 21 元總社蒼海道路群 (32) 3区H-11号住居跡

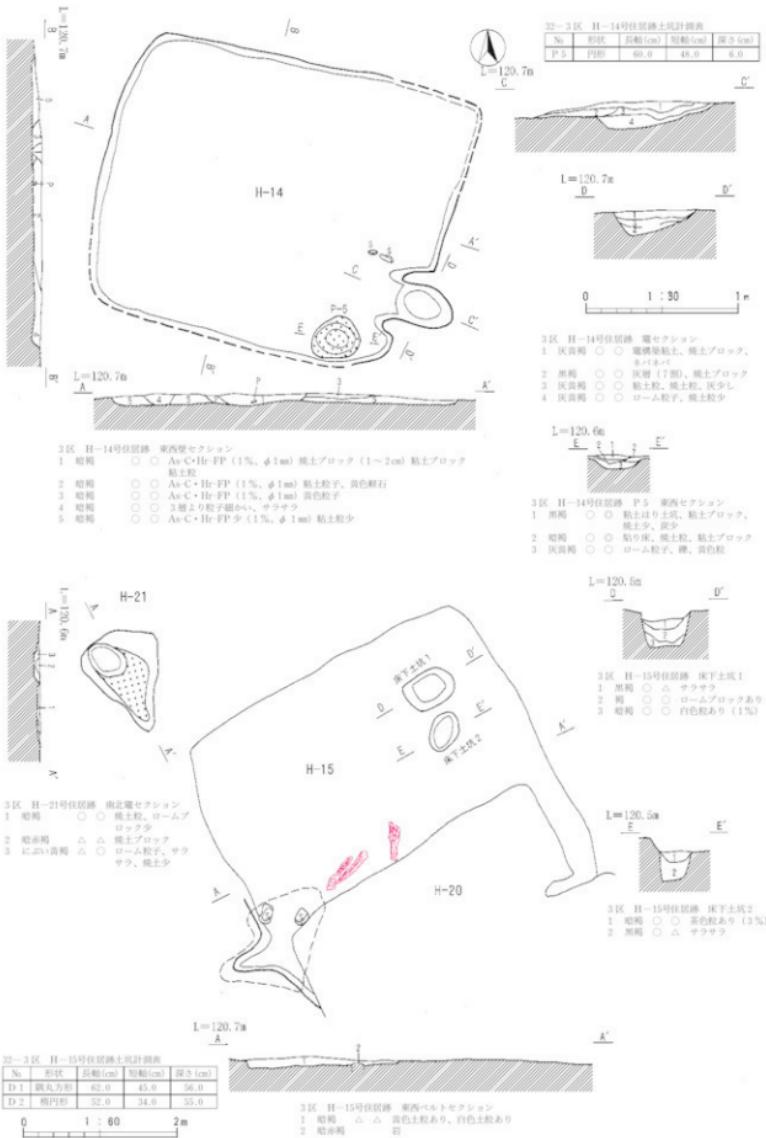


Fig. 22 元總社蒼海道路群 (32) 3区H-14・15・21号住居跡

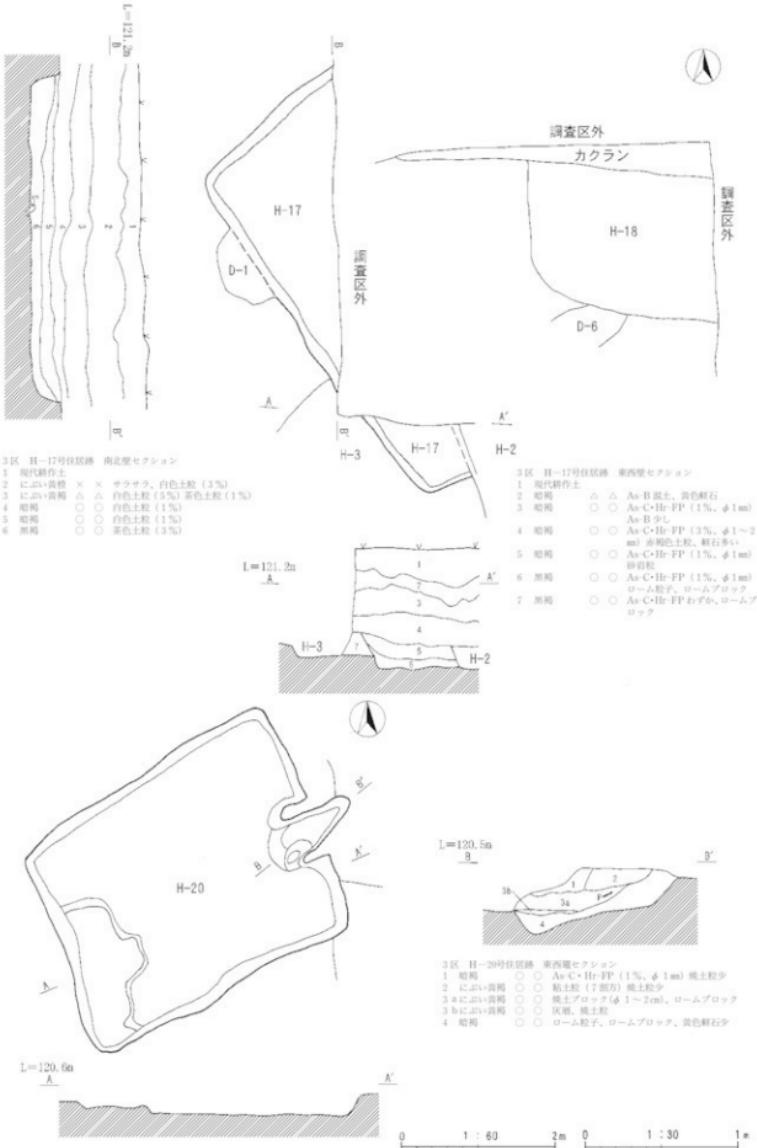


Fig. 23 元總社蒼海遺跡群 (32) 3区H-17・18・20号住居跡

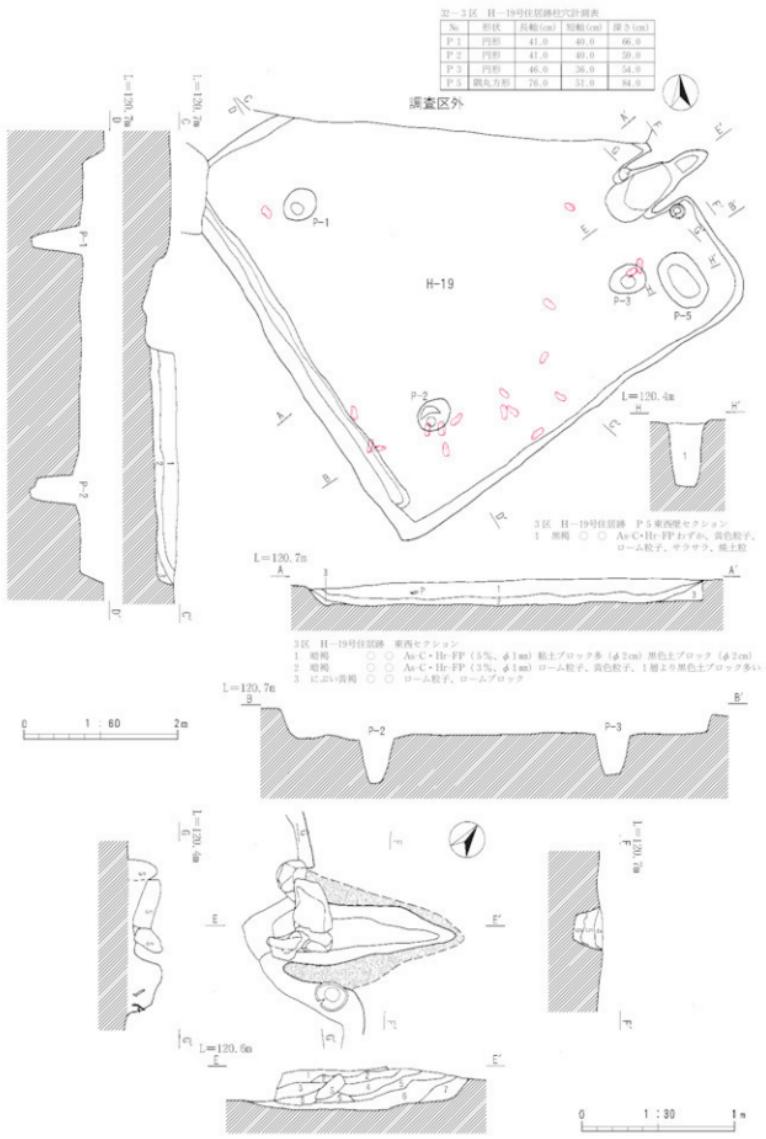


Fig. 24 元総社苔海道路群 (32) 3区H-19号住居跡

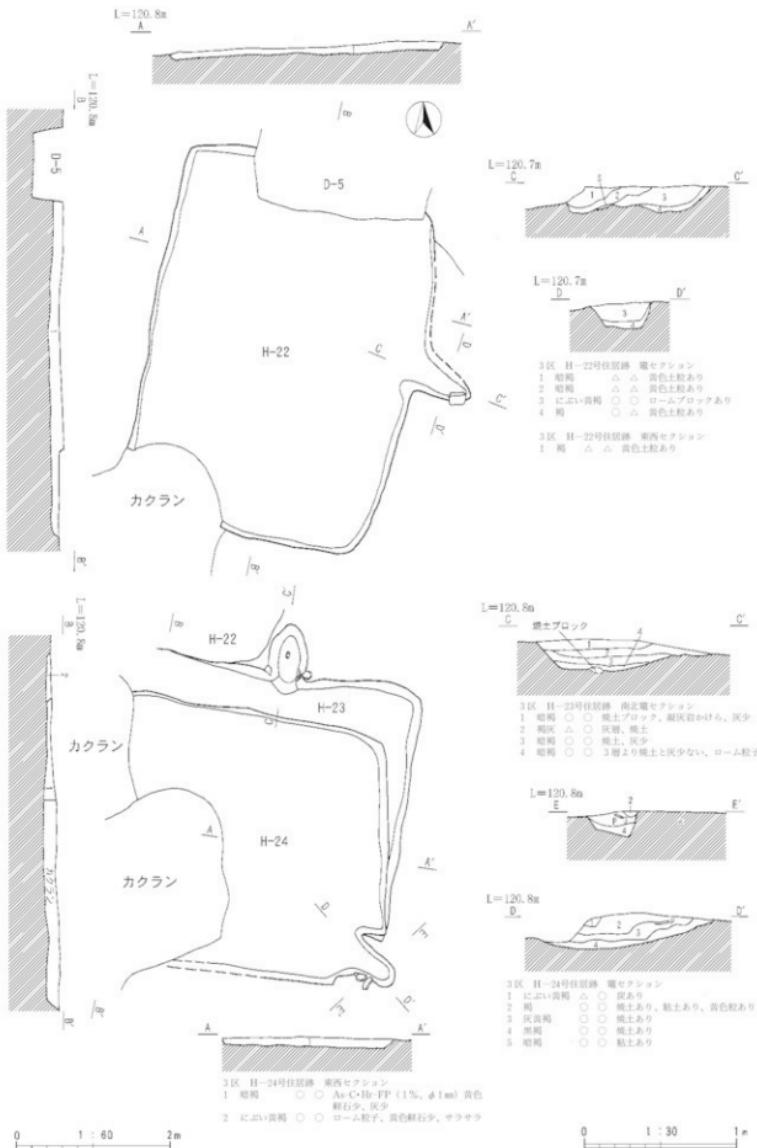


Fig. 25 元總社舊海遺跡群 (32) 3区H-22~24号住居跡

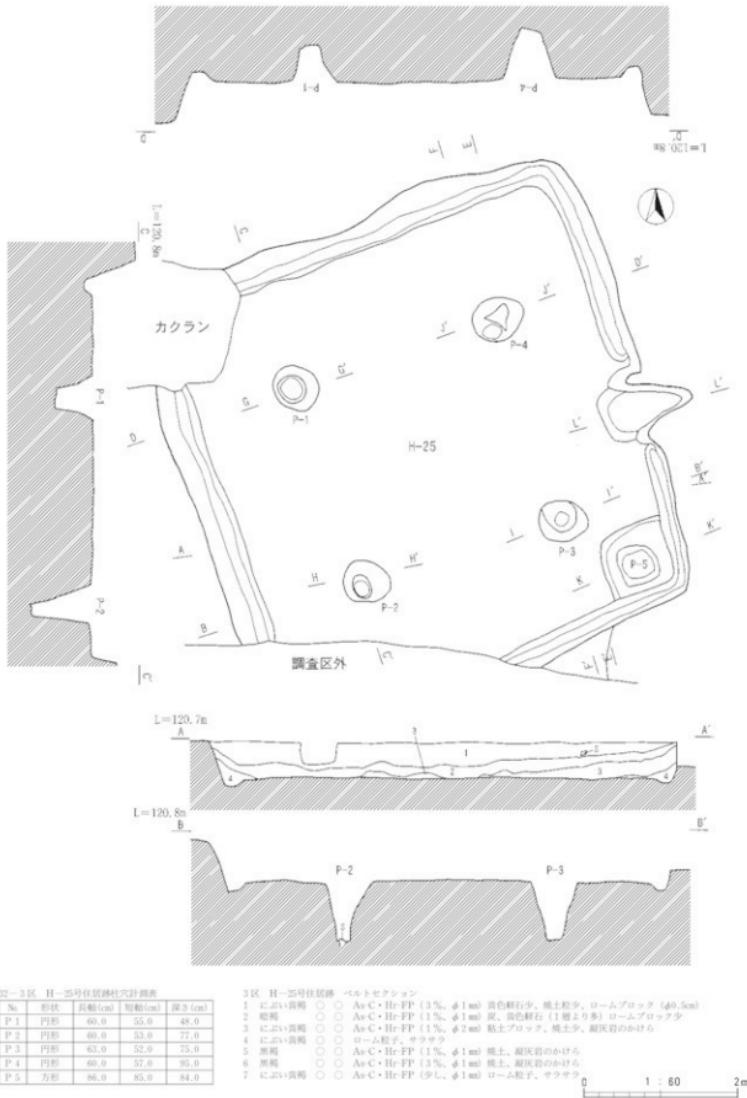


Fig. 26 元總社蒼海遺跡群 (32) 3区H-25号住居跡 (1)

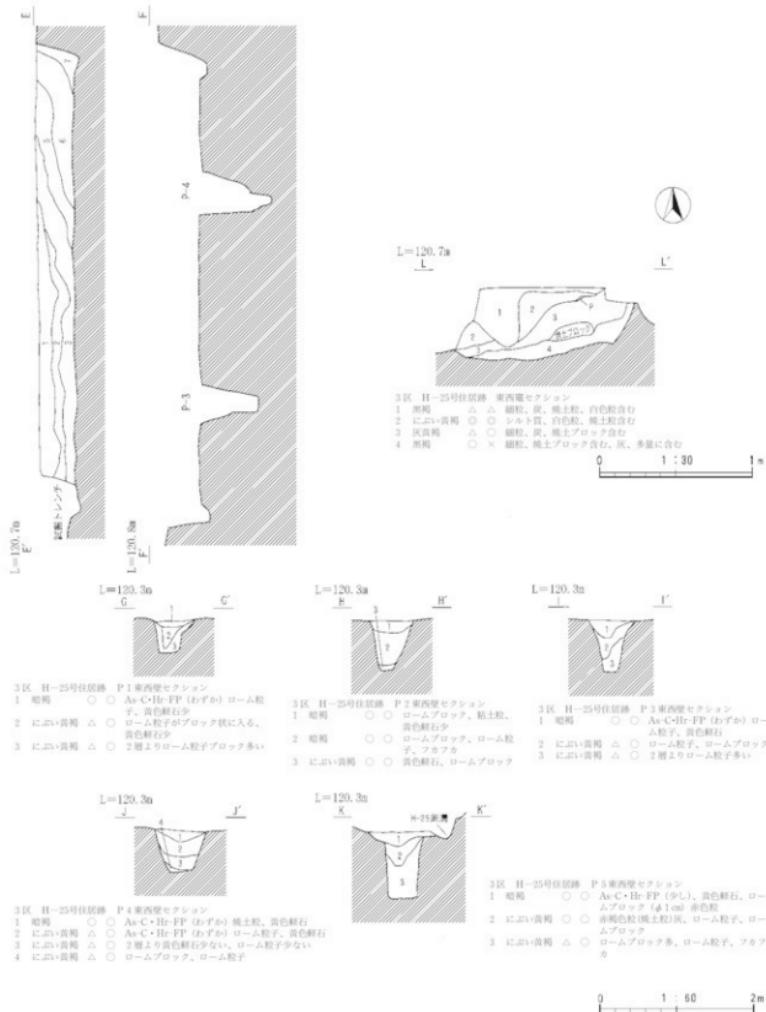


Fig. 27 元總社蒼海遺跡群 (32) 3区H-25号住居跡 (2)

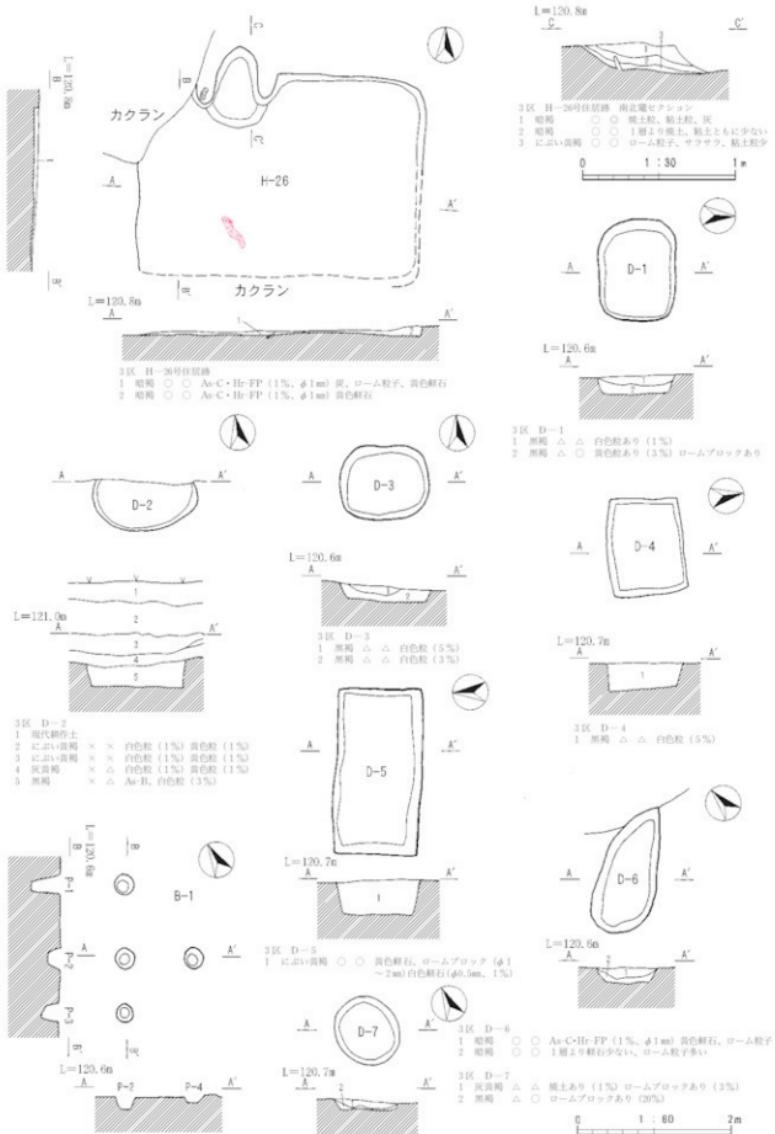


Fig. 28 元総社遺跡群 (32) 3区H-26号住居跡、D-1~7号土坑、P-5~8号ビット

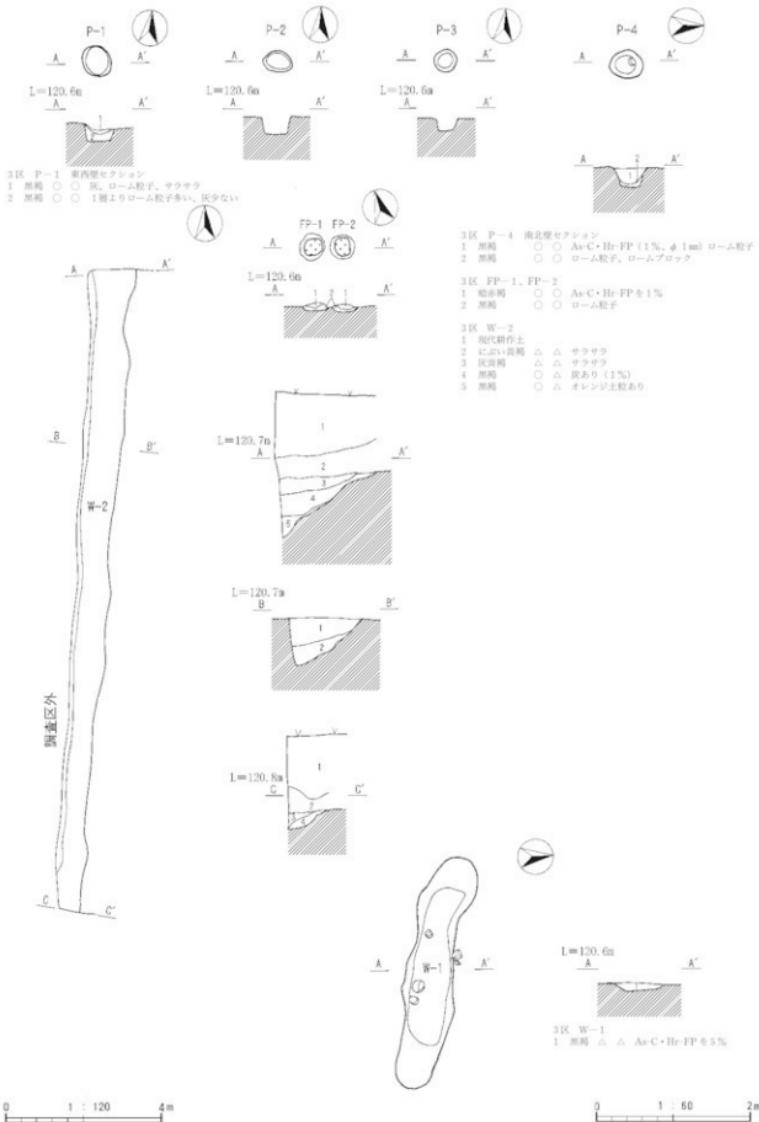


Fig. 29 元総社蒼海遺跡群 (32) 3区P-1～4号ピット、W-1～2号溝跡

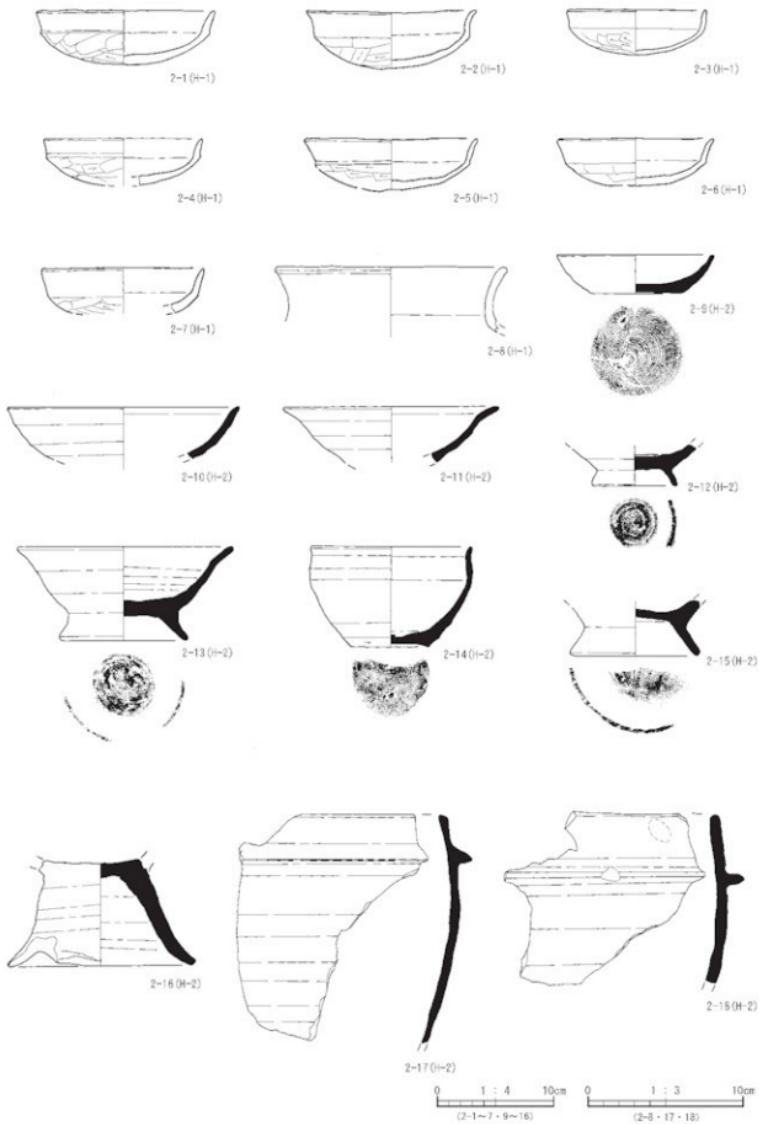


Fig. 30 元總社舊海遺跡群 (32) 2区H-1・2号住居跡出土遺物

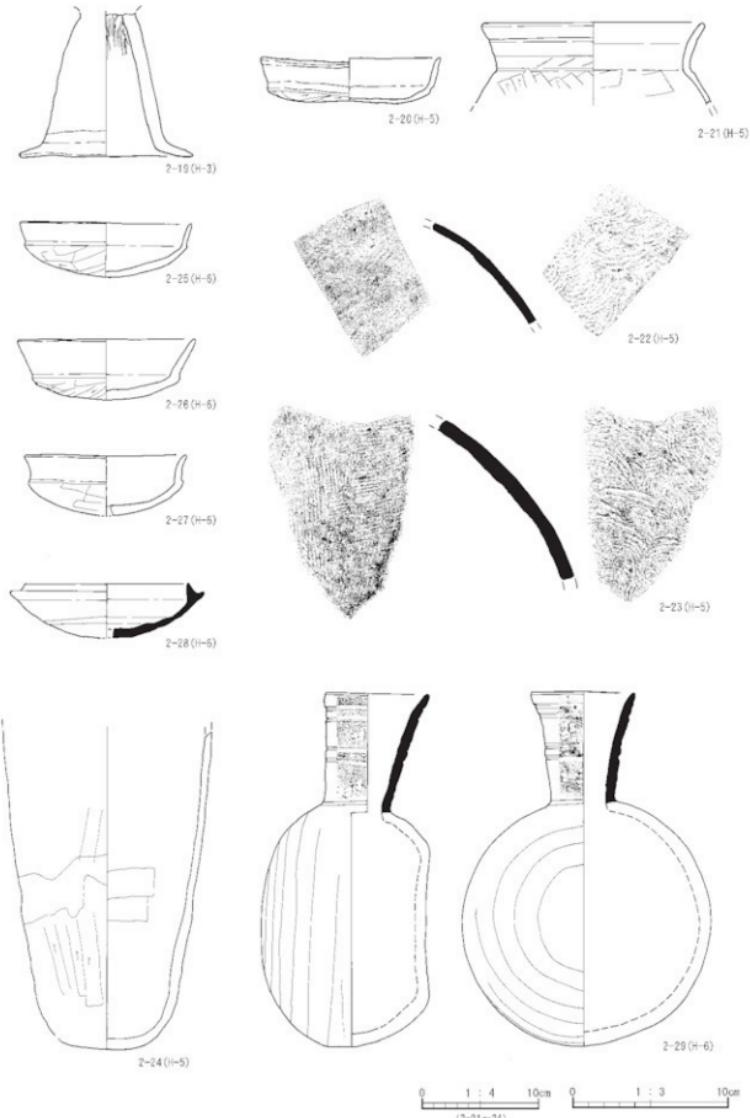


Fig. 31 元總社蒼海遺跡群 (32) 2区H-3~6号住居跡出土遺物

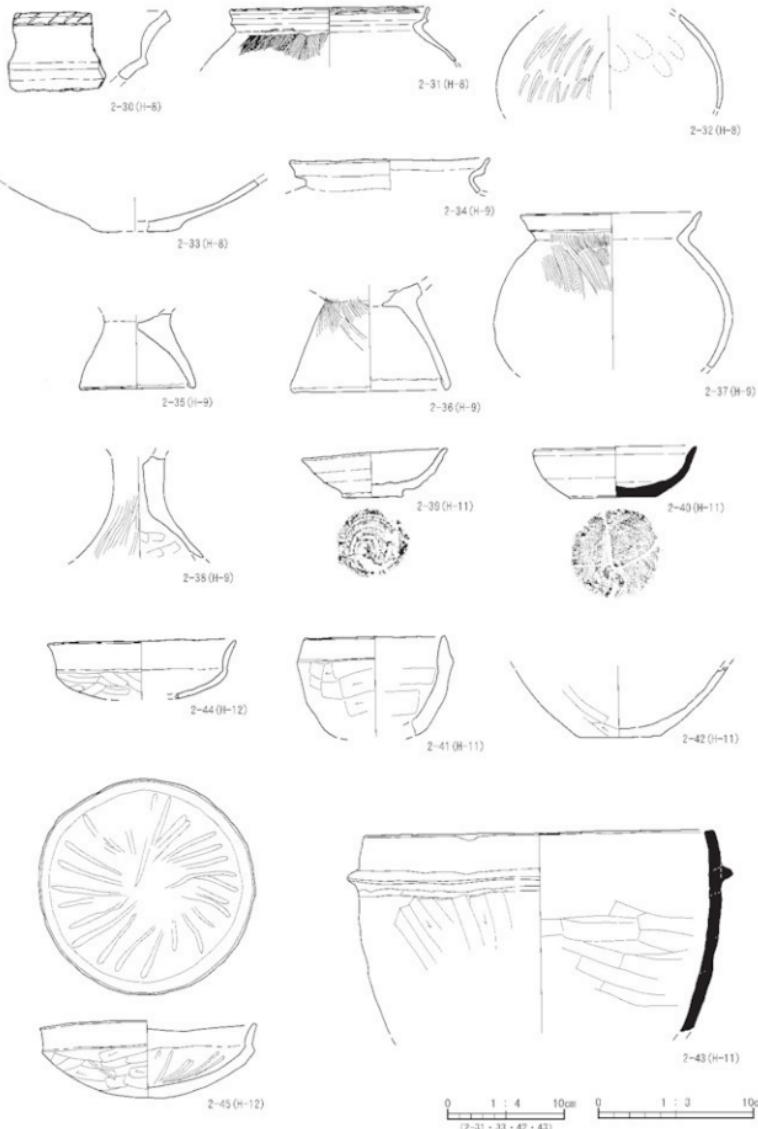


Fig. 32 元總社蒼海遺跡群 (32) 2区H-8～12号住居跡出土遺物

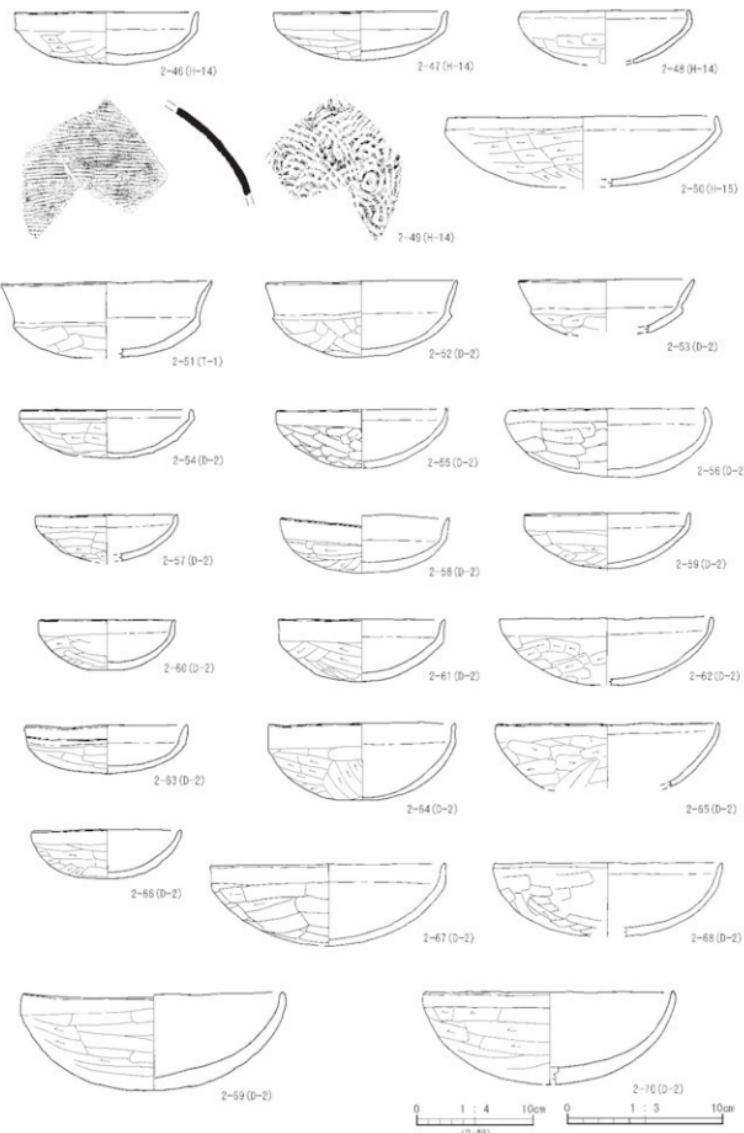


Fig.33 元總社舊海遺跡群 (32) 2区H-14・15号住居跡、T-1号堅穴状遺構、D-2号土坑出土遺物

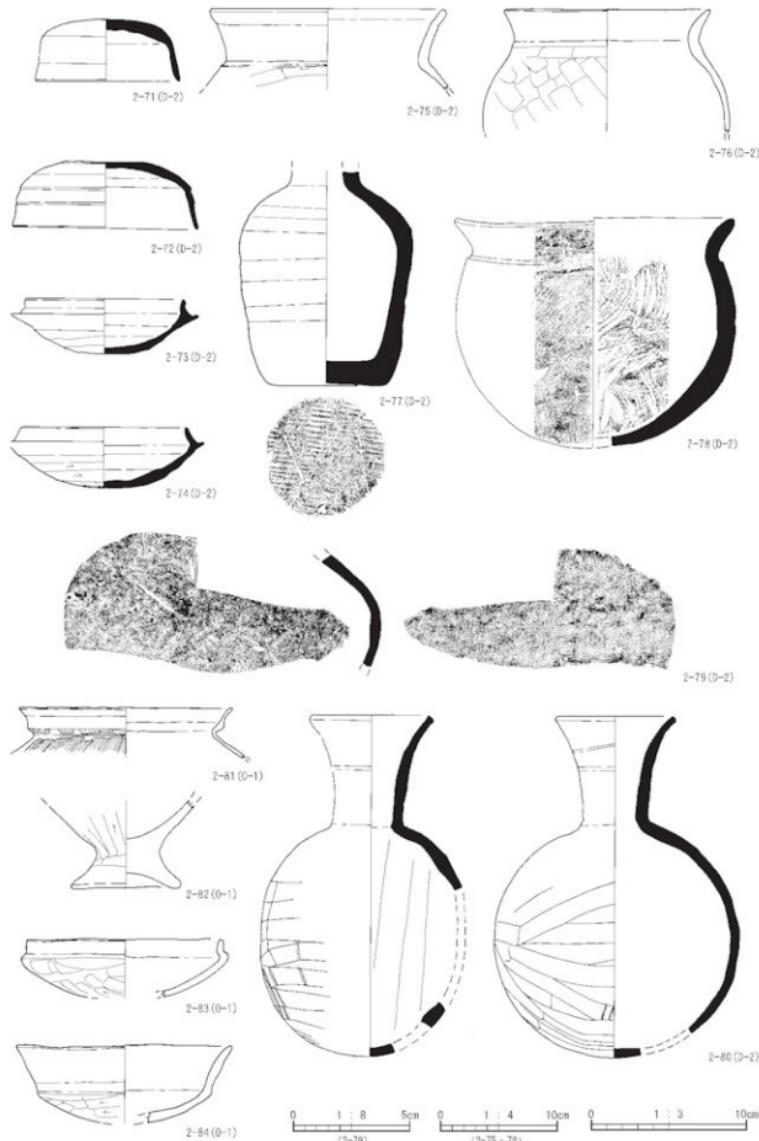


Fig. 34 元總社蒼海遺跡群(32) 2区D-2号土坑、O-1号落ち込み出土遺物

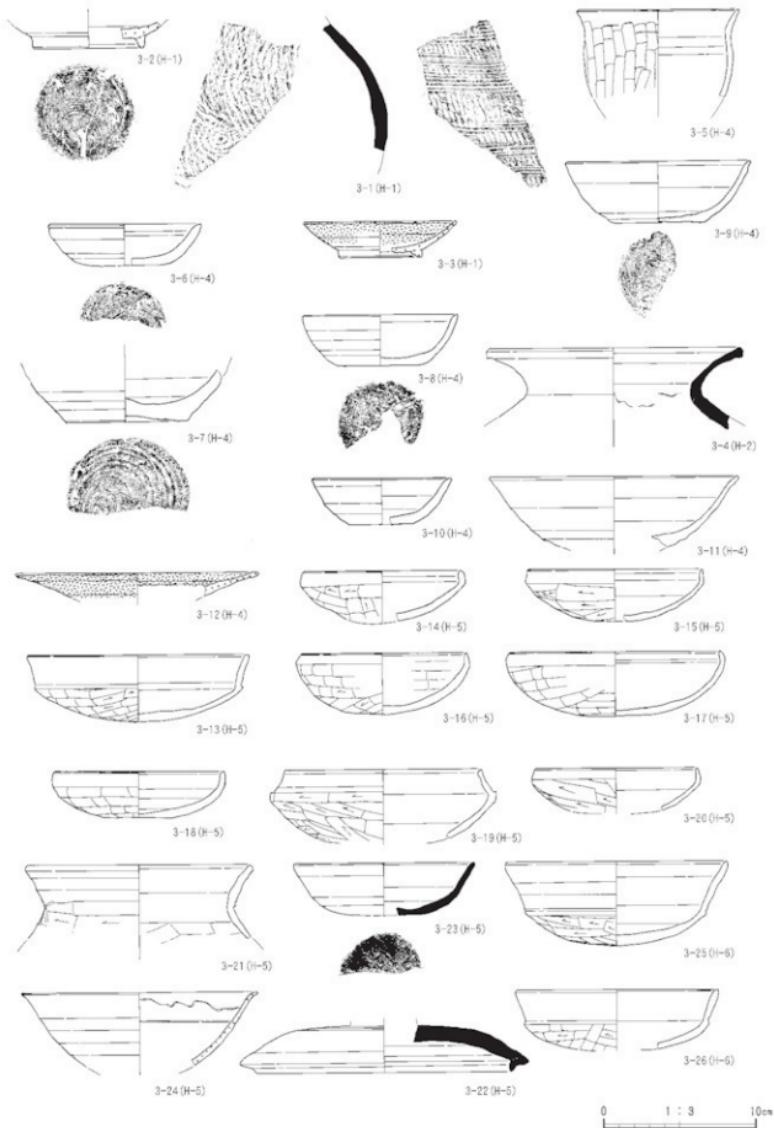


Fig. 35 元總社蒼海遺跡群 (32) 3区H-1・2・4～6号住居跡出土遺物

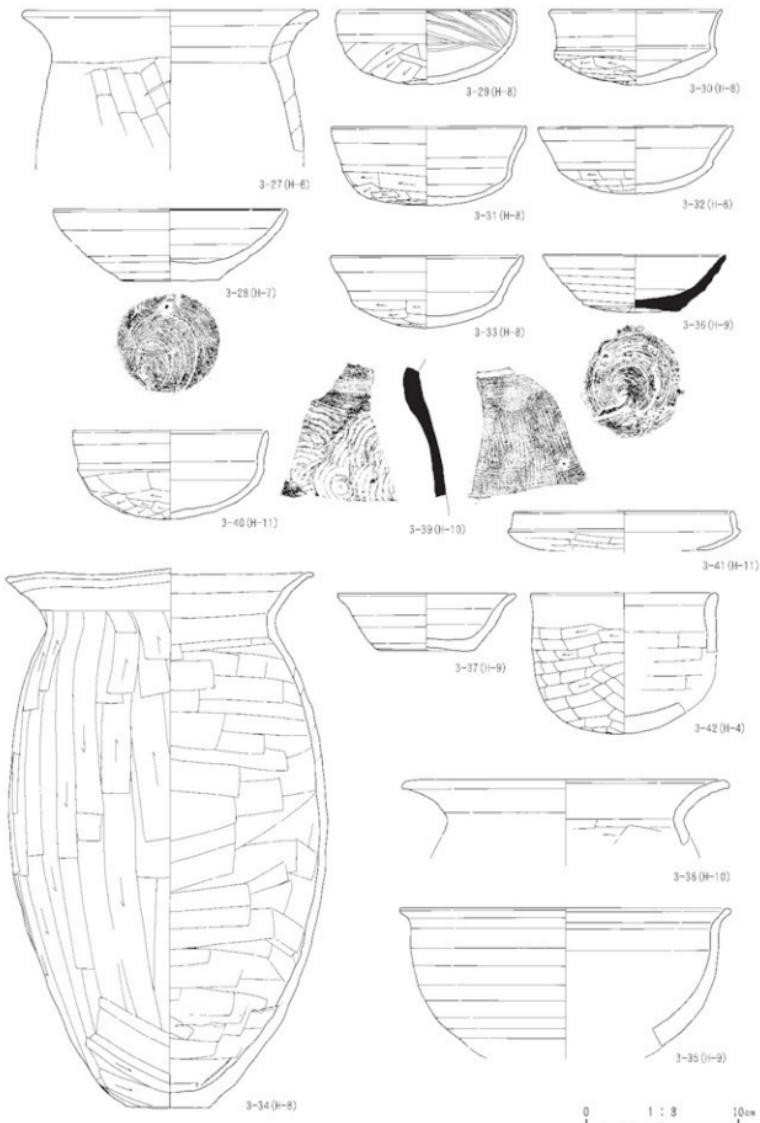


Fig. 36 元總社蒼海遺跡群 (32) 3区H-4・6~11号住居跡出土遺物

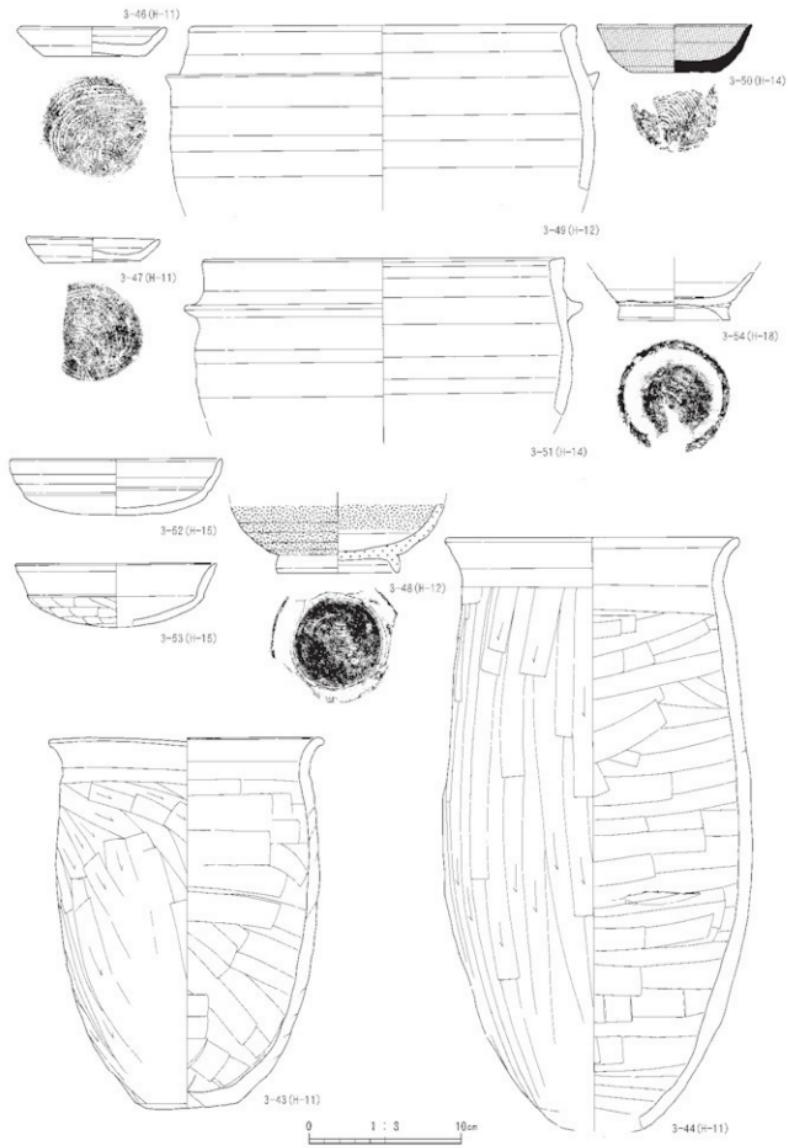


Fig. 37 元總社蒼海遺跡群 (32) 3区H-11・12・14・15・18号住居跡出土遺物

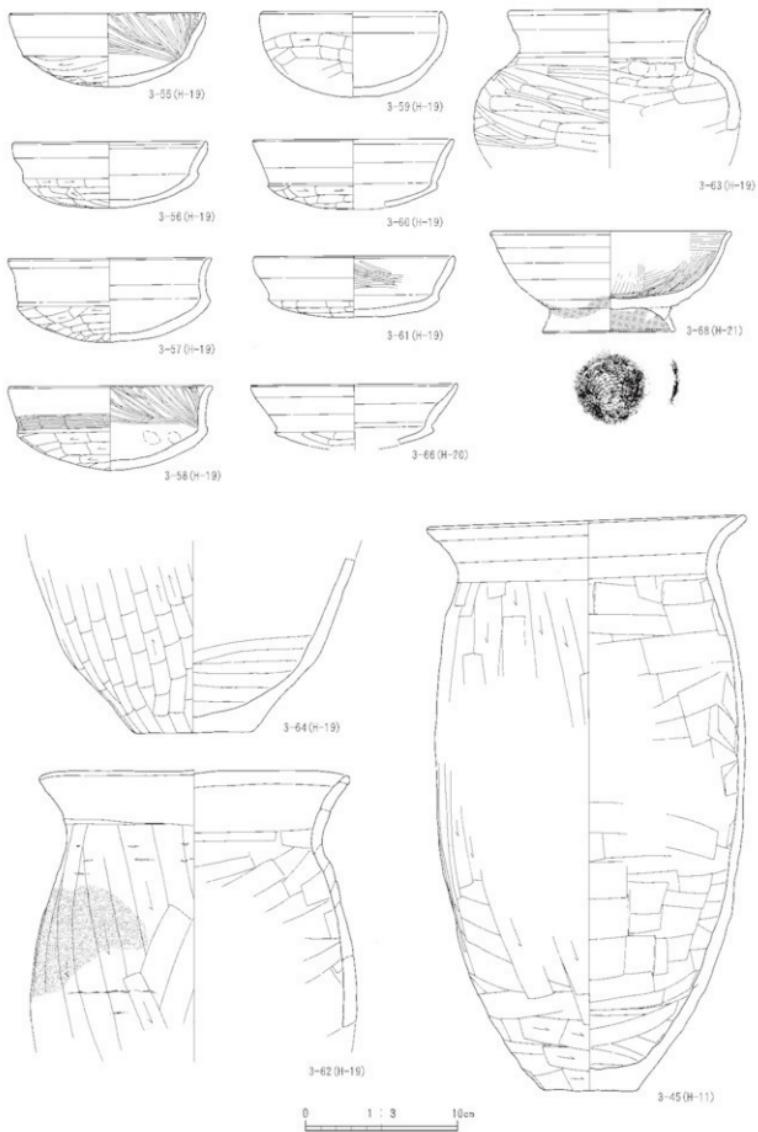


Fig. 38 元總社蒼海遺跡群(32) 3区H-11・19~21号住居跡出土遺物

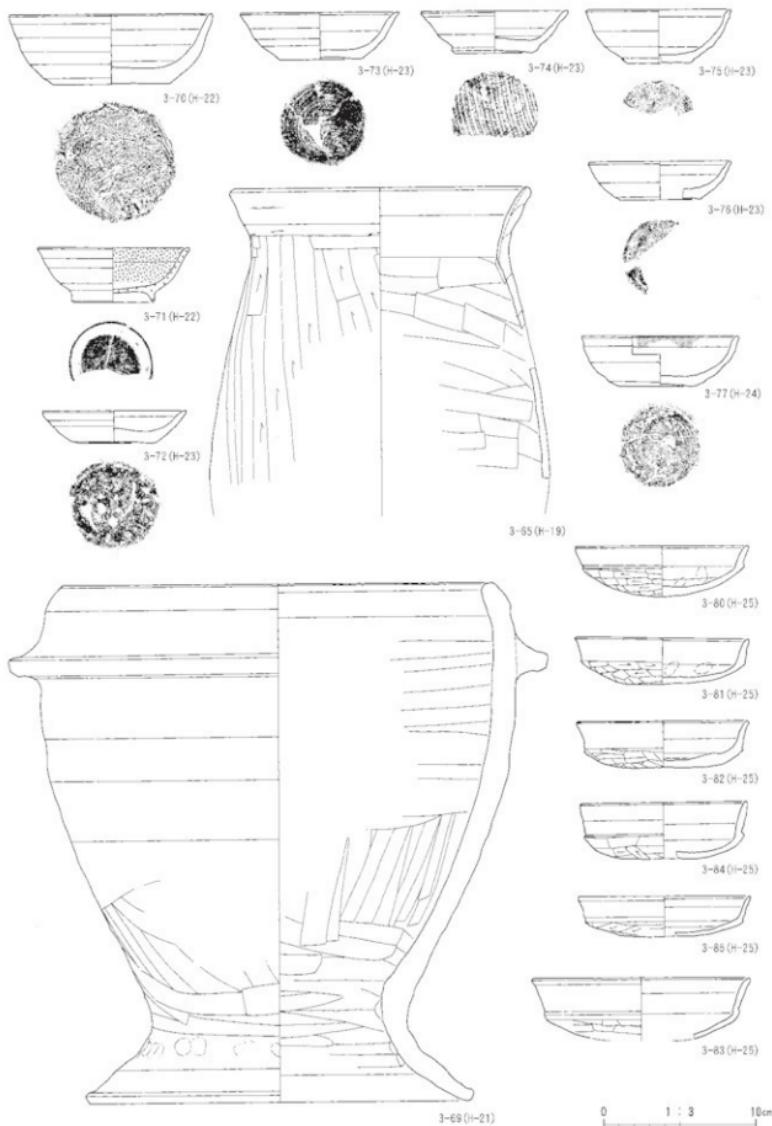


Fig. 39 元總社蒼海遺跡群 (32) 3区H-19・21~25号住居跡出土遺物

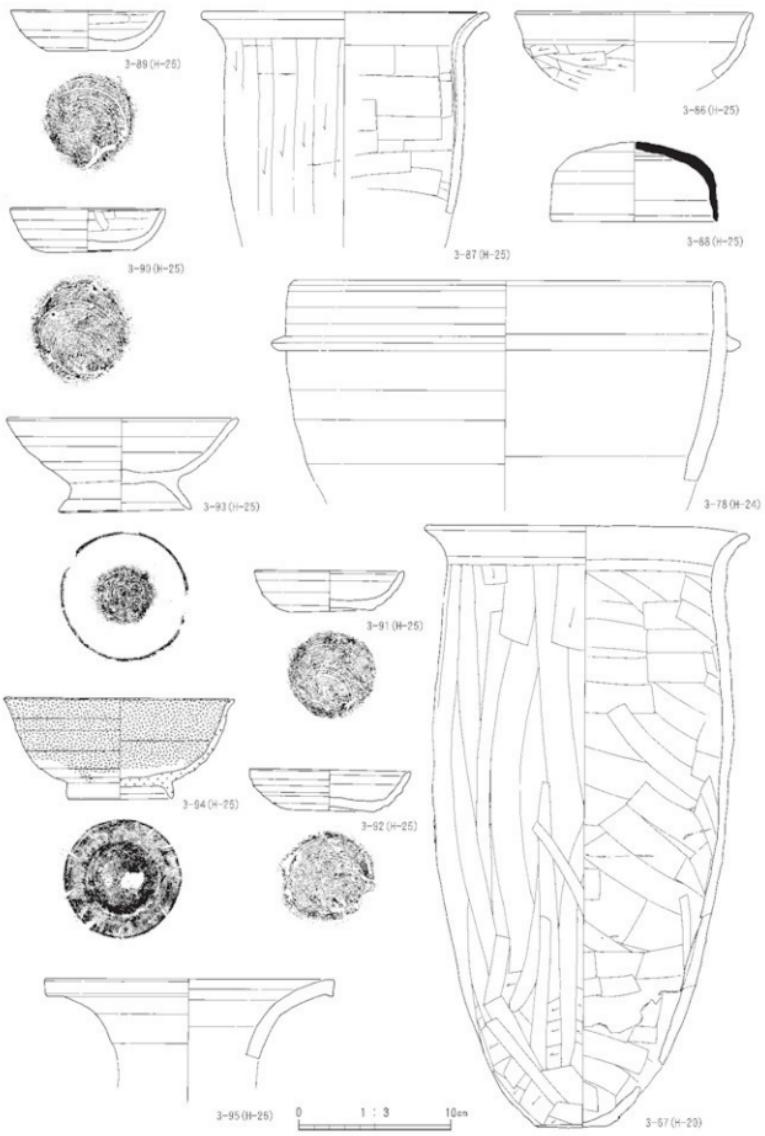


Fig. 40 元社蒼海遺跡群(32) 3区H-20・24~26号住居跡出土遺物

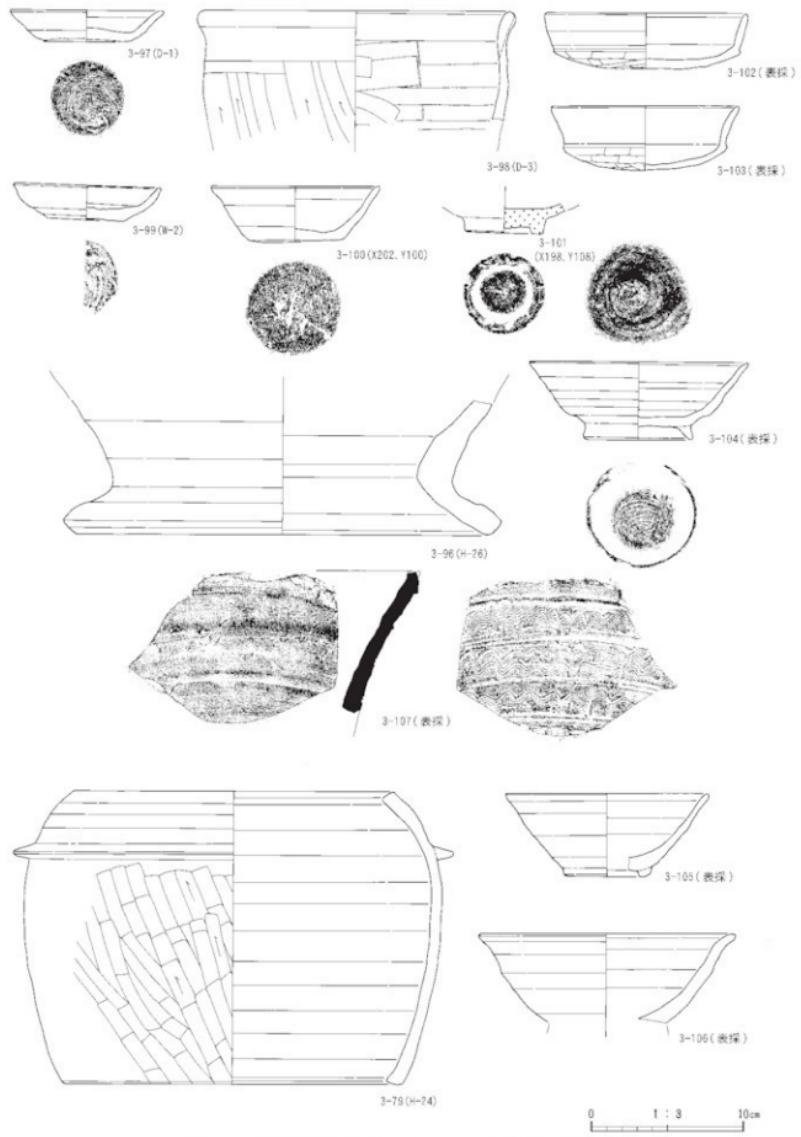


Fig. 41 元總社蒼海遺跡群 (32) 3区H-24・26号住居跡出土遺物

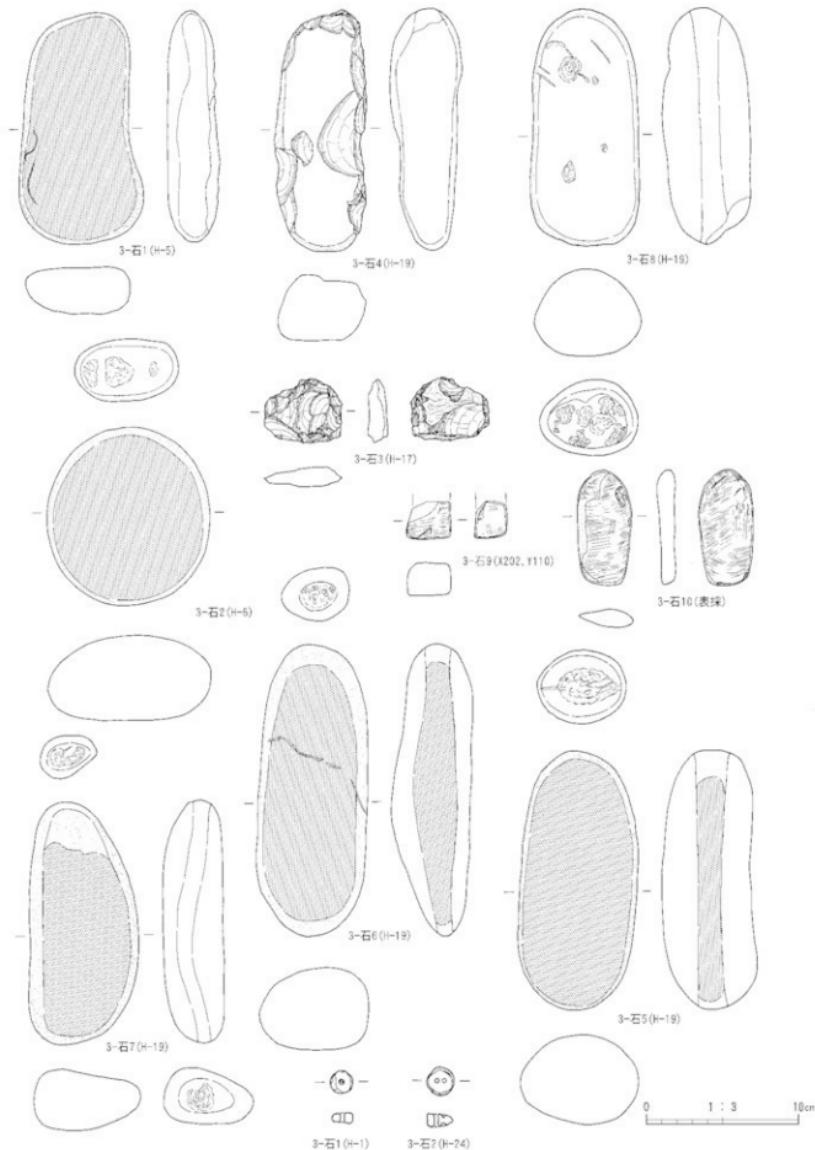


Fig. 42 元總社蒼海遺跡群(32) 3区石製品

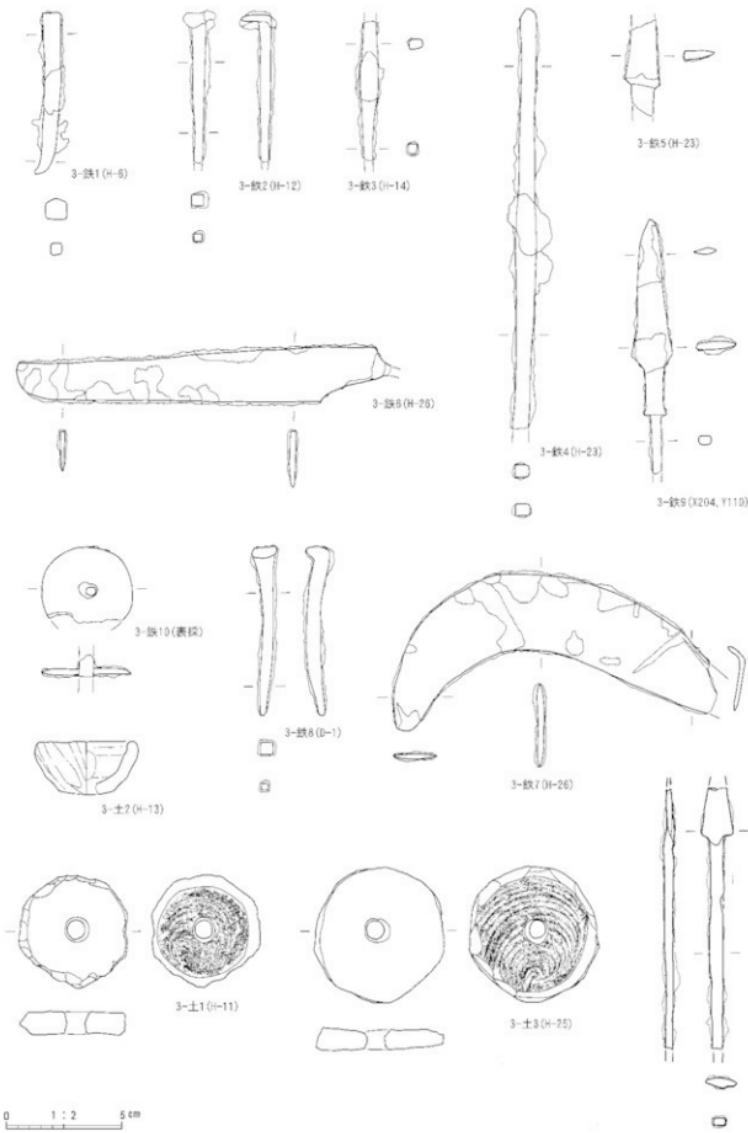


Fig. 43 元總社蒼海遺跡群 (32) 3区鉄製品・土製品

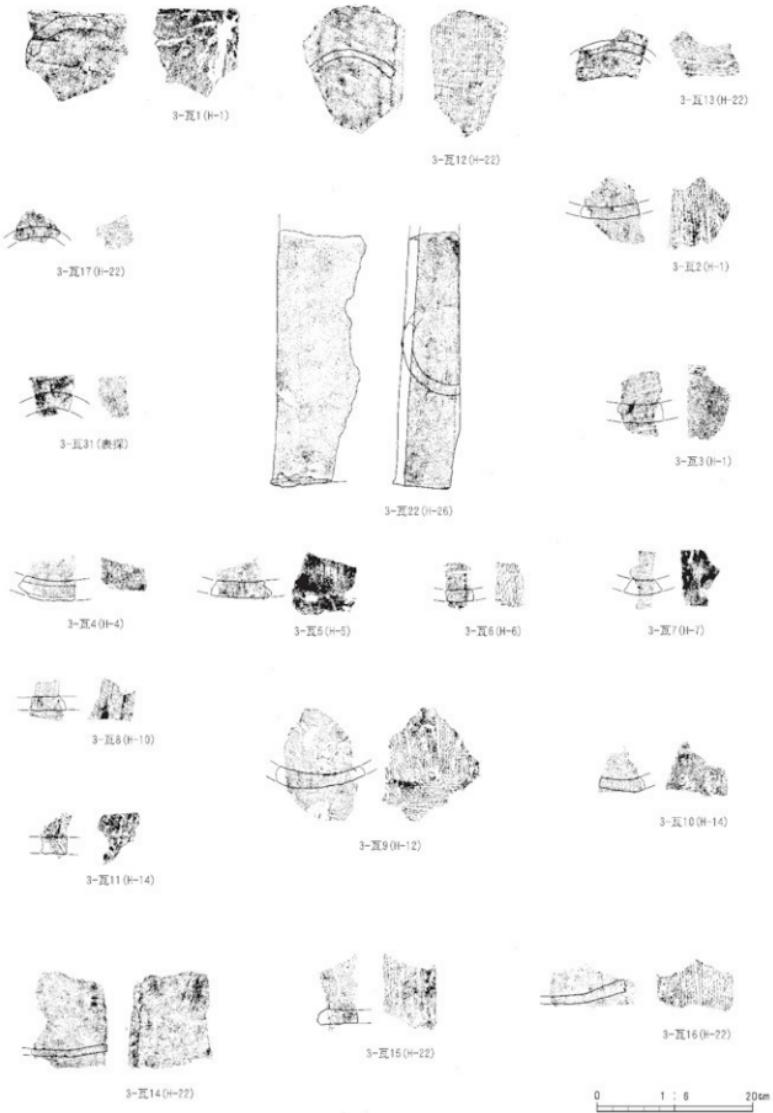


Fig. 44 元總社蒼海遺跡群 (32) 3区瓦 (1)

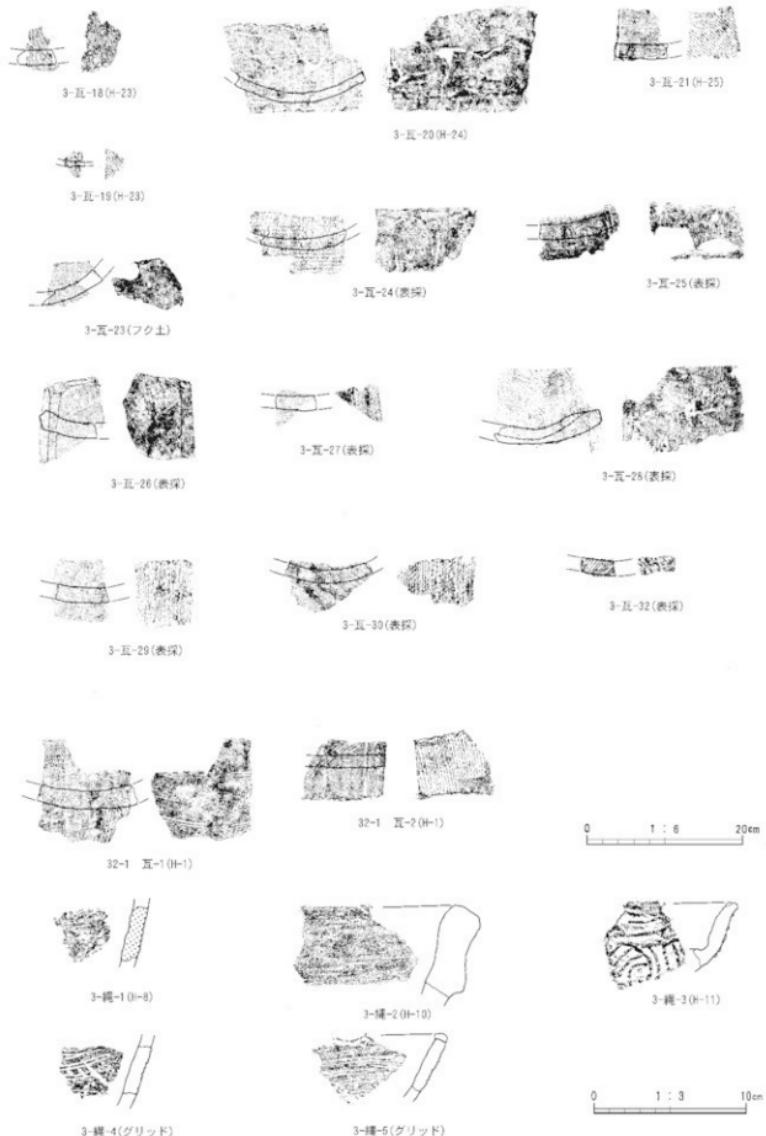


Fig. 45 元總社蒼海遺跡群 (32) 1区瓦、3区瓦 (2)、繩文

Tab. 2 住居跡等一覧表

1区

遺構名	位置	規 模 (m)		面積 (m ²)	主軸方向	窓		周溝	主な出土遺物	
		東西	南北	壁現高(cm)		位置	構築材		土師器・須恵器	その他
H-1	X135 Y114・115	0.73	0.50	36.0	0.26	N-31°-E			-	

3区

遺構名	位置	規 模 (m)		面積 (m ²)	主軸方向	窓		周溝	主な出土遺物	
		東西	南北	壁現高(cm)		位置	構築材		土師器・須恵器	その他
H-1	X294・295 Y107・108	(3.74)	(2.88)	20.5	(8.03)	N-94°-E	東壁南寄り	凝灰岩 粘土	-	窓 灰釉
H-2	X203・204 Y107・108	3.69	3.35	29.0	11.87	N-71°-E			-	窓
H-3	X203 Y107	(2.40)	(3.20)	10.5	(4.78)	N-63°-E			-	
H-4	X202・203 Y107・108	(2.20)	[4.75]	5.0	(8.92)	N-88°-E	東壁南寄り		有 小窓 环 灰釉	
H-5	X203・204 Y108・109	3.48	3.71	37.5	10.90	N-78°-E	東壁南寄り		环・甕 环・甕 灰釉	
H-6	X202・204 Y108・109	5.50	4.97	41.5	24.86	N-62°-E			有 环・甕	
H-7	X202 Y108・109	3.69	3.01	16.0	(6.60)	N-93°-E			-	环
H-8	X204・205 Y108・109	3.43	3.70	28.5	(7.25)	N-34°-W	北壁中央部	粘土	有 环・甕	
H-9	X203 Y109・110	3.42	(3.40)	5.5	(9.74)	N-95°-E			-	窓 环
H-10	X203・204 Y110	(4.36)	(1.90)	37.0	(4.68)	N-78°-E			有 窓 窓	
H-11	X200～202 Y109・110	(4.40)	4.50	24.0	(13.48)	N-81°-E	東壁中央部	凝灰岩 粘土	环・甕 环	
H-12	X202・203 Y107・108	3.29	4.18	19.5	12.60	N-94°-E	東壁南寄り	粘土	-	羽釜
H-13	X204・205 Y107・108	(1.70)	(2.54)	44.5	(1.70)	N-60°-E			-	
H-14	X200～202 Y107・108	(4.62)	(3.78)	10.0	(15.87)	N-101°-E	東壁南寄り	粘土	-	羽釜
H-15	X201・202 Y108・109	4.32	(4.11)	0.0	(11.78)	N-119°-E	西壁		环	
H-16	X204・205 Y108・109	2.98	2.84	15.0	(4.11)	N-87°-E			-	
H-17	X202・203 Y106・107	(2.92)	(5.10)	38.0	(4.51)	N-46°-E			-	
H-18	X202・203 Y105・106	2.63	(1.86)	0.0	(4.17)	N-96°-E			-	窓
H-19	X198～200 Y106・107	5.57	(5.54)	36.0	(23.56)	N-54°-E	東壁中央部	凝灰岩 粘土	有 环・甕	
H-20	X201・202 Y107・108	[4.12]	[3.10]	23.0	[10.96]	N-57°-E	東壁中央部	粘土	环・甕	
H-22	X198・199 Y106・107	3.56	4.93	14.0	(13.89)	N-102°-E	東壁中央部		-	窓 灰釉
H-23	X198・199 Y107	(3.34)	(0.96)	13.5	(1.17)	N-8°-E	北壁中央部		-	环
H-24	X198・199 Y107・108	3.68	3.41	14.5	(8.36)	N-100°-E	東南角		-	羽釜
H-25	X199～201 Y108～110	6.26	6.28	54.5	(31.72)	N-68°-E	東壁中央部	粘土	有 环・甕 盖・环	灰釉
H-26	X198・199 Y108・109	3.69	2.68	11.5	(8.80)	N-2°-E	北壁中央部		-	窓

Tab. 3 溝跡、その他 計測表

1区

遺構名	位置	長さ(m)	深さ(cm)		上幅(cm)		下幅(cm)		主軸方向	断面形	時期
			最大	最小	最大	最小	最大	最小			
A-1	X133・134 Y114・115	4.21	25.0	10.0	100.0	80.0	—	—	N-43°-E		不明

3区

遺構名	位置	長さ(m)	深さ(cm)		上幅(cm)		下幅(cm)		主軸方向	断面形	時期
			最大	最小	最大	最小	最大	最小			
W-1	X203・204 Y110	3.02	145.0	20.0	68.0	48.0	48.0	32.0	N-105°-E	U字形	中世
W-2	X197 Y105-110	16.60	78.0	41.5	105.0	60.0	95.0	50.0	N-94°-E		中世

Tab. 4 土坑・ピット 計測表

1区

遺構名	位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	出土遺物	備考
D-1	X135 Y115	117.0	48.0	28.0	楕丸方形	土11	
P-1	X134 Y115	37.0	35.0	36.0	円形		

2区

遺構名	位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	出土遺物	備考
D-1	X188 Y108	120.0	110.0	55.0	円形		
D-3	X134 Y115	220.0	210.0	20.0	方形		

3区

遺構名	位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	出土遺物	備考
D-1	X202・203 Y106	130.0	95.0	14.0	楕丸方形	土6・須1・鉄1	
D-2	X203・204 Y107	132.0	62.0	21.0	円形		
D-3	X204 Y108・109	115.0	94.0	22.0	円形	土15・須13・鏡1	
D-4	X199 Y106	123.0	97.0	37.0	方形		
D-5	X198 Y106	212.0	109.0	49.0	方形		
D-6	X202 Y105・106	171.0	68.0	23.0	梢円形		
D-7	X197 Y109	90.0	80.0	9.0	円形	土1	
P-1	X203 Y108	43.0	34.0	23.0	円形		
P-2	X203 Y108	38.0	26.0	18.0	梢円形		
P-3	X202 Y106	29.0	28.0	19.0	円形		
P-4	X203 Y108	43.0	37.0	31.0	梢円形		
P-5	X198 Y106	26.0	24.0	36.0	円形		
P-6	X198 Y106	27.0	25.0	15.0	円形		
P-7	X198 Y106	24.0	21.0	19.0	円形		
P-8	X198・199 Y106	27.0	24.0	10.0	円形		
FP-1	X204 Y109	35.0	32.0	6.0	円形		
FP-2	X204 Y109	32.0	31.0	4.0	円形	土6・須1・鏡1	

Tab. 5 鋼文・弥生土器観察表

縄文土器観察表

番号	出土遺物	遺構名	①口徑 ②底径 ③底厚	④高さ ⑤色調 ⑥道存度	⑦底板 ⑧や良 ⑨にい志場 ⑩鐵片	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
1	H-8 覆土	深鉢	①— ②(4.1) ③—	①小粒 ②や良 ③にい志場 ④鐵片	胎土中に鐵片痕あり。			黒鉢
2	H-10 覆土	深鉢	①— ②(5.9) ③—	①細粒 ②良好 ③明黄褐 ④口縁片	口縁部無文帶。			加曾利E
3	H-11 覆土	深鉢	①— ②(4.7) ③—	①細粒 ②良好 ③赤褐 ④口縁片	波状口縁波頭部。口縁に沿て横位の浮縫文を3条施文。その直下に縦位の浮縫文3条と浮縫文を凸巻型に施文。			諸磯b

4	X202 Y110	深鉢	①—②(3.8) ③—	①織物 ②良好 ③黄褐色 ④焼成片	平裁竹管による斜位の平行沈線を4条施文。	諸磲 b
5	X204 Y110	深鉢	①—②(4.9) ③—	①織物 ②良好 ③暗赤褐色 ④口縁部	波状口縁波底部。平裁竹管による斜位の平行沈線を4条施文。	諸磲 b

Tab.6 元紹社蒼海遺跡群(32) 古墳・奈良・平安時代出土土器観察表
2区

番号	出土遺構番号	器種名	①口径 ②底径	③湖高 ④底内面	⑤削土 ⑥色調 ⑦造形	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
2-1	H-1 床直	土崩器 坏	① 11.4 ② 3.5	③— ④—	①織物 ②良好 ③黄褐色 ④焼成片	口縁は短く直立気味となり、体部から底部は内側に丸底となる。口縁と体部の境は接する。口縁部の内外面は横擦で、体部外表面削り、内面擦。	1	
2-2	H-1 床直	土崩器 坏	① 10.9 ② 3.7	③— ④—	①織物 ②良好 ③橙 ④3/4	口縁は短く外傾し、体部から底部は内側に丸底となる。口縁と体部の境は屈曲部をなす。口縁部の内外面は横擦で、体部外表面削り、内面擦。	6	
2-3	H-1 覆土	土崩器 坏	① 8.9 ② 2.9	③— ④—	①織物 ②良好 ③橙 ④1/2	口縁は短く直立気味となり、体部から底部は内側に丸底となる。口縁と体部の境は屈曲部となる。口縁部の内外面は横擦で体部外表面削り、内面擦。		
2-4	H-1 覆土	土崩器 坏	①(10.2) ②(3.0)	③— ④—	①中粒 ②良好 ③橙 ④1/4	口縁は短く外反し、体部から底部にかけて腰やかに浅い丸底となる。口縁と底部の境は腰となる。口縁部の内外面は横擦で、体部外表面削り、内面擦。		
2-5	H-1 覆土	土崩器 坏	① 11.1 ② 3.4	③— ④—	①織物 ②良好 ③橙 ④4/5	口縁は短く外反し、体部から底部にかけて腰やかに浅い丸底となる。口縁と底部の境は腰となる。口縁部の内外面は横擦で、体部外表面削り、内面擦。体部から底部に黒斑。		
2-6	H-1 覆土	土崩器 坏	①(10.0) ② 3.0	③— ④—	①中粒 ②良好 ③橙 ④4/4	口縁は外傾し、体部から底部にかけて内側に丸底となる。口縁と体部の境は屈曲部となる。口縁部の内外面は横擦で、体部外表面削り、内面擦。底部に黒斑。		
2-7	H-1 覆土	土崩器 坏	①(10.4) ②(2.9)	③— ④—	①織物 ②良好 ③橙 ④4/5	口縁は外反し、体部から底部にかけて内側に丸底となる。口縁と体部の境は腰となる。口縁部の内外面は横擦で、体部外表面削り、内面擦。		
2-8	H-1 覆土	土崩器 变	①(19.4) ②(5.6)	③— ④—	①相模 ②良好 ③橙 ④1/4	口縁部はやや外反し、外表面は横擦で。胎土中に片岩を多く含む。		
2-9	H-2 須恵器 床直	土崩器 坏	① 10.0 ② 3.5	③ 6.0	①織物 ②良好 ③烧成物 ④4/5	口縁部はやや内側直線的に立ち上がる。縦椭整形で、底部は回転系切り未調整。	カマド	縦化焰焼成
2-10	H-2 H-2	須恵器 坏	①(14.8) ②(3.4)	③— ④—	①中粒 ②良好 ③浅黄橙 ④1/3	口縁部は腰やかに外反する。縦椭形成。	カマド	縦化焰焼成
2-11	H-2	須恵器 变	①(13.8) ②(3.6)	③— ④—	①中粒 ②良好 ③浅黄橙 ④1/4	口縁部は腰やかに外反し、口部部で外傾する。縦椭形成。		
2-12	H-2 床直	須恵器 高台陶	①— ②(3.5)	③— ④—	①中粒 ②良好 ③烧成物 ④5/5	体部はやや内側する。縦椭整形で、回転系切り後に高台を貼付する。	11	縦化焰焼成
2-13	H-2 床直	須恵器 脚部	①(13.8) ② 6.6	③— ④—	①織物 ②良好 ③烧成物 ④4/5	口縁部はやや内側する。縦椭整形で底部は回転系切り後に高い高台を貼付する。	5	縦化焰焼成
2-14	H-2	須恵器 脚	①[19.4] ② 6.4	③— ④—	①中粒 ②良好 ③[5.0] ④—	口縁部は切る外傾する。縦椭整形で脚部は腰やかに立ち上がり、umbo大部を脚部上位にもつ。底部内面に形成による窪状の突起がある。底部は回転系切り。		縦化焰焼成
2-15	H-2	須恵器 高台陶	①— ②(3.5)	③(8.2)	①織物 ②良好 ③烧成物 ④高台1/2	直筋回転系切り後に腰で調整。高台は長く「八」の字状となる。		縦化焰焼成
2-16	H-2 カマド	須恵器 脚部	①— ②(6.8)	③ 12.0	①中粒 ②良好 ③烧成物 ④脚部一部	高台は高く、「八」の字状に腰で開き、端部はやや広げる。縦椭整形。	1	縦化焰焼成
2-17	H-2	須恵器 羽足	①— ②(19.1)	③— ④—	①中粒 ②良好 ③赤褐色 ④[5.0]	縦椭整形。口縁から脚部にかけて内外面擦で。	2	
2-18	H-2	須恵器 羽足	①[26.4] ②(14.4)	③— ④—	①中粒 ②良好 ③赤褐色 ④[5.0]	縦椭整形。脚部内外面は成形による脚部の凹凸が見受けられる。脚部の根元に腰貼付により若干歪む。口縁部に脚部圧痕。	3,4	
2-19	H-3 覆土	土崩器 高台	①— ②(9.3)	③ 11.2	①織物一部脚柱 ②良好 ③烧成物 ④脚部のみ	脚部は長く、「八」の字状に直線的に開く。端部は水平に開く。脚部外表面は腰部以後に丁寧な擦で、内面は腰による横擦で後に窓位の調整。端部の外側面は横擦。	1	
2-20	H-5 覆土	土崩器 坏	① 11.5 ② 2.8	③— ④—	①織物 ②良好 ③明赤褐色 ④1/2	口縁部は外傾し、底部は底灰気味となる。口縁と体部の境は接する。口縁部の外表面は横擦で、体部外表面は質削り、内面は無で。全体的に歪みがあり、粗朶の感じを受ける。	9	
2-21	H-5 覆土	土崩器 變	①(19.2) ②(7.0)	③— ④—	①織物 ②良好 ③明赤褐色 ④口縁部欠	口縁部は「L」の字形に外反し、横位の稜を持つ。口縁部内外面は横擦で。脚部外表面は斜位窓付。内面は横位窓無で。		
2-22	H-5 覆土	須恵器 變	①— ②—	③— ④—	①中粒 ②良好 ③烧成物 ④脚部破片	外表面は叩き目、内面は青海波文が見られる。	4	
2-23	H-5 覆土	須恵器 變	①— ②—	③— ④—	①中粒 ②良好 ③烧成物 ④脚部破片	外表面は叩き目、内面は青海波文が見られる。	7	
2-24	H-5 床直	土崩器 脚部	①— ②(27.2)	③ 6.0	①中粒 ②良好 ③浅黄橙 ④口縁部欠	底部はやや丸く、脚部は直線的に立ち上がる。外面は窓位の窓削り、内面は窓の罫状。	1	
2-25	H-6 床直	土崩器 坏	① 11.0 ② 3.5	③— ④—	①織物 ②良好 ③明赤褐色 ④4/3	口縁部は外傾し、体部から底部は内側に丸底となる。口縁と体部の境は接する。口縁部の内外面は横擦で、体部外表面は質削り、内面は無で。	1, 2	
2-26	H-6 床直	土崩器 坏	① 11.1 ②(8.7)	③— ④—	①織物 ②良好 ③明赤褐色 ④1/3	口縁はやや外傾し、体部から底部は内側に浅い丸底となる。口縁と体部の境は接する。口縁部の内外面は横擦で。体部外表面削り、内面擦。		

2-27	H-6 覆土	土崩部 坏	① [10.4] ② 3.9 ③ —	①細胞 ②良好 ③細胞 ④/4	口縁は幾らかに内側し丸底となる。口縁と体部の境は棱となる。口縫部内外面横擦で、体部外表面削り、内面削り。
2-28	H-6 覆土	須虫部 坏	① [10.4] ② (3.5) ③ —	①細胞 ②良好 ③細白 ④/3	輪縫整形。口縁は若干やや内側する。体部から底部にかけて内側し丸底となる。口縫部回転横擦で、体部外表面削り。
2-29	H-6 覆土	須虫部 堤	① 6.7 ② 22.6 ③ —	①細胞 ②良好 ③細白 ④口縁一部欠	口縫部は側に比縫が4条配され、撲りの弱いL字型圖文が施される。斜面削りは回転斜削り。割部大径は16.0mmを測る。 ※
2-30	H-8 覆土	土崩部 裏	① — ② — ③ —	①細胞 ②良好 ③明赤褐色 ④口縫	口縫部は大さく外反し、下段は「L」の字状となる。口野部は斜位の比縫が刻まれる。内外面は丁寧な擦で施される。
2-31	H-8 覆土	土崩部 台付壁	① [17.2] ② (4.7) ③ —	①細胞 ②良好 ③黒褐色 ④口縫1/3	口縫部内外面横擦で、脚部外面は継線のハケ調整。口縫下段は「L」の字状に張り出す。
2-32	H-8 覆土	土崩部 裏	① — ② (6.6) ③ —	①細胞 ②良好 ③細白 ④口縫1/3	脚部は丸底に開き。外側は削り、内面は無で。内面に指揮圧痕が見られる。
2-33	H-8 覆土	土崩部 裏	① — ② (4.3) ③ [7.6]	①細胞 ②良好 ③ — ④脚部下位1/4	底部は平底であり、外側は擦底が見られる。脚部は大きく開きながら立ち上がる。脚部外面は丁寧な擦で施される。
2-34	H-9 土崩	土崩部 裏	① [12.8] ② (2.0) ③ —	①細胞 ②良好 ③橙 ④口縫1/2	口縫部は「S」字状であり、やや歪みをもつ。口縫部内外面は横擦で。
2-35	H-9 覆土	土崩部 台付壁	① — ② (4.8) ③ 7.5	①細胞 ②良好 ③ — ④脚部2/2	脚部はやや短く「U」の字状に開き。脚の端部は折り返しとなる。
2-36	H-9 覆土	土崩部 台付壁	① — ② (6.8) ③ 10.3	①細胞 ②良好 ③細 ④脚部3/4	脚部は「八」の字状に外反し、脚部は歪みをもつ。脚部の位が最大となる。口縫部内外面は横擦で。脚部外面はハケ調整、内面は無で。
2-37	H-9 覆土	土崩部 裏	① 11.6 ② (10.0) ③ —	①細胞 ②良好 ③明赤褐色 ④1/2	口縫部は「L」の字状に外反し、脚部は歪みをもつ。脚部の位が最大となる。口縫部内外面は横擦で。脚部外面はハケ調整、内面は無で。
2-38	H-9 覆土	土崩部 高坏	① — ② (4.6) ③ —	①細胞一部中稜 ②良好 ③赤褐色 ④脚部1/2	脚部下位は「八」の字状に緩やかに開き、脚部上位は直立する。脚部の位は脚部の心は平行する。外側は丁寧な擦で、内面は横擦の擦り。脚部内外面は無で。
2-39	H-11 床直	カツラク 床	① 9.4 ② 3.1 ③ 3.9	①中稜 ②良好 ③浅黄褐 ④ほぼ完形	輪縫整形。口縫から体部は回転横擦で。底部は回転糸切り。
2-40	H-11 覆土	須虫部 坏	① 10.4 ② 3.3 ③ 5.5	①細胞 ②良好 ③暗赤 ④完形	輪縫整形。体部は緩やかに外反し、口縫部は外削る。底部は回転糸切り。やや粗雑な感じを受ける。
2-41	H-11 覆土	土崩部 裏	① [10.0] ② (6.9) ③ —	①細胞 ②良好 ③明赤褐 ④1/3	口縫は短くやや内側する。口縫と体部の境が最大位となる。体部上から底部にかけてやや不まぶす。口縫部内外面は横擦で、体部外面は削り前削り。内面は横擦で。
2-42	H-11 覆土	土崩部 裏	① — ② (6.1) ③ [7.0]	①中稜 ②良好 ③褐色 ④脚部～底部	底部は平らで、脚部は緩やかに外反する。脚部外面は削り前削り。内面は横擦で。
2-43	H-12 覆土	須虫部 羽垂	① [39.2] ② (18.2) ③ —	①細胞 ②良好 ③細 ④脚部1/3	輪縫整形。口縫部内外面横擦で。輪縫整形後、脚部外面は削り前削り、内面は横擦で。脚下側は脚部との接合が強。胎土中にH-T-F線が含まれる。
2-44	H-12 床直	土崩部 杯	① [12.1] ② (3.8) ③ —	①細胞 ②良好 ③橙 ④1/3	口縫部は短く外反し、体部～底部は内側し丸底となる。口縫と体部の境は棱をなす。口縫部は若干歪みをもつ。口縫部内外面は横擦で、体部外面は内削り。
2-45	H-12 床直	土崩部 杯	① 11.5 ② 2.8 ③ —	①細胞一部中稜 ②良好 ③明赤褐色 ④完形	口縫部は短く外反し、体部～底部は内側し丸底となる。口縫と体部の境は棱をなす。口縫部は若干歪みをもつ。口縫部内外面は横擦で、体部外面は内削り。
2-46	H-14 土崩	土崩部 坏	① [11.8] ② 3.2 ③ —	①細胞 ②良好 ③細 ④2/3	口縫は短く直立し、体部から底部にかけて緩やかに内側し、深い丸底となる。口縫部内外面は横擦で、体部外表面削り、内面は横擦で。体部外面削り、内面は無で。
2-47	H-14 土崩	土崩部 坏	① 11.2 ② 3.1 ③ —	①細胞 ②良好 ③橙 ④完形	口縫は短くやや外反する。体部から底部にかけて緩やかに内側し、深い丸底となる。口縫部内外面は横擦で、体部外表面削り、内面は横擦で。内面に「十」字の刻み。口縫から底部にかけて黒斑。
2-48	H-14 覆土	土崩部 坏	① 10.9 ② (3.4) ③ —	①細胞 ②良好 ③細 ④1/2	口縫は短くやや内側する。体部から底部にかけて内側し丸底となる。口縫と体部の境は棱をなす。体部外表面削り。内面は無で。体部から底部にかけて黒斑。
2-49	H-14 覆土	須虫部 裏	① — ② — ③ —	①細胞 ②良好 ③細白 ④脚部破片	外側は叩き印で、内面には青苔波文が見られる。
2-50	H-15 床直	土崩部 坏	① [17.2] ② (4.5) ③ —	①細胞 ②良好 ③細 ④1/3	口縫は短く直立し内側する。体部から底部にかけて緩やかに内側し、深い丸底となる。口縫部内外面は横擦で、体部外表面削り、内面は横擦で。
2-51	T-1	土崩部 坏	① 13.5 ② (4.8) ③ —	①細胞 ②良好 ③細 ④1/3	口縫は外側し口縫部できるに外反する。体部から底部にかけて内側し丸底となる。口縫と体部の境は棱をなす。口縫部横擦で、体部外表面削り、内面は無で。
2-52	D-2 覆土	土崩部 坏	① [12.3] ② (4.9) ③ —	①中稜 ②良好 ③細白 ④1/2	口縫は外側し、体部から底部にかけて内側し丸底となる。口縫と体部の境は棱をなす。口縫部横擦で、体部外表面削り、内面は無で。体部の片側に黒斑。
2-53	D-2 覆土	土崩部 坏	① [11.3] ② (3.3) ③ —	①中稜 ②良好 ③細白 ④1/4	口縫は外側し、体部から底部にかけて内側し丸底となる。口縫と体部の境は棱をなす。口縫部横擦で、体部外表面削り、内面は無で。
2-54	D-2 覆土	土崩部 坏	① [11.2] ② 3.1 ③ —	①細胞 ②良好 ③細 ④1/2	口縫は短く直立気味となり、体部から底部は内側し丸底となる。口縫と体部の境は横擦で。口縫部内外面横擦で、体部外表面削り、内面は無で。
2-55	D-2 覆土	土崩部 坏	① [11.0] ② 3.8 ③ —	①細胞 ②良好 ③細 ④1/2	口縫は短く直立気味となり、体部から底部は内側し丸底となる。口縫部内外面は横擦で、体部外表面削り、内面は無で。

2-56	D-2 覆土	土崩器 坏	① 13.0 ② 4.4 ③ —	①中粒 ②良好 ③粒 ④完形	口縁部は短く内屈気味となり、底部から体部は丸底となる。口縁と体部の境は横曲面をなす。口縁部内外面は横曲で、体部外表面削り、内面削る。体部外周にビビ。	
2-57	D-2 覆土	土崩器 坏	①[9.2]②(2.9) ③ —	①細粒 ②良好 ③粒 ④2/3	口縁部は短く直立し、体部から底部にかけて内側に丸底となる。口縁と体部の境は屈曲部となる。口縁部内外面は横曲で、体部外表面削り、内面削る。	
2-58	D-2 覆土	土崩器 坏	① 10.9 ② 3.2 ③ —	①細粒 ②良好 ③粒 ④完形	口縁部は短く直立し、体部から底部にかけて内側に丸底となる。口縁と体部の境は屈曲部となる。口縁部内外面は横曲で、体部外表面削り、内面削る。	
2-59	D-2 覆土	土崩器 坏	①[10.6]② 3.5 ③ —	①細粒 ②良好 ③粒 ④1/3	口縁部は短く直立し、体部から底部にかけて内側に丸底となる。口縁と体部の境は屈曲部となる。口縁部内外面は横曲で、体部外表面削り、内面削る。	
2-60	D-2 覆土	土崩器 坏	①[*8.7]② 3.0 ③ —	①細粒 ②良好 ③粒 ④1/3	口縁部は短く直立し、体部から底部にかけて内側に丸底となる。口縁と体部の境は屈曲部となる。口縁部内外面は横曲で、体部外表面削り、内面削る。	
2-61	D-2 覆土	土崩器 坏	①[10.8]② 4.0 ③ —	①細粒 ②良好 ③粒 ④1/2	口縁部は短く直立し、体部から底部にかけて内側に丸底となる。口縁と体部の境は屈曲部となる。口縁部内外面は横曲で、体部外表面削り、内面削る。	
2-62	D-2 覆土	土崩器 坏	①[13.6]② 4.3 ③ —	①細粒 ②良好 ③粒 ④1/2	口縁部は短く直立し、体部から底部にかけて内側に丸底となる。口縁と体部の境は屈曲部となる。口縁部内外面は横曲で、体部外表面削り、内面削る。体部外周に黒斑。	
2-63	D-2 覆土	土崩器 坏	① 10.5 ② 3.1 ③ —	①細粒 ②良好 ③粒 ④完形	口縁部は短く直立気味となり、体部から底部は内側に丸底となる。口縁と体部の境は屈曲部となる。口縁部外面は横曲でによりやや段をもつ。体部外表面削り、内面は無。体部から底部外周にかけて黒斑。	
2-64	D-2 覆土	土崩器 坏	① 12.1 ② 5.0 ③ —	①中粒 ②良好 ③粒 ④口輪一部欠損	口縁部は短く直立気味となり、体部から底部は内側に丸底となる。口縁と体部の境は屈曲部となる。口縁部外面は横曲で、体部外表面削り、内面削る。	
2-65	D-2 覆土	土崩器 坏	①[14.3]②(4.6) ③ —	①中粒 ②良好 ③粒 ④1/4	口縁部は短く直立し、体部から底部にかけて内側に丸底となる。口縁部内外面は横曲で、体部外表面削り、内面削る。	
2-66	D-2 覆土	土崩器 坏	①[9.7]② 3.2 ③ —	①中粒 ②良好 ③粒 ④1/3	口縁部から底部にかけて内側に丸底となる。口縁部内外面は横曲で、体部外表面削り、内面削る。	
2-67	D-2 覆土	土崩器 坏	①[15.2]② 5.2 ③ —	①細粒一部中粒 ②良好 ③粒 ④1/2	口縁部は短く直立気味となり、体部から底部は内側に丸底となる。口縁と体部の境は屈曲部となる。口縁部内外面は横曲で、体部外表面削り、内面削る。	
2-68	D-2 覆土	土崩器 坏	①[14.7]②(4.7) ③ —	①中粒 ②良好 ③粒 ④1/3	口縁部は短く直立気味となり、体部から底部は内側に丸底となる。口縁部外面は横曲で、体部外表面削り、内面削る。	
2-69	D-2 覆土	土崩器 坏	① 16.8 ② 6.2 ③ —	①細粒 ②良好 ③粒 ④口輪一部欠損	口縁部は短く直立気味となり、体部から底部は緩やかに内側に丸底となる。口縁部内外面は横曲で、体部外表面削り、内面削る。底部部は肥厚する。	7
2-70	D-2 覆土	土崩器 坏	①[16.2]② 5.9 ③ —	①中粒 ②良好 ③粒 ④1/2	口縁部は短く直立気味となり、体部から底部は内側に丸底となる。口縁部外面は横曲で、体部外表面削り、内面は無。底部部は肥厚する。	
D-2 覆土	土崩器 坏	①[10.6]②(3.6) ③ 6.3	①細粒 ②良好 ③粒 ④2/5	口縁部は短く外傾し、体部から底部は内側に丸底となる。口縁と体部の境は横をなす。口縁部内外面は横曲で、体部外表面削り、内面横削る。		
2-71	D-2 覆土	須恵器 蓋	①[11.9]②(4.3) ③ —	①細粒 ②良好 ③灰白 ④1/4	横幅整形。天井部外輪削り。端部に2条の沈線をもつ	
2-72	D-2 覆土	須恵器 蓋	①[11.7]② 3.4 ③ —	①細粒 ②良好 ③灰白 ④2/2	口縁部：やや外反、外表面横削。底部：丸みを帯びた平底、内面は無で、外周削り。	6
2-73	D-2 覆土	須恵器 坏	① 10.8 ② 3.9 ③ —	①中粒 ②良好 ③灰白 ④完形	横幅整形。口縁部は短くやや内側する。体部から底部にかけて内側に丸底となる。口縁部外輪削り、底部外輪削り。	
2-74	D-2 覆土	須恵器 坏	① 10.3 ② 3.5 ③ —	①中粒 ②良好 ③灰白 ④3/2	横幅整形。口縁部は短くやや内側する。体部から底部にかけて内側に丸底となる。口縁部外輪削り、底部外輪削り。	
2-75	D-2 覆土	土崩器 壞	①[20.2]②(6.9) ③ —	①中粒 ②良好 ③灰白 ④完形	口縁部は「く」の字状に外反する。口縁部横削で、剝離は横方向の剥削。	1
2-76	D-2 覆土	土崩器 壞	①[13.2]②(5.9) ③ —	①中粒 ②良好 ③褐色 ④1/2	口縁部は「く」の字状に外反する。最大径を剝離中位にもつ。口縁部外表面削り、剝離外周に斜位削り、内面は無。	
2-77	D-2 覆土	須恵器 壞	① — ②(13.7) ③ 7.7	①細粒 ②良好 ③灰白 ④口縁部欠	横幅整形。最大径を剝離上位にもつ。底部はやや厚みがあり、叩き目痕が見られる。剝離下位に剝離は緩やかに立ち上がり、剝離から内面は無し、底部へと至る。	9
2-78	D-2 覆土	須恵器 壞	① 23.9 ② 19.8 ③ —	①細粒 ②良好 ③灰白 ④完形	口縁部は「く」の字状に外傾し、剝離との境は棱となる。剝離は丸みをもって立ち上がる。口縁部には横位置次第に削られが、無で調査時に口縁部には残らない。剝離外周は叩き調査後に削削りであるが、丁寧な削りにより痕跡が失われている。内面は背面波文が剝離に残る。	
2-79	D-2 覆土	須恵器 大型	① — ② — ③ —	①細粒 ②良好 ③灰白 ④完形 オリーブ ④剝離片	剝離上位で「く」の字状に開く剝離部へ至る。外縁は叩き目、内面は背面波文が見られる。釉薬の垂れ具合から、口縁部を下とした焼成が考えられる。	3
2-80	D-2 覆土	須恵器 壺	① 7.5 ② 22.0 ③ —	①細粒 ②良好 ③灰白 ④剝離一部欠	口縁部は横位沈線が配される。剝離外周は削削り、剝離最大径は15.7 cmを測る。	
2-81	O-1 覆土	土崩器 付壁	① 13.5 ②(4.8) ③ —	①中粒 ②良好 ③褐色 ④口縁のみ	口縁部外面は横曲で、剝離外周は縦位のハケメ調整。	
2-82	O-1 覆土	土崩器 付壁	③[7.0]	③粒 ④脚芯のみ	脚芯部はやや上位底気味に「八」の字状に広がり、剝離下部は外反する。剝離外周は削削り、内面横削。	

2-83	O-1 覆土	土崩部 坏	①[12.6]②(3.8) ③—	①細粒 ②良好 ③にい・穀物 ④1/5	口縁は短く直立気味となり、体部から底部はやや内側し丸底となる。口縁と体部の境は稜をなす。口縁部内外面は横擦で、体部外側削り、内面は無し。		
2-84	O-1 覆土	土崩部 坏	①[13.8]②(5.0) ③—	①細粒 ②良好 ③穀 ④1/2	口縁はやや縁のみ外反する。体部から底部にかけて縦やかに内側し丸底となる。口縁と体部の境は稜となる。口縁部内外面横擦で、体部外側削り、内面無し。		

3区

番号	出土遺 構造	器種名	①口径 ②高さ	③底 ④色調 ⑤道存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備考
3-84	H-25 覆土	土崩部 坏	①[10.7]② 3.6 ③—	①細粒 ②良好 ③穀 ④1/3	底部から体部偏平。口縁部変換点に棱を形成し、短く直立する。口縁部内外面横なで、外側削り。		
3-85	H-25 覆土	土崩部 坏	①[11.0]②(2.6) ③—	①細粒 ②良好 ③穀 ④1/4	底部から体部偏平。口縁部変換点に棱を形成し、短く外傾する。口縁部内外面横なで、外側削り。		
3-86	H-25 覆土	土崩部 坏	①[15.2]②(4.3) ③—	①細粒 ②良好 ③穀 ④破片	底部から体部偏球形と推定される。口縁部変換点に棱を形成し、外側して開く。口縁部：内外面横擦で。体部：内面撫で、外側削り。底部：火鉄。		
3-87	H-25 覆土	土崩部 壞	①[18.5]②(12.8) ③—	①細粒 ②良好 ③穀 ④破片	口縁部：短く外反して大きく開く。縦最大径。内外面横なで。船上部：内面撫で、外側削り。脚部から底部：火鉄。	28・29	
3-88	H-25 覆土	須恵部 蓋	①[10.6]② 5.1 ③—	①細粒 ②良好 ③穀 ④6	横擦整形。天井部から縦やかに内湾し。口縁部は垂直。口縁・体部：内外面横擦で、底・縁・脚：なし。		
3-89	H-25 覆土	須恵部 坏	① 10.0 ② 2.6 ③ 5.2	①細粒 ②良好 ③にい・穀物 ④充形	横擦整形。小型で内部の器物。口縁・体部：短く外傾する。内外面横擦で。底部：内面横擦で、外側削り赤きり。	2	融化焰
3-90	H-25 覆土	須恵部 坏	① 10.0 ② 2.9 ③ 5.5	①細粒 ②良好 ③にい・穀物 ④充形	横擦整形。小型で内部の器物。口縁・体部：短く外傾する。内外面横擦で。底部：内面横擦で、外側削り赤きり。	3	融化焰
3-91	H-25 覆土	須恵部 坏	① 9.6 ② 3.2 ③ 5.5	①細粒 ②良好 ③にい・穀 ④充形	横擦整形。小型で内部の器物。口縁・体部：短く外傾する。内外面横擦で。底部：内面上げて、内面横擦で、外側削り赤きり。	1	融化焰
3-92	H-25 覆土	須恵部 坏	① 10.3 ② 2.7 ③—	①細粒 ②良好 ③にい・穀物 ④充形	横擦整形。小型で内部の器物。口縁・体部：短く外傾する。内外面横擦で。底部：内面上げて、内面横擦で、外側削り赤きり。	14	融化焰
3-93	H-25 覆土	須恵部 高台橢	① 14.9 ② 6.0 ③ 8.5	①細粒 ②良好 ③にい・穀物 ④7/8	横擦整形。底部から口縁部：縦やかに外傾する。内外面横擦で。底部：内面横擦で、外側削り赤きり。高台を付けた後回転窪で調整。	11・12	融化焰
3-94	H-25 覆土	灰釉 高台橢	① 14.7 ② 6.5 ③ 6.8	①細粒 ②良好 ③灰白 ④充形	横擦整形。口縁部：短く外反する。内外面横擦で。体部：内外面横擦なで。底部：内面撫で、外側削り赤きり。高台取り付け後回転窪で調整。掛け脚。	19	
3-95	H-26 床底	須恵部 裏	① [2.0]②(6.4) ③—	①細粒 ②良好 ③穀 ④破片	横擦整形。口縁部：直立から外反し、肩部や内厚。内外面横擦で。底部：火鉄；火鉄；火鉄。	3	融化焰
3-96	H-26 床底	須恵部 裏	① [2.7]②(4.4) ③—	①細粒 ②良好 ③にい・穀物 ④破片	横擦整形。内厚の器物。口縁→脚部：火鉄。脚部：水平方向に大きく外反。内面横擦で。	4	融化焰
3-97	D-1 覆土	須恵部 坏	① 9.8 ② 2.0 ③ 5.6	①中粒 ②良好 ③にい・穀 ④1/3	横擦整形。小型で内部の器物。口縁・体部：短く外傾する。内外面横擦で。底部：内面横擦で、外側削り赤きり。	3	融化焰
3-98	D-3 覆土	土崩部 裏	①[28.4]②(7.6) ③—	①細粒 ②良好 ③穀 ④破片	口縁部：短く外反する。内外面横擦で。船上部：内面撫で、外側削りの痕削り。脚部から底部：火鉄；火鉄。		
3-99	W-2 覆土	須恵部 坏	① [9.4]② 2.2 ③—	①細粒 ②良好 ③灰黄褐 ④1/4	横擦整形。小型で内部の器物。口縁・体部：短く外傾する。内外面横擦で。底部：内面横擦で、外側削り赤きり。		融化焰
3-100	グリッド 覆土	須恵部 坏	① 10.8 ② 3.6 ③ 6.0	①中粒 ②良好 ③灰黄褐 ④7/8	横擦整形。底部から縦やかに外傾する。口縁・体部：内外面横擦無で。底部：平底。内面横擦。	X202, Y110	
3-101	グリッド 覆土	灰釉 高台橢	① [2.0]②(1.5) ③ 35.0	①細粒 ②良好 ③灰オーブ ④灰	横擦整形。口縁部から体部：火鉄。底部：内面横擦なで、外側高台を取り付けた後横擦で調整。掛け脚。	X198, Y108	
3-102	表探 覆土	土崩部 坏	①[13.0]② 3.6 ③—	①細粒 ②良好 ③穀 ④1/3	底部から体部偏平。口縁部変換点に棱を形成し、やや外傾する。口縁部内外面横擦なで。底部：内面撫で、外側削り。		
3-103	表探 覆土	土崩部 坏	①—	①細粒 ②良好 ③穀 ④1/3	底部から体部偏平。口縁部変換点に棱を形成し、やや外傾する。口縁部内外面横擦なで。底部：内面撫で、外側削り。		
3-104	表探 覆土	須恵部 高台橢	①[14.0]② 5.0 ③ 7.0	①中粒 ②良好 ③灰黄褐 ④1/3	横擦整形。底部から口縁部：縦やかに外傾する。内外面横擦で。底部：3段の棱を形成する。底部：内面横擦で、外側回転窪あり、高台を付けた後回転窪で調整。		融化焰
3-105	表探 覆土	須恵部 高台橢	①[13.0]② 5.3 ③(5.6)	①中粒 ②良好 ③灰黄 ④1/3	横擦整形。体部から口縁部：縦やかに外傾する。内外面横擦で。底部：高台を付けた後回転窪で調整。		融化焰
3-106	表探 覆土	須恵部 高台橢	①[16.4]②(5.6) ③—	①中粒 ②良好 ③灰黄褐 ④1/4	横擦整形。体部から口縁部：縦やかに外傾し、肩部で外反する。内外面横擦で。体部上面にわざな枝を形成する。底部：高台を付けた跡が残るが高台欠損。		融化焰
3-107	表探 覆土	須恵部 大甕	① — ② — ③—	①細粒 ②良好 ③灰 ④破片	横擦整形。口縁部：ほぼ直立。内面横擦で、外側横擦で後口縁部から、3条1筋の波状文、柳条きの繰り返し。3条1筋が重なり6条になる場所もあり。脚部以下：火鉄。		

Tab.7 石器・石製品 観察表

3区

番号	出土遺構／層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重さ	石材	遺存度	登録番号	備考
3-石1	H-5／覆土	磨石	14.8	7.9	3.3	600.0	安山岩	完形	65	
3-石2	H-6／覆土	たたき石	11.4	10.3	5.5	960.0	安山岩	完形	1	
3-石3	H-17／覆土	石斧	(4.2)	4.9	1.2	27.2	砂岩	完形		
3-石4	H-19／床直	蓆編石	16.0	6.5	4.3	620.0	砂岩	完形	5	
3-石5	H-19／床直	蓆編石	16.0	7.5	6.1	1100.0	安山岩	完形	9	
3-石6	H-19／床直	蓆編石	18.0	7.0	4.8	1050.0	安山岩	完形	12	
3-石7	H-19／床直	蓆編石	15.5	7.0	3.7	670.0	安山岩	完形	13	
3-石8	H-19／床直	蓆編石	15.0	7.0	5.7	950.0	安山岩	完形	16	
3-石9	グリッド／覆土	砥石	2.4	2.8	2.1	19.8	凝灰岩	ほぼ完形		X202, Y110
3-石10	表探／覆土	鍬	7.5	3.5	1.2	51.0	綠岩類	完形		

Tab.8 鉄器・鉄製品 観察表

3区

番号	出土遺構／層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重さ	遺存度	登録番号	備考
3-鉄1	H-6／覆土	釘	6.9	0.8	0.8	15.8	ほぼ完形		
3-鉄2	H-12／覆土	釘	6.5	1.4	1.2	9.3	ほぼ完形		
3-鉄3	H-14／床直	刀子	6.0	0.8	0.5	8.9	約1/2	14	
3-鉄4	H-23／覆土	筋鍛貝	18.0	0.9	0.9	48.6	ほぼ完形		
3-鉄5	H-23／覆土	刀子	4.1	1.5	0.4	3.7	約1/2		
3-鉄6	H-26／覆土	刀	16.1	2.5	0.3	43.0	ほぼ完形		
3-鉄7	H-26／覆土	鍔	13.0	3.4	0.3	55.0	ほぼ完形		
3-鉄8	D-1／覆土	釘	8.2	1.0	1.2	12.8	ほぼ完形		
3-鉄9	グリッド／覆土	鉄族	10.9	1.7	0.4	17.0	ほぼ完形		X204, Y110
3-鉄10	表探／覆土	筋鍛車	3.2	3.9	0.8	6.4	円盤部		

Tab.9 土製品 観察表

3区

番号	出土遺構／層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	遺存度	登録番号	備考
3-土1	H-11／覆土	紡錘車	4.6	4.8	1.0	円盤部		須恵器底面転用
3-土2	H-13／覆土	手程	[4.2]	(2.3)	—	約1/3		
3-土3	H-25／覆土	紡錘車	5.6	5.8	1.0	円盤部		須恵器底面転用

Tab.10 元続社蒼海遺跡群(32) 瓦 観察表

1区

番号	出土遺構 調査区分	器種名	①長S ②厚S	③地土 ④焼成 ⑤色調 ⑥遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
1-瓦1	H-1 覆土	平瓦	①(13.4) ② 2.6	③細粒 ④焼成 ⑤灰黄 ⑥破片	一枚作り。凹面：布目あり。縫隙1条。凸面：縫隙で調整。		
1-瓦2	H-1 覆土	平瓦	①(9.4) ② 1.6	③細粒 ④焼成 ⑤灰黄 ⑥破片	一枚作り。凹面：布目あり。凸面：縫目文圧痕あり。側面：面取り1回。		

3区

番号	出土遺構 調査区分	器種名	①長S ②厚S	③地土 ④焼成 ⑤色調 ⑥遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
3-瓦1	H-1 床直	丸瓦	①(12.0) ② 1.8	③細粒 ④焼成 ⑤灰黄 ⑥破片	行基式。凹面：布目あり。凸面：撫で。側面：面取り2回。		
3-瓦2	H-1 覆土	平瓦	①(10.4) ② 1.6	③細粒 ④焼成 ⑤灰黄 ⑥破片	一枚作り。凹面：布目あり。凸面：縫目文圧痕あり。		
3-瓦3	H-1 覆土	平瓦	①(10.0) ② 2.4	③細粒 ④焼成 ⑤灰黄 ⑥破片	一枚作り。凹面：布目あり。凸面：撫で。文字の一部があるが、判読できず。		
3-瓦4	H-4 覆土	平瓦	①(7.5) ② 2.6	③細粒 ④焼成 ⑤灰黄 ⑥破片	一枚作り。凹面：布目あり。凸面：撫で。		
3-瓦5	H-5 覆土	平瓦	①(8.4) ② 2.2	③細粒 ④焼成 ⑤灰黄 ⑥破片	一枚作り。凹面：布目あり。凸面：撫で。		

3-瓦6	H-6 床直	平瓦	①(6,1) ②1,7 ③灰 ④破片	①繩粒 ②良好 ③灰 ④破片	一枚作り。凹面：布目あり。一条の溝あり。凸面：縄目文庄痕あり。	
3-瓦7	H-7 覆土	平瓦	①(7,8) ②1,9 ③灰 ④破片	①繩粒 ②良好 ③灰 ④破片	一枚作り。凹面：布目あり。凸面：撫で。文字の一部があるが判読できず。	
3-瓦8	H-10 覆土	平瓦	①(5,3) ②1,9 ③灰 ④破片	①繩粒 ②良好 ③灰 ④破片	一枚作り。凹面：布目あり。凸面：縄目文庄痕あり。	
3-瓦9	H-12 床直	平瓦	①(15,5) ②2,2 ③灰 ④破片	①繩粒 ②良好 ③灰 ④破片	一枚作り。凹面：布目あり。凸面：縦位と横位の縄目文庄痕あり。	
3-瓦10	H-14 床直	平瓦	①(6,5) ②1,7 ③灰 ④破片	①繩粒 ②良好 ③灰 ④破片	一枚作り。凹面：布目あり。凸面：撫で。側面：面取り1回。	
3-瓦11	H-14 カツド	平瓦	①(7,0) ②2,3 ③灰 ④破片	①繩粒 ②良好 ③灰 ④破片	一枚作り。凹面：布目後調整。凸面：混撫で調整。電構架材に使用。	
3-瓦12	H-22 床直	丸瓦	①(17,5) ②1,1 ③灰 ④破片	①繩粒 ②良好 ③灰 ④破片	行基式。凹面：布目あり。凸面：混撫で調整。側面：面取り1回。	
3-瓦13	H-22 床直	丸瓦	①(7,2) ②1,4 ③灰 ④破片	①繩粒 ②良好 ③灰 ④破片	行基式。凹面：布目に布筒痕あり。凸面：混撫で調整。	
3-瓦14	H-22 床直	平瓦	①(13,4) ②1,1 ③灰 ④破片	①繩粒 ②良好 ③灰 ④破片	一枚作り。凹面：布目あり。凸面：縄目文庄痕あり。側面：面取り1回。	
3-瓦15	H-22 覆土	平瓦	①(10,3) ②1,8 ③灰 ④破片	①繩粒 ②良好 ③灰 ④破片	一枚作り。凹面：布目あり。凸面：縄目文庄痕あり。側面：面取り3回。	
3-瓦16	H-22 床直	平瓦	①(9,5) ②1,2 ③灰 ④破片	①繩粒 ②良好 ③灰 ④破片	一枚作り。凹面：布目あり。凸面：縄目文庄痕あり。側面：面取り1回。	
3-瓦17	H-22 床直	丸瓦	①(4,6) ②1,4 ③灰 ④破片	①繩粒 ②良好 ③灰 ④破片	凹面：布目あり。凸面：撫で。	
3-瓦18	H-23 覆土	平瓦	①(6,4) ②2,0 ③灰 ④破片	①繩粒 ②良好 ③灰 ④破片	一枚作り。凹面：布目あり。凸面：撫で。文字の一部があるが、判読できず。	
3-瓦19	H-23 覆土	平瓦	①(3,9) ②0,8 ③灰 ④破片	①繩粒 ②良好 ③灰 ④破片	一枚作り。凹面：布目あり。凸面：撫で。	
3-瓦20	H-24 床直	平瓦	①(12,6) ②1,4 ③灰 ④破片	①繩粒 ②良好 ③灰 ④破片	一枚作り。凹面：布目あり。凸面：撫で。側面：面取り1回。	
3-瓦21	H-25 覆土	平瓦	①(6,5) ②1,9 ③灰 ④破片	①繩粒 ②良好 ③灰 ④破片	一枚作り。凹面：布目あり。凸面：縄目文庄痕あり。側面：面取り1回。	
3-瓦22	H-26 カツド	丸瓦	①(32,2) ②1,4 ③灰 ④1/2	①繩粒 ②良好 ③灰 ④1/2	行基式。凹面：布目あり。凸面：縄目文庄撫で調整。側面：面取り1回。電構架材に使用。	
3-瓦23	覆土	平瓦	①(7,2) ②1,6 ③灰 ④破片	①繩粒 ②良好 ③灰 ④破片	一枚作り。凹面：布目あり。凸面：撫で。	
3-瓦24	表探	平瓦	①(8,1) ②1,6 ③灰 ④破片	①繩粒 ②良好 ③灰 ④破片	一枚作り。凹面：粗い布目あり。凸面：撫で。	
3-瓦25	表探	平瓦	①(10,5) ②2,0 ③灰 ④破片	①繩粒 ②良好 ③灰 ④破片	一枚作り。凹面：布目あり。凸面：撫で。側面：面取り2回。	
3-瓦26	表探	平瓦	①(11,2) ②2,1 ③灰 ④破片	①繩粒 ②良好 ③灰 ④破片	一枚作り。凹面：布目あり。凸面：撫で。側面：面取り3回。	
3-瓦27	表探	平瓦	①(5,4) ②1,9 ③灰 ④破片	①繩粒 ②良好 ③灰 ④破片	一枚作り。凹面：布目あり。凸面：縄目文庄後撫で調整。側面：面取り1回。	
3-瓦28	表探	平瓦	①(13,6) ②1,9 ③灰 ④破片	①繩粒 ②良好 ③灰 ④破片	一枚作り。凹面：布目あり。端部に5条の工具溝あり。凸面：縄目文庄後撫で調整。側面：面取り1回。	
3-瓦29	表探	平瓦	①(8,5) ②2,0 ③灰 ④破片	①繩粒 ②良好 ③灰 ④破片	一枚作り。凹面：布目あり。凸面：縄目文庄痕あり。	
3-瓦30	表探	平瓦	①(11,4) ②1,8 ③灰 ④破片	①繩粒 ②良好 ③灰 ④破片	一枚作り。凹面：布目あり。撫で痕2箇所あり。凸面：縄目文庄痕あり。	
3-瓦31	表探	丸瓦	①(5,8) ②2,1 ③灰 ④破片	①繩粒 ②良好 ③灰 ④破片	凹面：布目あり。凸面：撫で。	
3-瓦32	表探	平瓦	①(4,9) ②2,0 ③灰 ④破片	①繩粒 ②良好 ③灰 ④破片	一枚作り。凹面：布目あり。凸面：撫で。	

V 元総社蒼海遺跡群 (33)

1 基本層序

本調査区は狭長であるため、調査の進捗状況に応じて5つの調査区を設定して調査を行なった。遺構確認面は、III層を基本としたが、不明瞭な場合はIV層まで下げるこもあった。各層の堆積順は同一であるが、層厚は同一ではない。

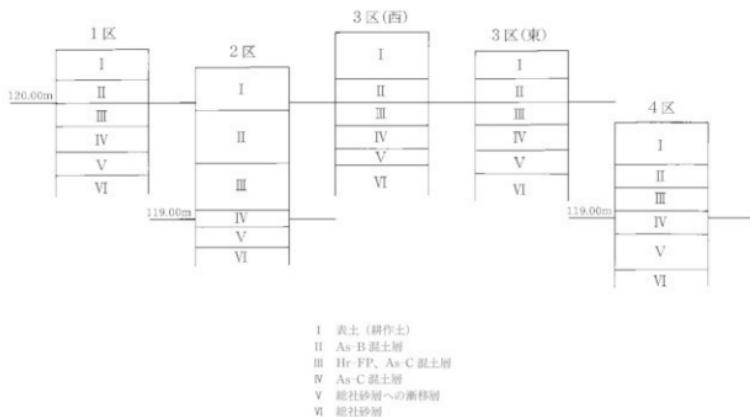


Fig. 46 元総社蒼海遺跡群 (33) 基本層序

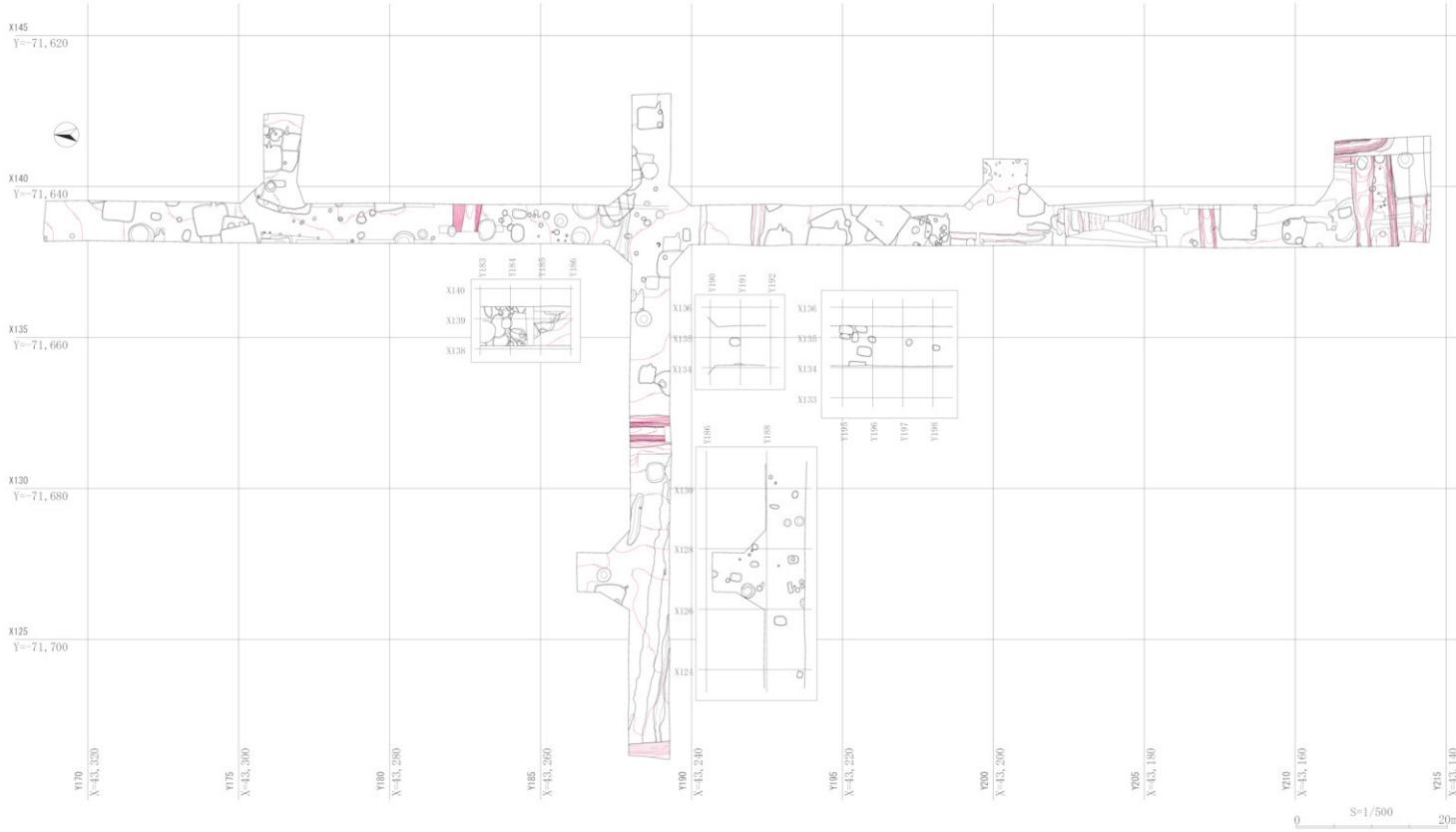


Fig. 47 元觉社舊海道跡群 (33) 全體図

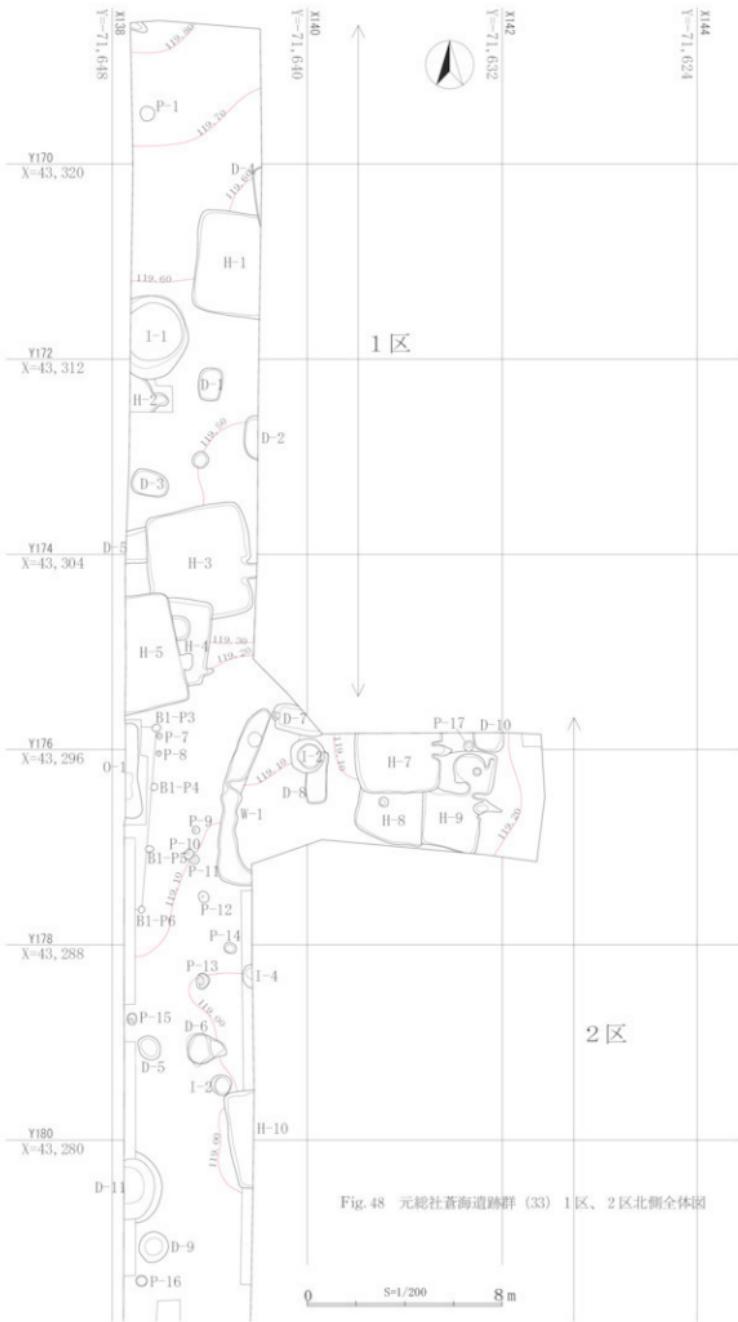


Fig. 48 元總社蒼海道路群 (33) 1区、2区北側全体図

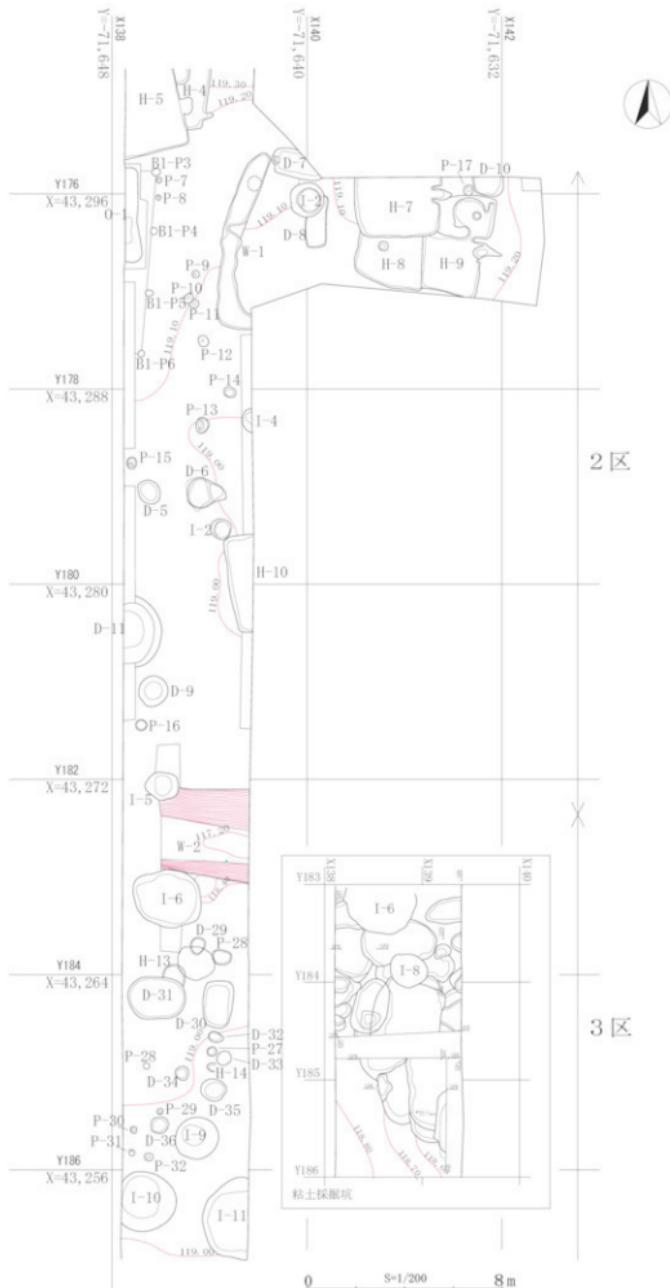


Fig. 49 元紹社蒼海遺跡群(33) 2区、3区北側全体図

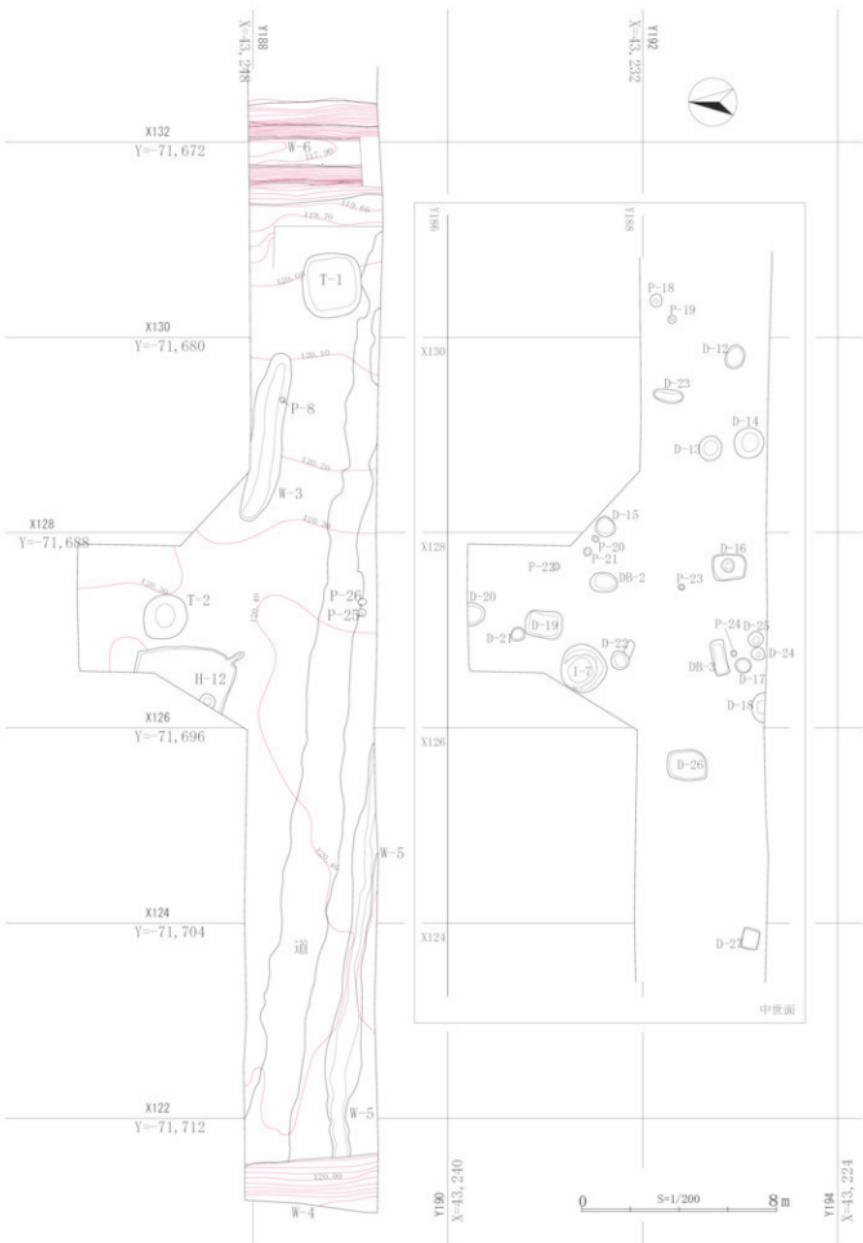


Fig. 50 元總社苔海遺跡群 (33) 3区東側全体図

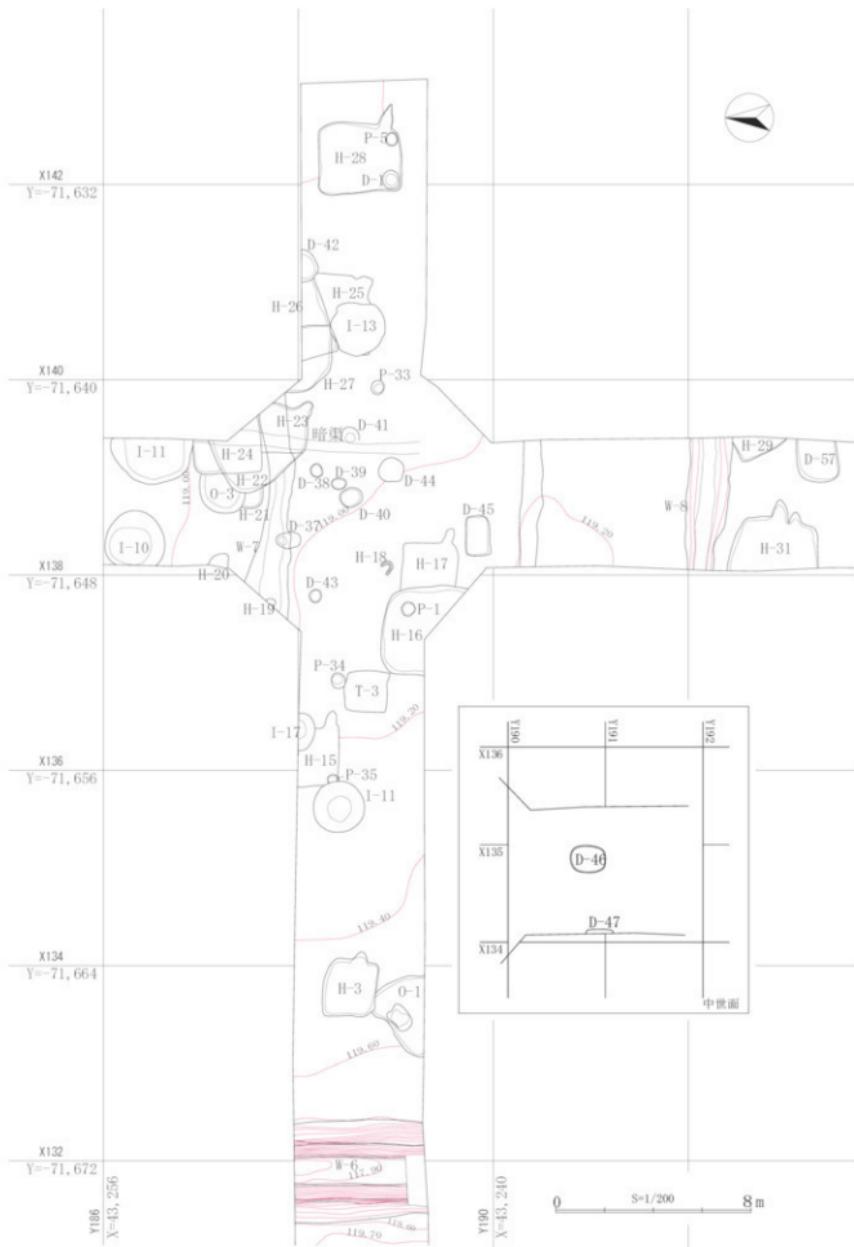


Fig. 51 元総社苔海遺跡群(33) 3区西侧全体図

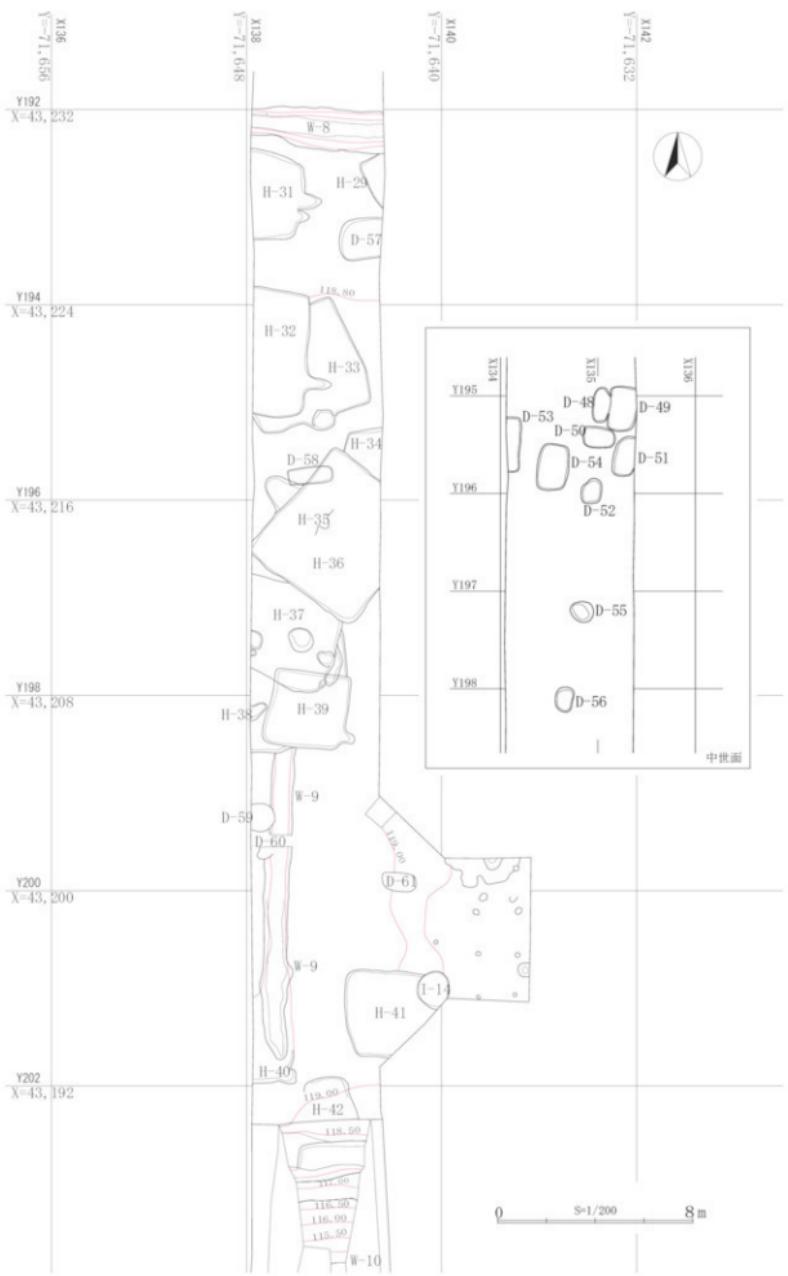


Fig. 52 元總社蒼海遺跡群(33) 4区全体図

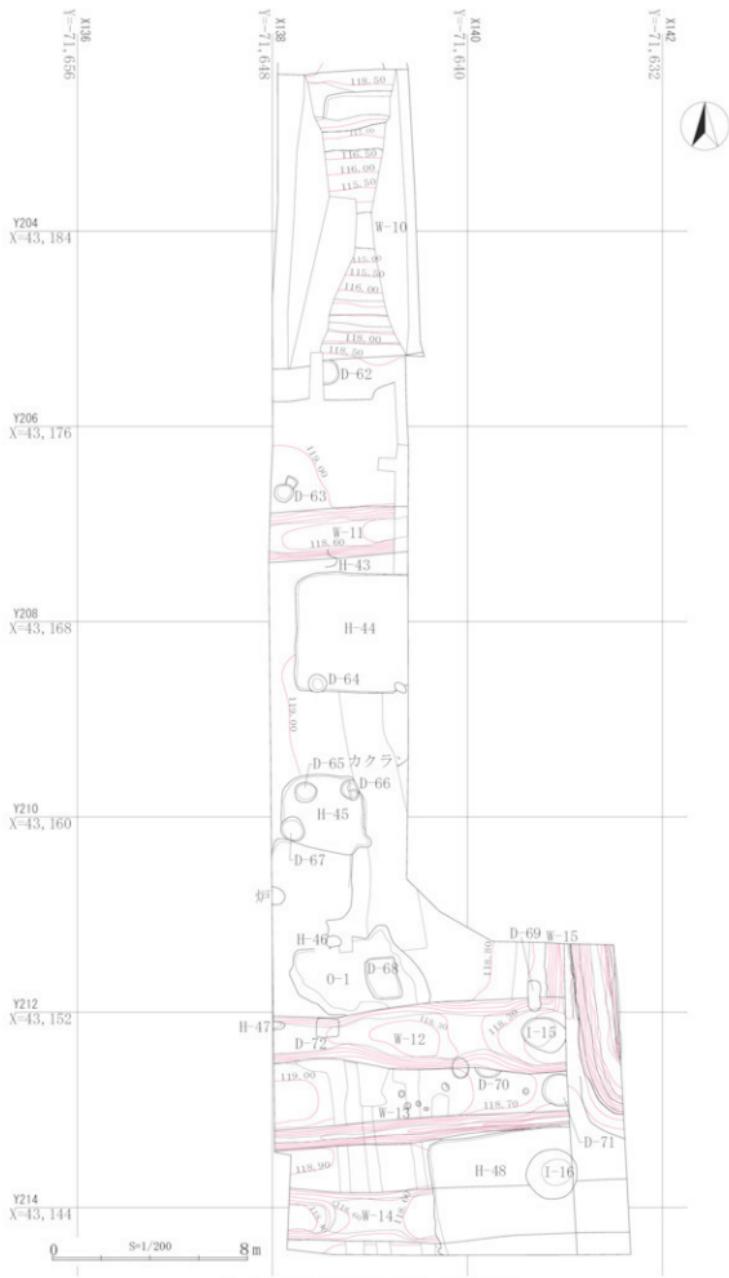


Fig. 53 元總社蒼海遺跡群 (33) 5 区全体図

2 遺構と遺物

元總社蒼海遺跡群（33）調査区の概要

調査区は狭長であるため、調査の進捗状況に応じて便宜的に5つに調査区を区分して、調査の効率を図った。

ただし、調査区境で確認された遺構や重複などにより一連の遺構として扱うほうが適正な場合は、それぞれ調査区をまたいで記述を行なっている箇所もある。以下、各調査区の概要を記す。

1区概要（Fig.48・PL19）

堅穴住居跡6軒、土坑5基、柱穴4基、井戸1基が検出された。堅穴住居跡は南側で重複しており、元總社蒼海遺跡群（33）の特徴の一つである住居の重複が確認される北限ともいえよう。住居跡は全て奈良・平安時代である。土坑は掘り込みが浅い傾向にあり、覆土も薄いため埋没状況を考えるには手がかりが少ないが、D-4号は覆土がAs-Bのみであることが特徴である。

2区概要（Fig.48・49）

堅穴住居跡4軒、土坑7基、溝跡2条、柱穴15基、土坑墓1基、井戸4基が検出された。堅穴住居跡は全て奈良・平安時代に帰属するものと思われる。2条確認された溝跡のうち、W-2号は東西方区に走行し、上幅4m、下幅1.6m、深さ1.7mを割り、3区で検出された南北に走行するW-6号と調査区外で交差し、区画溝としての機能を有していたことが推察される。

3区概要（Fig.49・50）

東西に細長い調査区である。堅穴住居跡10軒、土坑35基、溝跡3条、柱穴9基、堅穴状遺構2基、土坑墓2基、井戸跡3基、粘土探掘跡、灰白色混土面が検出された。調査区の東側では堅穴住居跡の重複が激しい。検出された住居跡は奈良・平安時代が16軒、時期不詳が3軒である。溝は中世に属するもの5条、不明1条である。調査区中央より東側に位置するI-12号からは多くの石造物や石製品の残欠が出土し、遺構確認面より約3m下では犬もしくは狼と思われる頭部が2体分確認された。西側では北西から南東に走行する道路が確認された。また、道跡よりも新しい土坑（DB-3）が確認され、精査を行なったところ馬骨が検出された。脆弱ではあるもののほぼ全身の骨が残っており、歯列の特徴から4歳前後の牝馬であることが判明した。調査区のほぼ中央で確認された南北方向に走行するW-6号は2区W-2号と調査区外で交差し区画溝を構成するものと思われる。西端で確認された南北方向に走行するW-4号はW-6号と走行方向が近似しているため、同様に区画溝の可能性を有する。また、2区W-2号の南側で灰白色混土層が平面的に広がっている状況が確認された。また、W-2号やI-5号の調査の過程で下位に別時代の遺構が存在することが看取され、上面調査終了後に下層の遺構精査を行なった。その結果、白色粘土採取を目的とした粘土探掘坑跡であることが判明した。

4区概要（Fig.51・52）

南北に長い調査区である。堅穴住居跡12軒、土坑13基、溝跡1条、柱穴6基、土坑墓1、井戸1などが検出された。調査区中央付近でAs-B混土層下の確認面で土坑が集中して確認された。底部に灰層が確認された土坑もあり、様相から中世の土坑墓の可能性が考えられる。その下層では、奈良・平安時代の住居跡が重複して確認された。このうちH-32号からは須恵器の高盤や白磁碗等の遺物が出土した。また、平安時代と考えられる土坑墓（D-58号）も確認された。

5区概要（Fig.53）

調査区の最南端で、蒼海城の網張りで「清徳寺」という曲輪に位置している。寺院に直接関係する遺構は確認できなかったが、調査区の北端で蒼海城の堀跡と考えられる東西方向に走行する大規模な溝跡が確認された。また調査区南東端でも南北方向に走行し、南側で東に屈折する比較的大きな溝も確認されており、出土遺物から蒼海城との関連が考えられる。その他、H-45号から出土した硯や石造物や石製品の残欠が出土した井戸（I-16号）なども特筆される。

1 区

(1) 穴住居跡

H-1号住居跡 (Fig.54、PL.19・42)

位置 X138～139、Y170～171グリッド 主軸方向 N-98°-E 形状等 方形を呈する。東西4.5m、南北4.7m、壁現高53cmを測る。面積 (10.14)m² 床面 ロームを中心とした貼床でほぼ平坦。堅緻面が広がるが、壁際はやわらかい。竈 検出されなかった。調査区外の東壁に存在するものと推察される。貯蔵穴等 貯蔵穴、柱穴とともに検出されなかった。周溝 検出されなかった。重複 北でD-4号と重複する。重複関係は本住居跡→D-4号の順である。出土遺物 床面から土器類 (1-1) が出土した。時期 床面出土遺物から7世紀末から8世紀初頭に帰属すると思われる。

H-2号住居跡 (Fig.54、PL.19・42)

位置 X138、Y172グリッド 主軸方向 不明 形状等 東西(1.66)m、南北(1.80)m、壁現高4cm前後を測る。面積 (1.52)m² 床面 平坦であり、竈前面部は堅く締まる。竈 南東隅に敷設され、主軸方向はN-90°-E、全長60cm、最大幅38cm、焚口部幅30cmを測る。黒褐色粘質土を構築材として用いる。覆土中からの焼土混入は少なく、焚口や燃焼部においても壁面等の焦土化は見受けられない。焚口部は若干凹み燃焼部から煙道にかけて緩やかに立ち上がる。貯蔵穴等 貯蔵穴、柱穴とともに検出されなかった。周溝 検出されなかった。重複 北側でI-1号と重複する。重複関係は本住居跡→I-1号の順である。出土遺物 床面付近から羽釜 (1-2) が出土している。時期 出土遺物から10世紀前葉と推察される。

H-3号住居跡 (Fig.55、PL.20)

位置 X138～139、Y173～174グリッド 主軸方向 N-83°-E 形状等 東西4.4m、南北4.65m、壁現高45cm前後を測る。面積 (17.03)m² 床面 地山の灰白色粘質土と褐色土の混土による貼り床。平坦で堅く締まる。竈 東壁の南側に敷設されるが、煙道部は調査区外となる。確認できた範囲では主軸方向はN-98°-E、全長(0.8)m、最大幅1.16cm、焚口部幅0.5cmを測る。両袖は暗褐色粘質土で構築されており、残存長は左袖で40cm、右袖で40cmを測る。燃焼部の両壁は被熱による焼土化が見受けられる。焚口部は若干凹み、燃焼部にかけて緩やかに立ち上がる。貯蔵穴等 精査を行なったが貯蔵穴、柱穴とともに検出されなかった。周溝 東南隅を除いて全周する。幅20cm前後、深さ3～6cmを測り、断面は逆台形を呈する。重複 南側でH-4・5号、西側でD-5号と重複するが、いずれの遺構よりも本住居跡のほうが古い。出土遺物 床面付近から須恵器 (1-4) などが出土している。時期 出土遺物等から8世紀に帰属すると思われる。

H-4号住居跡 (Fig.55、PL.20・42)

位置 X138～139、Y174～175グリッド 主軸方向 N-98°-E 形状等 東西(2.0)m、南北(3.4)m、壁現高10～25cmを測る。面積 (4.00)m² 床面 地山の灰白色粘質土と褐色土の混土による貼り床。ほぼ平坦で堅く締まる。竈 東壁の南よりに敷設される。残存状況が悪いため判然としないが、主軸方向はN-80°-E、全長(0.7)m、最大幅(0.56)m、焚口部幅0.24mを測る。貯蔵穴等 精査を行なったが検出されなかった。周溝 精査を行なったが検出されなかった。重複 北側でH-3号、西でH-5号と重複する。重複関係はH-3号→H-5号→本住居跡の順序である。出土遺物 床面付近から (1-8) が出土している。時期 出土遺物と重複関係から9世紀後半に帰属すると思われる。

H-5号住居跡 (Fig.55、PL.20)

位置 X138、Y174~175グリッド 主軸方向 N-77°-E 形状等 東西(2.7)m、南北4.65m、壁現高25~45cmを測る。面積 (14.0)m² 床面 地山の灰白色粘質土と褐色土の混土による貼り床。ほぼ平坦で堅く締まる。竈 東壁の南よりに敷設されるが、重複するH-4号により壊されている。主軸方向はN-77°-E、全長(0.6)m、最大幅0.78m、焚口部幅0.6mを測る。貯蔵穴等 精査を行なったが検出されなかった。周溝 ほぼ全周する。幅10~20cm、深さ3~5cmを測り、断面は逆台形を呈する。重複 東側でH-3・4号と重複する。重複関係はH-3号→本住居跡→H-4号の順である。出土遺物 覆土より須恵器坏(1-9)が出土している。時期 重複関係と出土遺物などから、8世紀末から9世紀前半と考えられる。

H-6号住居跡 (Fig.56、PL.20・42)

位置 X138、Y169グリッド 主軸方向 竈のみの検出であるため、主軸方向や規模、面積、床面等は不明である。竈 検出された範囲では、主軸方向N-90°-E、全長(0.7)m、最大幅(0.68)m、焚口部幅(0.2)mを測る。構築材は褐色粘質土を用いており、両袖は川原石による。出土遺物 竈燃焼部の上にあたる箇所で椀(1-12)や羽釜(1-13)などの遺物が重なって出土した。時期 出土遺物から9世紀末に帰属するとと思われる。

(4) 井戸跡

I-1号井戸跡 (Fig.56、PL.21)

位置 X138・139、Y171・172グリッド 形状等 大半は西側の調査区外にあるが、南北3.5m×東西(2.5)mの円形で、深さ2.0mまで調査した。重複 南側でH-2号と重複するが、本遺構の方が新しい。出土遺物 土師器、須恵器、瓦片、陶磁器等をごく少量。時期 出土遺物と重複関係から、中世と思われる。

(5) 土坑、ピット (Fig.56、PL.21)

土坑、ピットについては、別表に記載した。

2区

(1) 積穴住居跡

H-7号住居跡 (Fig.57、PL.23・42)

位置 X140・141、Y175・176グリッド 主軸方向 N-90°-E 形状等 長方形と推定される。東西3.50m、南北(2.48)m、壁現高37.0cm。面積 (8.05)m² 床面 平坦な貼り床。竈 東壁中央部に敷設。主軸方向 N-92°-E 全長89cm、最大幅78cm、焚口部幅24cm。焚口部は若干凹み、煙道部は緩やかに立ち上がる。煙道は東壁より40cm程張り出す。貯蔵穴等 検出されず。周溝 精査を行なったが確認されなかった。重複 H-8、H-9と重複しており、新旧関係はH-8→H-9→本遺構。出土遺物 土師器246点、須恵器13点、石製品3点。そのうち土師器坏2点、土師器甕4点、須恵器坏1点、須恵器高杯1点、石製品2点を図示。時期 覆土や出土遺物から7世紀末と考えられる。

H-8号住居跡 (Fig.57、PL.23)

位置 X140・141、Y176グリッド 主軸方向 N-101°-E 形状等 長方形と推定される。東西2.94m、南北2.39m、壁現高30.5cm。床面 平坦な貼り床。面積 (5.30)m² 床面 平坦な貼り床。竈 東壁に敷設されたと考えられるが、重複関係により確認できず。貯蔵穴等 検出されず。周溝 精査を行なったが確認されなかった。出土遺物 土師器55点。そのうち土師器坏1点を図示。時期 覆土や重複関係から7世紀代

と考えられる。

H-9号住居跡 (Fig.57、PL.24・42)

位置 X141、Y176・177グリッド 主軸方向 N-104°-E 形状等 長方形と推定される。東西2.72m、南北4.08m、壁現高34.0cm。面積 9.42m² 床面 平坦な貼り床。竈 東壁中央部に敷設。主軸方向 N-98°-E。全長136cm、最大幅114cm、最小幅46cm、焚口部幅56cm。焚口部は若干凹み、煙道部は緩やかに立ち上がる。煙道は東壁より60cm程張り出す。貯蔵穴等 北東隅で検出。30×30cmの円形で深さは15cm程。周溝 精査を行なったが確認されなかった。出土遺物 土師器153点、須恵器16点、石製品1点。そのうち土師器壺2点、須恵器長頸瓶1点を図示。時期 覆土や出土遺物から7世紀後半と考えられる。

H-10号住居跡 (Fig.58、PL.24・42)

位置 X139、Y179・180グリッド 主軸方向 N-83°-E 形状等 長方形と推定される。東西1.29m、南北3.99m、壁現高58.5cm。面積 3.63m² 床面 平坦な貼り床。竈 住居のはとんどが調査区外のため確認できず。貯蔵穴等 検出されず。周溝 北壁から西壁にかけて検出。幅10cm前後、深さ7cm程度で、断面は逆台形。出土遺物 土師器23点、須恵器7点、その他1点。そのうち土師器壺1点、須恵器壺1点、須恵器小壺1点を図示。時期 覆土や出土遺物から8世紀代と考えられる。

(2) 溝跡

W-1号溝跡 (Fig.58、PL.24)

位置 X139、Y175～177グリッド 主軸方向 N-13°-E 形状等 長さ7.3m、深さ9.5cm、最大上幅125cm、最大下幅122cm。断面は「U」字状。時期 覆土の状況から中世と考えられる。

W-2号溝跡 (Fig.59、PL.24)

位置 X138・139、Y182・183グリッド 主軸方向 N-98°-E 形状等 長さ3.7m、深さ137.0cm、最大上幅308cm、最大下幅182cm。断面は逆台形。時期 覆土の状況から中世と考えられる。蒼海城の堀か。

(3) 土坑、土坑墓、ピット、井戸跡、落ち込み (Fig.58～61、PL.25)

土坑、土坑墓、ピット、井戸跡、落ち込みについては、別表を参照のこと。

(4) グリッド等出土遺物

土師器45点、須恵器39点、石製品2点、灰釉陶器1点、その他1点を出土。

3区

(1) 竪穴住居跡

H-11号住居跡 (Fig.62、PL.29)

位置 X133・134、Y188グリッド 主軸方向 N-97°-E 形状等 方形状。東西2.44m、南北2.2m、壁現高10.0cm。面積 4.8m² 床面 地山を床面とする。竈 東壁中央部に敷設。主軸方向 N-106°-E。全長48cm、最大幅92cm。検出できたのが底部のみであったため、詳細な形は不明。貯蔵穴等 検出されず。周溝精査を行なったが確認されなかった。出土遺物 土師器13点、須恵器1点、石製品1点。そのうち石製品1点を図示。時期 不明。

H-12号住居跡 (Fig.62、PL.29)

位置 X126、Y186・187グリッド 主軸方向 N-96°-E 形状等 長方形と推定される。東西2.66m、南北4.17m、壁現高16.5cm。面積 6.84m² 床面 平坦な貼り床。竈 東南隅に敷設。主軸方向 N-147°-E。全長78cm、最大幅49cm、焚口部幅15cm。煙道部は緩やかに立ち上がる。煙道は東壁から50cm程張り出す。住居中央部やや北に燃土が70cmの範囲で検出された。炉址の可能性が高い。貯蔵穴等 焚口手前で検出。50×50cmで深さ30cm程度。周溝 東壁から北壁で検出。幅10cm前後、深さ 5 cm程度で断面は逆台形。出土遺物 土師器1点、須恵器2点。そのうち須恵器壺1点、羽口1点を図示。時期 覆土や出土遺物から9世紀前半と考えられる。

H-13号住居跡 (PL.22)

位置 X138、Y183～184グリッド 主軸方向等 堅総面のみの検出であるため、全容は不明である。

H-14号住居跡 (Fig.63、PL.22)

位置 X138～139、Y184グリッド 主軸方向 竈のみの検出であるため、全容は不明である。出土遺物 竈構築に平瓦（3-4～6）が利用されている。時期 出土遺物から平安時代に帰属するものと思われる。

H-15号住居跡 (Fig.63、PL.28)

位置 X135～136、Y187～188グリッド 主軸方向 N-90°-E 形状等 北側は調査区外となるが方形を呈する。東西(2.44)m、南北(1.76)m、壁現高5.5cmを測る。面積 (4.14)m² 床面 地山ロームと黒褐色土による貼床でほぼ平坦。竈前面を中心に堅総面が広がる。竈 東壁の南よりに敷設される。主軸方向はN-100°-E、全長(0.86)m、最大幅(0.64)cm、焚口部幅0.32cmを測る。貯蔵穴等 精査を行なったが検出されなかった。周溝 精査を行なったが検出されなかった。重複 北側でI-17号と重複するが、本遺構の方が古い。出土遺物 覆土中より少量の土師器片がしづつといた。時期 出土遺物が少量であり、時期の特定には至らないが、竈の敷設場所から9世紀前後の可能性がある。

H-16号住居跡 (Fig.64、PL.28・43)

位置 X136～137、Y188～189グリッド 主軸方向 N-95°-E 形状等 南側は調査区外となるが、方形を呈する。東西3.5m、南北(3.3)m、壁現高23～39cmを測る。面積 (6.56)m² 床面 地山と褐色土による。南東部分から堅総面が覗がるが、西側と壁際は軟らかい。竈 検出されなかったが、南東付近の床面は比較的硬く締まるため、東壁の南寄りに敷設されていたものと推察される。貯蔵穴等 柱穴状の掘り込みが、北東で検出された。50×50cmの円形で深さは61cmを測る。底面は60×60cmと広がり断面は「ハ」字状となる。規模などから住居に伴う柱ではない可能性もある。周溝 精査を行なったが確認できなかった。重複 東側でH-17号と重複するが、本住居跡のほうが古い。出土遺物 覆土中からは土師器や瓦、カワラケ（3-8）などが少量出土した。時期 床面出土遺物がなく、竈の明確な位置も不明であるため時期の特定に至ることができないが、重複関係から平安時代以前であろう。

H-17号住居跡 (Fig.64、PL.28・44)

位置 X137～138、Y189グリッド 主軸方向 N-94°-E 形状等 硬化面の範囲を捉えて住居跡と判断した。西側はH-16と重複する。捉えた範囲では東西(2.0)m、南北(2.2)m、壁現高53cmを測るが、本来の住居跡は一回り大きいと予想される。床面 ロームと褐色土による貼床でほぼ平坦。竈前面を中心に堅総面が広がる。竈 東壁の南東隅に敷設される。調査で把握した範囲では、全長70cm、最大幅38cm、焚口部幅50cmを測る。煙道部と

燃焼部壁面は若干の焦土化が見られた。貯蔵穴等 精査を行なったが貯蔵穴・柱穴は確認されなかった。周溝 精査を行なったが確認できなかった。重複 西側でH-16号と重複するが、本住居跡のほうが新しい。出土遺物 電から長胴瓦片や瓦、床面から文字瓦（3-7）が出土した。時期 出土した長胴瓦片から9世紀末であろうか。

H-18号住居跡 (Fig.64、PL.28・43)

位置 X138、Y188グリッド 主軸方向 不明 形状等 残存状況が悪く、電のみの検出となった。電 残存状況が悪く全容は把握し得ないが、燃焼部底面に若干の焼土化が見られた。貯蔵穴等 周囲を精査したが検出されなかった。周溝 周囲を精査したが検出されなかった。出土遺物 電前面よりカワラケ（3-9）が出土した。時期 出土遺物から11世紀に帰属すると思われる。

H-19号住居跡 (PL.28)

位置 X137、Y187グリッド 主軸方向等 W-7号を調査中に確認された。大半は西側調査区外にあるため全容は不明である。重複 W-7号と重複するが本住居跡のほうが古い。出土遺物 電焼土のみが確認されたため遺物の出土はなかった。時期 電の敷設場所が不明瞭で遺物出土がないため時期の特定に至ることができない。

H-20号住居跡 (Fig.63)

位置 X138、Y187グリッド 主軸方向等 電のみの検出となり、大半は西側の調査区外に所在するため全容は不明である。出土遺物 電から甕の脇部片が出土した。時期 出土遺物等から平安時代と思われる。

H-21号住居跡 (Fig.65、PL.28・43)

位置 X138、Y187グリッド 主軸方向 N-90°-E 形状等 東側でH-22・24号、北側でO-1号と重複するため、全容は不明である。東西(0.7)m、南北(0.85)m、壁現高2~10cmを測る。面積 (0.38)m² 床面 ロームを中心とした貼床でほぼ平坦。北東を中心に堅く締まる。電 他遺構との重複により不明。貯蔵穴等 貯蔵穴、柱穴は検出されなかった。周溝 検出されなかった。重複 東側でH-22・24号と、北側でO-1号と重複する。いずれの遺構よりも本住居跡のほうが古い。出土遺物 床面から須恵器（3-10~12）が出土している。時期 出土遺物から9世紀後半から9世紀末に帰属すると思われる。

H-22号住居跡 (Fig.65、PL.28)

位置 X138~139、Y187~188グリッド 主軸方向 N-58°-E 形状等 方形を呈する。東西4.5m、南北4.7m、壁現高53cmを測る。面積 (7.62)m² 床面 地山の灰白色粘質土と褐色土の混土による貼り床。電 調査区外と思われる。貯蔵穴等 精査を行なったが検出されなかった。周溝 精査を行なったが検出されなかった。重複 北側でH-24号、O-3号、西側でH-21号、南側でH-23号、W-7号と重複する。重複関係はH-21号→本住居跡→H-23号→H-24号→W-7号、O-3号の順序である。出土遺物 覆土中より土師器や須恵器の破片が少量出土した。時期 出土遺物が少なく時期の特定は困難であるが、重複関係から9世紀末から10世紀初頭と考えられる。

H-23号住居跡 (Fig.65、PL.28)

位置 X139、Y187~188グリッド 主軸方向 N-95°-E 形状等 西側でH-22号と重複し北側でH-24号

と重複するが、南北に長い方形を呈すると思われる。東西(2.0)m、南北(2.0)m、壁現高30cm前後を測る。面積 (3.38)m² 床面 地山の灰白色粘質土と褐色土の混土による貼り床。ほぼ平坦で竈前面を中心に堅微面が拡がる。 竈 東南隅に敷設される。主軸方向はN=132°-E、全長0.76m、最大幅0.68cm、焚口部幅0.4cmを測る。床面から10cm高い箇所に焚口が設けられ、燃焼部の右側面は比較的焼化している。焚口部から燃焼部は平坦であるが、煙道部先端は急激に立ち上がる。貯蔵穴等 精査を行なったが貯蔵穴、柱穴は検出されなかった。周溝 精査を行なったが検出されなかった。重複 北側でH-22・24号、中央でW-7号と重複する。重複関係はH-22号→本住居跡→H-24号→W-7号の順序である。出土遺物 床面付近から須恵器椀(3-16)が出土している。時期 出土遺物から10世紀後半に帰属するものと思われる。

H-24号住居跡 (Fig.65、PL.28・44)

位置 X139、Y186~187グリッド 主軸方向 N=82°-E 形状等 北側でI-5号、西側でH-21・22号、O-3号、南側でH-23号と重複するが、方形を呈すると思われる。東西(2.0)m、南北(2.9)m、壁現高10cm前後を測る。面積 m² 床面 地山の灰白色粘質土を中心とした貼床ではほぼ平坦で堅く締まる。竈 検出されなかつたが、東南隅付近に敷設されていたものと推察される。貯蔵穴等 精査を行なったが検出されなかつた。周溝 精査を行なったが検出されなかつた。重複 北側でI-5号、西側でH-21・22号、O-3号、南側でH-23号と重複する。重複関係はH-21号→H-22号→H-23号→本住居跡→O-1号、I-11号の順である。出土遺物 床面から土釜(3-19)や瓦(3-15、16、17、18)などが出土している。時期 出土遺物や重複関係から11世紀に帰属すると思われる。

H-25号住居跡 (Fig.66、PL.29・43)

位置 X140~141、Y188グリッド 主軸方向 N=98°-E 形状等 北壁は調査区外に、南西部はI-13号と重複するが、方形を呈すると思われる。東西3.2m、南北(2.7)m、壁現高40cm前後を測る。面積 (8.78)m² 床面 褐色土と灰褐色粘質土による貼床ではほぼ平坦。竈前面を中心に堅微面が広がるが、壁際は軟らかい。覆土に多くの炭化材や焼土粒、灰を含み、床面にも灰や炭化材が散布されている状況であるため、火災住居の可能性もありえる。竈 東南隅に敷設される。主軸方向はN=140°-E、全長0.54m、最大幅0.74cm、焚口部幅0.46cmを測る。構築材は灰褐色粘質土を用いる。右袖は検出されなかつたが、左袖は扁平な川原石と灰褐色粘質土により構築されている。燃焼部の両壁は被熱が見受けられる。焚口部は若干凹み、燃焼部から煙道にかけて緩やかに立ち上がるが、煙道付近は急傾斜で立ち上がる。貯蔵穴等 精査を行なったが検出されなかつた。周溝 精査を行なったが検出されなかつた。重複 H-26・27号、東側でD-42号、南西でI-13号と重複する。重複関係はH-26・27号→本住居跡→I-13号、D-42号の順である。出土遺物 竈から瓦(3-20)が、床面付近からカワラケ(3-21)が出土している。時期 出土遺物等から11世紀に帰属すると思われる。

H-26号住居跡 (Fig.66、PL.29)

位置 X140~141、Y188グリッド 主軸方向 N=72°-E 形状等 北側の大半は調査区外となるが、方形を呈するものと思われる。東西(3.0)m、南北1.1m、壁現高27cm前後を測る。面積 (1.49)m² 床面 地山の灰白色粘質土と褐色土による貼床ではほぼ平坦。竈 調査した範囲内では検出されなかつた。貯蔵穴等 精査を行なったが貯蔵穴、柱穴は検出されなかつた。周溝 精査を行なったが検出されなかつた。重複 西側でH-27号、南側でH-25号とI-13号、東側でD-42号と重複する。重複関係はH-27号→本住居跡→H-25号→I-13号、D-42号の順である。出土遺物 土師器片等が少量出土するのみである。時期 出土遺物が少なく時期の特定は困難であるが、重複関係から平安時代と考えられる。

H-27号住居跡 (Fig.66、PL.29)

位置 X139~140、Y187~188グリッド 主軸方向 N-90°-E 形状等 北側の大半は調査区外となり、南西隅で屈曲する不整形を呈すると思われる。東西2.6m、南北(1.4)m、壁現高55cm前後を測る。面積 (2.61)m² 床面 地山の灰白色粘質土と褐色土による貼床でほぼ平坦。竈 調査した範囲内では検出されなかった。貯蔵穴等 精査を行なったが貯蔵穴、柱穴は検出されなかった。周溝 精査を行なったが検出されなかった。重複 東側でH-25・26号、I-13号と重複するが、いずれの遺構よりも本住居跡のほうが古い。出土遺物 土師器片等がごく少量出土するのみである。時期 出土遺物が少なく時期の特定は困難であるが、重複関係から平安時代と考えられる。

H-28号住居跡 (Fig.64、PL.29・43)

位置 X141~142、Y188~189グリッド 主軸方向 N-90°-E 形状等 若干南北に長い方形を呈する。東西3.0m、南北3.4m、壁現高20~30cmを測る。面積 9.10m² 床面 地山の灰白色粘質土と褐色土による貼床でほぼ平坦。竈前面から堅黒面が拡がるが、壁際は軟らかい。竈 東壁の南よりに敷設され、主軸方向はN-108°-E、全長1.20m、最大幅0.74m、焚口部幅0.42cmを測る。白色粘質土を構築材として用いる。左袖は明瞭に検出されなかったが、右袖は平瓦と白色粘質土を用いている。焚口部から燃焼部は平坦であり、燃焼部から煙道にかけて緩やかに立ち上がる。燃焼部と煙道部は東壁より1.0m張り出す。燃焼部両壁は焼土化している。貯蔵穴等 南東隅と南西隅に確認された。南東隅は50×50cmの円形で、深さ10cm前後を測る。南西隅は60×75cmの円形で、深さ45cm前後を測る。周溝 精査を行なったが検出されなかった。重複 なし 出土遺物 床面付近からカワラケ(3-22、23)や刀子(3-29)、竈から土釜(3-24)や瓦(3-25~28)が出土している。時期 出土遺物から11世紀に帰属すると思われる。

H-29号住居跡 (Fig.73、PL.33)

位置 X139、Y193グリッド 主軸方向 N-60°-E 形状等 東側の大半は調査区外であるが、方形を呈する。東西(1.2)m、南北(2.1)m、壁現高30cm前後を測る。面積 (0.95)m² 床面 ロームを多く含む褐色土との混土による貼床でほぼ平坦。竈 検出されなかったが東壁に敷設されるものと思われる。貯蔵穴等 貯蔵穴は確認されなかったが、柱穴が北西隅で検出された。50×40cmの楕円形で、深さは7.5cmを測る。東側はさらに掘り下げられ、床面からの深さは23cmを測る。周溝 調査した範囲内では全周する。幅は10cm前後、深さは2~8cmを測る。重複 W-8号と重複するが、本住居跡のほうが古い。出土遺物 覆土中より土師器片等が少量出土する。時期 出土遺物が少なく時期の特定は困難であるが、周辺の動向から平安時代としたい。

(2) 竪穴状遺構

T-1号竪穴状遺構 (Fig.71、PL.30)

位置 X130、Y188、189グリッド 主軸方向 N-90°-E 形状等 正方形と推定される。東西2.64m、南北2.42m、壁現高54.5cm。面積 5.5m² 出土遺物 土師器3点、須恵器5点。時期 覆土から平安時代以降と考えられる。

T-2号竪穴状遺構 (Fig.71、PL.30)

位置 X126・127、Y186・187グリッド 主軸方向 N-0°-E 形状等 円形と推定される。東西1.80m、南北1.30m、壁現高78.5cm。面積 2.61m² 出土遺物 土師器13点、須恵器1点。そのうち土師器壊1点、土師器1点を図示。時期 覆土から平安時代以降と考えられる。

(3) 溝跡

W-3号溝跡 (Fig.72、PL.30)

位置 X128・129、Y187・188グリッド 主軸方向 N-103°-E 形状等 長さ7.01m、深さ31.0cm、最大上幅136cm、最大下幅59cm。断面は「U」字状。 時期 不明

W-4号溝跡 (Fig.74、PL.30)

位置 X121、Y188・189グリッド 調査区の西端で検出され、南北方向に走行する。主軸方向 N-87°-E 規模等 調査した範囲では底面まで至らず、東壁の立ち上がりを確認するのみとなった。調査範囲では長さ5.5m、上幅(3.0)、深さ2.3mを測る。表土直下にW-4号溝の上端が確認されるため、近年までは堀の痕跡を留めていたものと推察される。I層～II層は灰白色ブロックや灰白色土による互層となるため人為的堆積を窺わせる。12層～15層にかけては自然堆積と思われる。形状等 大半は調査区外になるため、全体の断面形状は不明だが、現状では逆台形を呈する。上端から約30度前後の角度で掘り込まれる。黄褐色硬質砂岩層に至ると、ほぼ垂直に掘り込まれ、灰白色粘質土の総社砂層付近になると再び約60度の角度で掘り込まれる。なお、上端から約100cm下位で拳大から人頭大の礫が検出されたが、精査を重ねたところ、掘り込みをもたないことなどから、黄褐色硬質砂岩層内に含有される自然礫と判断された。重複 南端でW-5号、北端でA-1と重複するが、いずれも本遺構のほうが新しい。ただし、W-5号とA-1号の前後関係は不明である。出土遺物 なし 時期 As-B降下以降と思われる。

W-5号溝跡 (PL.31)

位置 X121～125、Y188・189グリッド 調査区の西側を北西から南東にかけて走行する。主軸方向 N-104°-E 規模等 調査した範囲では長さ41m、上幅70～80cm、下幅20～30cm、深さ40cm前後を測る。形状等 断面形状は逆台形である。北西から南東にかけて傾斜し、調査した範囲内での高低差は52cmである。重複 西端でW-4号と重複するが、本遺構の方が古い。出土遺物 なし 時期 不明

W-6号溝跡 (Fig.73、PL.31)

位置 X131・132、Y188・189グリッド 調査区のほぼ中央で検出され、南北方向に走行する。主軸方向 N-91°-E 規模等 調査した範囲では長さ5.5m、上幅5.3m、下幅1.0m、深さ2.2～2.6mを測る。表土直下にW-6号溝の上端が確認されるため、近年までは堀としての痕跡を留めていたものと推察される。2層は灰白色ブロックやロームブロックを含むため人為的な堆積が窺える。2層以下は自然堆積と思われる。形状等 断面形状は逆台形を呈する。上端部の立ち上がりは西側の約30度であるのに対し、東側は約60度と違いが見受けられる。ソフトローム層直下の黄褐色硬質砂岩層に至るとほぼ垂直に掘り込まれ、場所によってはオーバーハング気味になる箇所もある。灰白色粘質土の総社砂層に至ると上端部と同様に、約40度の角度をもって掘り下がる。50～60cm掘り下がった場所から再び垂直に掘り込み菱研状の様相となる。底面は平坦であるが、調査した範囲内では6cmの高低差が見られ、北から南にかけて緩やかに傾斜している。出土遺物 かわらけ片 時期 As-B降下以降と思われる。

W-7号溝跡 (Fig.51)

位置 X137～139、Y187・188グリッド 調査区の北側、2区と接する付近から検出され、東西方向に走行する。主軸方向 N-95°-E 規模等 調査した範囲では長さ10m、上幅1.7m、下幅0.8m、深さ0.7mを測る。形状等 断面形状は「U」字状であり、西側から東側にかけて緩やかに傾斜する。重複 西端でH-19号、東側で

H-22・23・24号と重複するが、いずれも本遺構の方が新しい。 出土遺物 土師器片 時期 重複から As-B 降下以降と思われる。

W-8号溝跡 (Fig.74)

位置 X138~139、Y192~193グリッド 3区の南側を東西方向に走行する。 主軸方向 N-94°-E 規模等 調査した範囲では長さ5.5m、上幅1.6m、下幅0.5~0.65m、深さ0.52mを測る。西から東にかけて緩やかに傾斜し、高低差は4cmを測る。 重複 H-29号と重複するが、本遺構の方が新しい。 時期 出土遺物がないが、H-29号との重複から平安時代以降と推測される。

(4) 井戸跡

2区からは5基の井戸が検出された。ただし、各々の井戸は近接しており、形状も上部が漏斗状に広がるものや円筒形のものなどがあり、時間幅が考えられる。各井戸の計測値等は別表に記載した。

I-12号井戸跡 (Fig.76、PL.45)

位置 粘土探掘坑の調査中に確認された。 形状等 約2.1m×約2.1mの円形で、深さ5mまで調査した。 出土遺物 下層からカワラケ（3-36~38）や石造物（3-39~49）等が出土した。また、カワラケと同じレベルで獸骨の頭骨が確認された。 時期 中世と思われる。

(5) 土坑、土坑墓、柱穴、落ち込み

土坑、土坑墓、柱穴の計測は別表に掲載した。

(6) 道跡 (Fig.50)

A-1号 位置 X121~131、Y189・190グリッド 形状等 調査区の北西から南東にかけて走行する。調査した範囲では西から東にかけて緩やかに傾斜する。また、4区のX138・139、Y190グリッドでも検出されており同一の道と考えられ、高低差は約130cmを測る。

(7) 灰白色粘土混土層面 (Fig.49)

W-2号の南側、X183・184、Y138・139の範囲に位置する。プラン確認中に灰白色粘質混土面が不明瞭な範囲で茲がっている状況が看取された。その後、D-30号の調査により、灰白色粘質土の下位に0.5~2cmの小礫が混入している状況が判明した。当初は整地面として調査を進めていたが、下位に存在する粘土探掘坑の調査により、探掘に伴う堆土が流入した結果によるものとの推測される。

(8) 粘土探掘坑跡 (Fig.67、PL.26・27)

2区の南側X138・139、Y183~185、谷状地形の谷頭に当たる箇所で粘土探掘坑を検出した。周囲の地形を概観すると、東側は急激に落ち込む地形であり、上段と下段の比高差は約3mを測る。W-2号溝とI-6号、I-8号と重複するが、いずれも粘土探掘坑よりも新しい。なお、粘土探掘坑確認面の標高は118.7m前後である。確認できた範囲は東西5.2m、南北10.5mである。なお、東壁の一部は降雨により崩落し、セクション図を作成することができなかった。

中央に設定した東西ベルトや調査区壁面などのAs-Cを多く含む13層は粘土探掘坑の埋没後に、上面のくぼみに堆積したものと考えられる。また、前述した(6)灰白色粘土混土層面は粘土探掘に伴う堆土の流入とも考えられ、As-Bが水平に堆積しているため、As-B降下前には埋没していたものと判断される。

採掘の目的である灰白色粘質土は標高117.9～118.4m前後に堆積し、これを求めての掘削である。一部の掘削は更に下位に堆積する灰褐色砂質土まで達しているものもあるが、灰白色粘質土を底面とする粘土探掘坑と灰褐色砂質土を底面とする粘土探掘坑の底面との比高差は10cmであることから、極限までの掘削を行なっていたものと推察される。

鋤籠や移植ゴテを使用し水平に下げていったところ、おぼろげながらも範囲が確認できる箇所もあったため、隨時セクション図等を作成し調査を進めていった。その結果、大半の粘土探掘坑は連続的に掘り込まれているため明瞭な範囲（作業単位）を把握することは困難であったが、高低差や覆土などから、中央に設定した東西ベルト南側のいくつかの粘土探掘坑は範囲（作業単位）を確認することができた。ただし、それぞれの新旧関係は判然としない場合が多い。

調査区外にも粘土探掘坑は存在しており、調査が及んだのは部分的ではあるが、セクションからは主として東側から西側に向かっての探掘と推察される。ただし、縁辺に当たる箇所では南方や北方向にも掘り進んでいる。

おそらく壁面を崩しながら横方向へ次々と掘り進み、粘土を採取していたようである。

採掘による不要な残土は後方あるいは横におかれ、踏み固められ作業面となっていた箇所もある。また、作業面の多くは灰白色粘質土のブロックを多く含むことも特徴である。これは次の掘削に備えて足元を固めるためと思われる。出土遺物は少なく、かつ小破片であるが、上層にAs-B層が堆積していることと、粘土探掘坑底面の出土遺物から7世紀後半の可能性が考えられる。

以下、判明できた探掘坑（作業単位）について記載する。

1号探掘坑 粘土探掘坑の西側にある。西壁面は灰白色粘質土が残っており、東側は掘削に伴う佛土（灰白色粘質土混の褐色土）が確認されたため、作業単位と判断した。南側は若干窪んでいる箇所があり、灰白色粘質土より下位の灰褐色砂質土まで達している。1号粘土探掘坑の西壁面に工具痕が観られた。右側から左側に向かって動いているようである。なお、1号探掘坑の東側に所在する8号探掘坑の17層は堅く踏みしめられており、1号探掘坑の掘削に伴う作業面と思われる。

2号探掘跡 1号探掘坑の南側に位置する。9層は掘削による併出土の投げ捨てと思われ、一作業単位と判断した。底面はほぼ水平であり、1号粘土探掘坑と同レベルである。

3号探掘跡 2号探掘坑の南側に位置する。西側は40cmほど抉れている。東側に所在する4号探掘坑の7層は、3号探掘に伴う作業面と推察される。覆土は自然堆積と思われ、隣接する2号探掘坑と4号探掘坑よりも掘り込みが深いため、一作業単位とした。

4号探掘跡 3号探掘跡の東側に位置する。7層は、3号粘土探掘坑掘削による併出土と思われる灰白色粘質土がブロック状に多く入り堅く絡まるため作業面と判断した。土層堆積状況から一作業単位と判断した。

5号探掘跡 4号探掘跡の東側に位置する。8層は4号探掘坑、あるいは6・7号探掘坑の掘削に際する天地返しの排土と思われる。4号探掘坑よりも15cm前後深く、底面は灰白色粘質土の下位にある灰褐色砂質土まで達している。4号探掘坑との高低差と土層堆積状況から一作業単位と判断した。なお、底面から土師器皿が出土し、図示した。

土層堆積状況から、5号探掘坑→4号探掘坑→3号探掘坑の順に採掘されていたと考えられる。

6号探掘跡 4号粘土探掘坑の南東に位置する、南側は20cm前後抉れている。底面は灰白色粘質土の下位にある灰褐色砂質土まで達している。6層は7号探掘坑の作業面と思われる。5号粘土探掘坑と土層堆積状況から一作業単位と判断した。

7号探掘跡 5号探掘坑の精査中に検出された。南西隅は5号粘土探掘坑とほぼ同一の掘削ラインとなるが、10cm前後5号粘土探掘坑よりも高いことから一作業単位とした。

土層堆積状況と作業面の存在から5号探掘坑→6号探掘坑→7号探掘坑の順に採掘が進んだと考えられる。

8号探査跡 1号粘土探査坑の東側に位置する。底面は灰白色粘質土の下位にある灰褐色砂質土まで達している。17層は堅く踏みしめられており、1号探査坑の掘削に伴う作業面と考えられる。

(9) グリッド等出土遺物

土師器193点、須恵器103点、瓦9点、繩文土器1点、石製品2点を出土。

4・5区

本調査区の区分は、現況で把握されていた蒼海城址に係わる清徳寺郭北辺の堀跡(W-10号溝)の北方を4区、堀跡を含む南方を5区とした。検出された遺構は両区で、奈良・平安時代の竪穴住居跡17軒(H-31~48号住居跡)、平安期~中世の土坑(墓坑を含む)24基(D-48~72号土坑)、平安期~中世の溝跡、蒼海城址に係わる清徳寺郭北辺の堀跡を含め8条(M-8~15)、中世の井戸址3基(I-14~16)、落ち込み状遺構1基、柱穴16箇所である。出土遺物としては竪穴住居跡出土の高盤、白磁片があり、井戸跡からは多量の石製品が特出される。

(1) 竪穴住居跡

H-31号住居跡 (Fig.78、PL.33・46)

位置 4区、X138、Y192~193グリッドに位置し、西側部分が調査区外。主軸方向 N-98°~E 規模 東西(2.17)m、南北(3.72)m、壁現高20~30cm。面積 (8.4)m² カマド 東壁南東寄りに設置された竈Aは、主軸方向 N-96°~E。全長92cm、最大幅84cm、燃焼部幅40cm、焚口部幅40cm。東壁中央に設置された竈Bは竈Aより古く、灰白色粘土により構築され、主軸方向 N-90°~E。全長99cm、最大幅(84)cm、燃焼部幅60cm、焚口部幅50cm。貯蔵穴・周溝・ピット 不明。重複なし。出土遺物 竈B煙道部で出土した土師器長胴壺(1)、竈A左袖前面から出土した土師器小型壺(2)の2点を図示。時期 6世紀後半。

H-32号住居跡 (Fig.79、PL.33・46)

位置 4区、X138、Y193~195グリッドに位置し、西側部分が調査区外。主軸方向 N-94°~E 規模 東西(2.45)m、南北5.35m、壁現高35cm。面積 (13)m² カマド 東壁南東よりに位置し灰白色粘土で構築。燃焼部へ煙道部が東壁より1.1mほど張り出す。主軸方向 N-92°~E。全長172cm、最大幅102cm、燃焼部幅55cm、焚口部幅45cm。貯蔵穴・ピット 不明。周溝 東壁のカマド左袖部から北壁沿い。幅15~20cm、深さ4cm。重複 H-33号住居跡と重複し、本遺構が新しい。出土遺物 カマド内より出土した土師器壺(1)、土師器壺(2)、床面に密着して出土した須恵器高盤(3・4)2点、砥石(5)、軽石加工円盤(6)を図示。時期 7世紀末。

H-33号住居跡 (Fig.79、PL.33・46)

位置 4区、X138~139、Y193~195グリッド 主軸方向 N-63°~E 規模 東西5.05m、南北4.5m、壁現高16~40cm。面積 (22.5)m² カマド 東壁中央やや南寄りに位置し残存が悪い。主軸方向 N-63°~E。全長(59)cm、最大幅(73)cm、燃焼部幅(30)cm、焚口部幅不明。貯蔵穴 不明。周溝 幅10~20cm、深さ2~5cm。ピット 4カ所に検出され、30~40cm前後の円形、南壁中央部と東壁沿いの2ヶ所に土坑状の掘り込み。重複 中央付近から西側部分をH-32号住居跡により切られている。出土遺物 土師器長胴壺(1)、須恵器壺(2)、砥石(3)を図示。時期 不明。

H-34号住居跡 (Fig.80、PL.46)

位置 4区、X138~139、Y195~196グリッドに位置し、東側部分が調査区外。主軸方向 N-(90)°~E 規

模 東西[1.5]m、南北3.6m、壁現高3cm。面積 (5.3)m² カマド 調査区外の東に想定される。貯蔵穴 不明。周溝 北西隅部に検出され、幅15cm、深さ2~3cm。ピット 1カ所検出され、25cm前後の円形で、深さ25cm。重複 H-35号住居跡と重複し、本遺構が新しい。出土遺物 土師器小型皿(1)を図示。時期 平安期。

H-35号住居跡 (Fig.80、PL.33・46)

位置 4区、X138、Y196グリッドに位置し、カマド周辺部のみ検出。主軸方向 不明。規模 東西・南北長さ、壁現高 不明。面積 不明。カマド 主軸方向 N-138°-E。全長[40]cm、最大幅[40]cm、燃焼部幅39cm、焚口部幅不明。貯蔵穴・周溝・ピット 不明。重複 H-36号住居跡と重複し、本遺構が新しい。出土遺物 白磁片(1)を図示。時期 平安期。

H-36号住居跡 (Fig.80、PL.33・46)

位置 4区、X138・139、Y195~197グリッド 主軸方向 N-30°-E 規模 東西5.25m、南北5.60m、壁現高57cm。面積 (21.3)m² カマド 東壁の調査区外。貯蔵穴 不明。周溝 北側と西壁沿いに一部検出。幅15cm前後、深さ5cm前後。ピット P₁・P₂とやや袋状の土坑を検出し、袋状の土坑は本遺構より古い。重複 南方でH-37号住居跡、中央部でH-35号住居跡、北方でD-58号土坑とH-34号住居跡が重複し、新旧関係D-58号土坑→H-35号住居跡→H-37号住居跡→H-34号住居跡→本遺構。出土遺物 仏鉢形の体部を呈する須恵器壺(1)を図示。時期 8世紀前後か。

H-37号住居跡 (Fig.81、PL.34)

位置 4区、X138、Y196・197グリッド 主軸方向 N-116°-E 規模 東西[4.20]m、南北4.20m、壁現高18cm。面積 (16.2)m² カマド・貯蔵穴・周溝 不明。ピット 不明。浅い掘り方に伴う土坑状掘り込み。重複 南方でH-39号住居跡、北方でH-36号住居跡と重複し、新旧関係はH-36号住居跡→本遺構→H-39号住居跡。時期 不明。

H-38号住居跡 (Fig.81、PL.34・46)

位置 4区、X138、Y198グリッド 主軸方向・規模・面積 不明。カマド 主軸方向N-65°-E。全長(55)cm、最大幅46cm、燃焼部幅30cm、焚口部幅35cm。貯蔵穴・周溝・ピット 不明。重複 H-39号住居跡と重複し、本遺構が新しい。出土遺物 燃焼部より出土した羽釜(1)を図示。時期 不明。備考 本遺構の南方で、H-39号住居跡の南西方に東西に立ち上がりの一部が検出され、住居跡の可能性を考えられる。

H-39号住居跡 (Fig.81、PL.34・47)

位置 4区、X138・139、Y197・198グリッド 主軸方向 N-94°-E 規模 東西3.45m、南北3.10m、壁現高20cm。面積 (10.5)m² カマド 南東隅に位置する。主軸方向N-121°-E。全長94cm、最大幅62cm、燃焼部幅50cm、焚口部幅55cm。貯蔵穴・周溝 不明。ピット P1~5を検出し、P3~5は本遺構より古い。重複 D-6号土坑、W-9号溝、H-37・38号住居跡等と重複し、新旧関係はD-6号土坑→W-9号溝→H-37→本遺構→H-38号住居跡。出土遺物 羽釜(1)、灰釉陶器(2)、土師器壺(3・4)・小型皿(4・5)、須恵器こね鉢(6)・壺(7)、白磁(8)、砥石(9)、平瓦(10)を図示。時期 10世紀代。

H-40号住居跡 (Fig.82、PL.34・47)

位置 4 区、X138、Y201グリッド 主軸方向 N-93°-E 規模 東西(2.0)m、南北(1.4)m、壁現高15cm。カマド 南東隅に位置し、粘土と川原石・瓦片で構築され、焚口部の石臼・天井石（長さ48cm、幅17cm、厚さ11cm）と支脚は加工された砂岩を使用。主軸方向N-15°-E。全長98cm、最大幅74cm、燃焼部幅41cm、焚口部幅34cm。貯蔵穴・周溝・ピット 不明。重複 W-9号溝が南北に東壁沿いに走行。出土遺物 灰釉陶器（1）、土師器椀（2）を図示した。時期 11世紀前後。

H-41号住居跡 (Fig.82、PL.35・47)

位置 4 区、X139、Y200・201グリッド 主軸方向 N-91°-E 規模 東西(3.25)m、南北3.60m、壁現高（残存の良い北壁）20cm。面積 (11.2)m² カマド・貯蔵穴・周溝・ピット 不明。重複 北東角でI-14号井戸と重複する。出土遺物 土師器小型皿（1）、土釜（2）を図示。時期 11世紀代。

H-42号住居跡 (Fig.82、PL.35・47)

位置 4 区、X138・139、Y201・202グリッド 主軸方向 N-68°-E 規模 東西(1.6)m、南北(1.65)m、壁現高8cm。カマド・貯蔵穴・周溝・ピット 不明。重複 W-10号溝によって南方部を切られている。出土遺物 須恵器壺（1）、土師器壺（2）・高台椀（3）を図示。時期 不明。

H-43号住居跡 (Fig.82、PL.38)

位置 5 区、X138、Y207グリッド 主軸方向 不明。規模 東西・南北、壁現高不明。焚き口部前面に堅緻面が僅かに残る。カマド 東壁に構築され、主軸方向N-94°-E。全長90cm、最大幅65cm、燃焼部幅35m、焚口部幅45cm。貯蔵穴・周溝・ピット 不明。重複 H-44号住居跡と古代のW-11号溝と重複する。出土遺物 窓内より小片ではあるが瓦片、羽蓋片がある。時期 10世紀代。

H-44号住居跡 (Fig.83、PL.38)

位置 5 区、X138・139、Y207・208グリッド 主軸方向 N-91°-E 規模 東西(4.6)m、南北4.9m、壁現高24cm。面積 (21.3)m² カマド 南東隅に構築され、主軸方向N-137°-E。全長57cm、最大幅39cm、燃焼部幅・焚口部幅明確でない。貯蔵穴・周溝 不明。ピット 小さい柱穴が10箇所に検出されたが、本遺構に伴うかは不明。重複 中央部分を南北に道路状遺構が走行し、北西でH-43号住居跡、南西でD-64号土坑と重複する。出土遺物 主にカマド内とその前面より出土し、須恵器壺（1）、平瓦（2・3）2点を図示。時期 H-43号住居跡より新しく、D-64号土坑より古い、10世紀代。

H-45号住居跡 (Fig.83、PL.38・48)

位置 5 区、X138、Y209・210グリッド 主軸方向 N-103°-E 規模 東西3.50m、南北3.10m、壁現高10cm前後。面積 (11.2)m² カマド 東壁の南東寄りに構築され、主軸方向N-117°-E。全長123cm、最大幅(64)cm、燃焼部幅33m、焚口部幅49cm。貯蔵穴・周溝 不明。ピット 窓焚き口部にあり、本遺構より新しい。重複 東壁に沿って道路状遺構と3個の円形土坑(D-65～67)。出土遺物 カマド内と南壁沿いに集中し、土師器壺（1）・小型皿（2～15）14点、須恵器壺（16）、紡錘車（17）を図示。時期 11世紀代。

H-46号住居跡 (Fig.84、PL.38・48)

位置 5 区、X138、Y211グリッド 主軸方向 不明。規模 東西・南北長不明、壁現高11cm。カマド 東

壁に構築され、主軸方向N=84°～E。全長73cm、最大幅71cm、燃焼部幅42m、焚口部幅32cm。貯蔵穴・周溝・柱穴 不明。重複 O-1号落ち込みと重複し、本遺構が新しい。出土遺物 燃焼部～煙道部に羽釜、土師高台椀・环が集中して出土。土師器高台椀(1)・环(2)を図示。時期 10世紀代。

H-47号住居跡 (Fig.84、PL.38)

位置 5区、X138、Y212グリッドに位置し、調査区西壁沿いにカマドの一部を検出。主軸方向・規模・面積不明。カマド 主軸方向N=90°～E。全長(70)cm、最大幅(72)cm、燃焼部幅33cm。貯蔵穴・周溝・ピット 不明。周溝 不明。重複 W-15号溝と重複し、本遺構が新しい。出土遺物 なし。時期 平安期。

H-48号住居跡 (Fig.84、PL.38・48)

位置 5区、X139～141、Y213・214グリッド 主軸方向 N=81°～E 規模 東西(5.85)m、南北(5.0)m、壁現高47cm。面積 (27.6)m² カマド 調査区外の東壁 貯蔵穴 不明。周溝 幅20～25cm、深さ2～7cm。ピット 6カ所に検出され、P₁～P₃が主柱穴と考えられる。重複 W-13～15号溝とI-16号井戸と重複し、本遺構が一番古い。出土遺物 W-15号溝と重複する部分を除く箇所に散在し、土師器環(1・2)2点、須恵器蓋(3・4)2点を図示。時期 7世紀後半。

(2) 土坑

D-48号土坑 (Fig.85、PL.35)

位置 4区、X138・139、Y194・195グリッド 規模 長径141cm、短径(70)cm、深さ10cm。形状等 南北に長い隅丸方形 出土遺物 なし。時期 中近世。備考 D-49号土坑と重複し、本遺構が古い。

D-49号土坑 (Fig.85、PL.35)

位置 4区、X139、Y194・195グリッド 規模 長径183cm、短径113cm、深さ7cm。形状等 南北に長い長方形で、北東部が調査区外。出土遺物 なし。時期 中近世。備考 D-48号土坑と重複し、本遺構が新しい。

D-50号土坑 (Fig.85、PL.35)

位置 4区、X138・139、Y195グリッド 規模 長径161cm、短径86cm、深さ14cm。形状等 東西に長い長方形 出土遺物 なし。時期 中近世。

D-51号土坑 (Fig.85、PL.36)

位置 4区、X139、Y195グリッド 規模 長径168cm、短径[100]cm、深さ20cm前後。形状等 南北に長い長方形で北東部が調査区外。出土遺物 なし。時期 中近世。

D-52号土坑 (Fig.85、PL.36)

位置 4区、X138・139、Y195・196グリッド 規模 長径102cm、短径83cm、深さ15cm。形状等 南北に長い長方形で北東部が入隅状に窪む。出土遺物 なし。時期 中近世。

D-53号土坑 (Fig.85、PL.36)

位置 4区、X138、Y195グリッド 規模 長径224cm、短径(67)cm、深さ60cm前後(西壁セクションでの計測)。

形状等 南北に長い長方形で西側が調査区外。 出土遺物 なし 時期 中近世。

D—54号土坑 (Fig.85、PL.36)

位置 4 区、X138、Y195グリッド 規模 長径192cm、短径128m、深さ10cm。 形状等 南北に長い長方形 出土遺物 なし。 時期 中近世。

D—55号土坑 (Fig.85、PL.37・48)

位置 4 区、X138、Y197グリッド 規模 長径93cm、短径85cm、深さ21cm。 形状等 円形 出土遺物 五輪塔の空風輪。 時期 中近世。 備考 5個の角獣を円形状に配する。

D—56号土坑 (Fig.85、PL.37)

位置 4 区、X138、Y198グリッド 規模 長径103cm、短径74cm、深さ17cm。 形状等 南北に長い楕円形 出土遺物 なし。 時期 中近世。

D—57号土坑 (Fig.85、PL.37)

位置 4 区、X138・139、Y193グリッド 規模 長径(170)cm、短径160cm、深さ50cm(東壁セクションでの計測)。 形状等 東西に長い隅丸長方形 出土遺物 なし。 時期 中近世。

D—58号土坑 (Fig.85、PL.37・48)

位置 4 区、X138、Y195グリッド 規模 長径(180)cm、短径60cm前後、深さ25cm以上。 形状等 東西に長い長方形の墓坑。 重複 H—35・36号住居跡と重複し、本遺構が一番新しい。 出土遺物 人骨は東枕の伸展葬で4ヶ所に鉄釘、環状の鉄製品、南西隅に完形の須恵器高台榐・壺の三点が埋納。 時期 平安期。

D—59号土坑 (Fig.85、PL.37)

位置 4 区、X138、Y199グリッド 規模 115cm前後の直径、深さ44cm。 形状等 円形 出土遺物 なし。 時期 平安期。 備考 W—7と重複し、本遺構が古い。

D—60号土坑 (Fig.86)

位置 4 区、X138、Y199グリッド 規模 長径[60]cm、短径[55]cm、深さ25cm。 形状等 亞んだ円形？ 出土遺物 なし。 時期 平安期。

D—61号土坑 (Fig.86)

位置 4 区、X139、Y199グリッド 規模 長径135cm、短径75cm、深さ18cm。 形状等 東西に長い隅丸長方形 出土遺物 なし。 時期 平安期。

D—62号土坑 (Fig.86、PL.39)

位置 5 区、X138、Y205グリッド、W—10号溝の南立ち上がり部に位置する。 規模 長径115cm、短径103cm、深さ55cm。 形状等 やや歪む円形 出土遺物 なし。 時期 平安期か。

D-63号土坑 (Fig.86)

位置 5区、X138、Y206グリッド、W-11号溝の北に位置する。 規模 長径80cm、短径73cm、深さ25cm。 形状等 円形 出土遺物 なし。 時期 平安期か。

D-64号土坑 (Fig.86、PL.39)

位置 5区、X138、Y208グリッド、H-44号住居跡の南西に位置する。 規模 長径77cm、短径75cm、深さ48cm。 形状等 円形 出土遺物 なし。 時期 平安期か。 備考 H-44号住居跡と重複し、本遺構が新しいと考えられる。

D-65号土坑 (Fig.86、PL.39)

位置 5区、X138、Y209グリッド、H-45号住居跡の北西に位置する。 規模 長径92cm、短径84cm、深さ37cm。 形状等 円形。 出土遺物 なし。 時期 平安期。 備考 H-45号住居跡と重複するが、新旧関係は不明。

D-66号土坑 (Fig.86、PL.39)

位置 5区、X138、Y209グリッド、H-45号住居跡の北東に位置する。 規模 長径81cm、短径61cm、深さ22cm。 形状等 やや歪んだ円形で東側に2つの柱状掘り込み。 出土遺物 なし。 時期 平安期。 備考 H-45号住居跡と重複するが、新旧関係は不明。

D-67号土坑 (Fig.86、PL.39)

位置 5区、X138、Y210グリッド、H-45号住居跡の南西に位置する。 規模 長径112cm、短径92cm、深さ50cm。 形状等 やや歪んだ円形。 出土遺物 8点の土師器小型皿が出土し、7点を図示。 時期 平安期。 備考 H-45号住居跡と重複するが、新旧関係は不明。

D-68号土坑 (Fig.86、PL.39)

位置 5区、X138・139、Y211グリッド 規模 長径170cm、短径130cm、深さ15cm。 形状等 南北に長い楕丸方形 出土遺物 須恵器高台碗(1)を図示。 時期 平安期。 備考 O-1号落ち込みと重複するが、新旧関係は不明。

D-69号土坑 (Fig.86、PL.39)

位置 5区、X140、Y211グリッド 規模 長径132cm、短径50cm、深さ36cm。 形状等 南北に長い長方形。 出土遺物 3点の鉄釘と南方で僅かな骨片。 時期 平安期の墓坑。 備考 W-12号溝と重複するが、新旧関係は不明。

D-70号土坑 (Fig.86)

位置 5区、X140、Y211グリッド 規模・形状 � 径105cm前後の円形で、深さ17cm。 出土遺物 なし。 時期 平安期か。 備考 W-12号溝と重複するが、新旧関係は不明。

D-71号土坑 (Fig.86、PL.40)

位置 5区、X140・141、Y212グリッド、W-12・13号溝に挟まれた平坦部に位置する。 規模・形状 径120×

130cmの円形で、深さ15cm。 出土遺物 なし。 時期 平安期。

D-72号土坑 (PL.40)

位置 5区、X138、Y212グリッド 規模・形状 不明。 出土遺物 小縁と共に骨片、土師器小型皿。 時期 平安期。 備考 W-12号溝と重複するが、本遺構が新しい。

W-9号溝跡 (Fig.88)

位置 4区、X138、Y191・192グリッドに跨り、北はH-39号住居跡、南はH-40号住居跡に及ぶ。 主軸方向 N-2°-E 長さ 13.5m 最大幅 上幅95cm前後、下幅50~85cm 深さ 26cm 傾斜 北~南傾斜 形状等 浅いU字形 重複 H-39・40、D-59・60と重複し、新旧関係は本遺構が新しい。 出土遺物 なし。 時期 埋土から中世以降と考えられる。

W-10号溝跡 (Fig.87、PL.40)

位置 5区、X138~139、Y202~205グリッド 主軸方向 N-90°-E 最大幅 上幅11.40m、下幅1.0m 深さ 現況下6.50m、確認面下4.20m 形状等 野耕掘 重複 H-42号住居跡と重複し、本遺構が新しい。 出土遺物 古銭と砥石を図示。 時期 蒼海城址の青徳寺郭北辺の空堀で15~16世紀。

W-11号溝跡 (Fig.88)

位置 5区、X138・139、Y206・207グリッド 主軸方向 N-84°-E 長さ [5.7]m 最大幅 上幅1.9~2.15m、下幅0.9~1.2m 深さ 50cm 傾斜 西~東方向 形状等 逆台形 重複 H-43号住居跡と重複し、新旧関係は本遺構が古い。 出土遺物 羽蓋や土師器環、須恵器甕の小片がある。 時期 埋土から古代と考えられる。

W-12号溝跡 (Fig.88、PL.41)

位置 X138~141、Y211・212グリッド 主軸方向 N-89°-E 長さ [12.1]m 最大幅 上幅3m、下幅2.25m 深さ 53cm 形状等 浅い逆台形 重複 O-1号落ち込み、D-72号土坑、I-15号井戸、W-15号溝等と重複し、新旧関係はO-1号落ち込み→本遺構→D-72号土坑→I-15号井戸とW-15号溝である。 出土遺物 土師器環等の小片のみであった。 時期 新旧関係と埋土から平安時代以前と考えられる。

W-13号溝跡 (Fig.84、PL.41)

位置 X138~141、Y212・213グリッド 主軸方向 N-86°-E 長さ [12.10]m 最大幅 上幅100cm、下幅30cm 深さ 40cm前後 傾斜 西~東方向 形状等 U字形 重複 W-15号溝、H-48号住居跡と重複する。 本遺構がW-15号溝より古いが、H-48号住居跡より新しい。 出土遺物 瓦・土師器・常滑焼の小片がある。 時期 中世と考えられる。

W-14号溝跡 (Fig.89、PL.41・49)

位置 X275・276、Y147・148グリッド 主軸方向 N-99°-E 長さ [11.95]m 最大幅 上幅2.2m、下幅1.9m 深さ 30~46cm 傾斜 西~東方向 形状等 浅い逆台形 重複 H-48号住居跡とI-16号井戸と重複し、新旧関係はH-48号住居跡→I-16号井戸→本遺構の順である。 出土遺物 覆土から出土した須恵器高台碗(1)を図示。 時期 新旧関係から中世以降と考えられる。

W-15号溝跡 (Fig. 9、PL.41・49)

位置 X275・276、Y147・148グリッド 主軸方向 N-105°-E 長さ [75]m 最大幅 下幅0.4m 深さ 165cm 形状等 U字形 重複 W-12・13号溝と重複し、新旧関係は本遺構が新しい。 出土遺物 カワラケ(1～3)、天目茶碗(4)、焼締陶器(5～7)、内耳土器(8～10)、土鍋(11)を図示。 時期 中世の15～16世紀が考えられる。

(3) 井戸

I-14号井戸 (Fig.90、PL.49)

位置 X139・140、Y200・201グリッド 規模 1.9m×1.9m 形状 円形 出土遺物 覆土内から出土したカワラケ(1)を図示。 時期 中世。

I-15号井戸 (Fig.90、PL.41)

位置 X140、Y212グリッド、W-12号溝の東側底面に位置する。 規模・形状 1.75×1.3mの梢円形を呈し、W-12号溝の底面より2mまで掘り下げた。 重複 W-12号溝と重複し、本遺構が新しい。 出土遺物 なし。 時期 中世と考えられる。

I-16号井戸 (Fig.90、PL.41・50)

位置 X140・141、Y213グリッド 規模・形状 1.05m前後の円形を呈し、北～西壁沿いに10～20cm前後のテラスを設け、石積みがこの部分に存在した。深さは2.7mまで掘り下げた。 重複 H-48号住居跡、W-13・15と重複し、H-48号住居跡より新しいが、W-13・15との新旧関係は不明。 出土遺物 大量の石製品が廃棄されていた。穀物臼(上臼12点、下臼8点)、茶臼(下臼4点)、石鉢1点、凹石1点、五輪塔(火輪4点、水輪1点、地輪5点)、宝夾印塔(基礎1点)、磁石1点、縄文時代の石皿片1点の計39点が出土した。 時期 蒼海城址に係わる井戸跡で、16世紀前後と考えられる。

(4) 落ち込み遺構

O-1号落ち込み跡 (Fig.89)

位置 X140・141、Y213グリッド 規模 東西5.5m×南北(3.5)m 形状 不定形 重複 D-68、H-46、W-12 時期 遺物少數のため時期不詳。

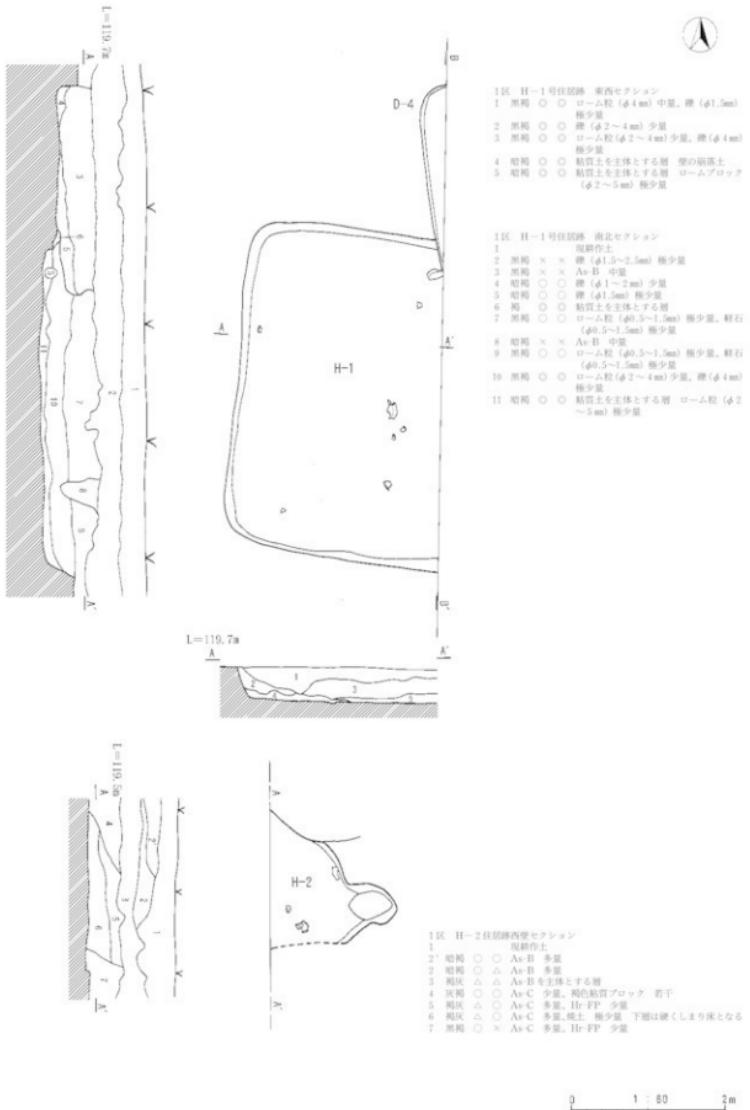


Fig. 54 元總社蒼海遺跡群 (33) 1区H-1・2号住居跡

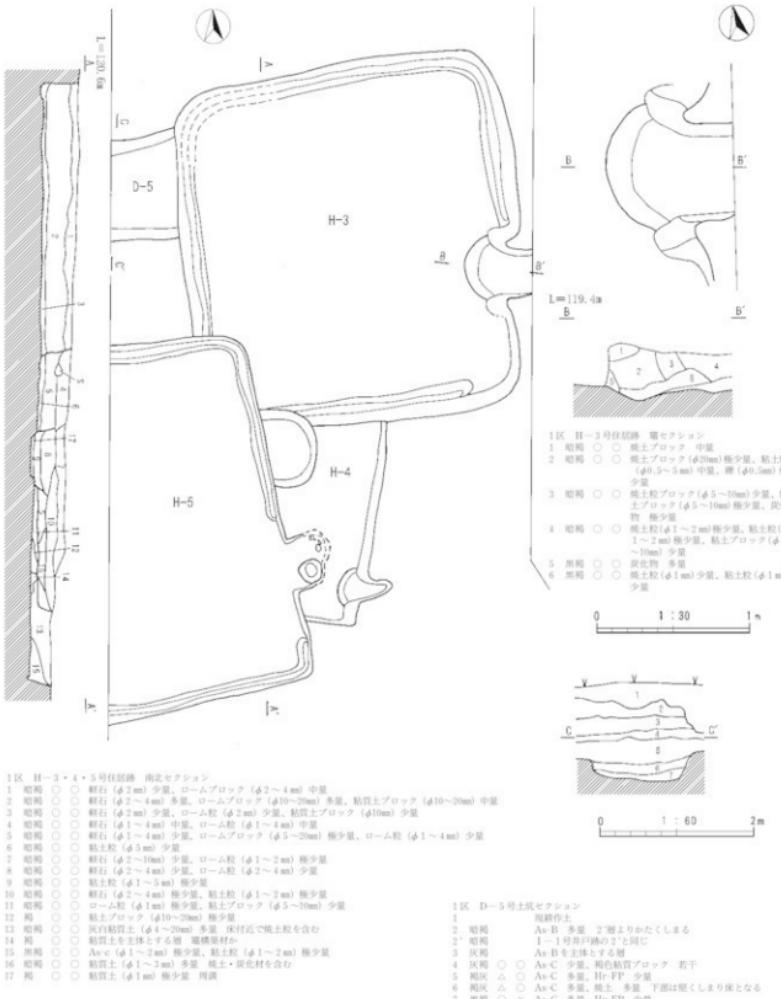


Fig. 55 元總社蒼海遺跡群 (33) 1区H-3～5号住居跡

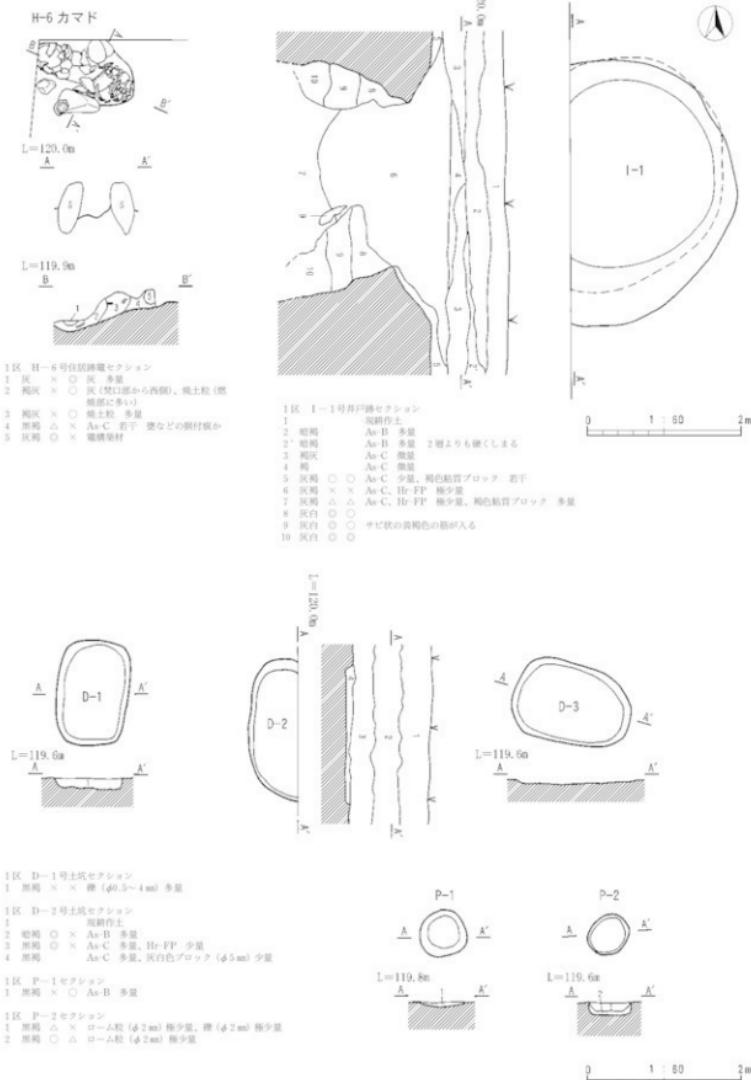


Fig. 56 元總社舊海遺跡群 (33) 1区H-6号窓穴住居跡、I-1号井戸跡、D-1～3号土坑、P-1号・2号ピット

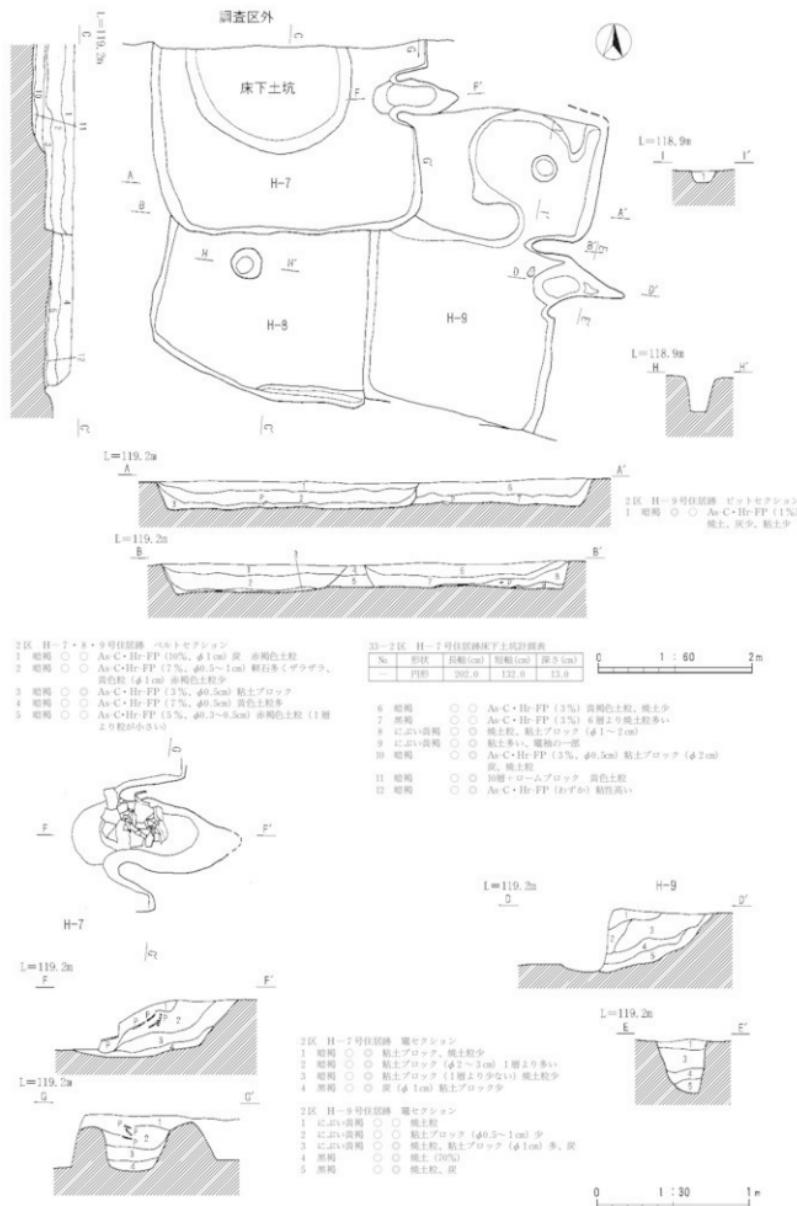


Fig. 57 元總社舊海遺跡群 (33) 2区H-7～9号住居跡

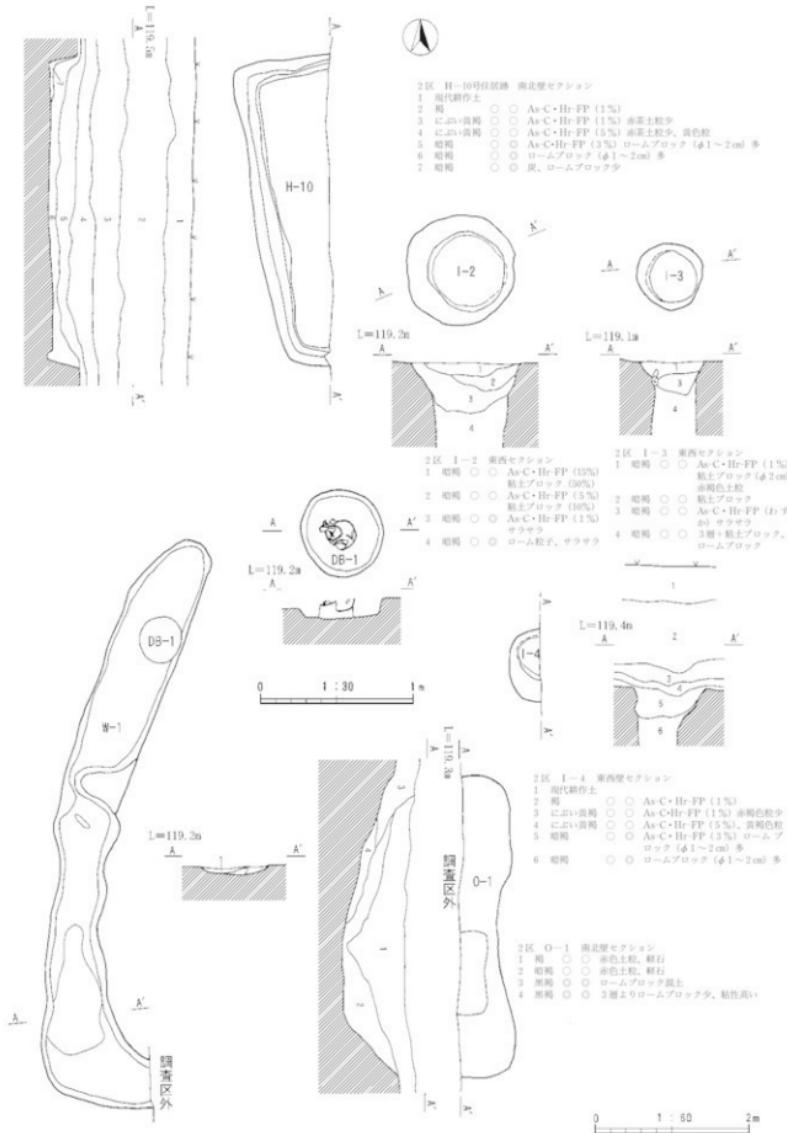


Fig. 58 元總社舊海跡群(33) 2区H-10号住居跡、I-1～4号井戸跡、W-1号溝跡、DB-1号土坑墓、O-1号落ち込み

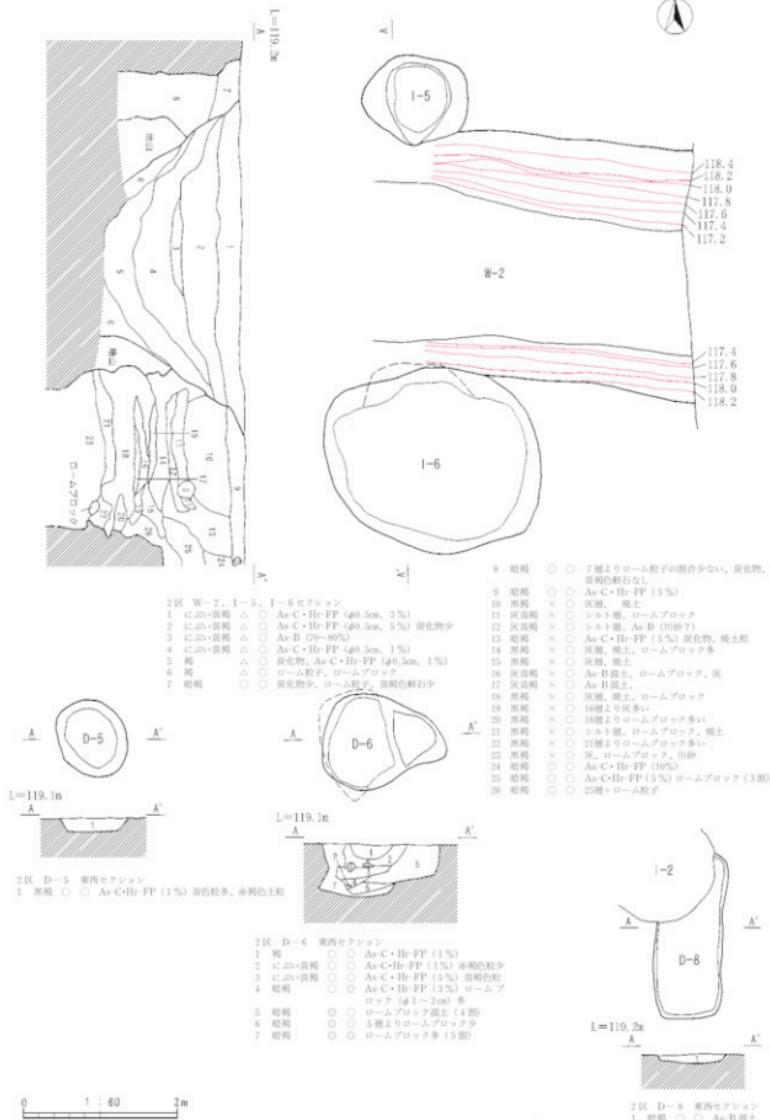


Fig. 59 元総社蒼海遺跡群 (33) 2区 I-5・6号井戸跡、W-2号溝跡、D-5・6・8号土坑

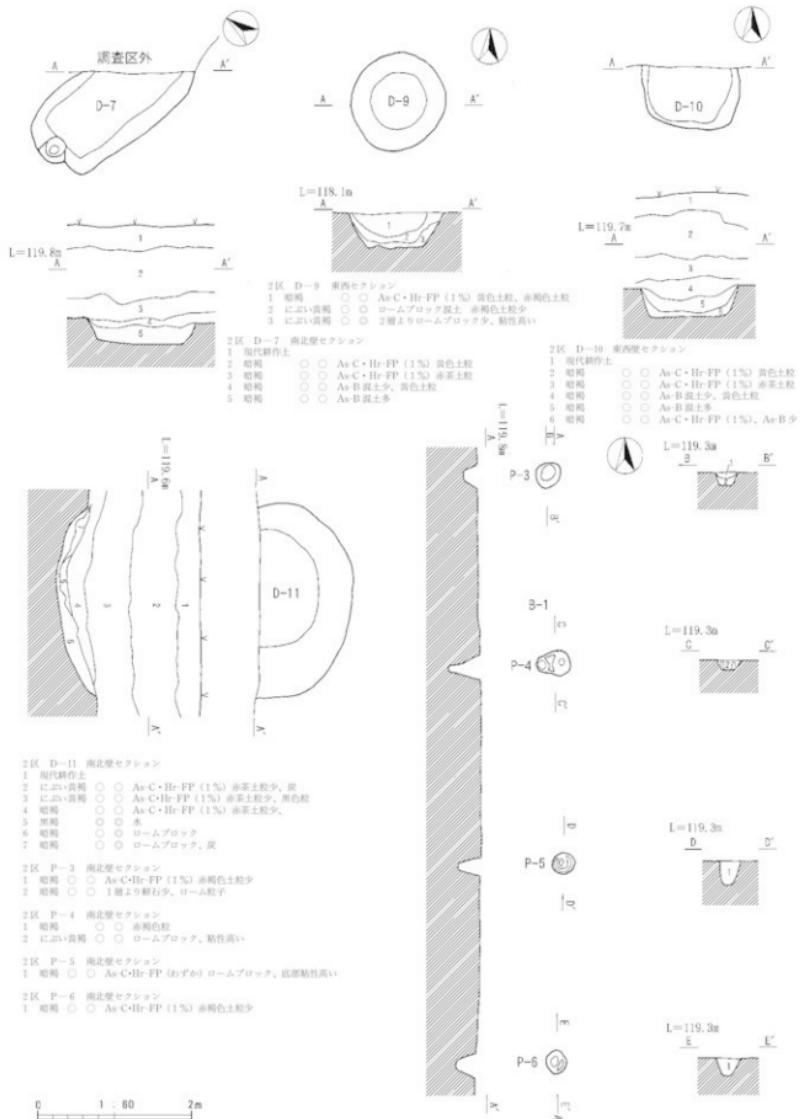


Fig. 60 元總社舊海道跡群 (33) 2区D-7・9～11号土坑、P-3～6号ピット

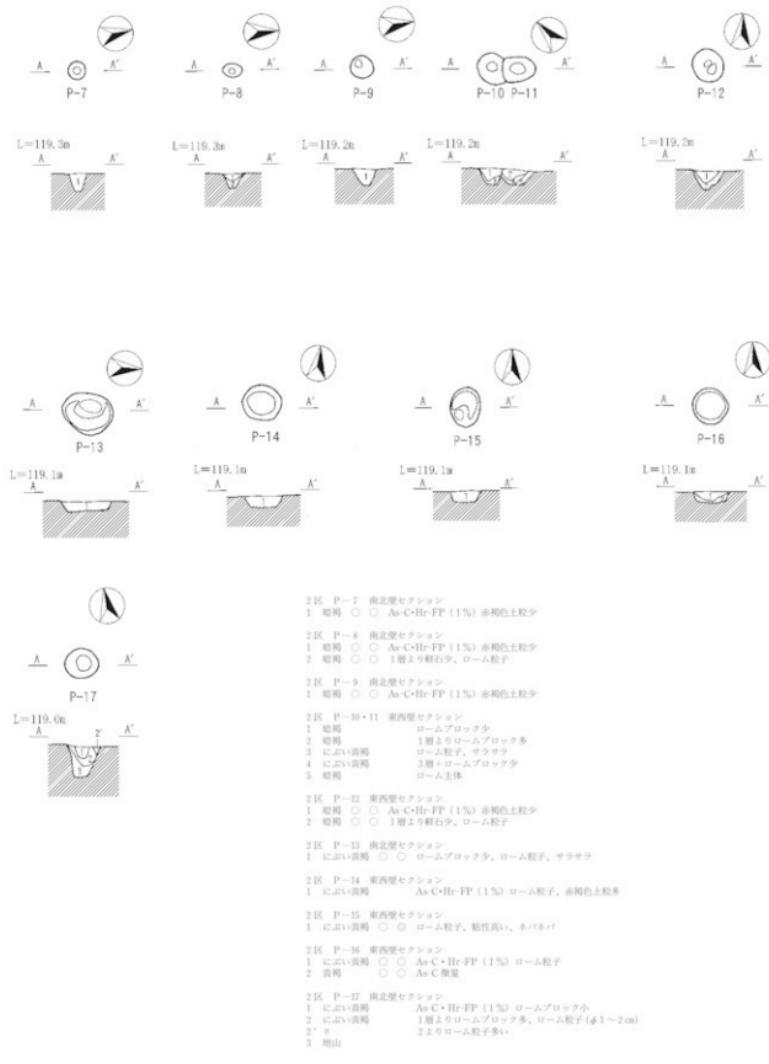


Fig. 61 元総社蒼海遺跡群 (33) 2区 P-7～17号ビット

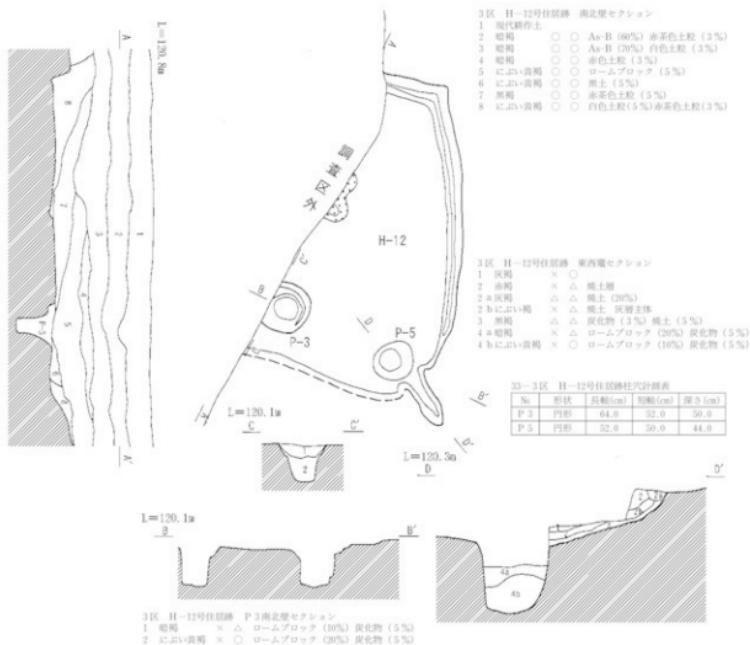
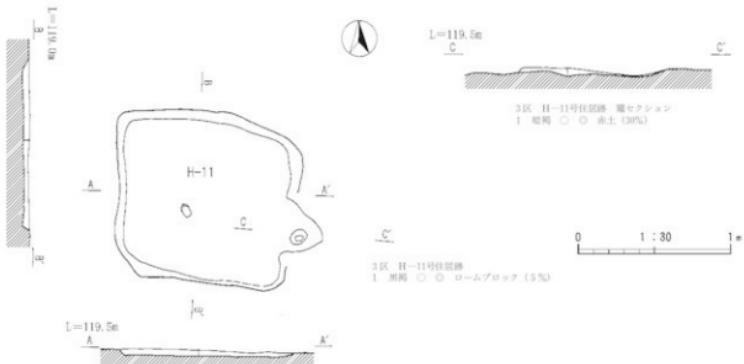
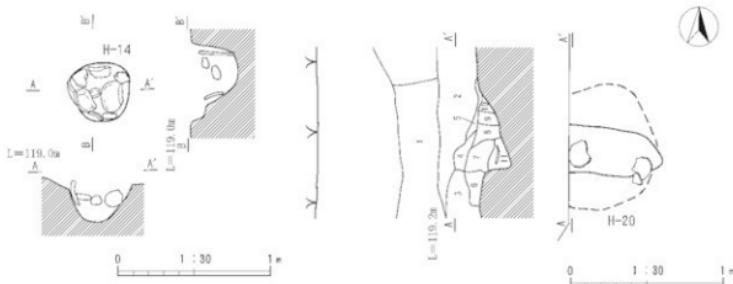
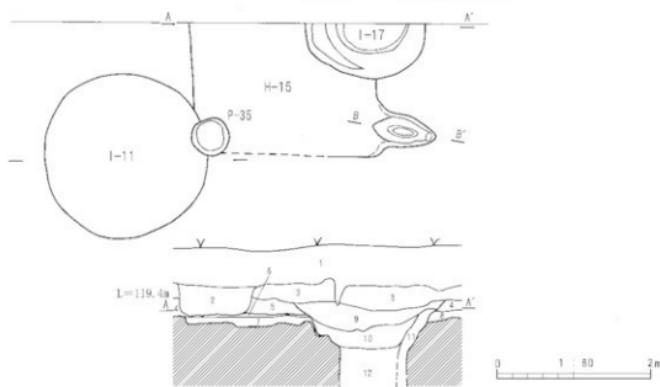


Fig. 62 元總社蒼海遺跡群 (33) 3区H-11・12号住居跡



3区 H-20号住居跡セクション

- 1 住居作土
- 2 灰面 As-Bを主体とする層
- 3 土面 As-B 多量 As-Cを含む
- 4 地下室 地上部 少量、灰白色粒、極少量
- 5 地下室 地上部 少量
- 6 灰面 地上部 多量(?)に近い、黒褐色の崩壊によるものか
- 7 土面 地上部 多量、灰土粒、極少量
- 8 灰面 下層は灰が多く入る 上層は灰土粒と灰白色粒が互換となる
- 9 灰面 離れ地とみなす
- 10 灰面 灰土粒若干
- 11 灰面 地上部と灰を主体とする層



3区 H-15号住居跡、I-4号井戸 東西セクション

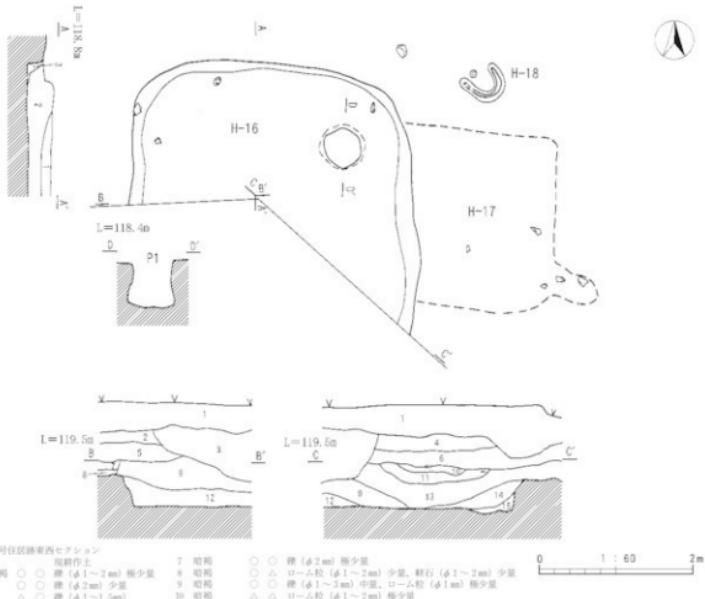
- 1 土面 △ △ As-C 多量
- 2 灰面 △ △ As-B 多量
- 3 地下室 △ △ As-C 多量、炭化材、少量
- 4 ぶさいき × × As-C 多量、ローム粒(φ0.5~1mm)多量、炭化材、少量
- 5 土面 × × As-C 少量、ローム粒(φ0.5~1mm)多量、炭化材、少量
- 6 黒面 H-15号住居跡の裏面
- 7 灰面 × × H-15号住居跡の裏面の方 ロームブロック(φ20~40mm)少量
- 8 土面 × × H-15号住居跡の裏面の方 ローム粒(φ1mm)を含む
- 9 灰面 × × As-Bを主体とする層
- 10 灰面 × × As-B 多量、ローム粒(φ2~5mm)多量
- 11 灰面 △ △ As-B 多量、ローム粒(φ2~5mm)多量
- 12 ぶさいき × ○ As-B 少量

3区 H-15号住居跡セクション

- 1 地下室 ○ ○ 灰褐色(φ4mm) 極少量、灰若干(TBD)
- 2 灰面 × × ローム土(φ2mm)
- 3 灰面 △ ○ 灰褐色(φ1mm) 少量
- 4 地下室 灰褐色(φ4mm) 少量(1層よりも多い)、炭化材、極少量、ローム粒、極少量

0 1 30 1m

Fig. 63 元總社蒼海遺跡群 (33) 3区H-15・20号住居跡、



3区 H-16号住居跡東西セクション
1 黒粘土 (黑) 2 黄褐色 (黄褐色) 3 黑 (黑)
4 黄褐色 (黄褐色) 5 黄褐色 (黄褐色) 6 黑 (黑)
7 黑 (黑) 8 黄褐色 (黄褐色) 9 黑 (黑)
10 黄褐色 (黄褐色) 11 黄褐色 (黄褐色) 12 黄褐色 (黄褐色)
13 黄褐色 (黄褐色) 14 黄褐色 (黄褐色) 15 黑 (黑)

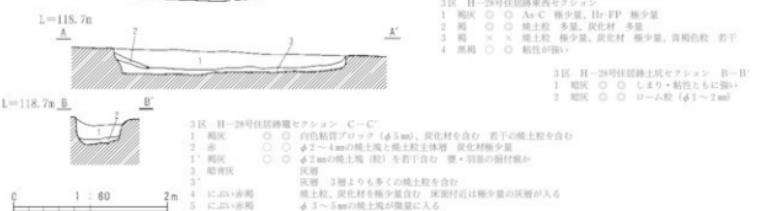


Fig. 64 元總社蒼海遺跡群 (33) 3区H-16~18・28号住居跡

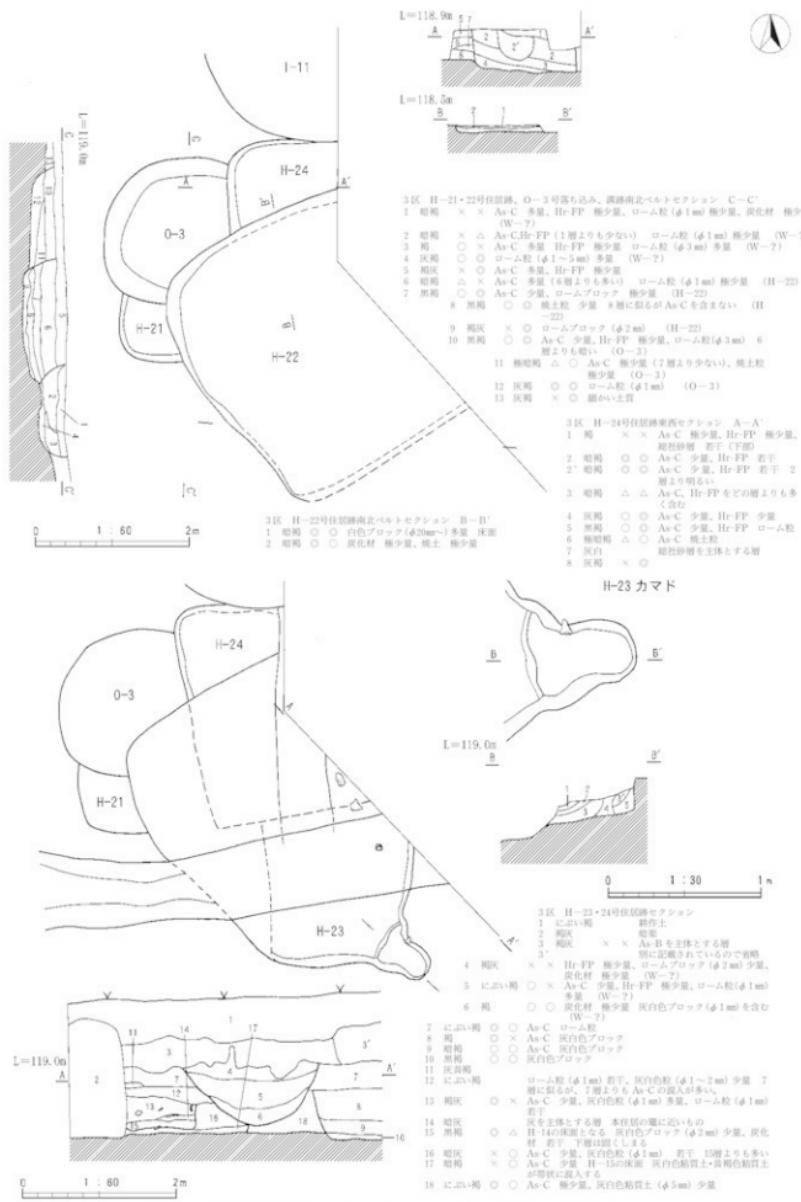


Fig. 65 元總社蒼海遺跡群 (33) 3区H-21~24号住居跡、O-3号落ち込み

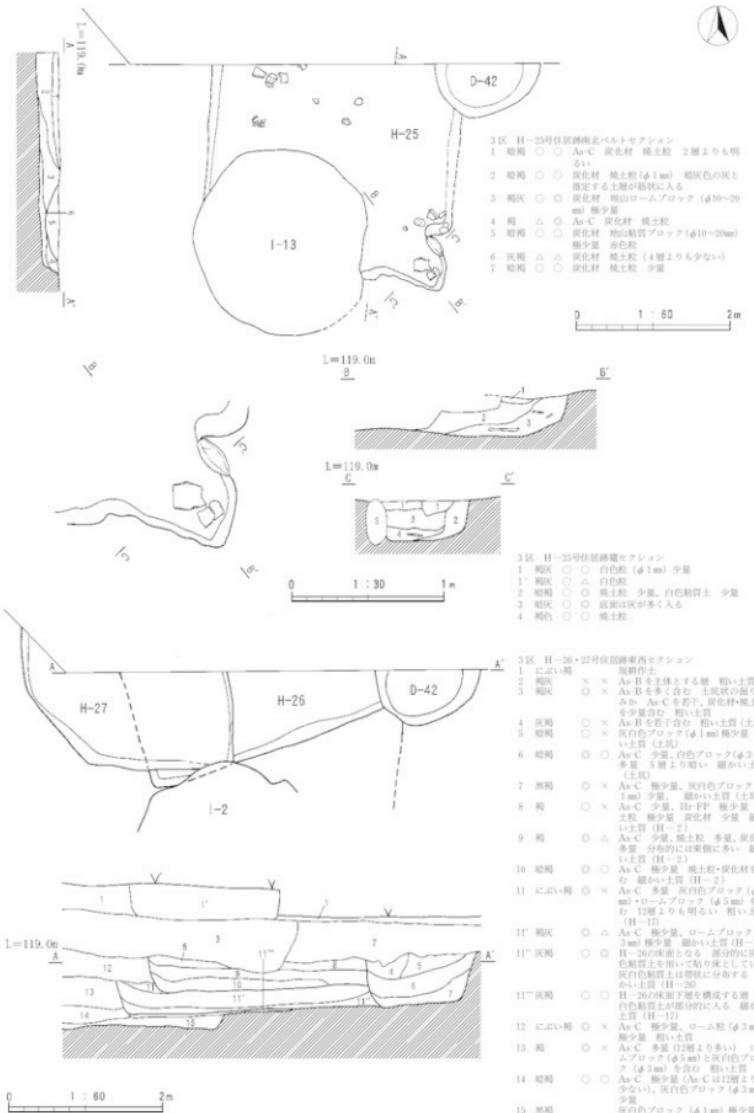


Fig. 66 元總社蒼海遺跡群 (33) 3区H-25~27号住居跡、D-42号土坑

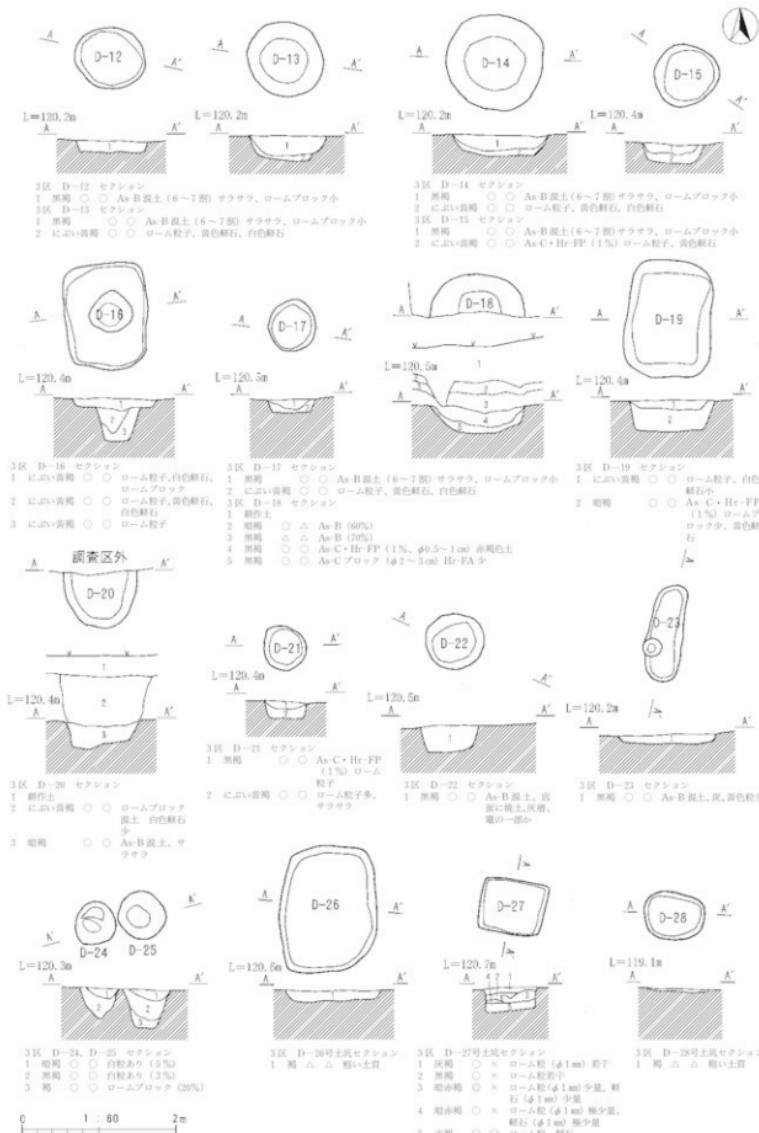


Fig. 67 元総社蒼海遺跡群(33) 3区D-12~28号土坑

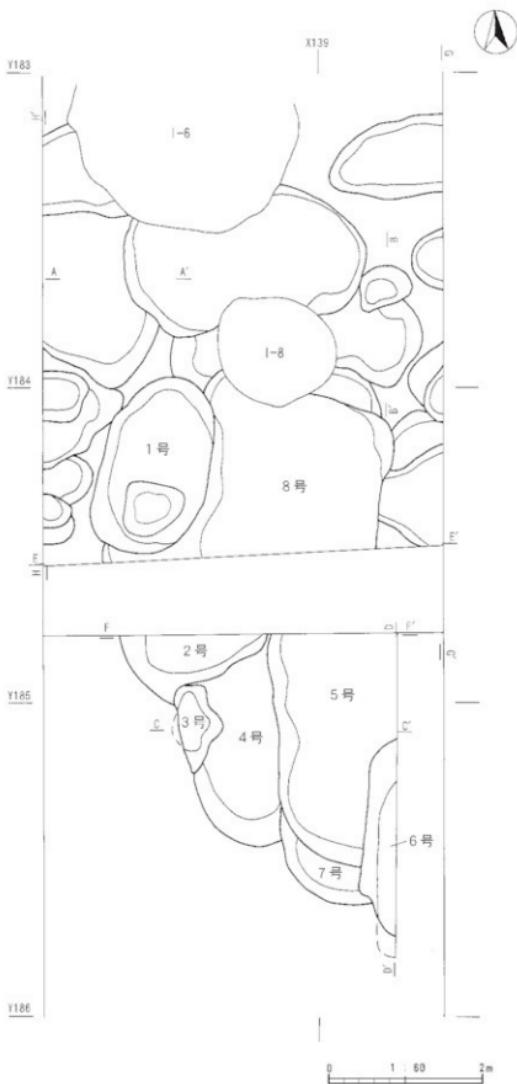


Fig. 68 (A) 元總社蒼海道路群 (33) 3区粘土探掘坑

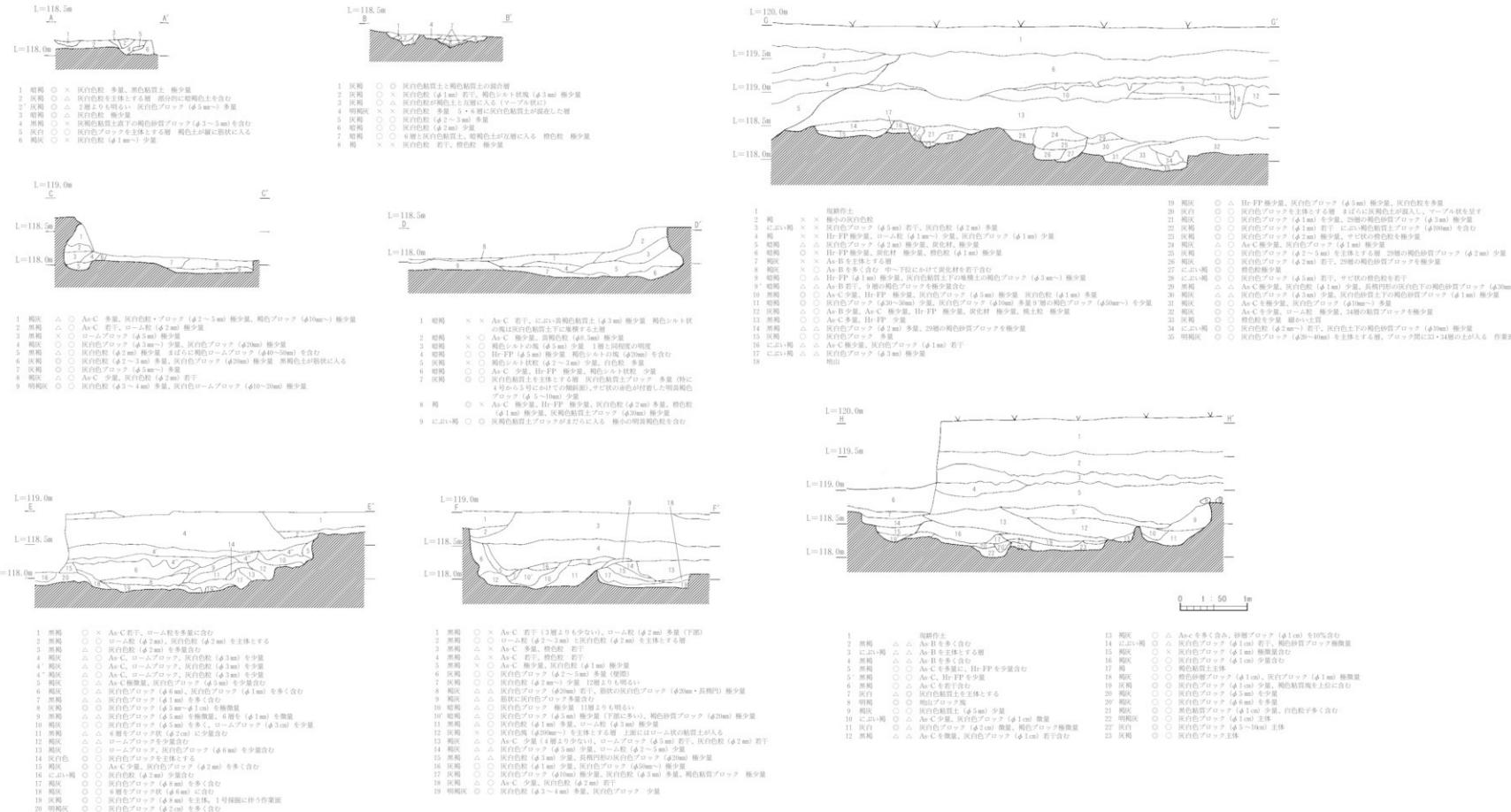


Fig. 68 (B) 元總社蒼海遺跡群 (33) 3区粘土採掘坑

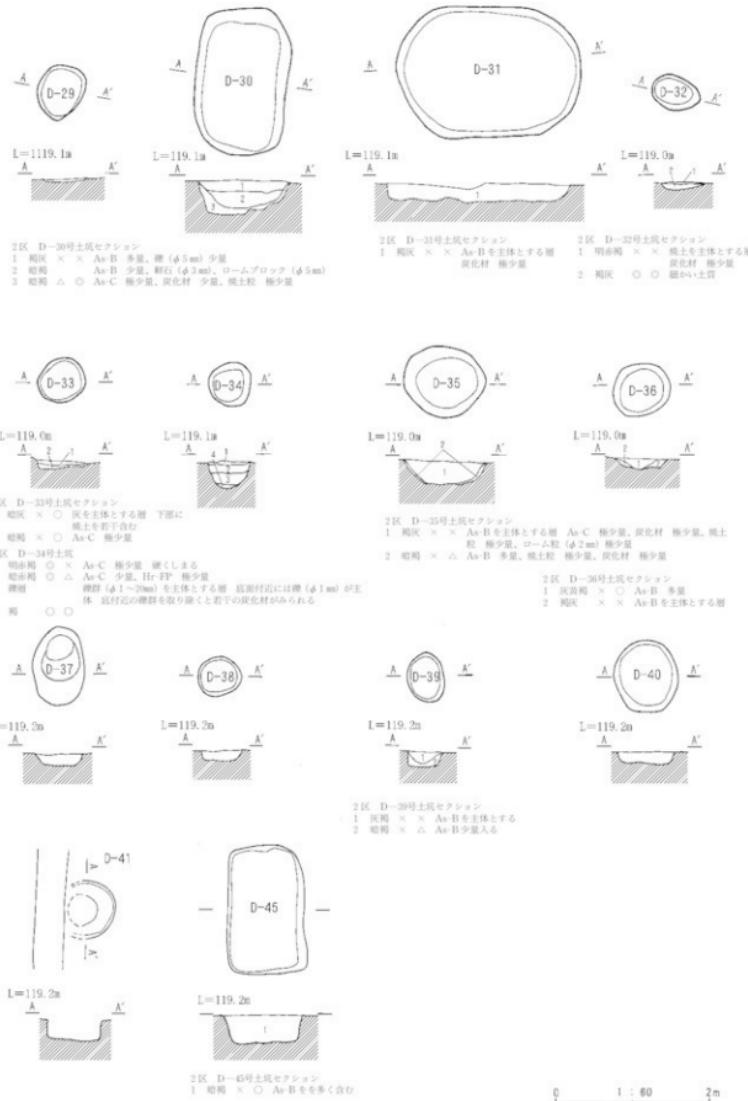
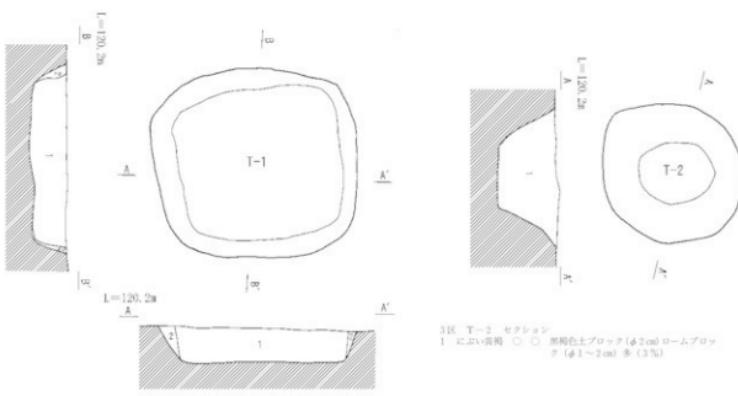
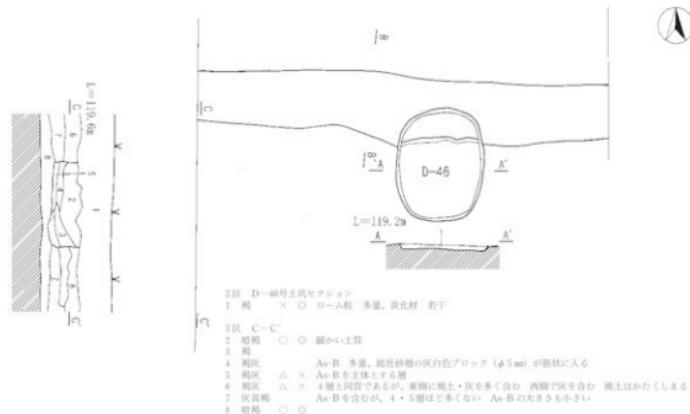


Fig. 69 元總社蒼海遺跡群 (33) 3区D-29~41・45号土坑



1 : 60 2m

Fig. 70 元總社舊海道跡群 (33) 3区D-46号土坑、T-1・2号竪穴状遺構

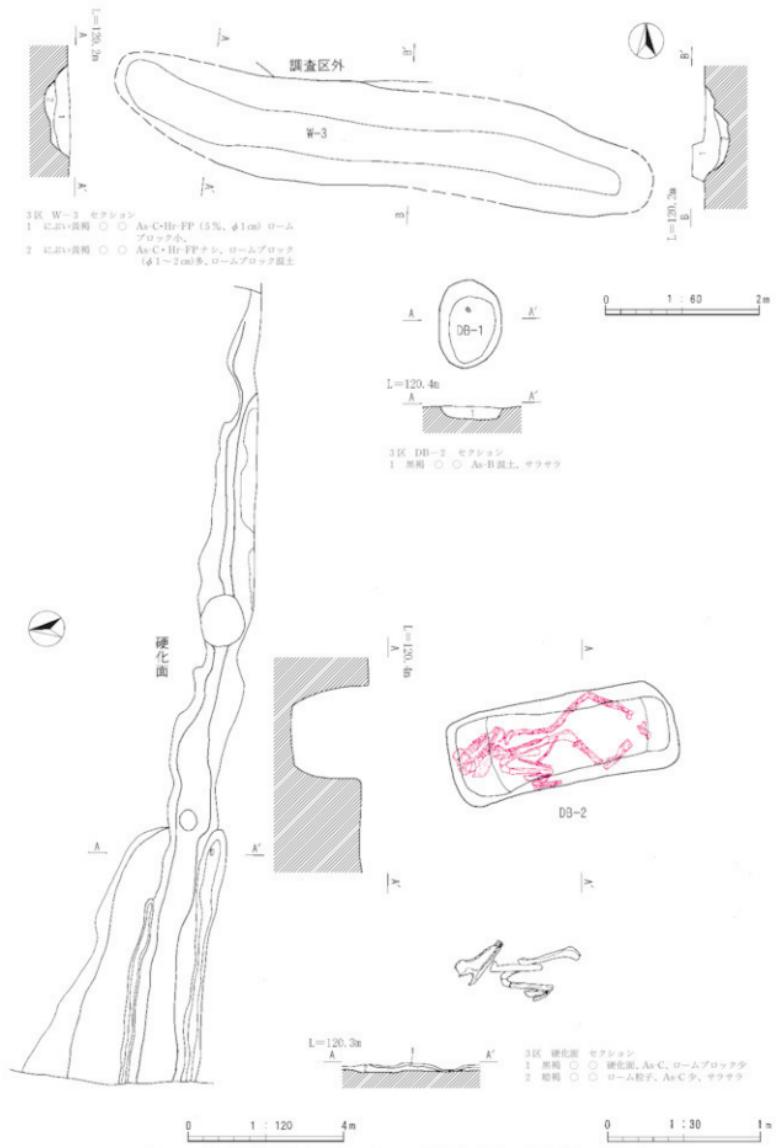


Fig. 71 元總社蒼海道路群(33) 3区W-3号溝跡、DB-2号土坑墓、硬化面

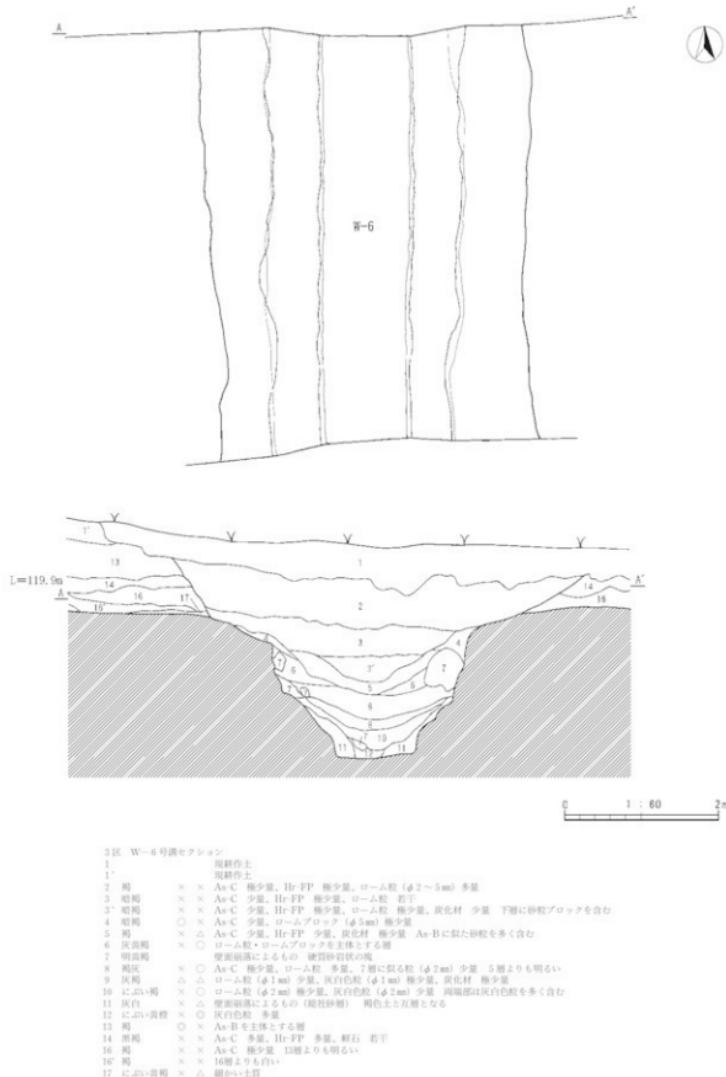


Fig. 72 元總社蒼海遺跡群 (33) 3区W-6号溝跡

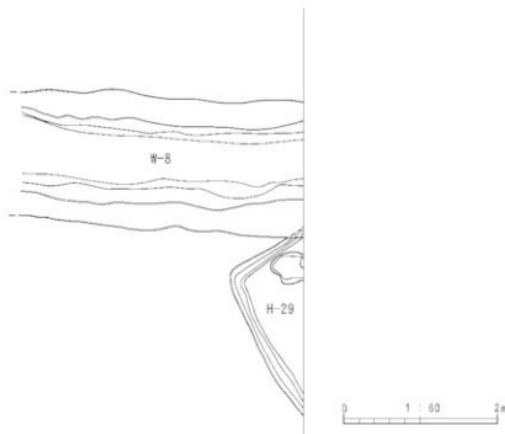
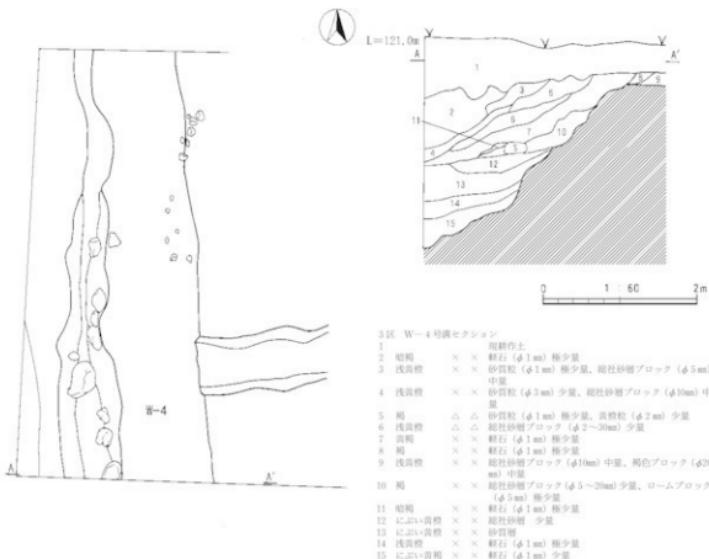
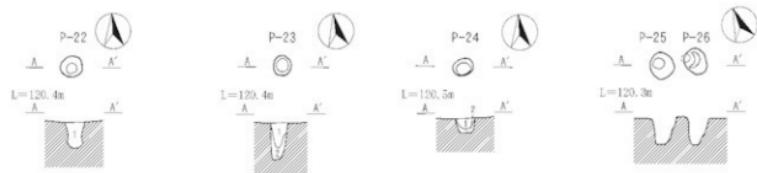
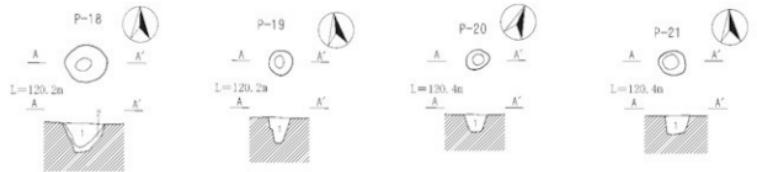


Fig. 73 元總社蒼海遺跡群 (33) 3区H-29号住居跡、W-4・8号溝跡



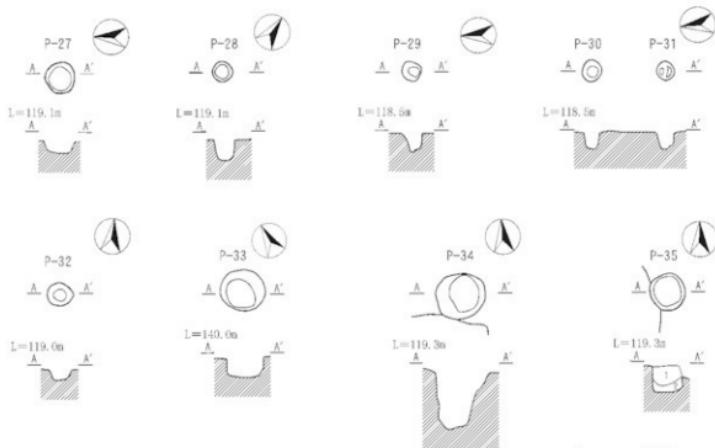
- 3区 P-18 セクション
1 黒褐 〇 ○ As-B 泥土 (6~7層) サラサラ、ロームブロック小
2 にいわ青褐 〇 ○ ローム粒子、サラサラ。黄色解石少
- 3区 P-19 セクション
1 黑褐 〇 ○ As-B 泥土 (6~7層) サラサラ、ロームブロック小
- 3区 P-20 セクション
1 にいわ青褐 〇 ○ ローム粒子、白色解石、黄色解石少
- 3区 P-21 セクション
1 黑褐 〇 ○ As-B 泥土 (6~7層) サラサラ、ロームブロック小

- 3区 P-22 セクション
1 黒褐 〇 ○ As-B 泥土 (6~7層) サラサラ、ロームブロック少

- 3区 P-23 セクション
1 にいわ青褐 〇 ○ ローム粒子、白色解石、黄色解石少
2 黑褐 〇 ○ As-C-Hr-FP (1%) 黄色解石少

- 3区 P-24 セクション
1 にいわ青褐 〇 ○ ローム粒子、白色解石、黄色解石少
2 にいわ青褐 〇 ○ ローム粒子、白色解石、黄色解石少

- 3区 P-25 セクション
1 にいわ青褐 〇 ○ ローム粒子、白色解石、黄色解石少
2 黑褐 〇 ○ As-C-Hr-FP (1%) 黄色解石少



0 1 60 2m

Fig. 74 元總社舊海遺跡群 (33) 3区 P-18~35号ピット

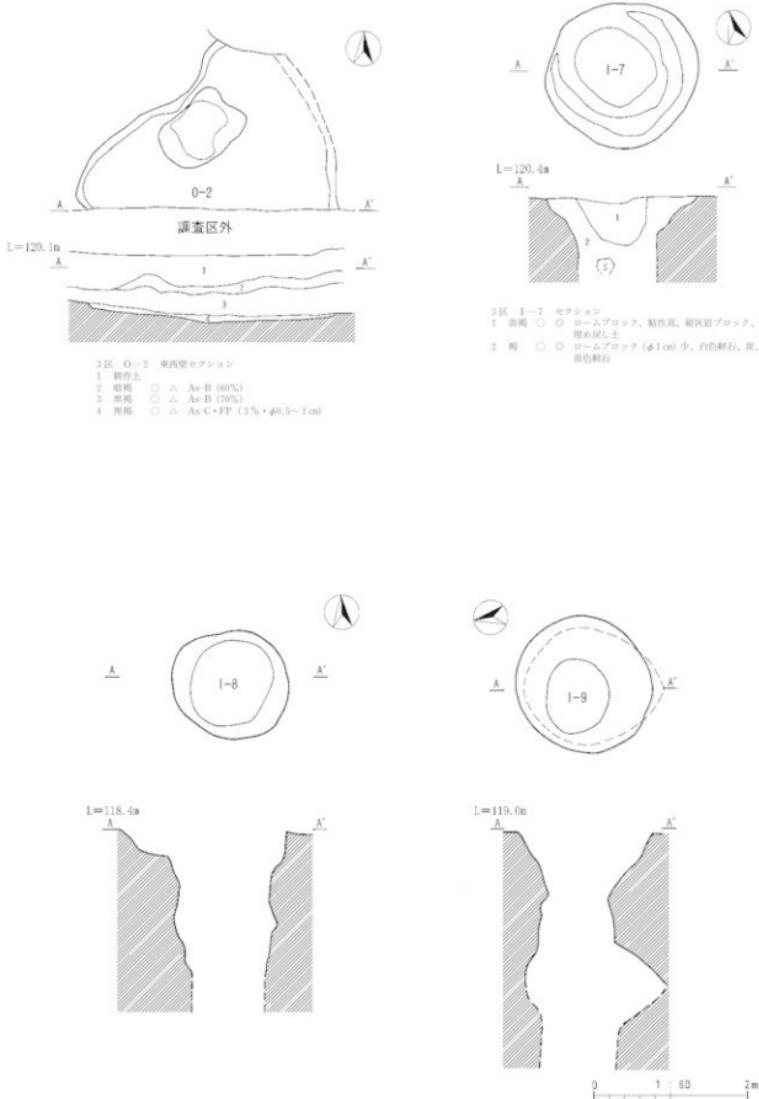


Fig. 75 元總社舊海道跡群 (33) 3区O-2号落ち込み、I-7～9号井戸跡

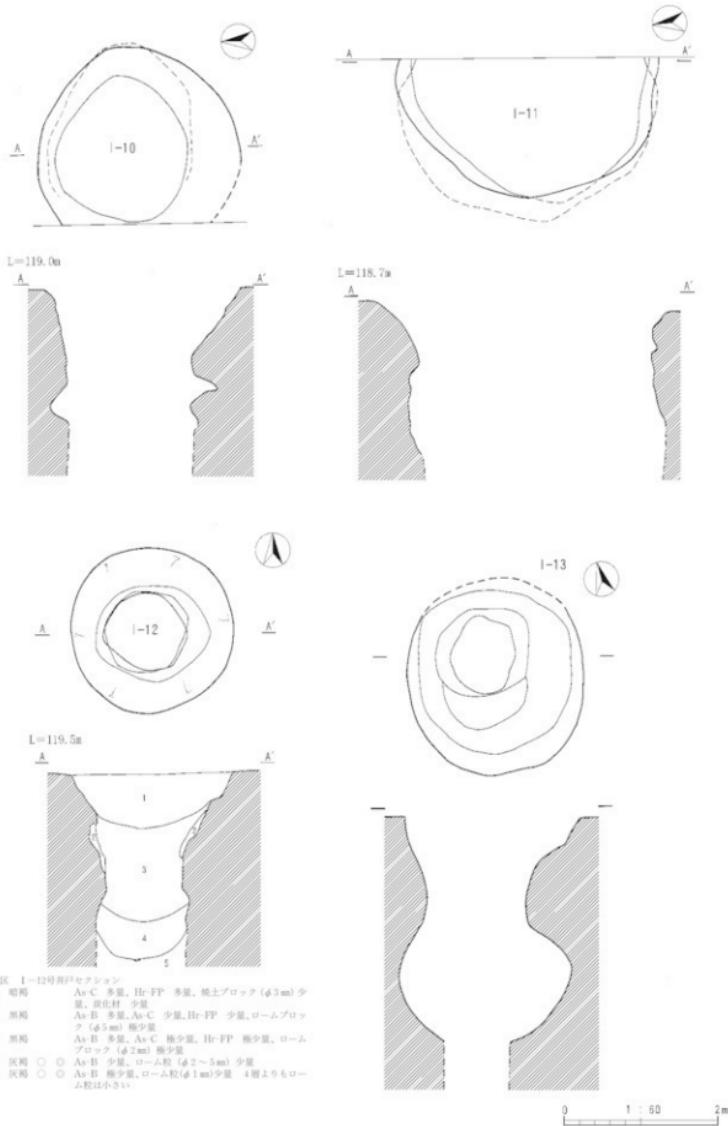


Fig. 76 元總社蒼海遺跡群 (33) 3区 I-10~13号井戸跡

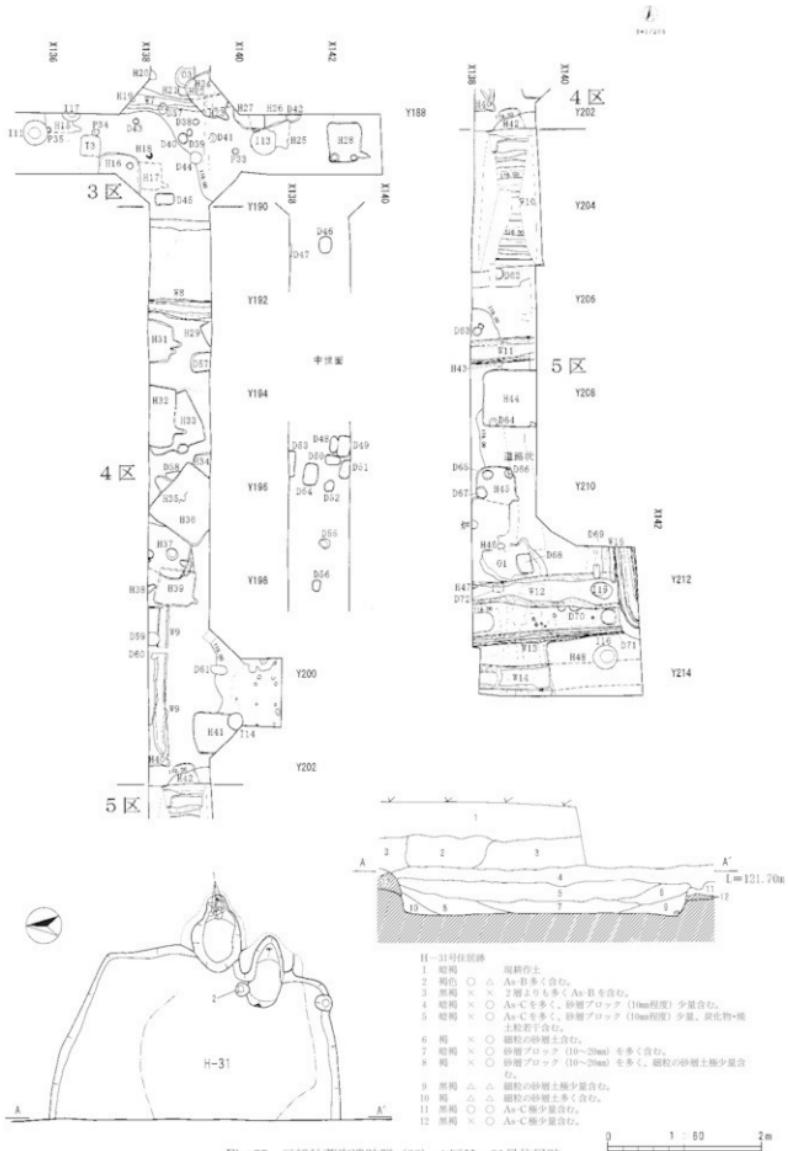


Fig. 77 元總社蒼海遺跡群 (33) 4区H-31号住居跡

H-31・カマド

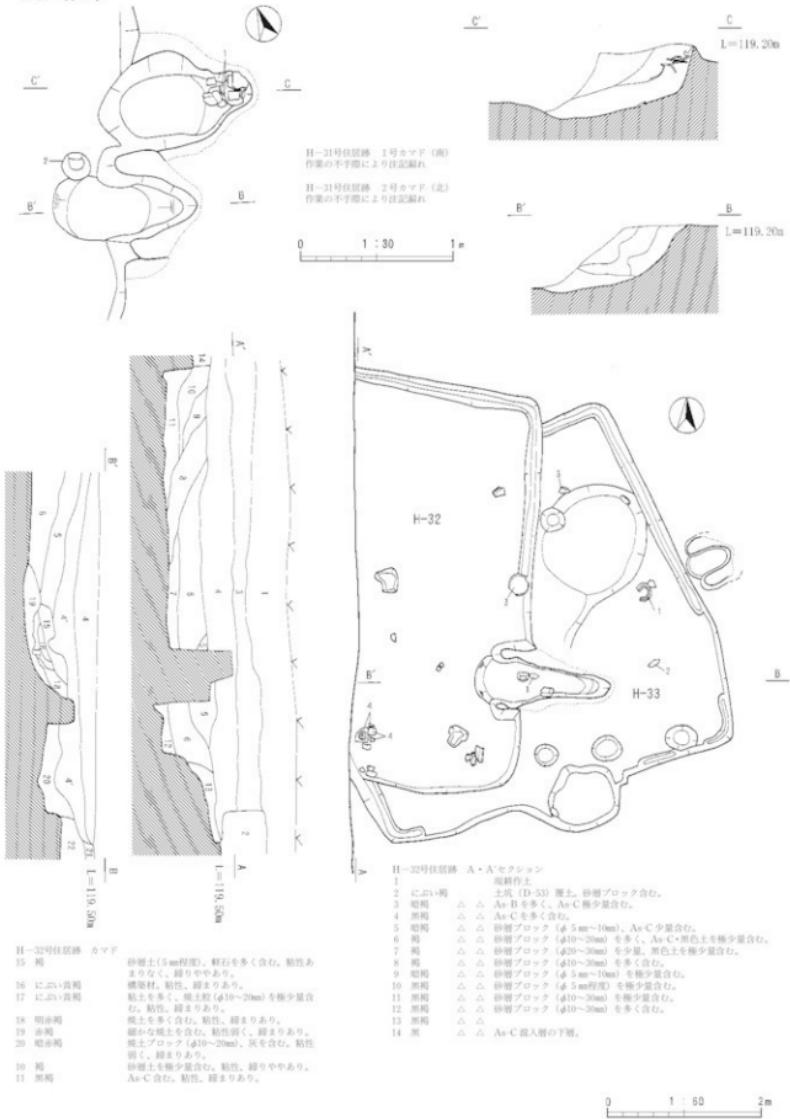
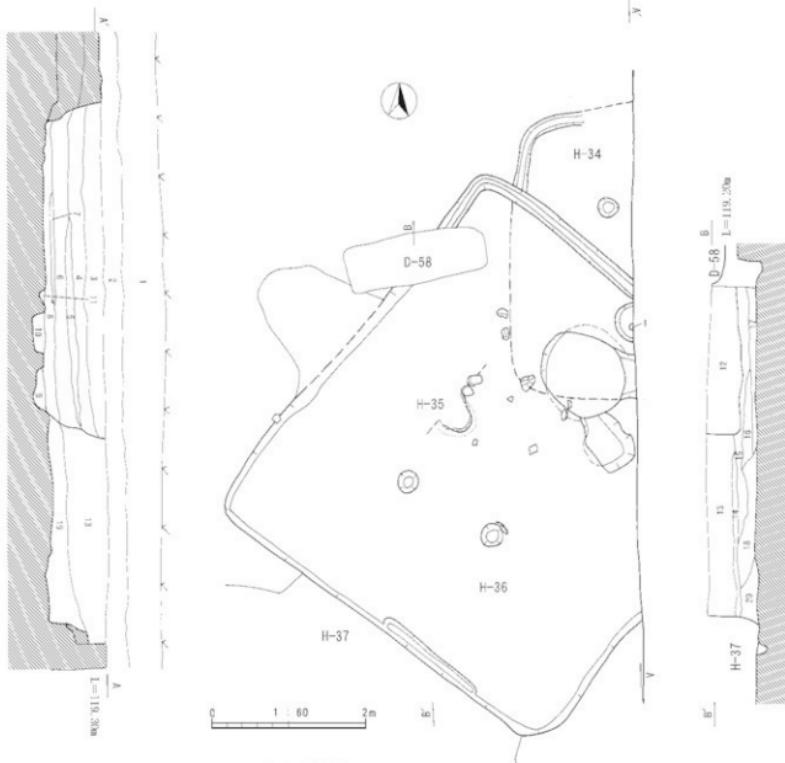


Fig. 78 元總社舊海遺跡群 (33) 4区H-31~33号住居跡

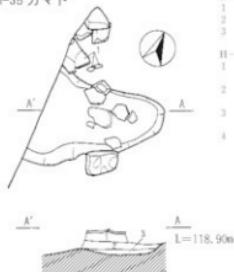


H-35カマド



Fig. 79 元總社舊海遺跡群 (33) 4区H-34～36号住居跡

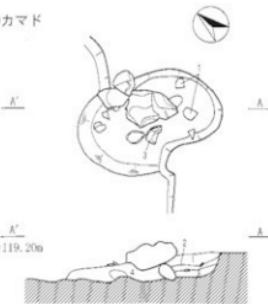
H-38 カマド



H-38号住居跡 カマド
1 煙突開口 × ○ 鋸かれた粘土ブロックを複数量含む。
2 煙突開口 × × 黒い鋸かれた粘土を多く含む。
3 煙突開口 × ○ きの細孔。

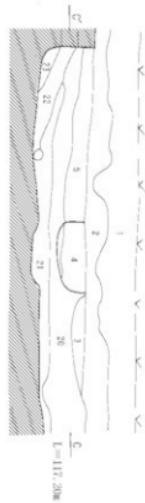
H-39号住居跡 カマド
1 煙突開口 × ○ 鋸かれた粘土ブロックを含む。縁まりなし。
2 赤 × × 黒を含み、さらさらしている。縁まりなし。粘性なし。
3 煙突開口 × × さらさらしている。縁まりなし。粘性なし。
4 砂層ブロック

H-39カマド



L=119.20m

0 1 : 30 1



H-37・38号住居跡

- 現代の耕作土。
- 黒 土 As-C を多く含む。粘性、縁まりややあり。
- 黒 土 As-C を少含む。粘性、縁まりややあり。
- 黒 土 As-C を少含む。粘性、縁まりややあり。下部にIC、灰岩物質多く含む。
- 昭和 土 As-C を少含む。粘性、縁まりややあり。
- 昭和 土 As-C を少含む。砂層ブロック(40~20cm)を含む。粘性、縁まりややあり。
- 黒 土 As-C を少含む。砂層ブロック(40~20cm)を含む。粘性、縁まりややあり。
- 黒 土 砂層ブロック(40~20cm)を多く、As-C を少含む。粘性、縁まりややあり。
- 黄褐色 土 As-C を少含む。粘性、縁まりややあり。
- 昭和 土 As-C を少含む。粘性、縁まりややあり。
- 昭和 土 As-C を少含む。粘性、縁まりややあり。
- 昭和 土 砂層ブロック(1cm程度)を少量5%含む。粘性ややあり。縁まりなし。
- 黒 土 土と砂層ブロック(1cm程度)を極少含む。As-C を少含む。粘性、縁まりややあり。
- 黒 土 As-C、砂層ブロック(1cm程度)を少量含む。粘性なし。
- 黒 土 黑色土を量5%含む。粘性ややあり。縁まりなし。
- 黒 土 粘性ややあり。さらさらしているが強く縁まる。住居の床面

Fig. 80 元總社舊海遺跡群 (33) 4区H-37~39号住居跡

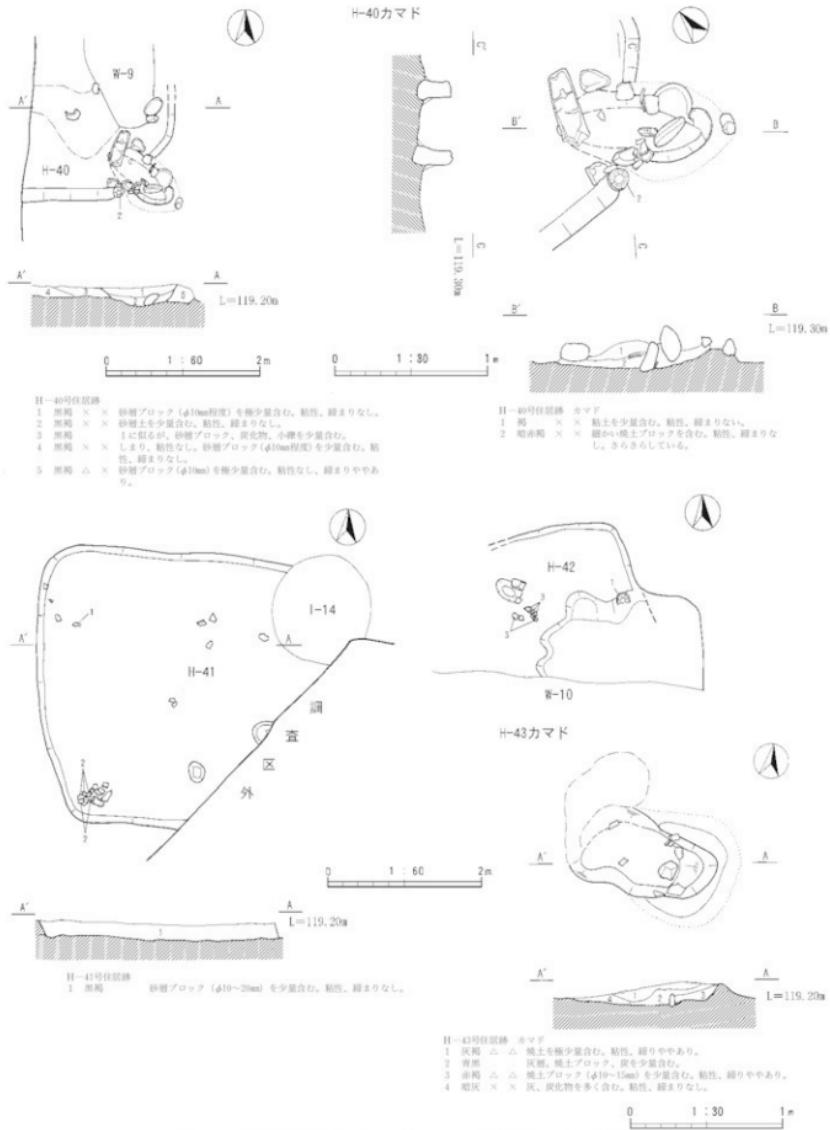


Fig. 81 元總社蒼海遺跡群 (33) 4 区H-40~42号住居跡、5 区43号住居跡

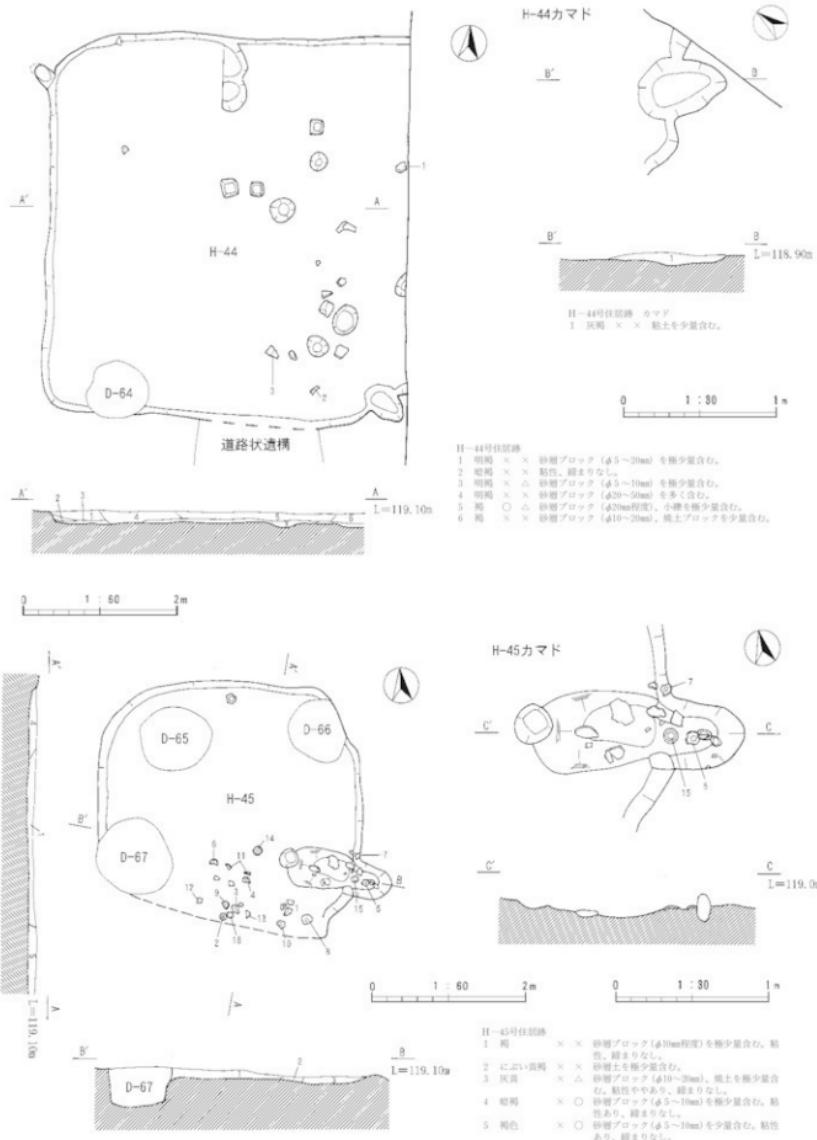
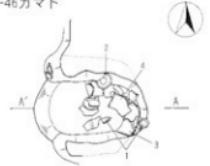
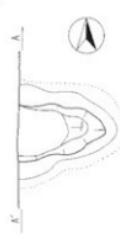


Fig. 82 元總社舊海道跡群 (33) 5区H-44・45号住居跡

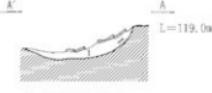
H-46カマド



H-47カマド



H-47号住居跡



H-46号住居跡 カマド
1 灰褐色 粘土を少量含む。

0 1 : 30 1m

- H-47号住居跡 カマド
1 明褐色 ○ ○ 槌土ブロックを極少量含む。粘性、締まりあり。
2 明褐色 ○ ○ 槌土ブロックを極少量含む。粘性強く、締まりあり。
3 灰褐色 ○ × 槌土ブロックを多く含む。締まりなし。
4 灰褐色 ○ × 槌土ブロックを多く含む。締まりなし。
5 灰褐色 ○ × 槌土ブロックを極少量含む。
6 灰褐色 ○ × 槌土ブロックを多く含む。締まりなし。
7 明褐色 × × 粘性、締まりなし。
8 灰褐色 × × 灰を多量に含むが、灰を少量含む。
9 明褐色 ○ × 槌土ブロック、灰を少量含む。

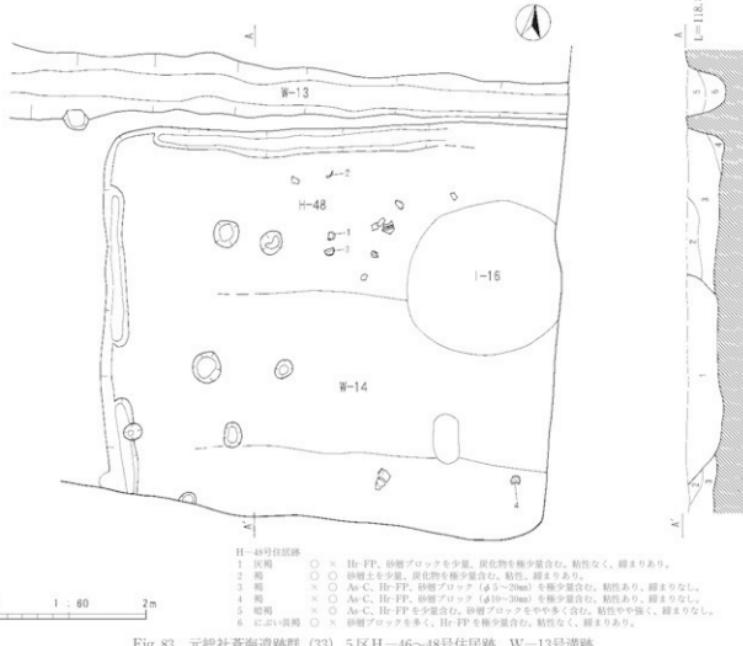
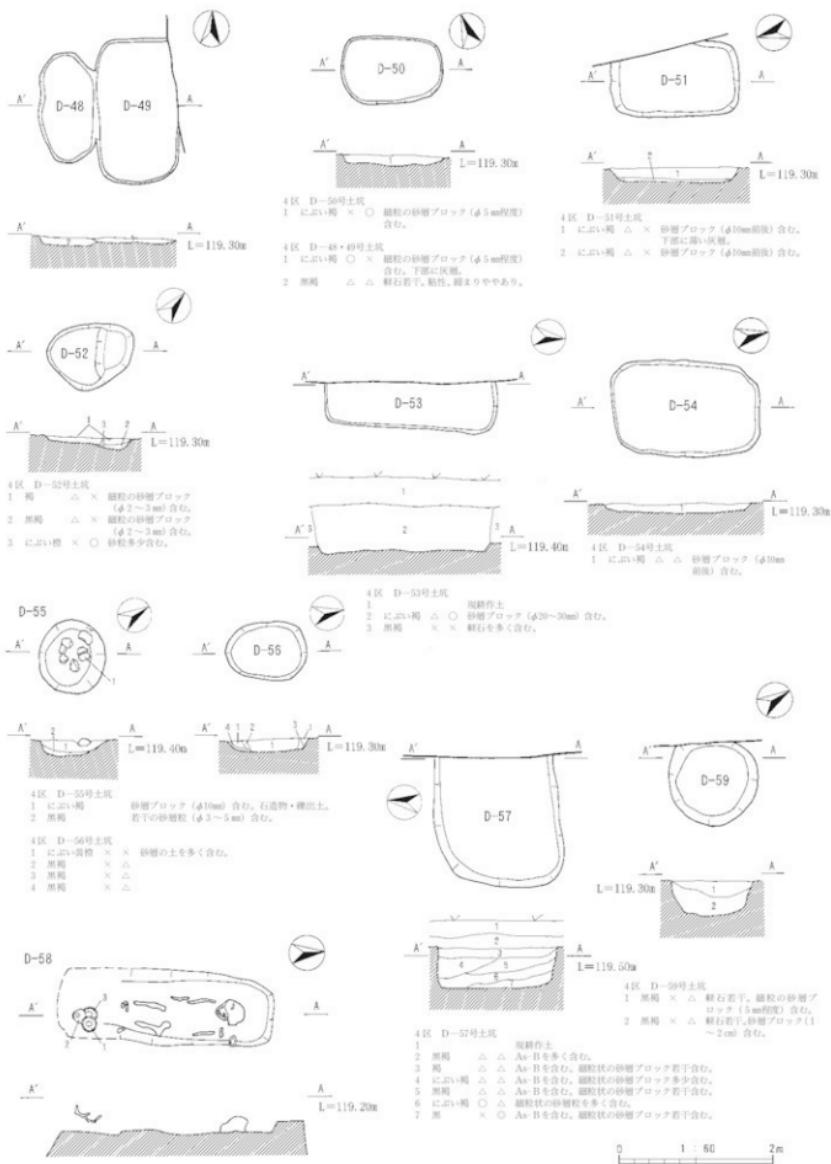
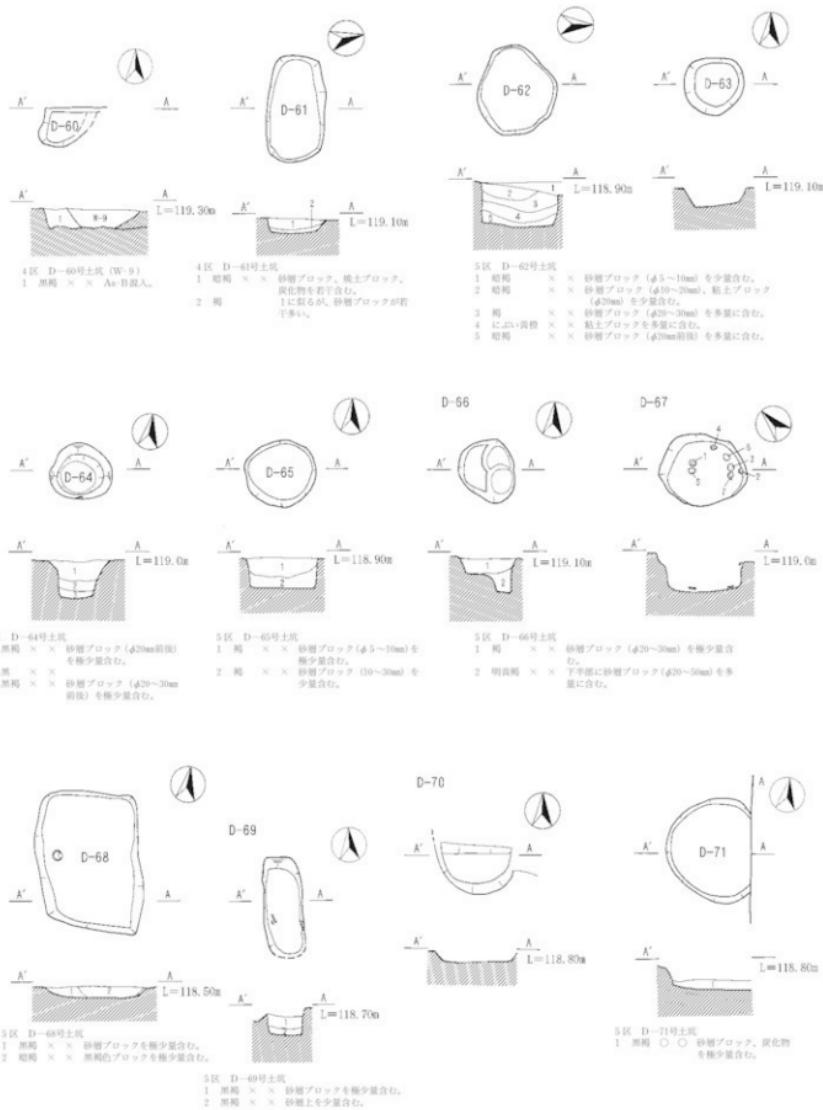
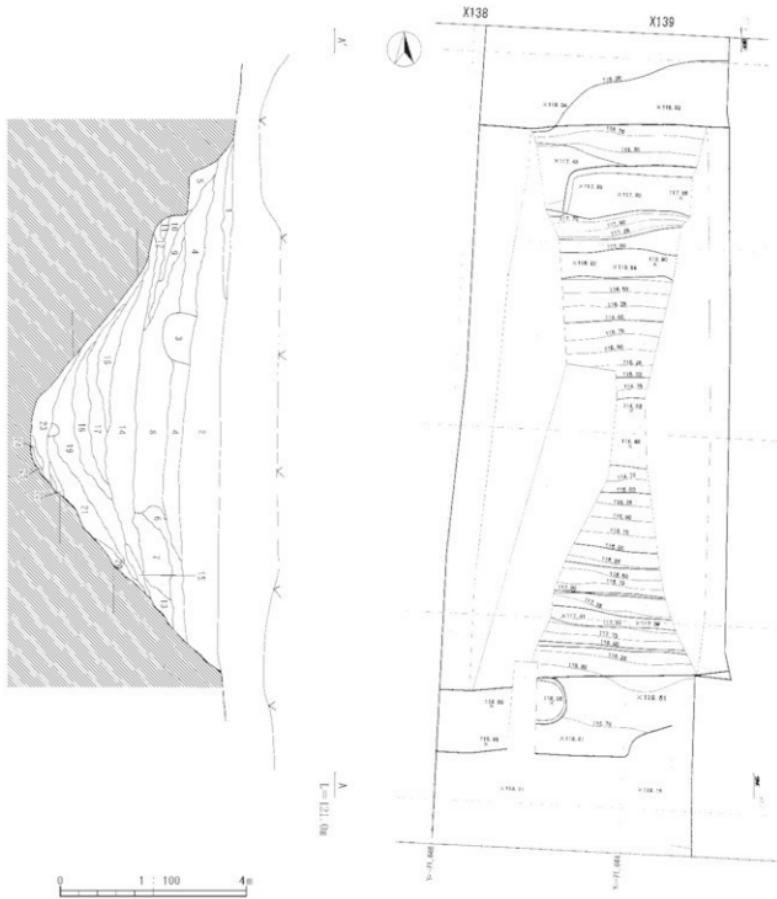


Fig. 83 元總社蒼海遺跡群 (33) 5区H-46~48号住居跡、W-13号溝跡







- 5区 W-10号溝跡
- 1 にじい層 ○ × ϕ 1cmの白色ブロックを多く含む。
 - 2 灰褐色 ○ × ϕ 3mmの塊を少量、ロームブロックを微量に含む。
 - 3 灰褐色 ○ × ϕ 4mmの白色ブロック、ロームブロックを微量に含む。
 - 4 灰褐色 ○ ○ ϕ 1mmの白色ブロック、ロームブロックを若干含む。
 - 5 灰青褐色 ○ ○ ϕ 1mmの白色ブロック、ロームブロックを若干含む。
 - 6 紙 ○ ○ 白色粘土、ロームブロックを若干含む。
 - 7 紙 ○ ○ 白色粘土、ロームブロックを微量に含む。
 - 8 灰青褐色 ○ ○ ロームブロックを若干含む。
 - 9 細弱層 ○ ○ ϕ 1mmのロームブロックを微量に含む。
 - 10 黑褐色 ○ ○ ϕ 1mmのロームブロックを微量に含む。
 - 11 黑褐色 × × ϕ 1mmのロームブロックを微量に含む。
 - 12 紙 ○ ○ ϕ 1mmのロームブロックを微量に含む。
 - 13 にじい層 ○ × 白色ブロックを多く含む。
- 14 紙 × × 白色ブロック、ロームブロック。炭化材を微量に含む。
- 15 黒褐色 ○ ○ ロームブロックを少量含む。
- 16 にじい層 × ○ ロームブロックを少量含む。
- 17 紙 ○ ○ 白色粘土、ロームブロックを微量に含む。
- 18 灰青褐色 ○ ○ 白色粘土、ロームブロックを少量含む。
- 19 紙層 △ ○ 白色粘土、ローム粘土を多く含む。
- 20 灰白 ○ ○ 白色粘土性土(表面崩落土)。
- 21 灰褐色 ○ ○ 白色ブロック、ロームブロック微量。炭化材多く含む。
- 22 灰褐色 ○ ○ ロームブロックを多く含む。
- 23 灰褐色 ○ ○ 粘土子礫を多く含む。
- 24 紙層 ○ ○ 白色粘土を少量含む。
- 25 紙層 ○ ○ 粘土子礫を多く含む。

Fig. 86 元總社蒼海遺跡群 (33) 5区W-10号溝跡

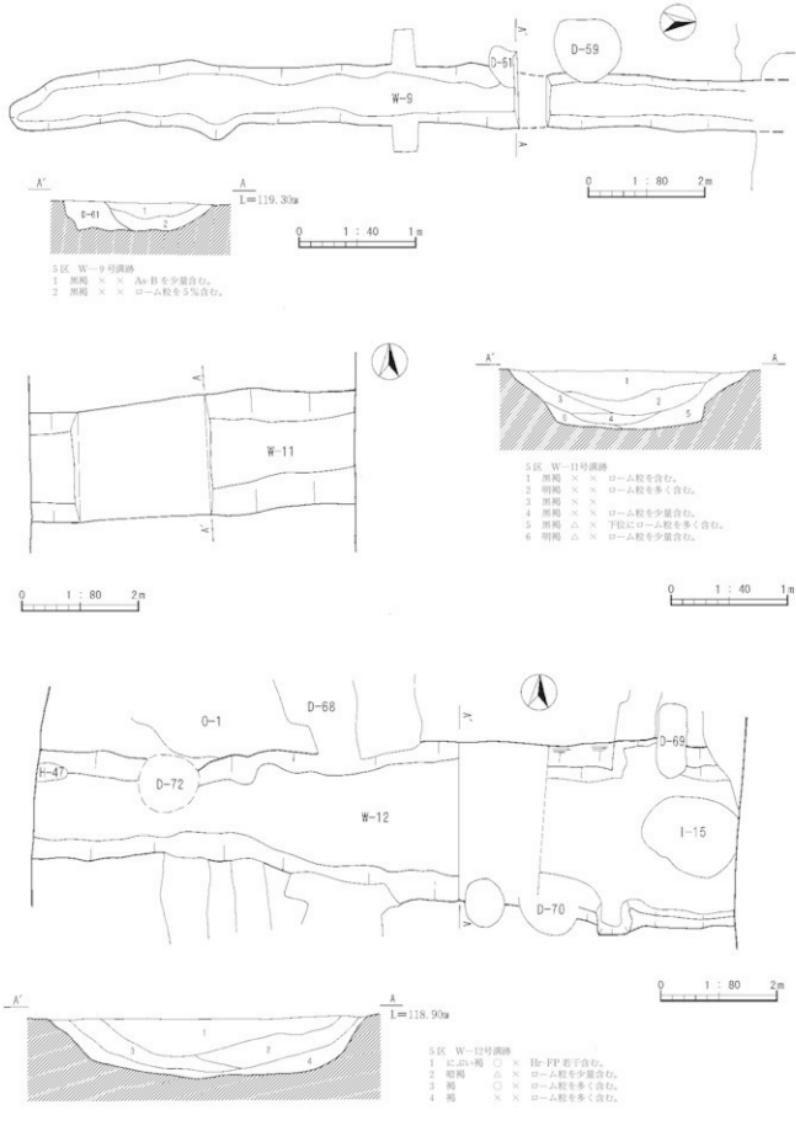


Fig. 87 元總社舊海遺跡群 (33) 5区W-9・11・12号溝跡

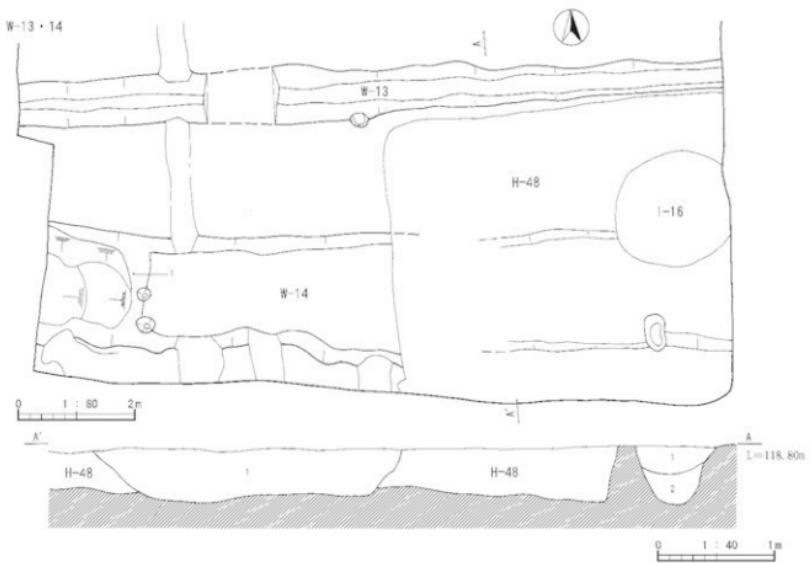


Fig. 88 元總社舊海道跡群 (33) 5区W-13・14号溝跡

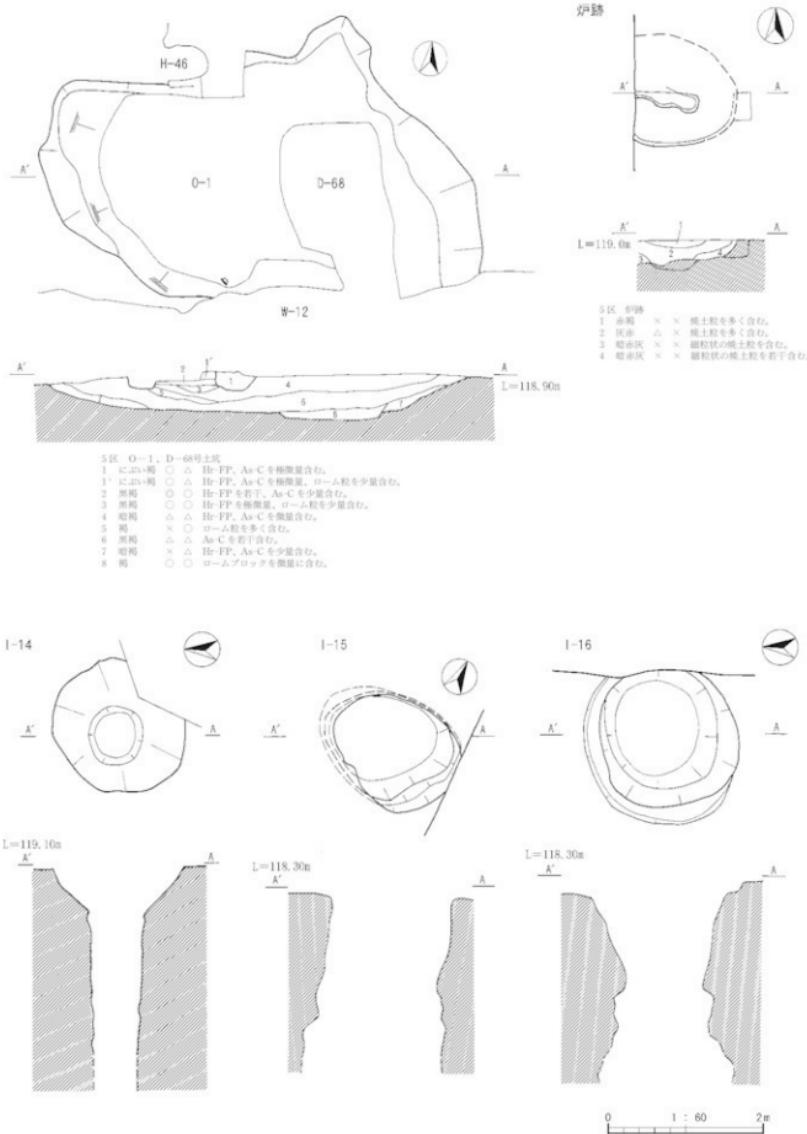


Fig. 89 元總社蒼海遺跡群 (33) O-1号落ち込み、炉跡、I-14~16号井戸跡

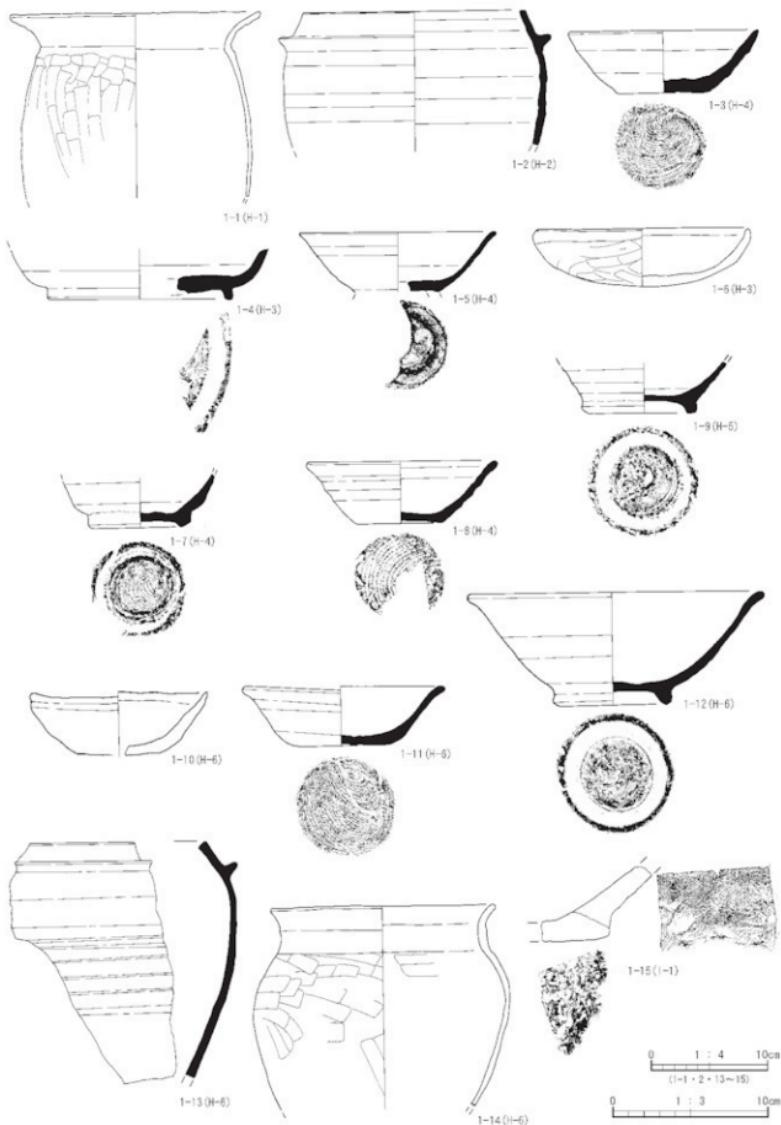


Fig. 90 元總社蒼海遺跡群 (33) 1区H-1～6号住居跡、I-1号井戸跡出土遺物

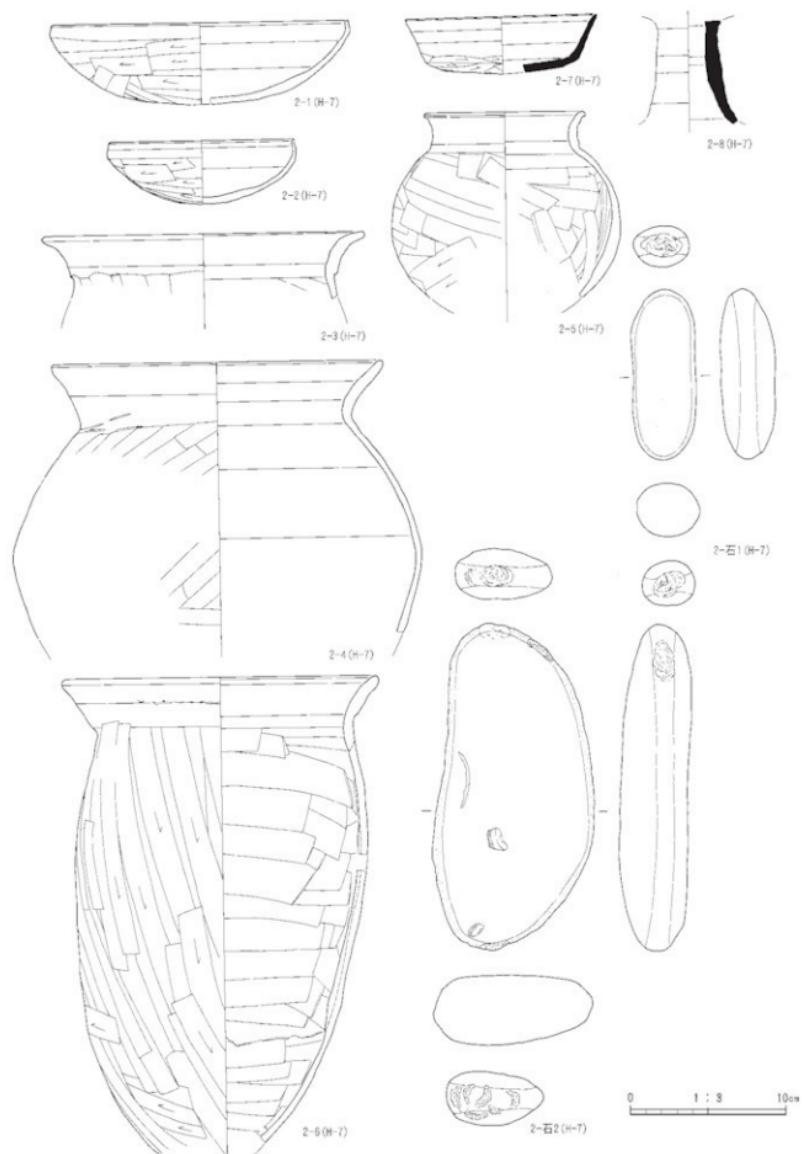


Fig. 91 元總社蒼海遺跡群 (33) 2区H-7号住居跡出土遺物

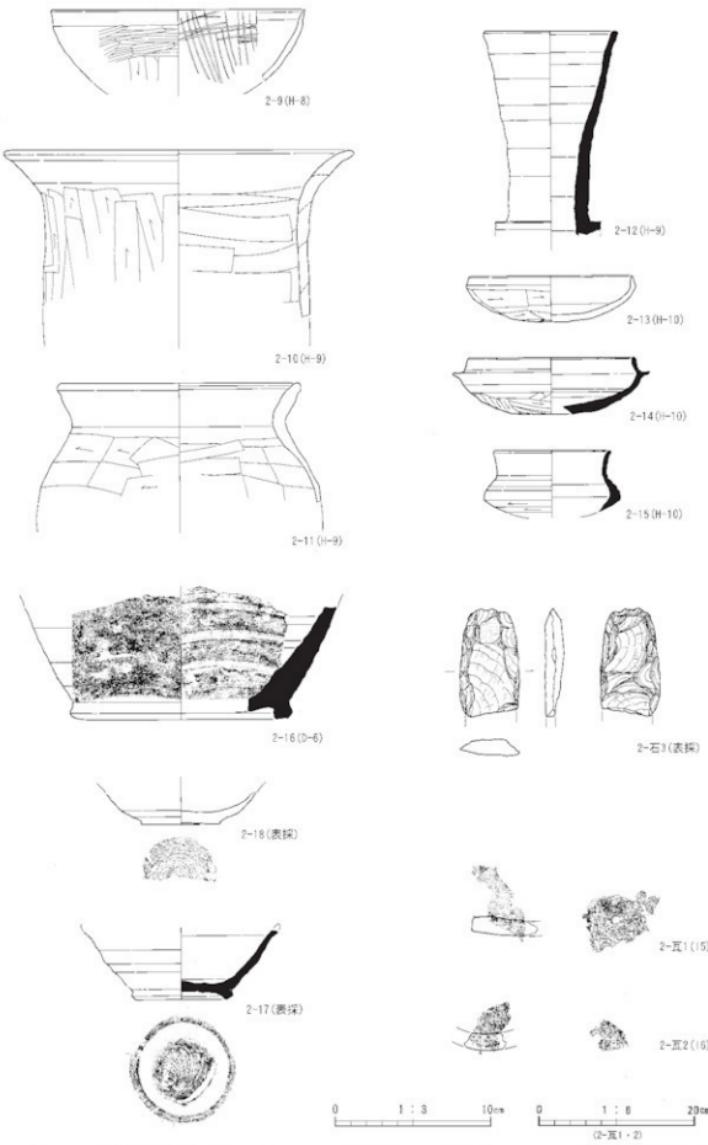


Fig. 92 元總社舊海跡群 (33) 2区H-8～10号住居跡、D-6号土坑、I-5・6号井戸跡出土遺物、表探

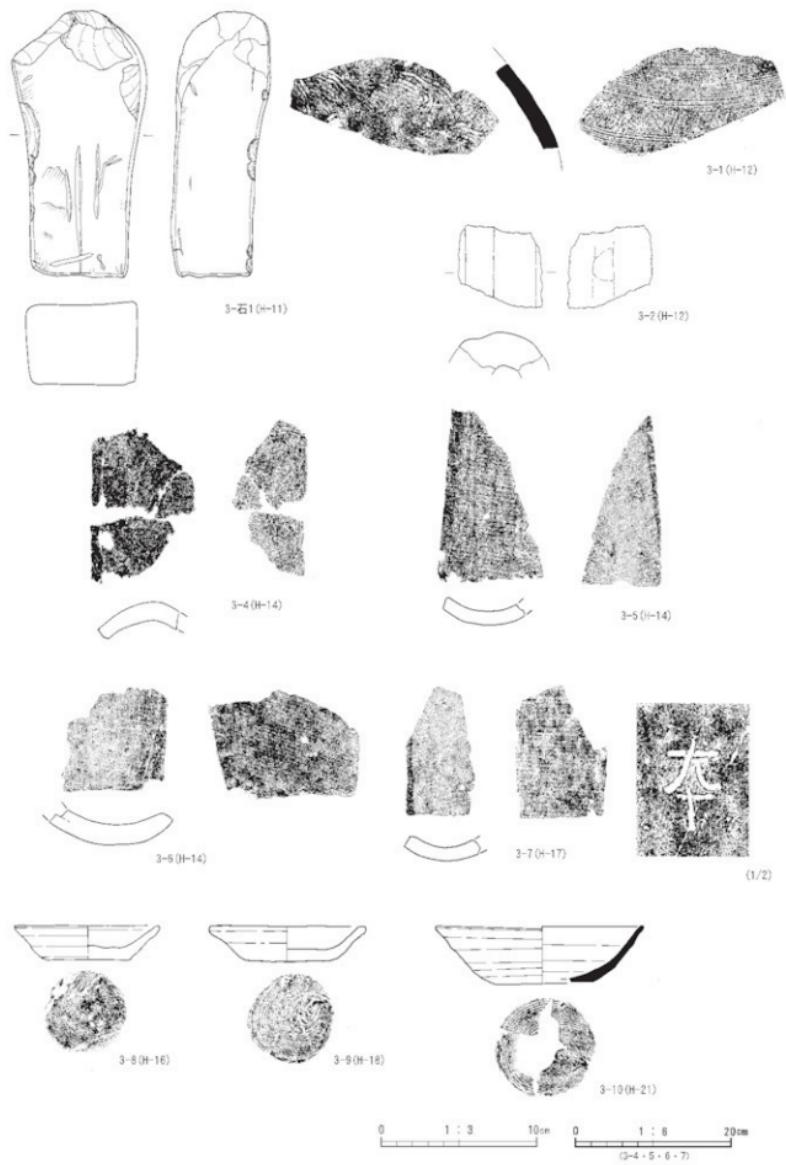


Fig. 93 元總社蒼海遺跡群 (33) 3区H-11・12・14・16～18・21号住居跡出土遺物

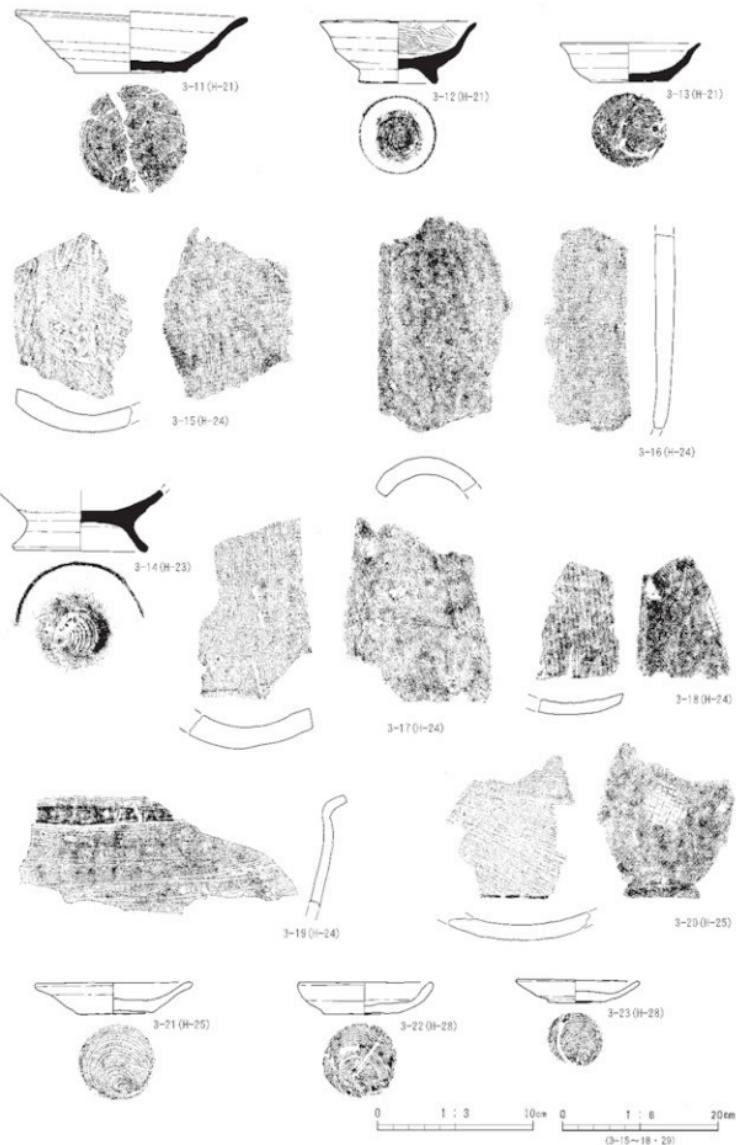


Fig. 94 元總社蒼海遺跡群 (33) 3区H-21・23～25・28号住居跡出土遺物

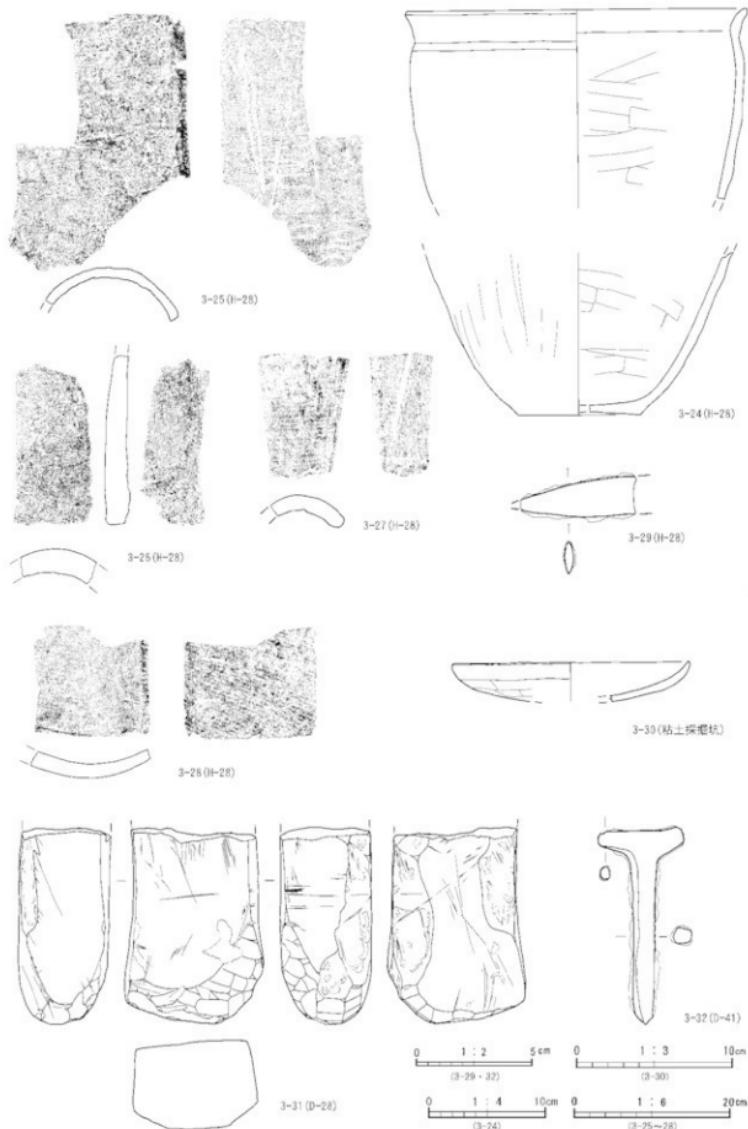


Fig. 95 元總社舊海遺跡群 (33) 3区H-28号住居跡、D-28・41号土坑、粘土探掘坑出土遺物

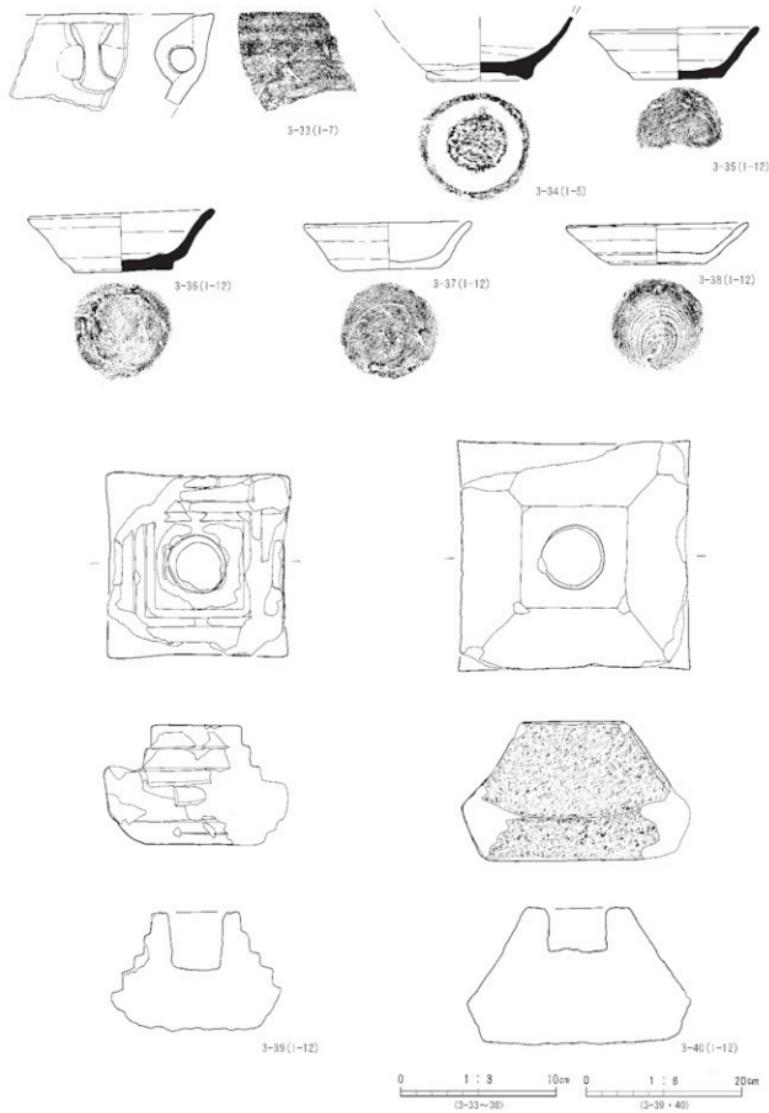


Fig. 96 元總社蒼海遺跡群 (33) 3区 I-5・7・12号井戸跡出土遺物

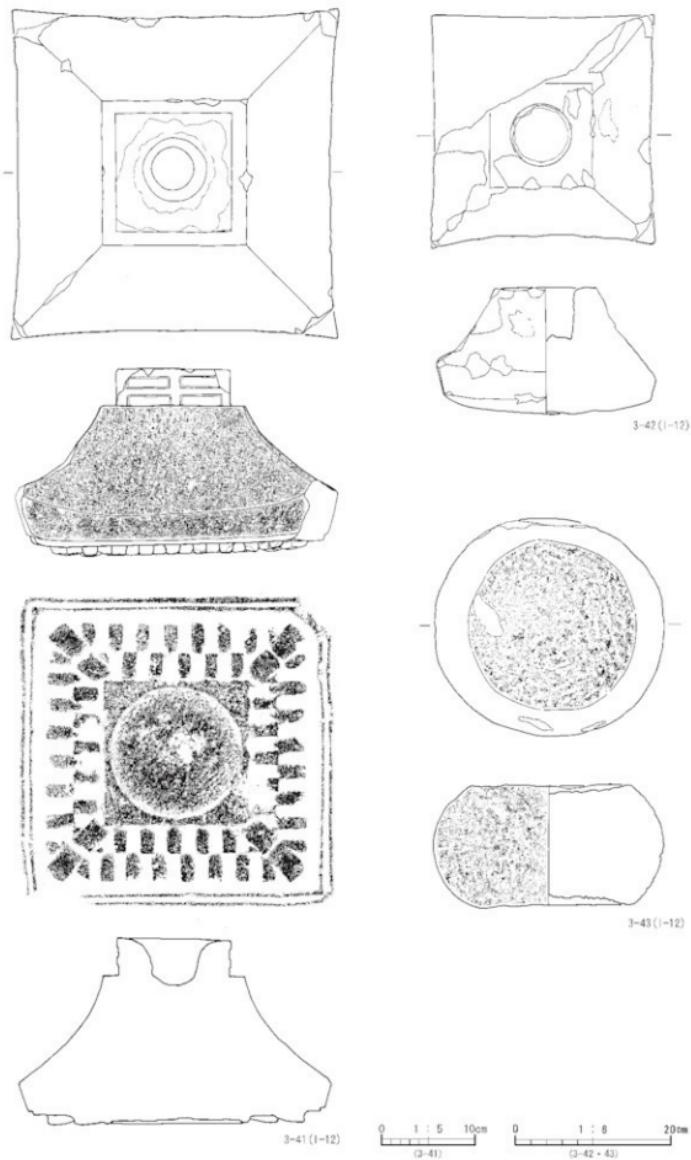


Fig. 97 元總社蒼海遺跡群(33) 3区I-12号井戸跡出土遺物

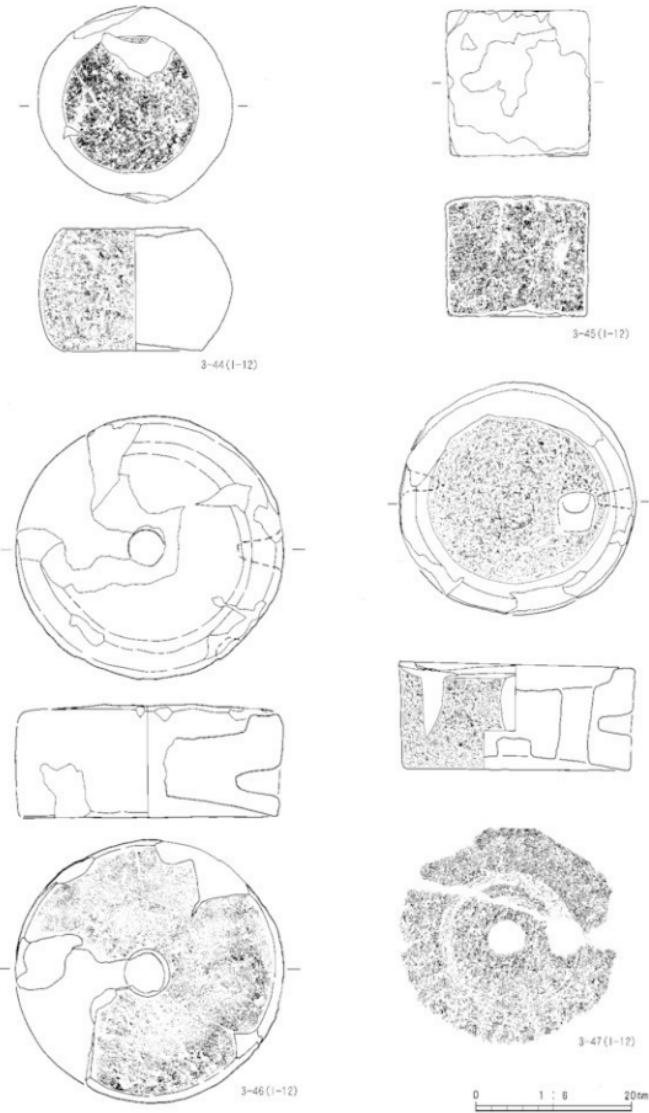
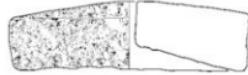
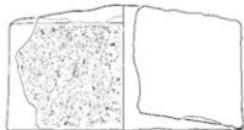
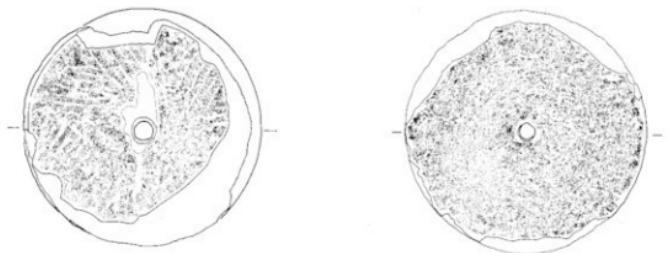
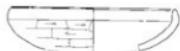


Fig. 98 元總社蒼海遺跡群 (33) 3区 I-12号井戸跡出土遺物



3-49 (I-12)

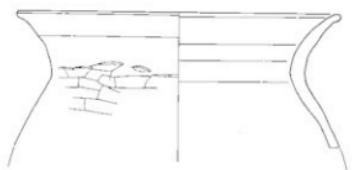
3-48 (I-12)



3-50 (T-2)



3-53 (硬化面)



3-51 (T-2)



3-54 (X130, Y189)



3-55 (表探)

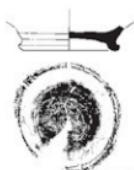


0
1 : 3
(3-50 - S1-53-57)

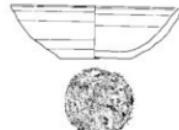


3-52 (W-4)

0
1 : 6
(3-48 - 49 - 52)



3-56 (表探)



3-57 (表探)

Fig. 99 元總社蒼海遺跡群 (33) 3 区 I-2・12号井戸跡、T-2号竪穴状遺構、W-4号溝跡、
硬化面、グリッド、遺構外出土遺物

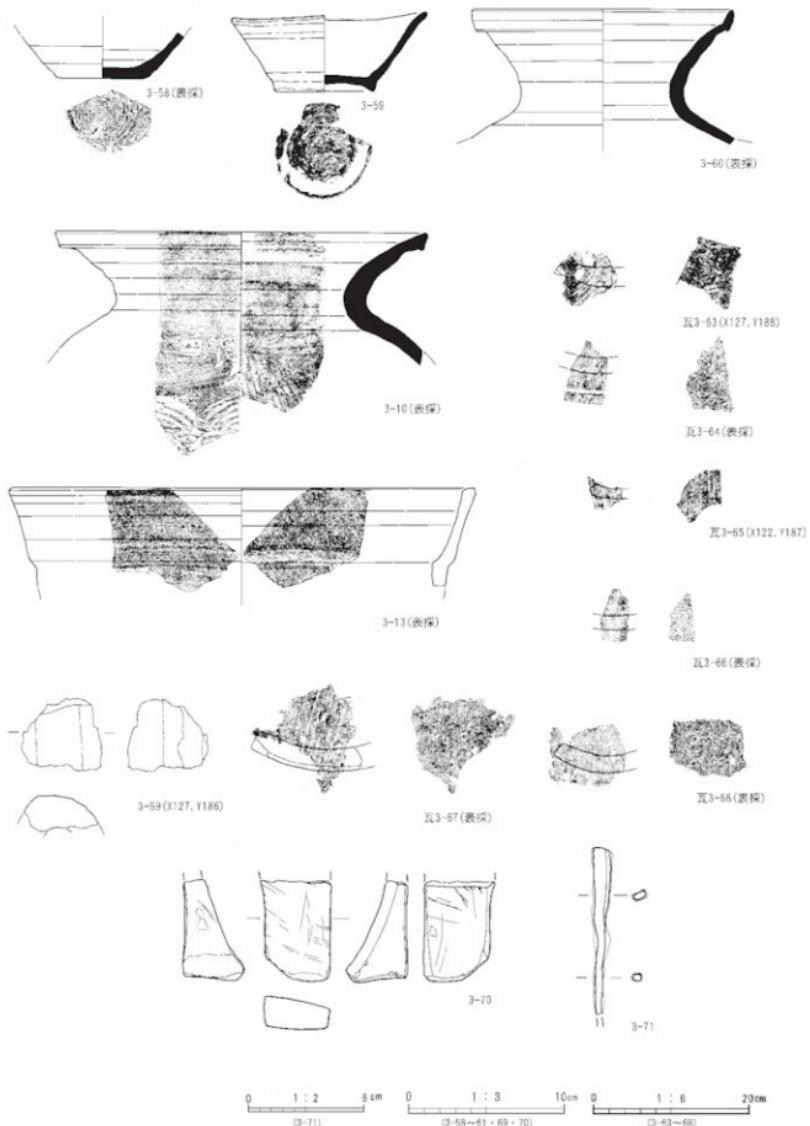


Fig. 100 元總社蒼海遺跡群 (33) 3区グリッド出土遺物、表探

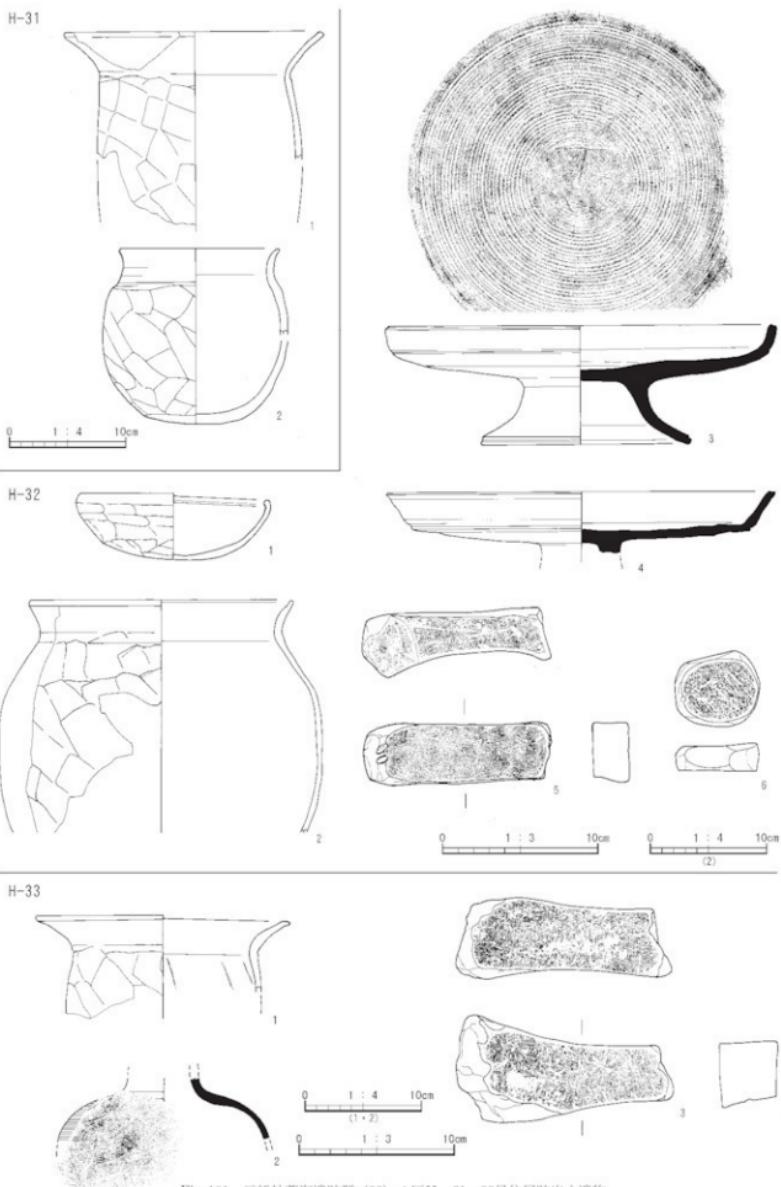


Fig. 101 元總社蒼海遺跡群 (33) 4 区H-31~33号住居跡出土遺物

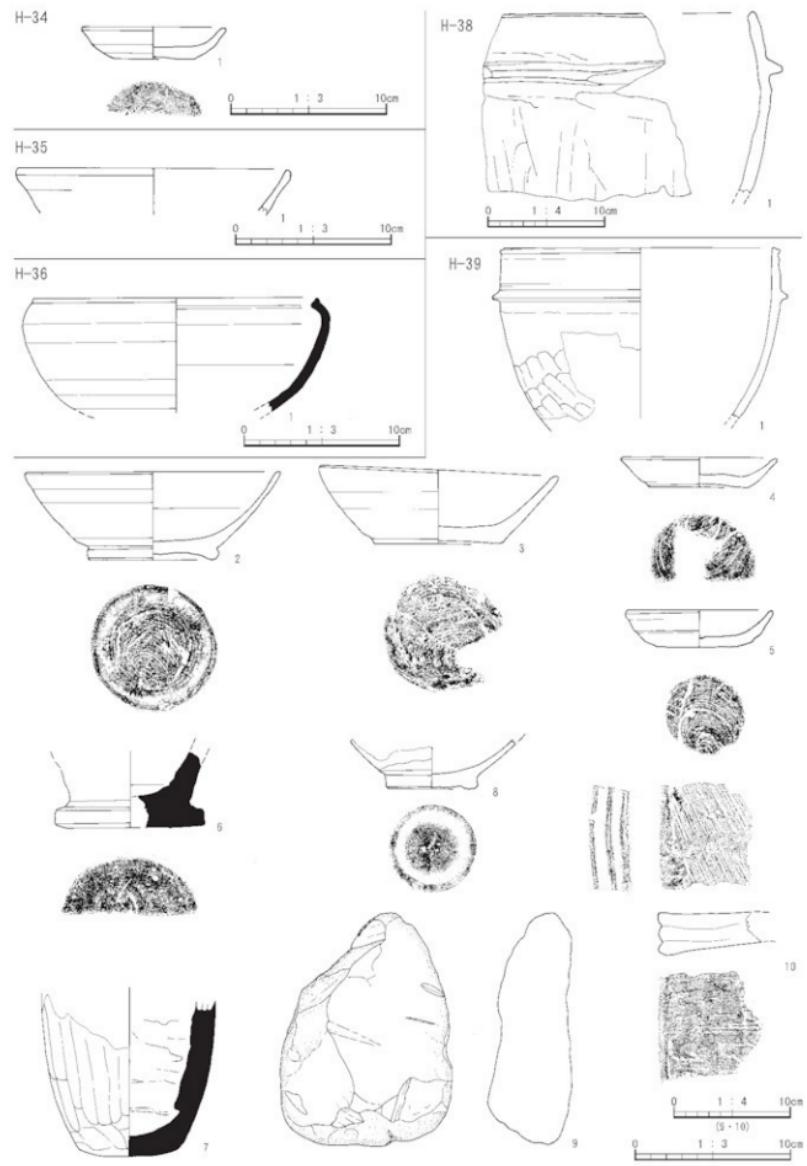


Fig. 102 元總社蒼海遺跡群 (33) 4区H-34~36・38・39号住居跡出土遺物

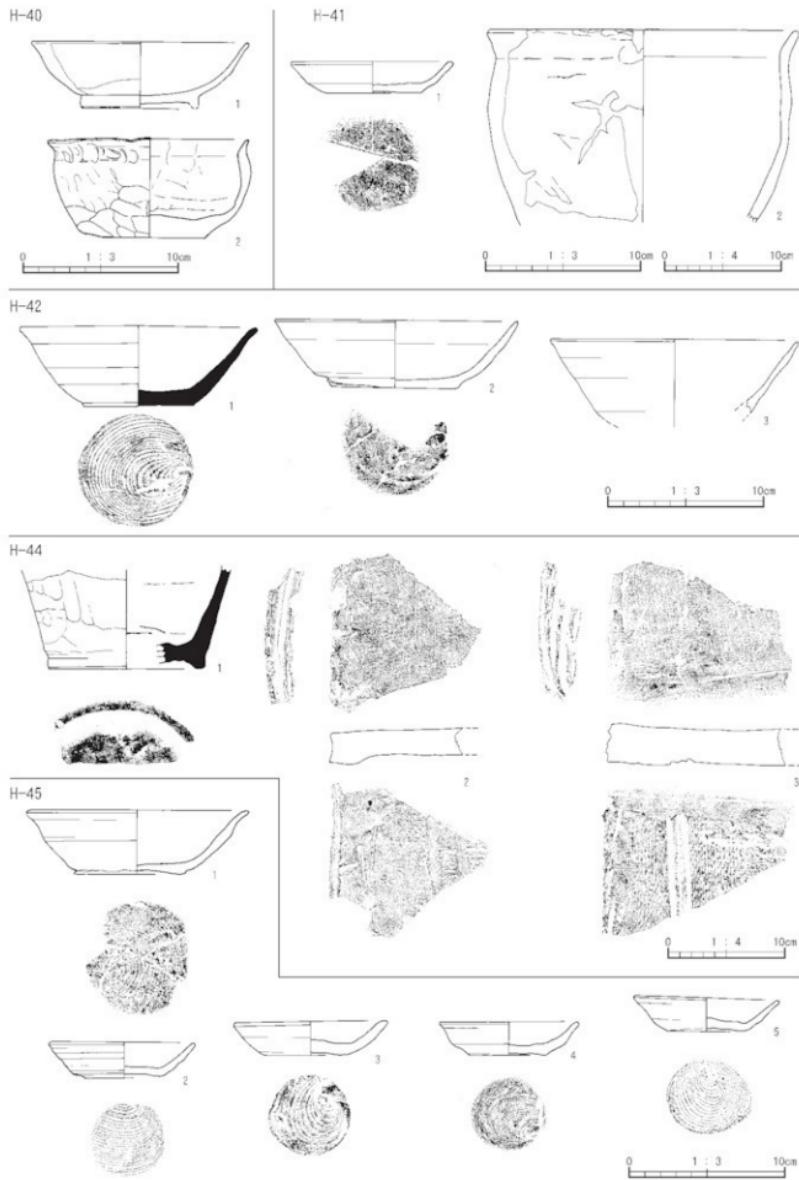


Fig. 103 元總社蒼海遺跡群(33) 4区H-40~42、5区44・45号住居跡出土遺物

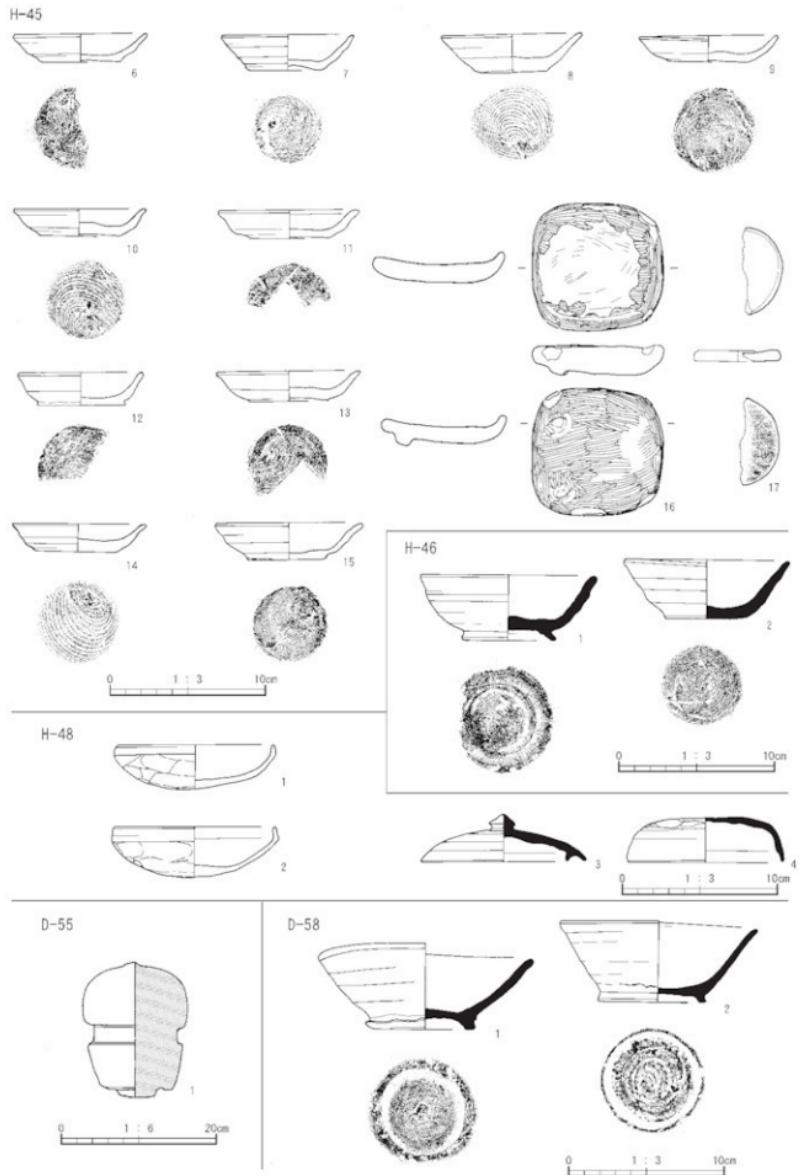


Fig. 104 元總社蒼海遺跡群(33) 5区H-46・48号住居跡、D-55・58号土坑出土遺物

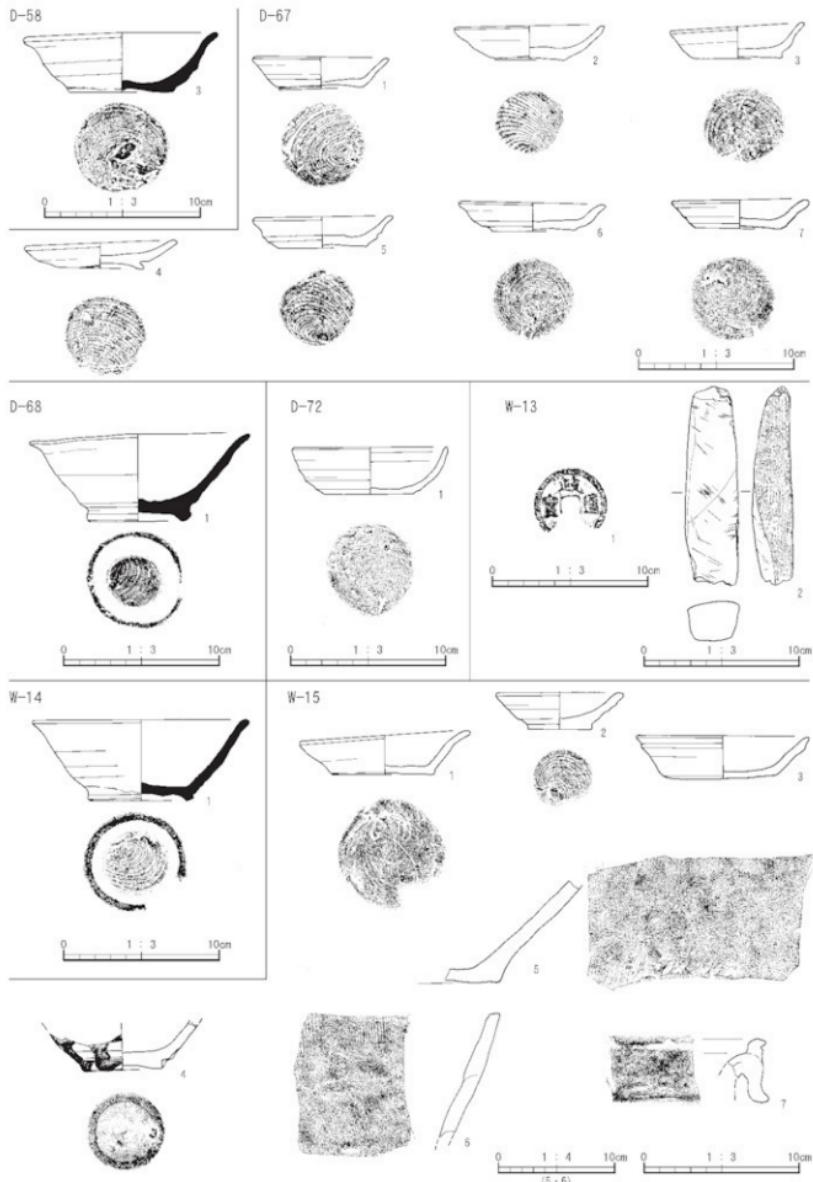
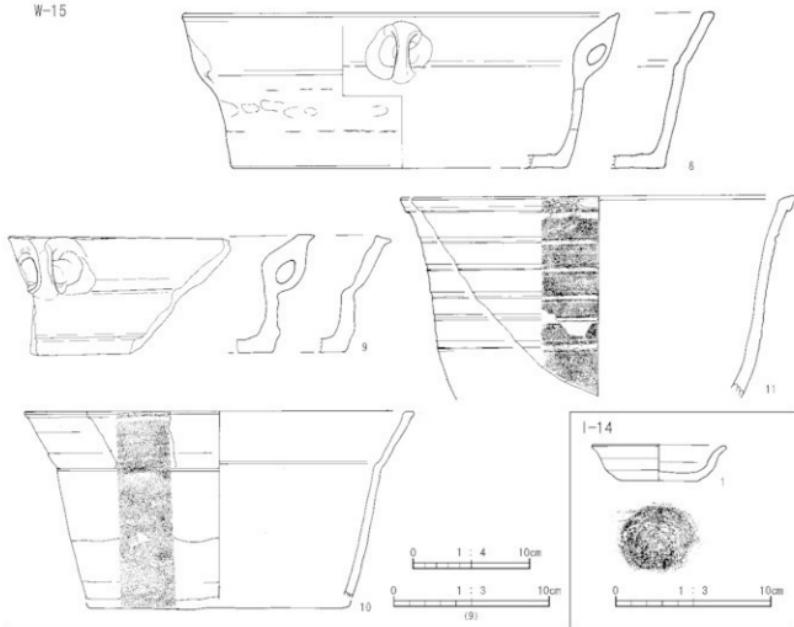


Fig. 105 元總社蒼海遺跡群 (33) 5区D-58・67・68・72号土坑出土遺物

W-15



I-16

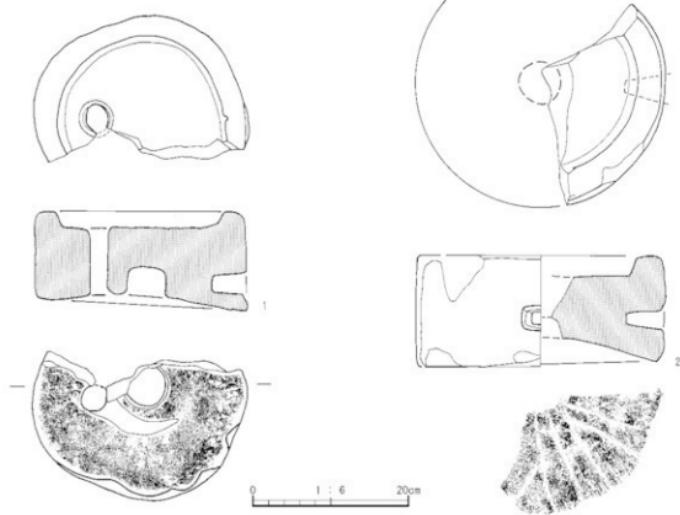


Fig. 106 元總社蒼海遺跡群 (33) 5区W-15号溝跡、I-16号井戸跡出土遺物

I-16

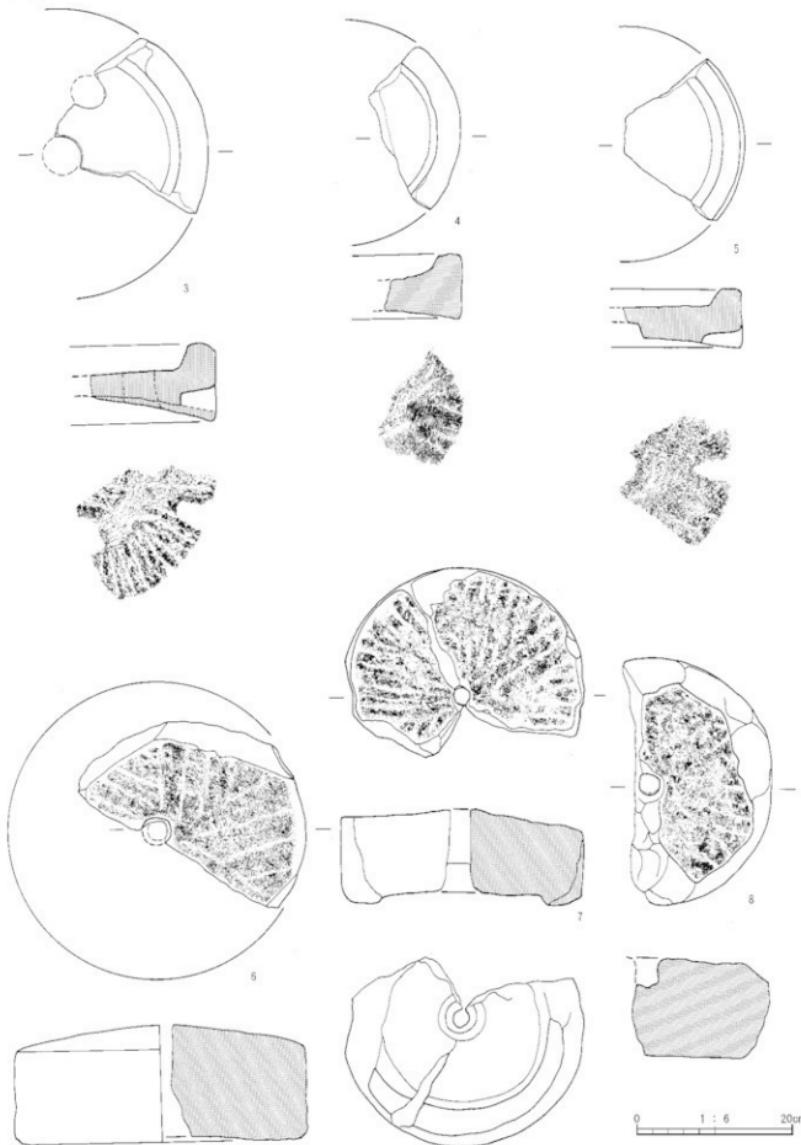


Fig. 107 元總社蒼海遺跡群 (33) 5区 I-16号井戸跡出土遺物

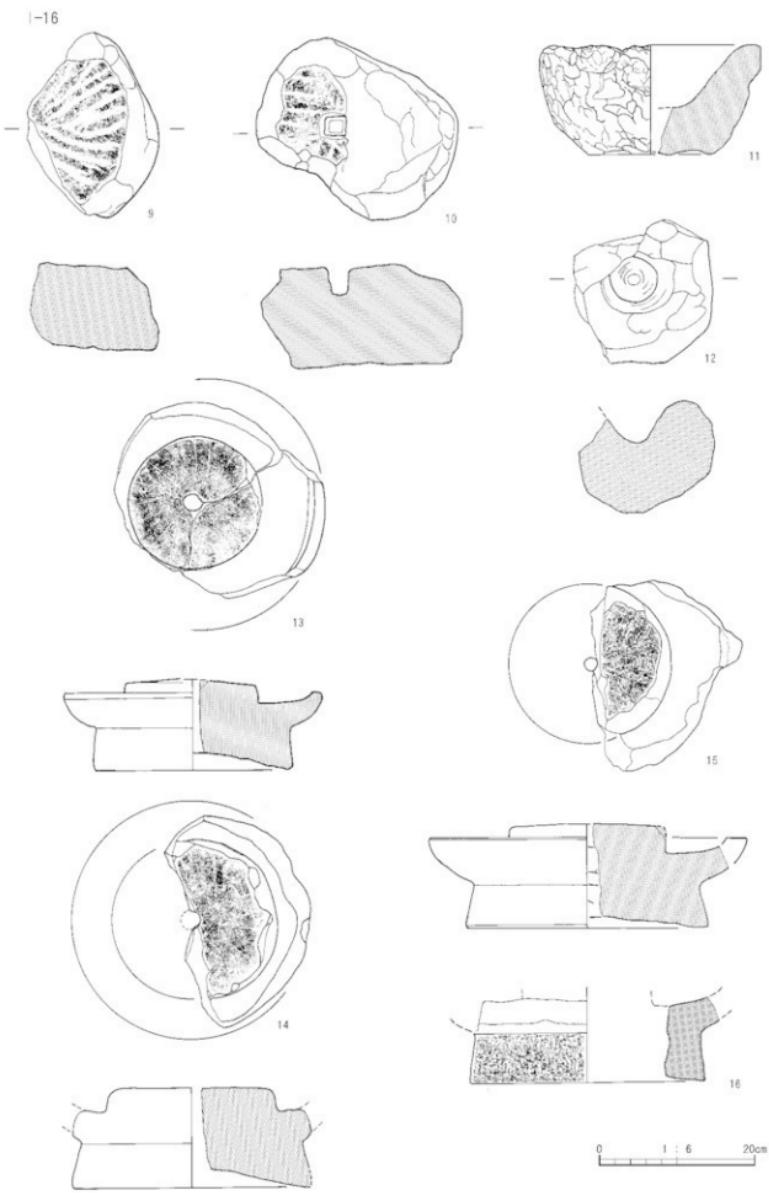
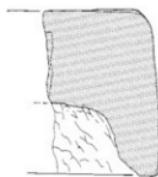
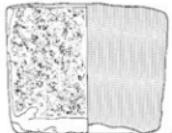
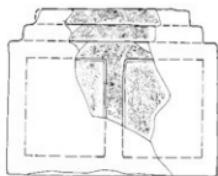
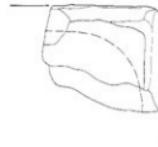
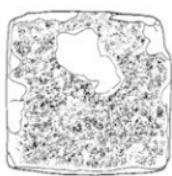
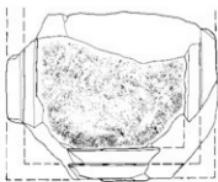
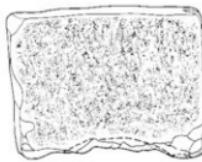
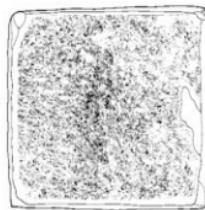
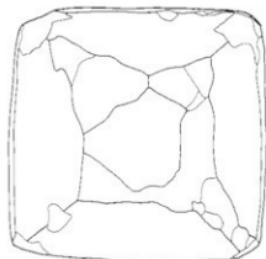


Fig. 108 元絶社蒼海遺跡群 (33) 5区I-16号井戸跡出土遺物

1-16



19



18

21



Fig. 109 元總社蒼海遺跡群 (33) 5 区 I-16号井戸跡出土遺物

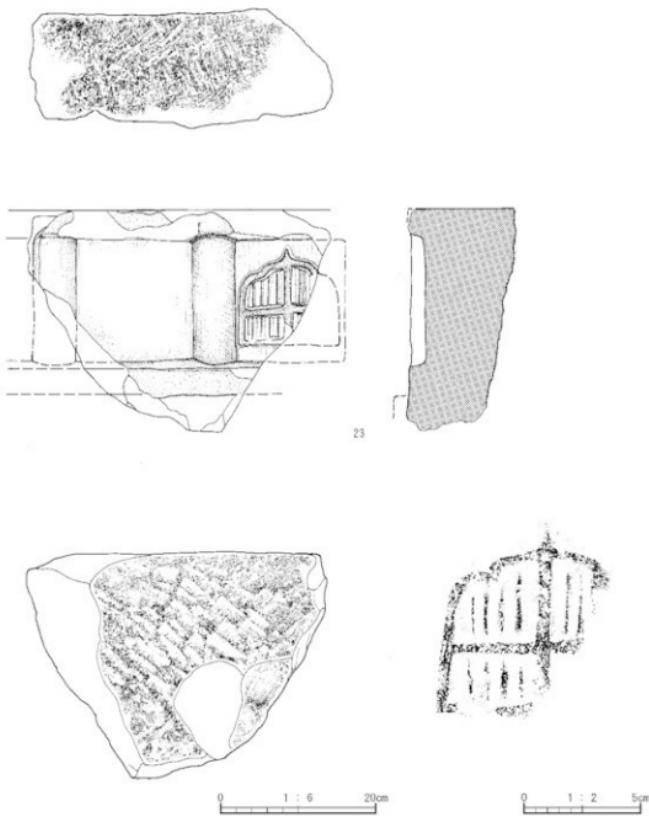


Fig. 110 元總社蒼海遺跡群 (33) 5区 I-16号井戸跡出土遺物

Tab.11 元總社蒼海遺跡群(33)住居跡等一覧表
2区

遺構名	位置	規 模 (m)		面積 (m ²)	主軸方向	窓		開溝	主な出土遺物	
		東西	南北	壁現高(cm)		位置	構架材		土師器・須恵器・その他	
H-7	X140・141 Y175・176	3.50	(2.48)	37.0	(8.05)	N-90°-E	東壁中央部	—	環・甕	環
H-8	X140・141 Y176	2.94	2.39	30.5	5.30	N-101°-E		—	環	
H-9	X141 Y176・177	2.72	4.08	34.0	9.42	N-104°-E	東壁中央部	—	甕	長頸瓶
H-10	X139 Y179・180	1.29	3.99	58.5	3.63	N-83°-E		有	環	小甕

3区

遺構名	位置	規 模 (m)		面積 (m ²)	主軸方向	窓		開溝	主な出土遺物	
		東西	南北	壁現高(cm)		位置	構架材		土師器・須恵器・その他	
H-11	X133・134 Y188	2.44	2.20	10.0	4.80	N-97°-E		—		
H-12	X126 Y186・187	2.66	4.17	16.5	6.84	N-96°-E	東南角	有	甕	羽口
T-1	X130 Y188・189	2.64	2.42	54.5	5.50	N-90°-E		—		
T-2	X126・127 Y186・187	1.80	1.80	78.5	2.61	N-0°-E		—	環・甕	

Tab.12 元總社蒼海遺跡群(33)溝跡、その他 計測表

2区

遺構名	位置	長さ(m)	深さ(cm)		上幅(cm)		下幅(cm)		主軸方向	断面形	時期
			最大	最小	最大	最小	最大	最小			
W-1	X139 Y175・177	7.32	95.0	25.0	125.0	60.0	122.0	41.0	N-13°-E	U字状	中世
W-2	X138・139 Y182・183	3.70	137.0	96.0	308.0	306.0	182.0	152.0	N-98°-E	逆台形	中世

3区

遺構名	位置	長さ(m)	深さ(cm)		上幅(cm)		下幅(cm)		主軸方向	断面形	時期
			最大	最小	最大	最小	最大	最小			
W-3	X128・129 Y187・188	7.01	31.0	21.5	136.0	105.0	59.0	44.0	N-103°-E	U字状	不明
硬化面	X126～130 Y188・189	20.70	7.0	0.0	410.0	25.0	260.0	20.0	N-96°-E		

Tab.13 元總社蒼海遺跡群(33)土坑・ピット 計測表

1区

遺構名	位 置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	出土遺物		備 考
D-1	X-138・139 Y-172	136	95	16.0	方形			
D-2	X-139 Y-172・173	180	(60)	10.5	楕円形			
D-3	X-138 Y-173	153	104	6.5	楕円形			
D-4	X-139 Y-170	(236)	—	28.0	楕円形			
D-5	X-138 Y-173・174	(145)	(86)	36.5	—			
P-1	X-138 Y-169	55	52	2.0	円形			
P-2	X-138 Y-172	70	68	12.0	円形			

2区

遺構名	位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	出土遺物	備考
D-5	X-138 Y-178・179	98.0	87.0	19.0	円形	須1	
D-6	X-138・139 Y-178・179	158.0	79.0	73.0	円形	須1 瓦1	
D-7	X-139・140 Y-175	180.0	112.0	28.0	長方形	須2	
D-8	X-139・140 Y-176	206.0	88.0	11.0	長方形		
D-9	X-138 Y-180・181	126.0	120.0	44.0	円形		
D-10	X-141・142 Y-175・176	126.0	78.0	34.0	円形		
D-11	X-138 Y-180	280.0	145.0	63.0	円形		
P-3	X-138 Y-175	35.0	30.0	185.0	円形		
P-4	X-138 Y-176	44.0	24.0	36.0	円形		
P-5	X-138 Y-176・177	30.0	28.0	30.0	円形		
P-6	X-138 Y-177	31.0	26.0	23.0	円形		
P-7	X-138 Y-175	23.0	22.0	22.0	円形		
P-8	X-138 Y-176	25.0	16.0	19.0	円形		
P-9	X-138 Y-176	30.0	29.0	22.0	円形		
P-10	X-138 Y-177	41.0	30.0	27.0	円形		
P-11	X-138 Y-177	43.0	32.0	19.0	円形		
P-12	X-138 Y-177	45.0	40.0	26.0	円形		
P-13	X-138 Y-178	66.0	54.0	16.0	円形		
P-14	X-139 Y-177・178	59.0	46.0	17.0	円形		
P-15	X-138 Y-178	49.0	40.0	12.0	円形		
P-16	X-138 Y-181	46.0	45.0	16.0	円形		
P-17	X-141 Y-175・176	43.0	38.0	41.0	円形		
I-2	X-139・140 Y-175・176	154.0	138.0	—	円形		
I-3	X-139 Y-179	85.0	80.0	—	円形		
I-4	X-139 Y-178	89.0	39.0	—	円形		
I-5	X-138 Y-181・182	138.0	116.0	125.0	円形		
I-6	X-138 Y-182・183	298.0	240.0	131.0	円形		
O-1	X-138 Y-175・176	387.0	48.0	62.0	楕円形		
DB-1	X-139 Y-175	56.0	52.0	7.0	円形		

3区

遺構名	位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	出土遺物	備考
D-12	X-129 Y-188・189	92.0	78.0	15.0	楕円形	須1	
D-13	X-128 Y-188	98.0	96.0	34.0	円形		
D-14	X-128・129 Y-188・189	124.0	121.0	34.0	円形		
D-15	X-127・128 Y-187	84.0	82.0	28.0	円形		
D-16	X-127 Y-188・189	136.0	104.0	11.0	長方形	土2 須3	
D-17	X-126 Y-188・189	66.0	60.0	19.0	円形	土1 須1	
D-18	X-126 Y-189	118.0	47.0	34.0	円形		
D-19	X-126・127 Y-186・187	150.0	108.0	41.0	長方形		
D-20	X-127 Y-186	94.0	79.0	37.0	円形		
D-21	X-126・127 Y-186	60.0	56.0	25.0	円形		
D-22	X-126 Y-187	74.0	72.0	33.0	円形	土1 須5	
D-23	X-129 Y-188	124.0	40.0	11.0	楕円形		
D-24	X-126 Y-189	54.0	52.0	53.0	円形		
D-25	X-126 Y-189	62.0	61.0	54.0	円形		
D-26	X-125 Y-188	162.0	116.0	20.5	方形		
D-27	X-123 Y-189	82.0	70.0	29.5	方形		
D-28	X-139 Y-183	80.0	60.0	4.5	楕丸形		
D-29	X-138 Y-183	72.0	60.0	5.0	円形		
D-30	X-138・139 Y-184	188.0	[125.6]	44.0	楕丸方形		
D-31	X-138 Y-184	238.0	165.0	28.0	楕丸方形		

D-32	X-138・139 Y-184	62.0	45.0	9.0	椭円形		
D-33	X-138・139 Y-183	165.0	102.0	71.0	椭円形		
D-34	X-138 Y-184・185	56.0	51.0	35.0	円形		
D-35	X-138・139 Y-185	105.0	90.0	34.5	椭円形		
D-36	X-138 Y-185	72.0	68.0	16.5	円形		
D-37	X-138 Y-187	143.0	110.0	10.0	椭円形		
D-38	X-139 Y-188	50.0	50.0	13.0	円形		
D-39	X-138 Y-188	54.0	48.0	20.0	椭円形		
D-40	X-138 Y-188	94.0	65.0	18.0	椭円形		
D-41	X-139 Y-188	(68.0)	75.0	(29.0)	円形		
D-42	X-141 Y-188	(135.0)	(62.0)	45.5	円形		
D-43	X-137 Y-139	54.0	50.0	12.0	円形		
D-44	X-138・139 Y-188・189	98.0	不明	26.0	円形		
D-45	X-138 Y-189	165.0	98.0	36.0	方形		
D-46	X-138 Y-187・188	100.0	55.0	36.0	椭丸方形		
D-47	X-138 Y-190	110.0	—	42.0	—		
P-18	X-130 Y-188	56.0	44.0	36.0	円形		
P-19	X-130 Y-188	32.0	30.0	29.0	円形		
P-20	X-127 Y-187	27.0	24.0	29.0	円形		
P-21	X-127 Y-187	36.0	30.0	26.0	円形		
P-22	X-127 Y-187	28.0	24.0	35.0	円形		
P-23	X-127 Y-188	26.0	22.0	47.0	円形		
P-24	X-126 Y-188	26.0	22.0	21.0	円形	図3	
P-25	X-127 Y-189	33.0	30.0	37.0	円形		
P-26	X-127 Y-189	34.0	28.0	32.0	円形		
P-27	X-138・139 Y-184	40.0	38.0	15.0	円形		
P-28	X-138 Y-184	28.0	26.0	28.0	円形		
P-29	X-138 Y-185	28.0	26.0	22.0	円形		
P-30	X-138 Y-185	28.0	24.0	24.0	円形		
P-31	X-138 Y-185	26.0	24.0	22.0	円形		
P-32	X-138 Y-185	24.0	20.0	14.0	円形		
P-33	X-139 Y-189	54.0	52.0	24.0	円形		
P-34	X-136 Y-189	64.0	58.0	74.0	円形		
P-35	X-135 Y-189	48.0	50.0	32.0	円形		
DB-2	X-127 Y-187	112.0	79.0	17.0	椭円形		
DB-3	X-126 Y-188	147.0	60.0	49.0	長方形		
I-7	X-126 Y-187	197.0	187.0	—	円形		
O-2	X-133 Y-188・189	330.0	130.0	18.0	不定形		

Tab.14 元總社蒼海遺跡群(33)縄文・弥生土器觀察表

縄文土器觀察表

番号	出土遺構部位	器種名	①口徑 ②高さ ③底径	④側面 ⑤底面	⑥側面 ⑦底面	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
1	表採	深鉢	① — ②(4.1) ③ —	④中堅 ⑤やや良 ⑥によい赤陶	⑦底 ⑧破片	縫帶上に等間隔で横位に押圧痕を施す。加賀型E-I式古河階併行期		

Tab.15 元總社蒼海遺跡群(33)古墳・奈良・平安時代出土土器觀察表

1区

番号	出土遺構部位	器種名	①口徑 ②高さ ③底径	④側面 ⑤底面	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
1-1	H-1 底直	土師器	①(21.4)②(15.5) ③ —	④細胞 ⑤良好 ⑥底 ⑦ —	口縁：横撫で。胴上半：鋸削り、やや膨らみを持ちながら外傾。底部：欠損	2・3	
1-2	H-5 覆土	須恵器	①(19.1)② — ③ —	④細胞 ⑤良好 ⑥底 ⑦ —	口縁：横撫で。胴上半：横撫で。底部：欠損	1他	
1-3	H-3 窓内	須恵器	① 12.2 ② 4.0 ③ 6.0	④細胞 ⑤良好 ⑥底 ⑦ —	輪植整形。口縁・脚部：外傾。横撫で。底部：回転系切。	5	
1-4	H-3 覆土	須恵器	① — ② — ③(12.0)	④細胞 ⑤良好 ⑥底 ⑦ —	輪植整形。口縁：欠損。胴下半：横撫で。高台：回転系切痕、高台貼付。	10	

1 - 5	H - 3 覆土	直意器 高台機 環	①(12.6)②(3.8) ③(5.5) ④(3)黃褐 ⑤(1/2)	①細胞 ②良好 ③外側 ④底付。	被輪整形。口縁：平や外反。体部：内外面横擦で。高台：回転糸切後、高台貼付。	8他	
1 - 6	H - 4 覆土	直意器 環	①(13.9)②(3.7) ③(—) ④(—)	①細胞 ②良好 ③外側 ④(1/3)	口縁・刺：鋭削り。内面：横擦で。底部：混削り。		
1 - 7	H - 4 覆土	直意器 高台機 環	①(—)②(—) ③(—) ④(—)	①細胞 ②良好 ③外側 ④(1/3)～ ⑤刺	被輪整形。口縁：次鋭。刺下半：外輪側、横擦で。高台：回転糸切後、貼付。	2他	
1 - 8	H - 4 覆土	直意器 環	①(12.3)②(4.9) ③(5.6) ④(—)	①細胞 ②良好 ③外側 ④(2/3)	被輪整形。口縁・刺：外輪、横擦で。底付：回転糸切。		
1 - 9	H - 5 覆土	直意器 高台機 環	①(—)②(—) ③(—) ④(7.2)	①細胞 ②良好 ③外側 ④(1/4)	被輪整形。口縁：次鋭。刺下半：横擦で。高台：回転糸切後、高台貼付。		
1 - 10	H - 6 窓内	土師器 環	①(11.4)②(4.0) ③(5.4)	①細胞 ②良好 ③(1/3)～ ④(1/2)	つくり窓。口縁・刺：外輪、横擦で。混削り。底付：窓削り。 ⑨/10	18他	
1 - 11	H - 6 窓内	直意器 環	①(13.0)②(3.8) ③(6.3)	①細胞 ②良好 ③(3)灰褐 ④(4)完形	被輪整形。口縁・刺：外輪、横擦で。底付：回転糸切。	25	
1 - 12	H - 6 窓内	直意器 高台機 環	①(19.1)②(7.3) ③(7.7)	①細胞 ②良好 ③(3)灰褐 ④(1/2)	被輪整形。口縁・刺：外輪、横擦で。高台：回転糸切後、高台貼付。		
1 - 13	H - 6 窓内	直意器 羽葉 環	①(—)②(—) ③(—)	①細胞 ②良好 ③(3)～ ④(4)破片	口縁・刺：外輪、横擦で。底付：欠損。	34他	
1 - 14	H - 6 窓内	土師器 甕	①(19.3)②(17.4) ③(—)	①細胞 ②良好 ③(3)灰褐 ④(1/3)	口縁・頭部：横擦で。刺：削り。底付：欠損。	1他	
1 - 15	I - 1 覆土	陶腹 大甕	①(—)②(—) ③(—)	①細胞 ②良好 ③(3)オリーブ(4)破片	内面：自然釉。刺部：混削り。底付：砂目底。		

2区

番号	出土場 機器部	器種名	①口徑 ②脚高 ③底付	④土 ⑤色調 ⑥遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
2 - 1	H - 7 床直	土師器 环	①(18.8)②(5.2) ③(—)	①細胞 ②良好 ③(3)～ ④(2/3)	口縁・体部：外輪、 内外面横擦で。外表面削り。底部：丸底。内 外表面削り。	32	
2 - 2	H - 7 床直	土師器 环	①(11.8)②(4.1) ③(—)	①細胞 ②良好 ③(3)～ ④(4)完形	口縁と底部の境に縦擦り有る。口縁部：ほぼ直立。 内外面横擦で。 外表面削り。底部：丸底。内表面削り、外表面削り。	44	
2 - 3	H - 7 覆土	土師器 环	①(20.6)②(4.0) ③(—)	①細胞 ②良好 ③(3)～ ④(4)破片	口縁部のみ。外輪、 内外面横擦で。外表面削り。	21	
2 - 4	H - 7 覆土	土師器 环	①(21.3)②(17.5) ③(—)	①細胞 ②良好 ③(3)～ ④(5)	口部部：外反、 内外面横擦で。外表面削り。刺部：上位に膨らみ、器 最大径、内・外面削り。底部欠損。	6 23	
2 - 5	H - 7 床直	土師器 小甕	①(10.2)②(11.9) ③(—)	①細胞 ②良好 ③(3)～ ④(1)～ ⑤(1/4)	口縁部：外反。刺部：内・外面横擦で。外表面削り。底部：欠損。	39	
2 - 6	H - 7 覆土	土師器 長脚甕	①(20.2)②(22.9) ③(—)	①細胞 ②良好 ③(3)～ ④(4)	口縁部：刺鉗大径。外反、内・外面削り。刺部・底部：内外面無で。 外表面削り。	22	
2 - 7	H - 7 覆土	直意器 环	①(12.2)②(3.6) ③(—)	①細胞 ②良好 ③(3)白 ④(1/3)	被輪整形。口縁・体部：外輪、 内外面横擦で。底部：内面削で、 手持ち荒削り。	46	
2 - 8	H - 7 覆土	直意器 高杯	①(—)②(6.4) ③(—)	①細胞 ②良好 ③(3)～ ④脚部のみ	被輪整形。口縁部・脚部欠損。 内外面横擦で。	33	
2 - 9	H - 8 覆土	土師器 环	①(16.0)②(4.6) ③(—)	①細胞 ②良好 ③(3)～ ④(4)破片	内外面削で。外面彫みがき、荒削り。		暗文
2 - 10	H - 9 覆土	土師器 环	①(22.2)②(10.6) ③(—)	①細胞 ②良好 ③(3)～ ④(6)	口縁部：外反。内・外面削で。外面彫みり。砂粒含む。刺部：内・ 外表面削で。外表面削り。砂粒含む。刺部中位以下欠損。	8 9	
2 - 11	H - 9 床直	土師器 环	①(15.4)②(7.6) ③(—)	①細胞 ②良好 ③(3)～ ④(1)～ ⑤(4)破片	口縁部：外反。内外表面削で。外面彫みり。刺部：欠損。		
2 - 12	H - 9 覆土	直意器 長脚甕	①(9.6)②(12.7) ③(—)	①細胞 ②良好 ③(3)～ ④脚部のみ	被輪整形。口縁・体部：外輪、 内・外面横擦で。底部：内面削で、 外表面削り。		
2 - 13	H - 10 床直	土師器 环	①(16.0)②(3.9) ③(—)	①細胞 ②良好 ③(3)～ ④(4)～ ⑤(1/3)	口縁と底部の縁に縦擦り有る。口縁部：ほぼ直立。 内外面横擦で。 外表面削り。底部：丸底。内表面削り、外表面削り。	1	
2 - 14	H - 10 覆土	直意器 环	①(10.6)②(3.6) ③(—)	①細胞 ②良好 ③(3)白 ④(1/3)	被輪削り。底部へ体部延形。口縁部：外斜。 内外面横擦で。		
2 - 15	H - 10 床直	直意器 小甕	①(7.5)②(4.0) ③(—)	①細胞 ②良好 ③(3)白 ④(4)破片	被輪削り。口縁部：外斜。内・外面横擦で。回転削り。刺部・ 底付：欠損。	8	
2 - 16	D - 6 覆土	直意器 甕	①(7.1)②(14.2) ③(—)	①細胞 ②良好 ③(3)～ ④(4)破片	被輪整形。口縁部：欠損。刺部：内・外面横擦で。底部：欠損。		
2 - 17	表接 覆土	直意器 高台機	①(—)②(2.6) ③(6.4)	①細胞 ②良好 ③(3)白 ④(2/5)	被輪削り。口縁部：欠損。刺部：内・外面横擦で。底部：内面削 り、回転削り後、高台を取り付け。		
2 - 18	表接 覆土	かわらけ	①(—)②(2.6) ③(5.0)	①細胞 ②良好 ③(3)～ ④(4)破片	被輪整形。口縁部：欠損。刺部・底部：内外面横擦で。回転糸切 りあり。		

3区

番号	出土場 機器部	器種名	①口徑 ②脚高 ③底付	④土 ⑤色調 ⑥遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
3 - 1	H - 11 床直	砾石	完形。最大幅17cm、最大厚8.4cm、最大厚5.9cm、重量1060gを測る。石材は砂岩。			1	
3 - 2	H - 12 覆土	直意器 甕	①(6.1)②(—) ③(—)	①細胞 ②良好 ③(3)～ ④(4)破片	被輪整形。口縁部：欠損。刺部：内・外面横擦で。外面に櫛目上工 具を用いて櫛目をついている。底部：欠損。	2	
3 - 3	H - 12 覆土	羽口	①(4.7)②(5.3) ③(2.3)	①細胞 ②良好 ③(3)～ ④(1)～ ⑤(4)破片	外表面削り及び指擦で。内面指擦で。	1	
3 - 4	H - 14 窓内	瓦 軒丸瓦	長(20.6) 厚2.6	①細胞 ②良好 ③(3)灰 ④(4)破片	凹面：布目痕有り。凸面：無。		
3 - 5	H - 14 窓内	瓦 軒平瓦	長(22.5) 厚1.5	①細胞 ②良好 ③(3)灰 ④(4)破片	凹面：布目痕有り。凸面：無。側面は丁寧な無で。		
3 - 6	H - 14 窓内	瓦 軒平瓦	長(13.2) 厚2.7	①細胞 ②良好 ③(3)～ ④(4)～ ⑤(4)破片	凹面：布目痕有り。凸面：無。側面は丁寧な無で。		

3 - 7	H-17 床直	瓦 軒平瓦 厚1.9	長(16.5) ③軒 ④底 ⑤裏 ⑥破片	①相應 ②良好 ③相應 ④底 ⑤裏 ⑥破片	凹面：布目有り。凸面：記録文字「本」有り。	1 + 3 文字瓦
3 - 8	H-16 床直	かわらけ 厚	① 9.3 ② 2.2 ③ 5.2	①相應 ②良好 ③相應 ④底 ⑤裏 ⑥破片	口縁：脇部：外傾、横撇で。底部：回転系切。	1
3 - 9	H-18 窓内	かわらけ 窓	① 10.1 ② 2.3 ③ 5.9	①相應 ②良好 ③相應 ④完全 ⑤裏 ⑥破片	口縁：脇部：外傾、横撇で。底部：回転系切。	1
3 - 10	H-21 窓直	窓 坏	①(13.4)②(3.7) ③ 6.3	①相應 ②良好 ③相應 ④完全 ⑤裏 ⑥破片	横撇整形。口縁：脇部：外傾、横撇で。底部：回転系切	2
3 - 11	H-21 窓直	窓 坏	① 14.9 ② 4.8 ③ 7.1	①相應 ②良好 ③相應 ④完全 ⑤裏 ⑥破片	横撇整形。口縁：脇部：外傾、横撇で。底部：回転系切	
3 - 12	H-21 窓直	窓 高台機	①(16.0)② 4.8 ③ 5.1	①相應 ②良好 ③相應 ④完全 ⑤裏 ⑥破片	横撇整形。口縁・脇・外傾、横撇で。内部：脇輪にて崩き形成	
3 - 13	H-21 窓直	窓 坏	① 9.5 ② 2.5 ③ 4.9	①相應 ②良好 ③相應 ④完全 ⑤裏 ⑥破片	横撇整形。口縁：脇部：外傾、横撇で。底部：回転系切	1
3 - 14	H-23 窓直	窓 境	① 一 ② ③(8.6)	①相應 ②良好 ③相應 ④完全 ⑤裏 ⑥破片	横撇整形。口縁：次傾。脇下半：外傾、横撇で。底部：回転系切、高台貼付。 ③の脚のみ	1
3 - 15	H-24	瓦 軒平瓦 厚 2.5	長(22.5) ③軒 ④底 ⑤裏 ⑥破片	①相應 ②良好 ③相應 ④底 ⑤裏 ⑥破片	凹面：系切り痕、布目有り。端部は丁寧な無。凸面：継叩き後に擦付。	
3 - 16	H-24	瓦 軒丸瓦 厚 2.2	長(28.0) ③軒 ④底 ⑤裏 ⑥破片	①相應 ②良好 ③相應 ④底 ⑤裏 ⑥破片	凹面：系切り痕。凸面：擦で。	
3 - 17	H-24	瓦 軒平瓦 厚 2.9	長(22.5) ③軒 ④底 ⑤裏 ⑥破片	①相應 ②良好 ③相應 ④底 ⑤裏 ⑥破片	凹面：布目有り。凸面：丁寧な無で。	
3 - 18	H-24	瓦 軒平瓦 厚 1.5	長(15.0) ③軒 ④底 ⑤裏 ⑥破片	①相應 ②良好 ③相應 ④底 ⑤裏 ⑥破片	凹面：布目有り。凸面：丁寧な無で後に、格子目の印き	
3 - 19	H-24	土師器 鍋	① 一 ② ③(—)	① ② ③ ④	口縁：外傾、横撇で。脇部：横撇で。	
3 - 20	H-25	瓦 軒平瓦 厚 1.9	長(19.2) ③軒 ④底 ⑤裏 ⑥破片	①相應 ②良好 ③相應 ④底 ⑤裏 ⑥破片	凹面：布目有り。糸切り痕有り。凸面：丁寧な無で後に、斜格子目 の印き	
3 - 21	H-25 床直	かわらけ 窓内	① 10.2 ② 2.8 ③ 4.8	①相應 ②良好 ③相應 ④底 ⑤裏 ⑥破片	口縁：脇部：外傾、横撇で。底部：回転系切。	10
3 - 22	H-28 窓内	かわらけ 窓	① 8.7 ② 2.8 ③ 4.9	①相應 ②良好 ③相應 ④完全 ⑤裏 ⑥破片	口縁：脇部：外傾、横撇で。底部：回転系切。	5
3 - 23	H-28 窓直	かわらけ 窓	① 7.9 ② 1.4 ③ 4.0	①相應 ②良好 ③相應 ④完全 ⑤裏 ⑥破片	口縁：脇部：外傾、横撇で。底部：回転系切。	4他
3 - 24	H-28 窓内	土師器 甕	①(24.4)②(16.4) ③(—)	①相應 ②良好 ③相應 ④底 ⑤裏 ⑥破片	口縁：次傾。脇外面：糸割り。脇内面：横撇で。	8他
3 - 25	H-28	瓦 軒丸瓦 厚 1.2	長(32.2) ③軒 ④底 ⑤裏 ⑥破片	①相應 ②良好 ③相應 ④底 ⑤裏 ⑥破片	凹面：布暗痕。布目有り。凸面：丁寧な無で。	
3 - 26	H-28	瓦 軒丸瓦 厚 3.2	長(21.2) ③軒 ④底 ⑤裏 ⑥破片	①相應 ②良好 ③相應 ④底 ⑤裏 ⑥破片	凹面：布目有り。凸面：擦で。	
3 - 27	H-28	瓦 軒丸瓦 厚 2.0	長(15.5) ③軒 ④底 ⑤裏 ⑥破片	①相應 ②良好 ③相應 ④底 ⑤裏 ⑥破片	凹面：布暗痕。布目有り。凸面：丁寧な無で。	
3 - 28	H-28	瓦 軒平瓦 厚 1.8	長(11.6) ③軒 ④底 ⑤裏 ⑥破片	①相應 ②良好 ③相應 ④底 ⑤裏 ⑥破片	凹面：布目有り。凸面：擦で。	
3 - 29	H-28 床直	刀子	最大長4.9cm、最大幅1.6cm、最大厚0.4cm、重量3.5g。			
3 - 30	粘土 採掘坑	土師器 坏	①(15.2)②(2.5) ③(—)	①相應 ②良好 ③相應 ④底 ⑤裏 ⑥破片	口縁は粗く僅かに立ち上がり。底部は浅い。外側は傾斜り。内面 は横で調整が施されている。	1
3 - 31	D-28	砥石	最大長23.5cm、最大幅11.1cm、最大厚1.5cm、重量852g、石材は砂岩			
3 - 32	D-41	鉄製品 不明	最大長25cm、厚2.5cm、重量75g			
3 - 33	I-7 窓覆	内耳鍋	① 6.2 ② — ③ 1.3	①相應 ②良好 ③相應 ④底 ⑤裏 ⑥破片	横撇整形。内・外面横撇で。	
3 - 34	I-5 窓覆	窓 高台機	① 一 ②(4.6) ③ 6.9	①相應 ②良好 ③相應 ④底 ⑤裏 ⑥底・脇一部 ⑦脚	横撇整形。口縁：次傾。脇：外傾、横撇で；底部：回転系切後、底 部貼付。	
3 - 35	I-12 窓覆	窓 坏	①(10.7)②(3.1) ③(5.8)	①相應 ②良好 ③相應 ④底 ⑤裏 ⑥脚	横撇整形。口縁：脇部：外傾、横撇で。底部：回転系切	
3 - 36	I-12 窓覆	窓 坏	①(12.0)②(3.7) ③(6.3)	①相應 ②良好 ③相應 ④底 ⑤裏 ⑥脚	横撇整形。口縁：脇部：外傾、横撇で。底部：回転系切	
3 - 37	I-12 窓覆	窓 坏	① 10.8 ② 3.9 ③ 6.4	①相應 ②良好 ③相應 ④完全 ⑤裏 ⑥脚	横撇整形。口縁：脇部：外傾、横撇で。底部：回転系切	
3 - 38	I-12 窓覆	かわらけ 窓	①(11.7)②(2.6) ③ 4.9	①相應 ②良好 ③相應 ④底 ⑤裏 ⑥脚	口縁：脇部：外傾、横撇で。底部：回転系切。	
3 - 39	I-12 窓覆	石製品 宝鏡の鏡	屋蓋部分。側面は大きく述べる。最大幅24cm、高さ15.5cm、重量6.6kg。石材は安山岩。形状は均質で、丁寧な整形を施す。			
3 - 40	I-12 窓覆	五輪物 火輪	火輪、4/5枚舟。最大幅29cm、高さ18cm、重量17.8kg。石材は輝石安山岩。形状は均質で、兩枚輪状や開き椎 から反る。丁寧な整形を施す。			
3 - 41	I-12 窓覆	五輪物 火輪	寺棟の置盤、牙軒輪35cm、全高20.3cm。面部は一边12.5cm、高さ3.4cmの圓盤。圓盤内には相輪を受ける外径 8cm、内径4.5cm、深さ5cmの七字形の穴があく。			
3 - 42	I-12 窓覆	五輪物 火輪	火輪、4/5枚舟。最大幅38cm、高さ16cm、重量8.2kg。石材は輝石安山岩。形状は均質で、輪郭部裾はや や開き椎から反る。丁寧な整形を施す。			
3 - 43	I-12 窓覆	石製品 鏡物	鏡の一面を欠く。最大幅25.3cm、高さ15.9cm、重量12.4kg。石材は粗粒安山岩。形状は均質で引目と分画は不明。			
3 - 44	I-12 窓覆	石製品 鏡物	鏡の一面を欠く。最大幅25.3cm、高さ15.9cm、重量12.4kg。石材は粗粒安山岩。形状は均質で引目と分画は不明。			
3 - 45	I-12 窓覆	石製品 鏡物	鏡の一面を欠く。最大幅19cm、高さ15.7cm、重量6.0kg。石材は輝石安山岩。形状はほぼ均質で磨き を施す。			
3 - 46	I-12 窓覆	石製品 鏡物	上口では完全。直徑34.9cm、高さ14.6cm、重量13kg。石材は安山岩。使用による磨耗で引目と分画は不明。			
3 - 47	I-12 窓覆	石製品 鏡物	上口では完全。直徑30.2cm、厚さ15.5cm、重量14.6kg。石材は安山岩。使用による磨耗で引目と分画は不明。			

3-48	I-12 覆土	石製品 穀物臼	下臼。側面の多くのを欠く。直径(29.6cm, 厚さ16.2cm, 重量16.4kg。石材は安山岩。引き口は6文画と思われる。芯部は直径5.5cmで貫通する。		
3-49	I-12 覆土	石製品 穀物臼	下臼。側面の多くのを欠く。直径31.3cm, 厚さ9cm, 重量10.2kg。石材は安山岩。使用による消耗で引き口と分離する。		
3-50	T-2 土頭器 壊	土頭器 壊	(①)10.4mm (②)2.7 (③)一 (④)良好 (⑤)4/6	口縁部: 矩立直。内外面横無で。底部: 丸底、内面無で、外面無で、蓋削り。	
3-51	T-2 土頭器 壊	土頭器 壊	(①)29.8 (②)8.5 (③)一 (④)良好 (⑤)4/6	口縁部: 外反。内外面横無で。砂粒含む。底部: 欠損。	
3-52	W-4	瓦平瓦 厚1.9	長(18.6)	凹面: 布目模有り。端部は丁寧な彫。凸面: 鋼印き後に彫で。	
3-53	硬化土 覆土	須恵器 壊	(①)7.0 (②)一 (③)一 (④)良好 (⑤)4/6	楕円整形。口縁部: 外反。削部: 内・外表面横無で。外面に標印上工具を用いて模様をつけている。底部: 欠損。	
3-54	表探	深鉢	(①)一 (②)4.1 (③)一 (④)良好 (⑤)4/6	鍛帶上に等間隔で標位に押注版を施す。加曾利E-1式古墳銘併行期	
3-55	表探 覆土	須恵器 蓋	(①)1.4 (②)2.3 (③)4.4 (④)一 (⑤)4/3	楕円整形。天井部: 平らから緩やかに傾斜、内面横無で。外面回折部: 褶曲無し。環状の溝みを付す。	
3-56	表探 覆土	須恵器 高台模	(①)一 (②)1.6 (③)6.6 (④)良好のみ	楕円整形。口縁部: 体部: 欠損。底部: 内・外表面横無で。	
3-57	トレント 壊	須恵器 壊	(①)11.0 (②)3.4 (③)4.6 (④)良好 (⑤)4/6	口縁部: 外傾。内・外表面横無で。削部: 内・外表面横無で。底部: 平底。回転式切りきりあり。	輪化焰
3-58	表探 覆土	須恵器 壊	(①)一 (②)2.9 (③)5.8 (④)良好 (⑤)4/6	楕円整形。口縁部: 外傾。削部下位: 内・外表面横無で。底部: 平底。	
3-59	覆土	須恵器 高台模	(①)一 (②)5.5 (③)6.5 (④)良好 (⑤)4/5	楕円整形。口縁: 削部: 外傾、横無で。底部: 回転系切	
3-60	表探 覆土	須恵器 壊	(①)16.8 (②)8.5 (③)一 (④)良好 (⑤)4/6	楕円整形。口縁部: 外反、内・外表面横無で。削部: 内・外表面横無で。底部: 欠損。	
3-61	表探 覆土	須恵器 壊	(①)24.0 (②)7.5 (③)一 (④)良好 (⑤)4/6	楕円整形。口縁部: 外反、内・外表面横無で。削部下位: 剥みあわし、内・外表面横無で。底部: 欠損。	1
3-62	表探 覆土	内耳鍋	(①)30.0 (②)6.2 (③)一 (④)良好 (⑤)4/6	楕円整形。口縁部: 外傾。体部: 内・外表面横無で。底部: 欠損。	
3-63	x127 Y188 覆土	瓦 軒平瓦 厚2.3	長(10.7)	一枚作り。凹面: 布目あり。1条の溝あり。凸面: 横で。側面: 面取り2回。	
3-64	表探 覆土	瓦 軒平瓦 厚2.1	長(9.5)	一枚作り。凹面: 布目あり。端部旋調整。凸面: 溝無で調整。削部: 溝取り1回。	
3-65	x127 Y187 覆土	瓦 軒平瓦 厚1.4	長(7.6)	一枚作り。凹面: 布目あり。側面に2条の工具痕あり。凸面: 横無で調整。側面: 面取り3回。	
3-66	表探 覆土	瓦 軒平瓦 厚2.0	長(6.9)	一枚作り。凹面: 布目あり。凸面: 鋼目弦紋痕あり。	
3-67	表探 覆土	瓦 軒平瓦 厚2.2	長(11.8)	一枚作り。凹面: 布目後調整。凸面: 横無で。押印痕数箇所。側面: 面取り1回。	
3-68	表探 覆土	瓦 軒平瓦 厚3.1	長(14.8)	一枚作り。凹面: 良好 凸面: 溝無	
3-69	表探 覆土	羽口 土	(①)4.6 (②)5.1 (③)6.5 (④)良好 (⑤)4/5 (⑥)いよいよ (⑦)4/6	外側削り及び指捺す。内面横無で。	
3-70	調査区 石製品 砥石	最大長6.6cm、最大幅4.8cm、最大厚4.1cm、重量57g、石材は砂岩			
3-71	調査区 鉄製品 刃	最大長7.2cm、最大幅6.6cm、重量 未測る。断面は角張り。下位に行くにつれ細くなる。			
3-31	W-5 覆土	須恵器 壊	(①)12.8 (②)5.4 (③)6.5 (④)にいよいよ (⑤)2/3	楕円整形。口縁・削: 外傾。横無で。底部: 回転系切後、高台貼付	1他

Tab.16 元社苔海遺跡群(33)4区・5区出土遺物観察表

H-31号住居跡出土遺物観察表

番号	出土遺 構造物	器種名	①口径 ②幅高 ③底径	④底土 ⑤焼成 ⑥色調 ⑦遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備考
1	土師器 長胴壺	瓶B	(①)16.5 (②)22.3	(①)網狀 (②)化粧焰 (③)一 (④)4/6	直立気味の体部から「く」の字形に屈曲し、口縁部は開く。体部は斜位のへら削り。	カ 7 9	
2	土師器 小型壺	竈A袖	(①)12.2 (②)15.0 (③)一	(①)粗粒 (②)化粧焰 (③)いよいよ (④)口・体下半欠	平底気味の底盤から直立気味に内湾する体部に移行し、口縁部は直立し、口唇部を短く外反させる。	1	

H-32号住居跡出土遺物観察表

番号	出土遺 構造物	器種名	①口径 ②幅高 ③底径	④底土 ⑤焼成 ⑥色調 ⑦遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備考
1	土師器 壊	壺	(①)13.0 (②)4.7 (③)一	(①)織紋 (②)化粧焰 (③)網狀 (④)4/4	浅い丸底を呈し、体部は内湾する。口縁部は内傾し、口唇部を丸くする。体部は横位からへら削り。	カ 1	
2	土師器 壊	壊	(①)22.8 (②)19.9 (③)一	(①)砂粒 (②)化粧焰 (③)赤褐色 (④)4	口縁部は直く、外反する。削部中位は直立し、縦・斜位の削りを施す。最大径は削部上にある。		
3	須恵器 脚付鉢	床面	(①)25.0 (②)7.6 (③)13.0	(①)織紋 (②)化粧焰 (③)いよいよ (④)口縁	八の字形に聞くのが低い脚部。盤の外側は直立な手持ちへら削り調節。内部底盤は溝有り寸法のカ4寸。	2	
4	須恵器 脚付盤	床面	(①)24.9 (②)3.7 (③)一	(①)砂粒 (②)漫光焰 (③)白 (④)赤褐色 (⑤)4	盤の接合部に僅かに脚部が残存し、透かしの切り込みが見られる。外側は直立で、内側は手持ちへら削り調節。	7	
5	石製品 砥石	床面	長さ12cm、幅4.0cm、厚さ4.4cm、重量228g、石材は花崗岩、形状は長方形、両小口を除き4面を研ぎ面とする。一部は中央部が彫りこみ状となる。細かい刃研痕もある。			13	

6	石製品 円盤状	覆土	長さ5.5cm、幅4.8cm、厚さ2.9cm、重量23g。石質はFP軽石。形状は円盤状。		
---	------------	----	--	--	--

H-33号住居跡出土遺物観察表

番号	出土遺 構造部	器種名	①口径 ②縦高 ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備考
1	土師器 長持型	床面	① 21.8 ②(8.5) ③ —	①焼砂粒 ②焼成焰 ③灰褐色 ④口縁へ体下半	直立気味の体部上半より口縁部は「く」の字に屈曲して外反する。 体部外面は部位のヘラ削り調整。	3	
2	須恵器 壺	床面	① — ②(5.3) ③ —	①焼砂粒 ②焼元焰 ③灰褐色 ④体部上半残存	内部は同心円状の当て具。外側底部下の肩部はカキ目の調整し、一 部に線刻が施される。	5	
3	石製品 砾石	床面	長さ13.9cm、幅6.8cm、厚さ3.3cm、重量374g。石質は安山岩。形状は撥形を呈し、両小口を開き4面を研ぎ面 に使用する。	—		1	

H-34号住居跡出土遺物観察表

番号	出土遺 構造部	器種名	①口径 ②縦高 ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備考
1	土師質 壺	覆土	① 9.4 ② 2.0 ③ 5.0	①焼砂粒 ②焼成焰 ③灰褐色 ④口縁	体部は緩やかに内湾する。縁面は荒れている。底部赤切り未調整。	1	

H-35号住居跡出土遺物観察表

番号	出土遺 構造部	器種名	①口径 ②縦高 ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備考
1	磁器 白磁	覆土	①(17.0) ②(2.9) ③ —	①焼砂粒 ②焼元焰 ③灰白色 ④口縁部片	口縁部はやや肥大し、端部を尖り気味とする。		

H-36号住居跡出土遺物観察表

番号	出土遺 構造部	器種名	①口径 ②縦高 ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備考
1	須恵器 鉢	覆土	①(18.0) ②(7.3) ③ —	①焼砂粒 ②焼元焰 ③灰褐色 ④体部1/5	体部は強く内湾し口縁部は内湾する。口沿部先端は突出する。体部 下半は回転ヘラ削り。		

H-38号住居跡出土遺物観察表

番号	出土遺 構造部	器種名	①口径 ②縦高 ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備考
1	土師器 羽釜	窓内	① — ②(16.0) ③ —	①焼砂粒 ②焼成焰 ③灰褐色 ④口へ体中	口縁部は丸みがあり、下方に垂れ気味。体部外面は縦位、内 面は横位の無地調整を施す。	カ 6・7	

H-39号住居跡出土遺物観察表

番号	出土遺 構造部	器種名	①口径 ②縦高 ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備考
1	土師器 羽釜	窓内	①(24.0) ②(14.5) ③ —	①焼砂粒 ②焼成焰 ③灰褐色 ④口へ体中	直立気味に内湾する体部で口縁部は直立。口沿部は平坦で端部外周 やや突出する。縁は三角形。体部中位下はヘラ削り調整。	カ 3・6	
2	灰陶向器 高台柄	窓内	① 16.2 ② 5.6 ③ 7.7	①焼砂粒 ②焼元焰 ③灰褐色 ④口へ体中	直立気味に内湾する体部で口縁部は直立。縁は直線的。体部中位下はヘラ削り未調整。	13・20	
3	土師器 壺	窓内	①(15.4) ② 4.7 ③ 8.0	①焼砂粒 ②焼成焰 ③灰褐色 ④口へ体中	直立気味に内湾する体部で口縁部は直立。縁は直線的。体部中位下はヘラ削り未調整。	カ 2・9	
4	土師質 壺	覆土	① 9.8 ② 1.9 ③ 6.4	①焼砂粒 ②焼成焰 ③灰褐色 ④口へ体中	直立気味に内湾する体部で口縁部は直立。縁は直線的。体部中位下はヘラ削り未調整。		
5	土師質 壺	窓内	① 9.0 ② 2.4 ③ 5.0	①焼砂粒 ②焼成焰 ③灰褐色 ④口へ体中	直立気味に内湾する体部で口縁部は直立。縁は直線的。体部中位下はヘラ削り未調整。	6	
6	須恵器 こね鉢	覆土	① — ②(3.8) ③ 9.5	①焼砂粒 ②焼元焰 ③灰褐色 ④口へ体下半片	円盤状を呈する底部は回転ヘラ削り調整。内面の縁面は磨面と なっている。		
7	須恵器 壺	① — ②(10.4) ③ —	①焼砂粒 ②焼元焰 ③灰褐色 ④口へ体下半片	直立気味に内湾する体部で口縁部は直立。縁は直線的。体部中位下はヘラ削り未調整。	8		
8	磁器 白磁	覆土	① — ②(3.2) ③ 9.7	①焼砂粒 ②焼元焰 ③灰褐色 ④底へ体部中位	縁は浅いオーバー焼を呈する灰白色。体部下半は回転ヘラ削り。底 面は研ぎ出しある。		
9	石製品 砾石	窓内	細長い瓶丸三角形で、20×14.8cm、厚さ3.3cm、重量12480g。石質は綈密安山岩。傾斜する二面に磨面があり、 刃研ぎ痕も観察される。			3	
10	瓦 軒瓦	窓内	① — ②(3.2) ③ 4.0	①焼砂粒 ②焼元焰 ③灰褐色 ④口へ体部中位	瓦が寧ろ長い長方形を呈し、縁縁は大半が欠けている。墨面と同の区別は薄く済み。横円形 の擦痕が残る。石質は粘板岩。	19	
11	石製品 砾石	南上面	坂瓦	坂瓦が寧ろ長い長方形を呈し、縁縁は大半が欠けている。墨面と同の区別は薄く済み。横円形 の擦痕が残る。石質は粘板岩。			

H-40号住居跡出土遺物観察表

番号	出土遺物部位	器種名	①口径 ②縦高 ③底径	①前土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
1	灰釉陶器 高台壇	覆土	①(13.8)②(4.2) ③(7.0)	①前輪 ②良好 ③灰白 ④3/5	断面四角形の高台を付し、体部は中位で斜い棱を内面底部に重ね焼き。		
2	土師器 土壇	窓内	①12.6 ② 6.3 ③ 6.7	①焼成 ②酸化焰 ③にい焼 ④直立	手削れによる成形。体部下半は斜位のへラ削り、口唇部は尖り気味とする。	カ1	
3	土師器 土壇	窓内	①(28.2)②(26.1) ③ —	①焼成 ②酸化焰 ③にい焼 ④1/2弱	体部は直立気味に内湾し、口縁部は短く外反する。体部は縦位のへラ削り、口縁部は横ナド。	カ9	

H-41号住居跡出土遺物観察表

番号	出土遺物部位	器種名	①口径 ②縦高 ③底径	①前土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
1	土師質 小壇	覆土	① 10.2 ② 2.9 ③ 6.3	①砂粒 ②酸化焰 ③にい焼 ④1/3	底部回転赤切り未調整。体部は緩やかに内湾する。	5	
2	土師器 窓	覆土	①(26.4)②(16.4) ③ —	①砂粒 ②酸化焰 ③にい焼 ④1/4	体部上半は直立気味とし、口縁部は短く外反する。	13	

H-42号住居跡出土遺物観察表

番号	出土遺物部位	器種名	①口径 ②縦高 ③底径	①前土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
1	須彌器 環	覆土	① 15.2 ② 5.1 ③ 7.0	①砂粒 ②酸化焰 ③にい焼 ④3/4	体部外面には部分的にタール状の付着が見られる。底部回転赤切り未調整。	1	
2	土師器 環	覆土	① 15.6 ② 4.3 ③ 8.0	①砂粒 ②酸化焰 ③にい焼 ④3/4	体部は直線的に内湾し、口唇部をやや尖り気味とする。底部回転赤切り未調整。		
3	土師器 瓶	覆土	① 16.0 ② (5.2) ③ —	①砂粒 ②酸化焰 ③にい焼 ④体部2/3	直立粗粒。高台壇と考えられる。表面はひどく荒れている。	3 + 4 • 6	

H-44号住居跡出土遺物観察表

番号	出土遺物部位	器種名	①口径 ②縦高 ③底径	①前土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
1	須彌器 盤	覆土	① — ②(8.4) ③(13.0)	①砂粒 ②焼成 ③灰褐色 ④1/2	高台壇。体部外面はヘラ削り整形後に縦位のナグ調整を施す。	9	
2	瓦 軒瓦	長	長(13.5) 厚 2.7	①砂粒 ②良好 ③灰褐色 ④破片	背面: 布目有り。凸面: 瓢の痕跡、丁寧なナデ。		
3	瓦 軒瓦	長	長(17.0) 厚 3.4	①砂粒 ②良好 ③褐色 ④破片	背面: 布目有り。凸面: 瓢の痕跡。		

H-45号住居跡出土遺物観察表

番号	出土遺物部位	器種名	①口径 ②縦高 ③底径	①前土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
1	土師器 環	覆土	① 14.6 ② 4.2 ③ 7.0	①砂粒 ②焼成焰 ③にい焼 ④1/2	底部回転赤切り未調整。	16	
2	土師器 小壇	覆土	① 9.4 ② 2.3 ③ 5.6	①砂粒 ②酸化焰 ③にい焼 ④3/4	体部はやや歪む。底部静止赤切り未調整。	10	
3	土師器 小壇	窓内	① 9.8 ② 2.2 ③ 7.1	①砂粒 ②酸化焰 ③にい焼 ④4/5	右回転難水引、底部回転赤切り未調整。	11	
4	土師器 小壇	覆土	① 8.8 ② 2.2 ③ 4.6	①砂粒 ②酸化焰 ③にい焼 ④4/5	底部回転赤切り未調整。体部外中に斜い棱、内面底部中央部がやや歪む。	6	
5	土師器 小壇	窓内	① 9.4 ② 2.2 ③ 5.1	①砂粒 ②酸化焰 ③にい焼 ④3/4	底部回転赤切り未調整。	カ9	
6	土師器 小壇	覆土	① 8.5 ② 2.0 ③ 5.0	①砂粒 ②酸化焰 ③にい焼 ④1/2	底部回転赤切り未調整。	4	
7	土師器 小壇	窓内	① 8.4 ② 2.3 ③ 4.7	①砂粒 ②酸化焰 ③にい焼 ④1/2	底部回転赤切り未調整。口唇部に灯芯孔?	カ6	
8	土師器 小壇	覆土	① 8.8 ② 2.4 ③ 4.8	①砂粒 ②酸化焰 ③にい焼 ④4/5	底部回転赤切り未調整。底部中央上げ直状。	18	
9	土師器 小壇	覆土	① 8.8 ② 1.7 ③ 5.0	①砂粒 ②酸化焰 ③にい焼 ④4/5	蓋高は低く、体部は緩やかに内湾する。底部回転赤切り未調整。	13 + 20	
10	土師器 小壇	覆土	① 8.2 ② 1.7 ③ 5.0	①砂粒 ②酸化焰 ③にい焼 ④3/4	底部回転赤切り未調整。内面底部中央がやや高まる。	17	
11	土師器 小壇	覆土	① 8.8 ② 1.8 ③ 4.9	①砂粒 ②酸化焰 ③にい焼 ④1/2	底部回転赤切り未調整。口唇部をやや平坦気味とする。	3 + 7	
12	土師器 小壇	覆土	① 7.8 ② 2.1 ③ 5.5	①砂粒 ②酸化焰 ③にい焼 ④1/2	底部回転赤切り未調整で、やや高台状に高まる。	9	
13	土師器 小壇	覆土	① 9.0 ② 1.9 ③ 5.0	①砂粒 ②酸化焰 ③にい焼 ④3/4	底部回転赤切り未調整。内面底部中央がやや高まる。体部外側に斜い棱。	15 + 19	
14	土師器 小壇	覆土	① 8.3 ② 1.8 ③ 5.2	①砂粒 ②酸化焰 ③にい焼 ④3/4	底部回転赤切り未調整。	2	
15	土師器 小壇	窓内	① 9.1 ② 2.4 ③ 4.9	①砂粒 ②酸化焰 ③にい焼 ④ 完形	底部回転赤切り未調整。体部外側に棱。	カ7	
16	須彌器 盤	覆土	① ② ③	①砂粒 ②酸化焰 ③にい焼 ④完形	風字型。鉄丸形を呈し、墨池と同の縁は無く、二頭の突起状足で脚裏面を傾斜させた。墨縁は墨紙を除き三方に削る。内外面丁寧なマキを施し、磨り面はつるつるである。	12	

17	土師質 劫跡車	①(5.6) ③—	②0.7 ④— ⑤微砂粒 ⑥明褐色 ⑦1/2弱	回転糸切り未調整の状態を円盤状に加工した劫跡車と考えられる。		
----	------------	--------------	-------------------------------------	--------------------------------	--	--

H-46号住居跡出土遺物観察表

番号	出土遺 構造位	器種名	①口径 ③底径	②湖高 ④底深	⑤胎土 ⑥焼成 ⑦遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備考
1	土師器 高台壇	窓内	①11.1 ③5.8	②4.7 ④—	⑤細砂粒 ⑥焼成化焰 ⑦3/4弱	付け高台は切く八の字形に開き、体部は丸く内溝する。底部回転糸 切り未調整。	カ6 6・9	
2	土師質 小型杯	窓内	①10.4 ③5.2	②3.8 ④—	⑤細砂粒 ⑥焼成化焰 ⑦3/4弱	体部に水引き痕。底部回転糸切り未調整。	カ2	
3	土師質 羽輪	窓内	①(24.0)②(13.0) ③—	②— ④—	⑤細砂粒 ⑥焼成化焰 ⑦3/4弱 ⑧口縁部半片	胎土に石英・チャートの軽石を多く混入。口縁部に明顯な輪積み痕。 窓は断面三角形で先端を上方に丸める。	カ11	
4	土師質 羽輪	窓内	①— ③—	②(14.8) ④—	⑤細砂粒 ⑥焼成化焰 ⑦3/4弱 ⑧口縁部	口縁部はやや内傾し、窓は断面三角形。	カ5	

H-48号住居跡出土遺物観察表

番号	出土遺 構造位	器種名	①口径 ③底径	②湖高 ④底深	⑤胎土 ⑥焼成 ⑦遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備考
1	土師器 環	窓内	①10.0 ③—	②7.8 ④—	⑤細砂粒 ⑥焼成化焰 ⑦4/4	浅い丸底から口縁部は短く直立気味。	4	
2	土師器 環	窓内	①10.2 ③—	②3.2 ④—	⑤細砂粒 ⑥焼成化焰 ⑦4/4	やや深めの丸底から口縁部は短くや内傾気味に直立する。	1	
3	須彌器 蓋	窓内	①10.5 ③—	②5.0 ④—	⑤細砂粒 ⑥焼成化焰 ⑦3/4弱 ⑧口縁部	円錐形の脚部を付し、天井部をやかに内溝し、回転ハラ型。かえ りの断面は二角形で先端部は尖る。	5	
4	須彌器 蓋	窓内	①9.9 ③—	②7.8 ④—	⑤細砂粒 ⑥焼成化焰 ⑦3/4弱 ⑧口縁部	平底状の天井部で、手持ちへ削り整型。口縁部は尖り気味。	12	

D-55号土坑跡出土遺物観察表

番号	出土遺 構造位	器種名	①口径 ③底径	②湖高 ④底深	⑤胎土 ⑥焼成 ⑦遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備考
1	石製品 五輪壙	覆土	空風輪で下部に柄を有する。	空風輪の柄大径13.4cm、高さ16.3cm、重量は1,570g。石質は安山岩。梵字の記述 は確認できない。分的に使用された腹壁が観察される。			2	

D-58号土坑跡出土遺物観察表

番号	出土遺 構造位	器種名	①口径 ③底径	②湖高 ④底深	⑤胎土 ⑥焼成 ⑦遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備考
1	須彌器 高台壇	覆土	①13.4 ③6.4	②5.5 ④—	⑤細砂粒 ⑥焼成化焰 ⑦3/4弱 ⑧完形	高台の外側腹部がめくれあがった様で、体部は重た。片唇・長い足 などの泥れ物が目立つ。底部は回転糸切り未調整。	1	
2	須彌器 高台壇	覆土	①12.3 ③6.5	②5.2 ④—	⑤細砂粒 ⑥焼成化焰 ⑦3/4弱 ⑧完形	高台は短く直立気味に付す。高台部分は明褐色灰色で体部と色調を異 にする。体部は直線的で開け、底部回転糸切り未調整。	2	
3	土師器 环	覆土	①12.1 ③6.5	②3.8 ④—	⑤細砂粒 ⑥焼成化焰 ⑦3/4弱 ⑧完形	底部回転糸切り未調整で上部底伏を呈する。中央部に粘土塊が付着す る。口縁部を外反させて開き気味とする。	3	

D-67号土坑出土遺物観察表

番号	出土遺 構造位	器種名	①口径 ③底径	②湖高 ④底深	⑤胎土 ⑥焼成 ⑦遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備考
1	土師質 小型杯	窓内	①8.5 ③5.4	②7.1 ④—	⑤細砂粒 ⑥焼成化焰 ⑦4/4	体部はや外反してくらき。底部回転糸切り未調整。	1	
2	土師質 小型杯	窓内	①9.5 ③4.3	②7.1 ④—	⑤細砂粒 ⑥焼成化焰 ⑦3/4弱 ⑧完形	体部は緩やかに内溝して口縁部に移行。底部静止糸切り未調整。	8	
3	土師質 小型杯	窓内	①8.4 ③5.3	②7.2 ④—	⑤細砂粒 ⑥焼成化焰 ⑦3/4弱 ⑧完形	体部確かに歪み、底部回転糸切り未調整。	6	
4	土師質 小型杯	窓内	①9.5 ③5.3	②1.6 ④—	⑤細砂粒 ⑥焼成化焰 ⑦3/4弱 ⑧完形	体部は圓柱気味に開く。底部回転糸切り未調整で、一部が高台状に 突出する。	3	
5	土師質 小型杯	窓内	①8.8 ③5.6	②1.9 ④—	⑤細砂粒 ⑥焼成化焰 ⑦3/4弱 ⑧完形	体外面に明顯な水引き痕。内部底部中央が僅かに突出。底部回転 糸切り未調整。	2	
6	土師質 小型杯	窓内	①9.1 ③5.2	②1.7 ④—	⑤細砂粒 ⑥焼成化焰 ⑦3/4弱 ⑧完形	体部中位で屈曲し、口縁部は外反する。底部回転糸切り未調整。	4	
7	土師質 小型杯	窓内	①8.5 ③5.6	②1.8 ④—	⑤細砂粒 ⑥焼成化焰 ⑦3/4弱 ⑧完形	体部確かに歪み、外面部引き痕。底部回転糸切り未調整。	7	

D-68号土坑構造出土遺物観察表

番号	出土遺 構造位	器種名	①口径 ③底径	②湖高 ④底深	⑤胎土 ⑥焼成 ⑦遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備考
1	須彌器 高台壇	覆土	①13.9 ③6.1	②5.4 ④—	⑤細砂粒 ⑥焼成化焰 ⑦3/4弱 ⑧完形	高台断面は鑿鉗状。直線的に内溝する体部から口縁部は外反気味に 開く。底部回転糸切り未調整。		

D-72号土坑出土遺物観察表

番号	出土遺物部位	器種名	①口径 ③底径	②高さ ④道存度	①胎土 ③色調 ②焼成 ④道存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
1	土師質 小形壺		① 9.8 ③ 3.0 ③ 5.6	② 3.6 ④ ③焼成壺 ④完形	①糊 ②化粧壺 ③糊黄褐	体部外面に明瞭な水引き痕。底部回転未切り未調整。	1	

W-10号溝出土遺物観察表

番号	出土遺物部位	器種名	①口径 ③底径	②高さ ④道存度	①胎土 ③色調 ②焼成 ④道存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
1	副鏡	覆土			政和通寶(北宋、1111年鑄造)、「和」の部分を欠損。分類。			
2	石製品 礎石	覆土						

W-14号溝出土遺物観察表

番号	出土遺物部位	器種名	①口径 ③底径	②高さ ④道存度	①胎土 ③色調 ②焼成 ④道存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
1	須恵器 高台壇		① 13.5 ③ 5.2 ③ 6.1	② ④ ③焼成 ④明褐色 ④糊 ④完形	①糊 ②化粧壺 ③糊青釉 ④1/2	低い台形状の高台を行し、体部は直線的に内凹する。底部回転未切 り未調整。	1	

W-15号溝出土遺物観察表

番号	出土遺物部位	器種名	①口径 ③底径	②高さ ④道存度	①胎土 ③色調 ②焼成 ④道存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
1	カツラヶ 坪	覆土	① 10.8 ③ 2.5 ③ 6.5	② ④ ③焼成 ④糊 ④糊 ④3/4	体部がやや歪むみ、部分的に口縁部が外反して開く。底部回転未切 り未調整。			
2	カツラヶ 坪	覆土	① 7.9 ③ 2.4 ③ 4.0	② ④ ③焼成 ④糊白 ④2/2	高台位にやや高まる底部から体部は直線的に内凹する。底部回転未切 り未調整。			
3	カツラヶ 坪	覆土	① 10.9 ③ 2.7 ③ 7.0	② ④ ③焼成 ④糊青釉 ④1/2	内部底部に指ナ指痕。口沿部はやや失ひ気味とする。底部回転未切 り未調整。			
4	陶瓶 蓋	覆土	① ② ③ 2.7 ③ 5.0	② ④ ③糊 ④糊 ④糊 ④糊 ④糊	天目系碗の底面片で取り出した輪高台。天目輪が高台まで残る。内 部に蒸窓使用時の煙灰状堆积。			鉢足品?
5	燒結陶器 片口鉢	覆土	① ② ③ ③ 5.0	② ④ ③糊 ④糊 ④糊 ④糊 ④糊	外側輪郭状工具による調整。内面はつるつの磨面。底部は砂目			常滑焼
6	燒結陶器 甕	覆土	① ② ③ ③ 5.0	② ④ ③糊 ④糊 ④糊 ④糊 ④糊	外側は格子状の押印と刷毛目状のナマ整形。	7		常滑焼
7	燒結陶器 大甕	覆土	① ② ③ ③ 5.0	② ④ ③糊 ④糊 ④糊 ④糊 ④糊	口縁部縦縫の幅は4cm。			常滑焼 14世紀後半
8	内耳土器		①37.0 ② 13.2 ③ 29.0	② ④ ③糊 ④糊 ③ ④糊 ④糊 ④糊	底面縫合はガザ。体部は直立気味に立ち上がり、下平はヘラ削り 整型。口縁部は脚部から屈曲し、直線的に開き、口沿部を平坦とす る。内耳は口沿部の下から脚部へ削って行います。			
9	烟烙	覆土	① ② ③ 7.5 ③ 5.0	② ④ ③糊 ④糊 ③ ④糊 ④糊 ④糊	底部周縫はガザ。外側立ち上がりはヘラ削り。口沿部は平面で外側 周縫を突込。内耳は口沿部から脚部中央の屈曲部に付きます。			
10	内耳土器		①33.0 ② 16.0 ③ 5.0	② ④ ③糊 ④糊 ③ ④ ④糊 ④糊 ④ ④ ④糊 ④糊	直線的に開く体部で内耳部で屈曲し、口縁部は体部以上に開く。口沿 部は平坦で外側周縫を埋め込む。体部下部ヘラ削り整形。			
11	鍋	覆土	①33.8 ② 17.3 ③ 5.0	② ④ ③糊 ④糊 ③ ④ ④糊 ④糊 ④ ④ ④糊 ④糊	体部は直立気味に立ち上がる。体部外側は丁寧な模ナマ整形後に5 枚の平行沈割が2~2.5mm隙で施す。その下方はヘラ削り調整。口 沿部の端部は磨滅している。	3		

I-14号井戸出土遺物観察表

番号	出土遺物部位	器種名	①口径 ③底径	②高さ ④道存度	①胎土 ③色調 ②焼成 ④道存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
1	土師質 壺	覆土	① 8.4 ③ 2.2 ③ 5.0	② ④ ③糊 ④糊 ③ ④ ④糊 ④糊	体部は中位まで強く内凹し、口縁部は外反して開く。底部回転未切 り未調整。			

I-16号井戸出土遺物観察表

番号	出土遺物部位	器種名	①口径 ③底径	②高さ ④道存度	①胎土 ③色調 ②焼成 ④道存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
1	石製品 製作物	覆土	上臼 ② 4.8cm 下臼 ② 4.8cm	手平削り。異形円筒。底径 28.3cm、厚さ 10.3~12.6cmで片減りが顯著。供出孔は 3cm前後の円筒。芯穴 5cmの円筒。挽手孔は方角で深さ 4.5cm、重量 5,720g。石質は粗粒安山岩。擦り目は磨耗し光沢のある磨面。 分割は不規則、もろい配りあります。				
2	石製品 製作物	覆土	上臼 ② 4.8cm 下臼 ② 4.8cm	上臼片で3個存在。直径 31.9cm、厚さ 12~14.1cmで片減り。重量 5,470g。石質は粗粒安山岩。芯穴の直径 5.4cm、 深さ 2.5cm。挽手孔は 2.5~3cmの方形で深さ 4cm。目ははげて粗く継ぎます。残存する分割内は 4 条。擦り目 は磨面。熱を受ける。				
3	石製品 製作物	覆土	上臼 ② 4.8cm 下臼 ② 4.8cm	上臼で 1/2 割残存。直径 37.7cm、厚さ 8~9.9cmで片減りが著しい。直根 2,390g。石質は粗粒安山岩。目は 1 cm前後で粗い。根は不規則。擦り目はセザン面。挽手孔は表面まで詰っているので、他の部分に孔が穿た れ使用されたと考えられる。供出孔は 4.3cm前後の円形で、ものばり目で接する。芯穴は 5cmの径で貫通してい る。穴頭は擦り目で滑らかになっている。				
4	石製品 製作物	覆土	上臼 ② 4.8cm 下臼 ② 4.8cm	上臼で 1/2 割残存。直径 28.4cm、厚さ 5.1cm、重量 1,700g。石質は粗粒安山岩。目は浅く、幅は一定でなく細。 分割は不規則、もろい配りは豊富。				
5	石製品 製作物	覆土	上臼 ② 4.8cm 下臼 ② 4.8cm	上臼で 1/2 割残存。直径 30.0cm、厚さ 5.7cm、重量 1,650g。石質は粗粒安山岩。縁の内側面は滑らかに整形し てある。根は接続して 2 ヶ所に穿たれ、旧孔は面部が孔底まで詰っているので、新たに孔が穿たれている。 目は粗く、数多確認される。				
6	石製品 製作物	覆土	下臼 ② 4.8cm 上臼 ② 4.8cm	下臼で 1/2 割残存。直径 38.0cm、厚さ 14.9cm、重量 9,990g。石質は砂岩。目は 6 分割で分割内は 4~5 本。 縁の内側面は滑らかに整形してある。被熱を受けている。				

7	石製品 鋸物口	覆土	下臼で2/3残存。3分割以上。直径(31.1)cm、厚さ11.9cm、芯穴の上面径2.5cm、重量9,170g。石質は粗粒安山岩。片側が認められる。分画は6分画と推され、分画の角度は一定せず、目も無い。被熱を受けている。直面には網目が設けている。		
8	石製品 鋸物口	覆土	下臼で半分が残存。上面の縁部分を欠いている。直径(32.5)cm、厚さ12.9cm、芯穴3.5cm前後の鋼丸丸形。重量10,160g。石質は粗粒安山岩。目は細く、分画は6分画と推される。		
9	石製品 鋸物口	覆土	下臼で約1/4残存。側面を細かく欠いている。厚さ11.1cm、重量4,990g。石質は粗粒安山岩。目は深く網状を呈し、やや網状で割いていた。側面には網目となり光沢を帯びる。分画は不明、被熱を受けている。		
10	石製品 鋸物口	覆土	下臼、直面の大半を欠いている。厚さ12.8cm、重量8,370g。石質は粗粒安山岩。残存する目は1.5~2cm幅、中央の穴は2.5~3cmの方形で厚さ3.5cm。		
11	石製品 鋸物口	覆土	約半分が残存。直径(29)cm、高さ34cm。厚さ8cm、重量3,669g。石質は粗粒安山岩。外側に網目があり、内面は擦痕による跡面が見られない。被熱を受けている。		
12	石製品 鋸物口	覆土	2/3残存、形状は楕円方形を有すると考えられる。高さ34cm、重量4700g。石質は玄武岩。上面に直径9cm前後、深さ5.3cmの網状の形狀の穴を設ける。穴の側面はさらかな網目。		
13	石製品 茶臼形	覆土	下臼、直面径(17.1)cm、直面直径(33.2)cm、底径(25.6)cm、ふくみ4mm、重量6,529g。石質は粗粒安山岩。大きき2つに割れ、受け皿の口部が僅かに残る。目の分画は6分画と考えられ、側面は光沢がある網目。		
14	石製品 茶臼形	覆土	下臼、直面径(21.4)cm、高さ12.7cm、底径(30.8)cm、重量5,690g。石質は粗粒安山岩。半分割が残存。受け皿部分を欠く。目は済滅して分画は半分であるが、重数の浅い目が残る。側面は平滑。芯棒を固定する穴の上位には網目となる。		
15	石製品 茶臼形	覆土	下臼、直面径(20.0)cm、高さ13.3cm、底径(30.9)cm、重量5,500g。石質は粗粒安山岩。半分割が残存し、受け皿の口部を欠く。目は半個であるが、側面は済滅する。受け皿内面も比較的丁寧仕上げられている。被熱を受けている。		
16	石製品 茶臼形	覆土	下臼、直面径(16.4)cm、高さ(19.7)cm、底径(30.0)cm、重量1,409g。受け皿から直面が底面部の破片。石質は粗粒安山岩。		
17	石製品 宝珠印堵	覆土	第2部分で、半分ほどが残存。26.8cmの方形、高さ21.2cm、重量13,500g。石質は粗粒安山岩。各側面を枠取りで二方に分けた上部には一様の作り出し(基礎上段形)を設ける。上面は磨石として使用された部位がある。被熱を受けている。		
18	石製品 五輪焼	覆土	火輪、平面形は7.5×27cmの方形。高さ200mm、重量15,208g。石質は角閃石安山岩。		
19	石製品 五輪焼	覆土	火輪の先端。上面は20cmの方形、下面11.4×19cmで厚まり、1cm前後の抉りを施す。高さ16.5cm、重量は10,400g。石質は粗粒安山岩。地輪で骨董袋を穿つものと考えた。穴のある下面の平頭部は他物に丁寧に仕上げられ、擦痕となってることから天地逆で鉢としての使用も考えられる。		
20	石製品 五輪焼?	覆土	1/4残存。高さ21cm前後、重量1,990g。石質は粗粒安山岩。上面は比較的丁寧な上仕上げの擦面で、被熱による紫色部がある。		
21	石製品 五輪焼	覆土	安山岩。上面の二寸半仕上げの擦面で、被熱による紫色部がある。		
22	石製品	覆土	高さ(10.5)cm、幅(7.2)cm、厚さ(3.5)cm、重量44,120g。石質は粗粒安山岩。割れ面に被熱を受けている。		

Tab.17 元続社蒼海遺跡群(33) 2区・3区出土 石器・石製品 観察表

2区

番号	出土遺構／層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重さ	石材	遺存度	登録番号	備考
2-石1	H-7	床直	敲石	11.8	4.1	3.4	260	砂岩	完形	1
2-石2	H-7	床直	敲石	20.9	10.2	4.5	1300	安山岩	完形	2
2-石3	全体覆土	石斧	6.9	3.8	1.2	42	ホルンフェルス	完形	3	

3区

番号	出土遺構／層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重さ	石材	遺存度	登録番号	備考
3-石1	H-11	床直	砥石	17	8.4	5.9	1060	砂岩	完形	1

Tab.18 元続社蒼海遺跡群(33) 1区・3区出土 瓦 観察表

1区

番号	出土遺構／層位	器種名	①径さ ②厚さ	③筋 ④色調 ⑤地成 ⑥遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
2-瓦1	I-5 覆土	平瓦	①14.6 ②2.4	③細粒 ④良好 ⑤灰 ⑥破片	一枚作り。凹面：布目あり。凸面：無で。側面：面取り1回。		
2-瓦2	I-6 覆土	平瓦	①8.5 ②2.0	③細粒 ④良好 ⑤灰 ⑥破片	一枚作り。凹面：布目あり。凸面：無で。側面：面取り1回。		

3区

番号	出土遺構 焼成位	器種名	①径さ ②厚さ	③筋 ④色調 ⑤地成 ⑥遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
3-瓦1	x127.7 188 覆土	平瓦	①10.7 ②2.3	③細粒 ④良好 ⑤灰 ⑥破片	一枚作り。凹面：布目あり。1条の溝があり。凸面：無で。側面：面取り2回。		
3-瓦2	吉保 覆土	平瓦	①9.5 ②2.1	③細粒 ④良好 ⑤灰 ⑥破片	一枚作り。凹面：布目あり。端部接調整。凸面：尾端で調整。側面：面取り1回。		
3-瓦3	x127.7 187 吉保	平瓦	①7.6 ②1.4	③細粒 ④良好 ⑤灰 ⑥破片	一枚作り。凹面：布目あり。側面に2条の工具痕あり。凸面：接撫で調整。側面：面取り3回。		
3-瓦4	y1868 吉保	平瓦	①6.9 ②2.0	③細粒 ④良好 ⑤灰 ⑥破片	一枚作り。凹面：布目あり。凸面：縞目瓦底あり。		
3-瓦5	吉保 覆土	平瓦	①11.8 ②2.2	③細粒 ④良好 ⑤灰 ⑥破片	一枚作り。凹面：布目あり。凸面：無で。側面：面取り1回。		
3-瓦6	吉保 覆土	平瓦	①14.8 ②3.1	③細粒 ④良好 ⑤灰 ⑥破片	一枚作り。凹面：布目後調整。凸面：無で。押指痕消所。側面：面取り1回。		

VI まとめ

今回の調査で蒼海(33)―3区から馬1頭を埋葬した中世の土坑が検出された。遺存状態が良くなかったため、上顎の歯、下顎について取り上げを行った。

馬は5世紀の古墳時代に日本に渡来したと言われており、群馬県（上野国）では8世紀から9世紀にかけて大和政権の蝦夷征伐に伴う兵馬の供給基地として繁殖・育成が行われていたと考えられている。

本遺跡を含めた元総社蒼海遺跡群や元総社町周辺の遺跡からは多数の馬骨・馬齒の出土例が報告されている(図1)。その中でも現在の関越自動車道が建設される際に財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が発掘調査を行った「上野国分僧寺・尼寺中間地城」からは古代から近世に至る馬を含む動物遺存体が1059点出土している。元総社町周辺では、総社古墳群、上野国分僧寺・尼寺、上野国府、蒼海城と古くから政治の中核となる機関が存在した。

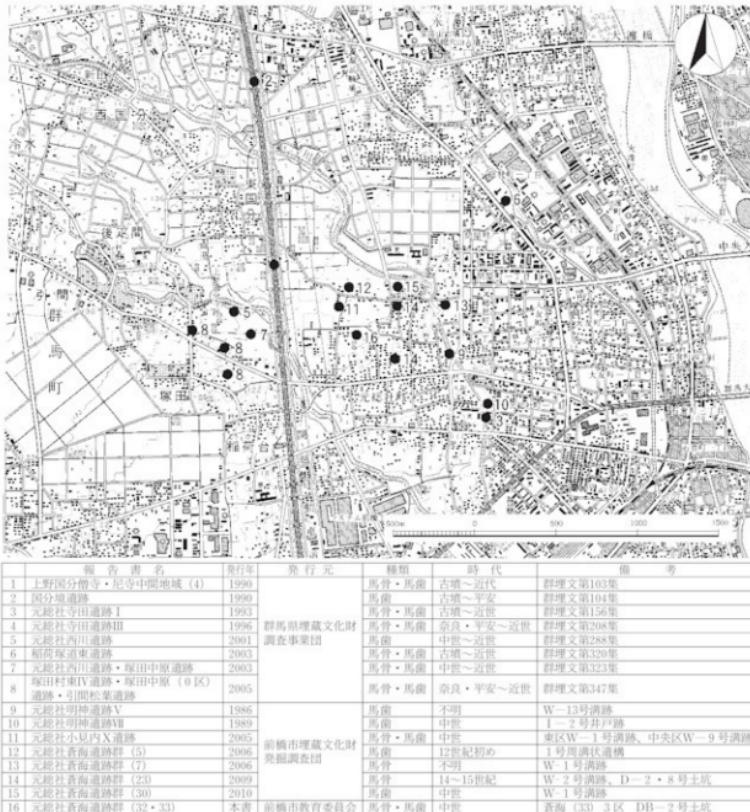


図1 元総社町周辺の馬骨・馬齒出土遺跡

その中で、軍馬や政権を支えるための生産に携わる農耕馬が多数存在し、死後埋葬されたり祭祀に伴い殉殺されたりした馬が出土したと思われる。

なお、馬についての鑑定は宮崎重雄氏の手を煩わせた。ここに感謝申し上げます。

1 出土状況 (Fig.71、PL.32)

元社社幼稚園北側の東西1.47m、南北0.6m、深さ0.485mの土坑の中から馬の上顎歯、下顎骨、前肢・後肢の骨が出土した。この馬は土坑の西端に北東に向くように頭部があり、前肢は土坑の中央部、後肢は東に向かって伸び、左右の膝部がそれぞれ土坑の北壁と南壁に接していた。残念ながら頸蓋骨は確認できなかった。上顎の歯と下顎骨の遺存状態はよく、各部位の計測ができたが、前後肢の骨は出土の時点でかなりの破損が進んでおり、細かい同定や計測は不能であった。

2 個体数

土坑から出土した馬歯の数と下顎に残っている歯の数から個体数は1個体と考えられる。

3 遺存状態

歯については遺存状態が良好で、上下にそれぞれ6本ずつあるはずの切歯のうち一番外側の上2本、下2本の切歯4本以外はすべての歯を確認できた。以下の項でも触れるが、一番外側の切歯はまだ生え始めたばかりであるために確認できなかったと思われる。下顎骨は下顎角部と頭蓋骨と接合する筋突起部が欠損しているがその他の部分はよく残っていた(図2)。前後肢については前腕骨、大腿骨、脛骨、中足骨と推定される骨が出土したが破損が著しく進んでいた。

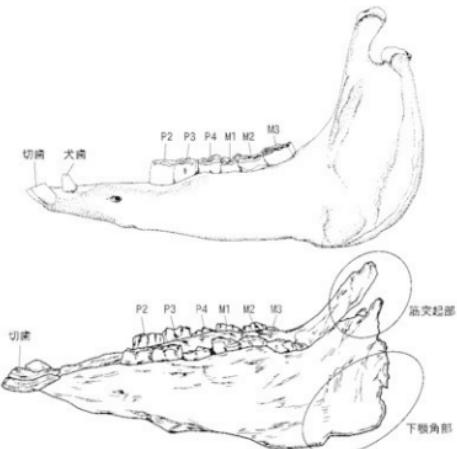


図2 雄の馬の下顎骨（上）と蒼海（33）3区出土馬下顎骨（下）

4 性別

馬の雌雄を判別する指標となるのは犬歯であり、雄には犬歯が生えており、雌には生えていない。この馬は下顎骨に犬歯が確認できなかったので、雌であると判別できる。

5 死亡年令

哺乳類を長年研究なされている宮崎重雄氏によればこの馬の特徴として、①後臼歯（M3）がまだ生え始めてある。②前臼歯（P4）も生え始めである。③一番外側の切歯が生え揃っていない。以上の3点が挙げられ、このことから死亡年齢を4歳と推定された(図2)。

また、出土した上顎臼歯の歯冠高を計測したところ、3歳～4歳と推定することができた(表1)。

6 大きさ

前述の宮崎氏によればこの馬の大きさは、下顎の全臼歯列長(155mm)から体高120~130cmの小型馬であると推定された。日本の在来馬である木曾馬(体高130~140cm)とトカラ馬(体高110~120cm)の中間程度の大きさの馬である。

また、前臼歯(P2)があまり擦れていないことから、銛を使っていない農耕馬の可能性が高いとご指摘いただいた。

また、下顎全長を復元したところ、体高は120~125cmと推定することができた(表2)。

群馬県埋蔵文化財調査事業団発行の「上野国分寺・尼寺中間地域(4)(1990年)」や「中里見遺跡(2000年)」の報告書内で馬の歯冠幅率と改良度について触れられており、歯冠幅率の大きい馬は改良度が進んでおり、体の幅もある立派な馬であると記載されている。このことを参考に、出土馬歯の上顎臼歯の歯冠長と歯冠幅を測定し歯冠幅率を求めたところ(表3)、平均84.2%となり、「上野国分寺・尼寺中間地域(4)」の中世の馬歯平均幅率87.9%より歯幅率が低く、体の幅が中間地域の馬よりも狭かったと推定される。本遺跡出土の馬が離の幼令馬であり、農耕馬であると仮定すると、体の幅が狭い、すなわち改良度が低いということも納得できる結果である。

表1-1 馬の歯冠高と年齢の相関

年齢	上顎(mm)					
	P2	P3	P4	M1	M2	M3
3	56.5	71.7		69.6	85.2	75.5
4	50.1	64.3	70.3	61.3	71.1	65.5
5	45.4	58.5	61.3	55.3	63.2	58.7
6	41.4	53.5	55.5	50.3	57.1	53.5

奈良文化財研究所発行『動物考古学の手引き』p.53より抜粋

表1-2 蒼海(33)3区 出土馬歯の歯冠高(mm)

	P2	P3	P4	M1	M2	M3
右上顎	56.0	71.5	73.5	70.5	80.0	69.0
左上顎	58.0	70.5	72.5	71.5	80.0	66.0

表2-1 馬の体高と骨計測値の相関

体高(cm)	110.0	115.0	120.0	125.0	130.0
下顎全長(mm)	371.4	378.9	387.0	395.7	405.4

奈良文化財研究所発行『動物考古学の手引き』p.53より抜粋

表2-2 蒼海(33)3区
出土馬骨の下顎計測表

単位(mm)	現存値	復元値*
全臼歯列長	160.0	—
前臼歯列長	85.0	—
後臼歯列長	75.0	—
下顎全長	295.0	393.3
下顎枝高	195.0	260.0

*骨全体の3/4が現存していると想定した値

参考文献

- 松井 章編 「動物考古学の手引き」奈良文化財研究所 埋蔵文化財センター 2006年
 群馬県埋蔵文化財調査事業団編 「上野国分寺・尼寺中間地域(4)」1990年
 群馬県埋蔵文化財調査事業団編 「中里美遺跡群」2000年
 齊木一敏・長谷川一郎編 「元總社小見X遺跡」前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2005年
 高橋 亨・高板麻子編 「元總社蒼海遺跡群(5)」前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2006年
 梅澤克典・井上 登編 「元總社蒼海遺跡群(7)」前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2006年
 山下信成・和久拓照・日沖剛史編 「元總社蒼海遺跡群(23)」前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2009年
 神宮 啓・佐野良平編 「元總社蒼海遺跡群(30)」前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2010年
 桑崎修一部編 「研究紀要23 群馬県出土骨器データベース」群馬県埋蔵文化財調査事業団 2005年

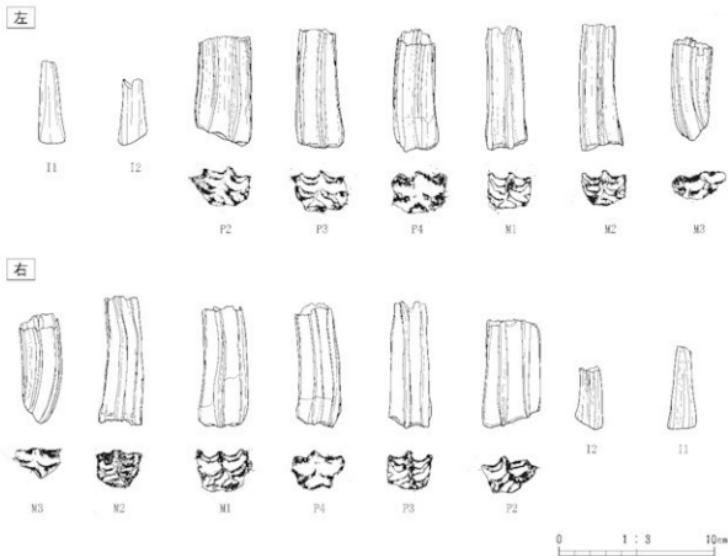


表3 元總社蒼海(33)-3区 出土馬歯 計測表

	歯種	歯冠高 (mm)	歯冠長 (mm)	歯冠幅 (mm)	幅率(%) 幅/長	重量 (g)
左 上	P 2	58.0	37.0	24.0	64.9	46.4
	P 3	70.5	29.0	24.0	82.8	56.0
	P 4	72.5	26.0	22.0	84.6	47.2
	M 1	72.0	27.0	26.0	96.3	47.4
	M 2	80.0	27.0	23.0	85.2	51.0
	M 3	66.0	20.0	17.0	85.0	28.0
右 頸	P 2	56.0	35.0	24.0	68.6	45.6
	P 3	71.5	27.0	25.0	92.6	49.8
	P 4	73.5	27.0	24.0	88.9	49.2
	M 1	70.5	30.0	25.0	83.3	55.0
	M 2	80.0	27.0	24.0	88.9	53.0
	M 3	69.0	19.0	17.0	89.5	28.8

図 版



元總社蒼海遺跡群（32）2区全景（上が西）



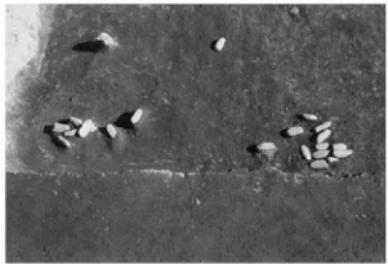
2区 H-1号住居跡全景（西から）



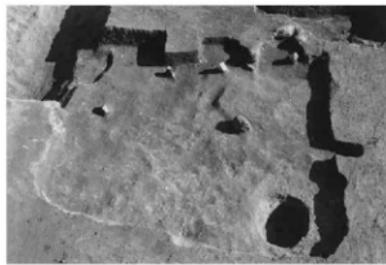
2区 H-1号住居跡全景（西から）



2区 H-1号住居跡遺物出土状況（西から）



2区 H-1号住居跡縦物石検出状況（西から）



2区 H-2号住居跡全景（西から）



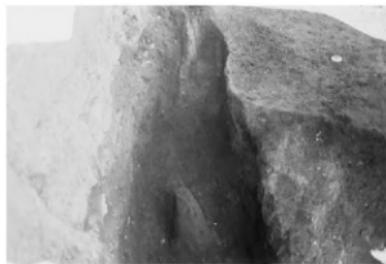
2区 H-2号住居跡全景（西から）



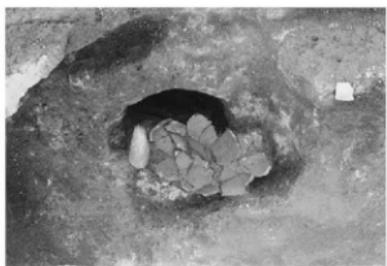
2区 H-3・4号住居跡全景



2区 H-5号住居跡全景（西から）



2区 H-5号住居跡全景（西から）



2区 H-5号住居跡貯藏穴遺物出土状況（北から）



2区 H-6号住居跡全景（西から）



2区 H-6号住居跡全景（西から）



2区 H-6号住居跡出土遺物（西から）



2区 H-8号住居跡全景（西から）



2区 H-9号住居跡全景（北から）



2区 H-10号住居跡全景（西から）



2区 H-11、12、13号住居跡及びT-1号竪穴状遺構全景（西から）



2区 H-11号住居跡出土遺物（西から）



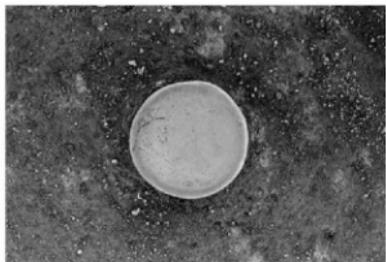
2区 H-11号住居跡出土遺物（西から）



2区 H-12号住居跡出土遺物（西から）



2区 H-14号住居跡全景（西から）



2区 H-14号住居跡出土遺物（北から）



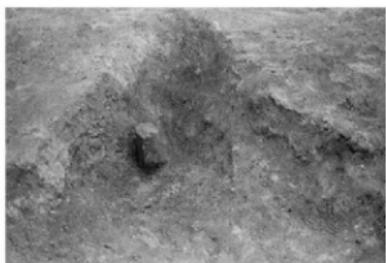
2区 H-14号住居跡出土遺物（北から）



2区 H-14号住居跡石器出土状況（西から）



2区 H-15号住居跡全景（西から）



2区 H-16号窓全景（西から）



2区 T-1号竪穴状遺構全景（東から）



2区 T-2号竪穴状遺構全景（北から）



2区 D-2号土坑遺物出土状況（西から）



2区 D-3号土坑全景（西から）



2区 W-1号溝全景（南から）



2区 W-1号溝全景（北から）



2区 W-2号溝全景（東から）



2区 W-1・2号溝交差付近作業状況（南から）



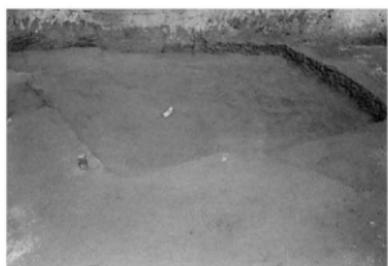
3区 調査区全景（南から）



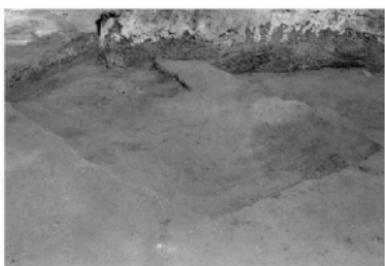
3区 H-1号住居跡全景（西から）



3区 H-1号住居跡遺全景（西から）



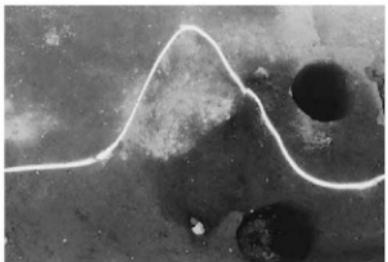
3区 H-2号住居跡全景（南から）



3区 H-3号住居跡全景（南から）



3区 H-4号住居跡全景（西から）



3区 H-4号住居跡遺壠全景（西から）



3区 H-5号住居跡全景（西から）



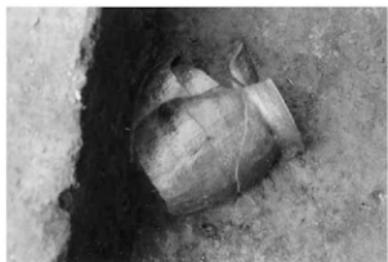
3区 H-5号住居跡遺壠全景（西から）



3区 H-6号住居跡全景（南から）



3区 H-7号住居跡全景（南から）



3区 H-8号住居跡遺物出土状況（西から）



3区 H-8号住居跡遺物出土状況（南から）



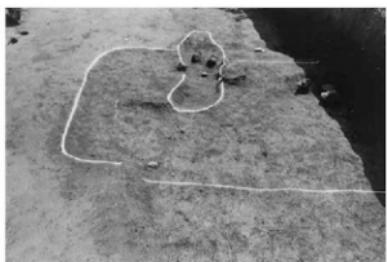
3区 H-8号住居跡遺物（南から）



3区 H-8号住居跡全景（南から）



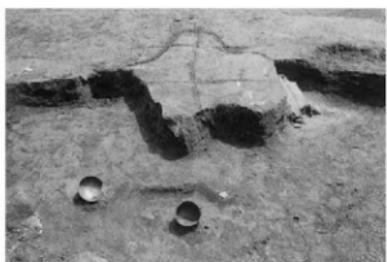
3区 H-8号住居跡遺物（南から）



3区 H-9号住居跡全景（西から）



3区 H-10号住居跡全景（西から）



3区 H-11号住居跡遺物出土状況（西から）



3区 H-11号住居跡遺物出土状況（西から）



3区 H-11号住居跡全景（西から）



3区 H-11号住居跡竪全景（西から）



3区 H-12号住居跡遺物出土状況①（南から）



3区 H-12号住居跡遺物出土状況②（南から）



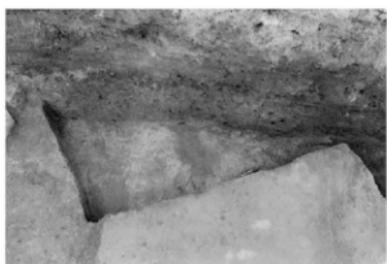
3区 H-12号住居跡竪粘土範囲（西から）



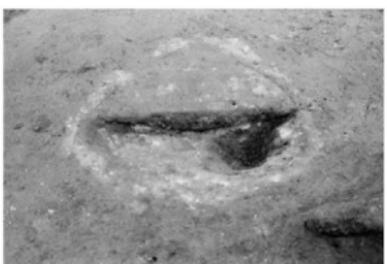
3区 H-12号住居跡全景（西から）



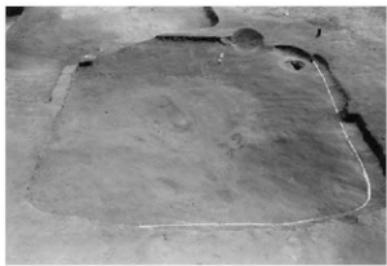
3区 H-12号住居跡全景（西から）



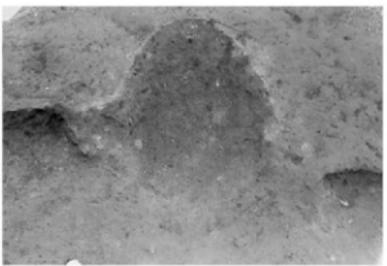
3区 H-13号住居跡全景（西から）



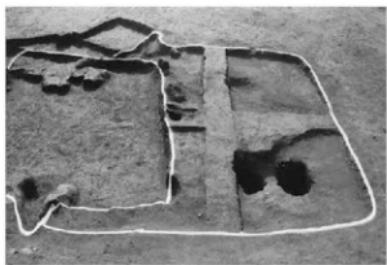
3区 H-14号住居跡粘土貼り土坑（南から）



3区 H-14号住居跡全景（西から）



3区 H-14号住居跡竪全景（西から）



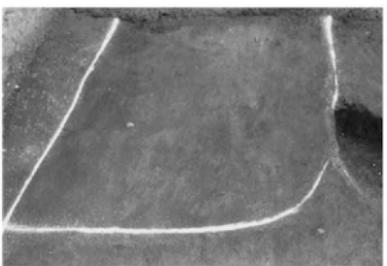
3区 H-15・20号住居跡全景（東から）



3区 H-16号住居跡全景（南から）



3区 H-17号住居跡全景（西から）



3区 H-18号住居跡全景（西から）



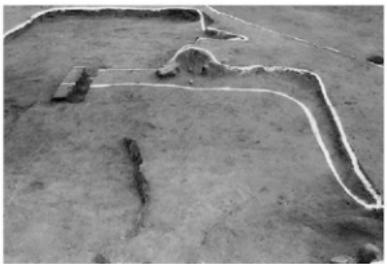
3区 H-19号住居跡石出土状況（南から）



3区 H-19号住居跡全景（西から）



3区 H-22号住居跡全景（西から）



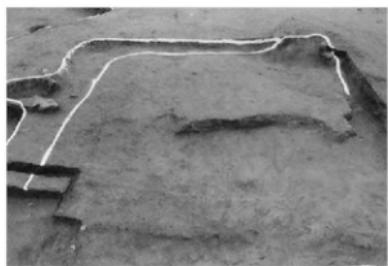
3区 H-22・23号住居跡全景（南から）



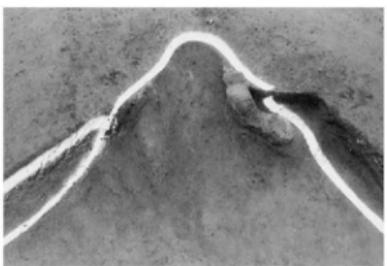
3区 H-24号住居跡全景（西から）



3区 H-23号住居跡全景（南から）



3区 H-25号住居跡遺物出土状況①（南から）



3区 H-24号住居跡全景（西から）



3区 H-19号住居跡全景（西から）



3区 H-25号住居跡遺物出土状況②（南から）



3区 H-25号住居跡全景（南西から）



3区 H-25号住居跡竪竈全景（西から）



3区 H-26号住居跡全景（南から）



3区 H-26号住居跡竪竈全景（南から）



3区 D-4号土坑遺物出土状況（西から）



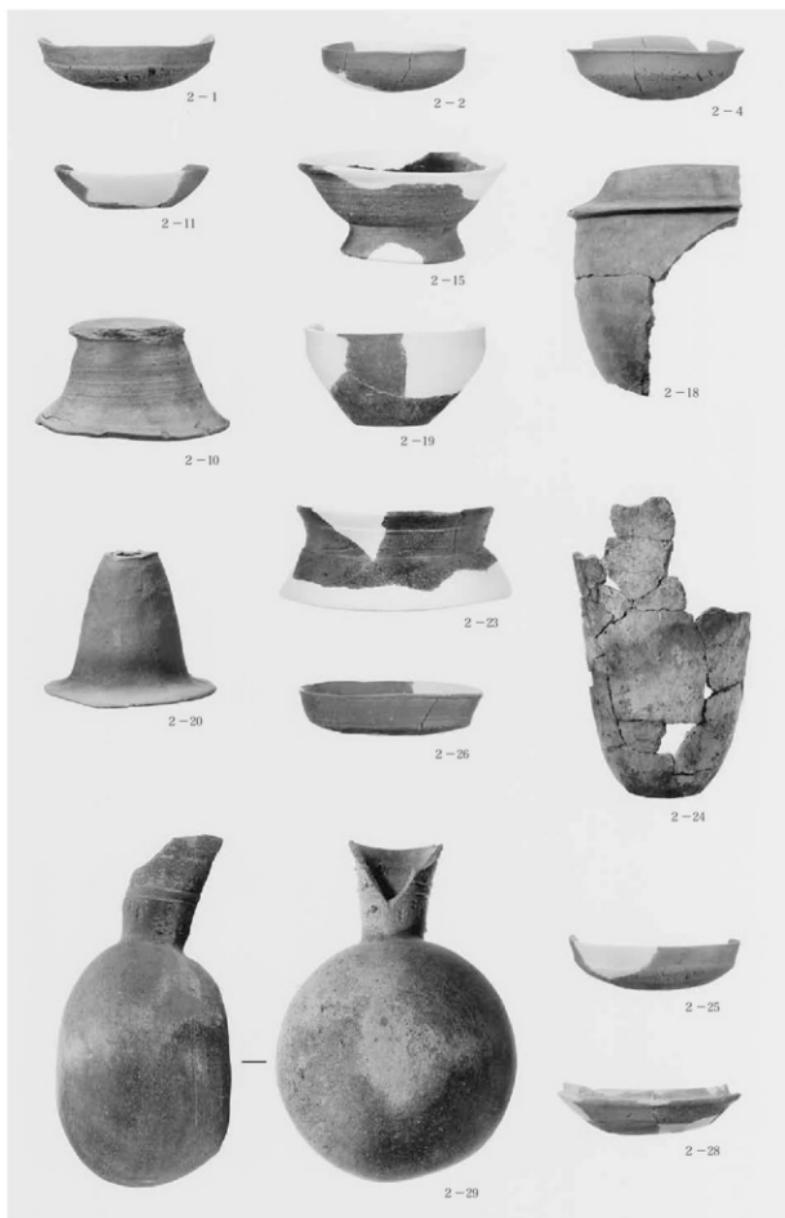
3区 W-1号溝跡全景（西から）



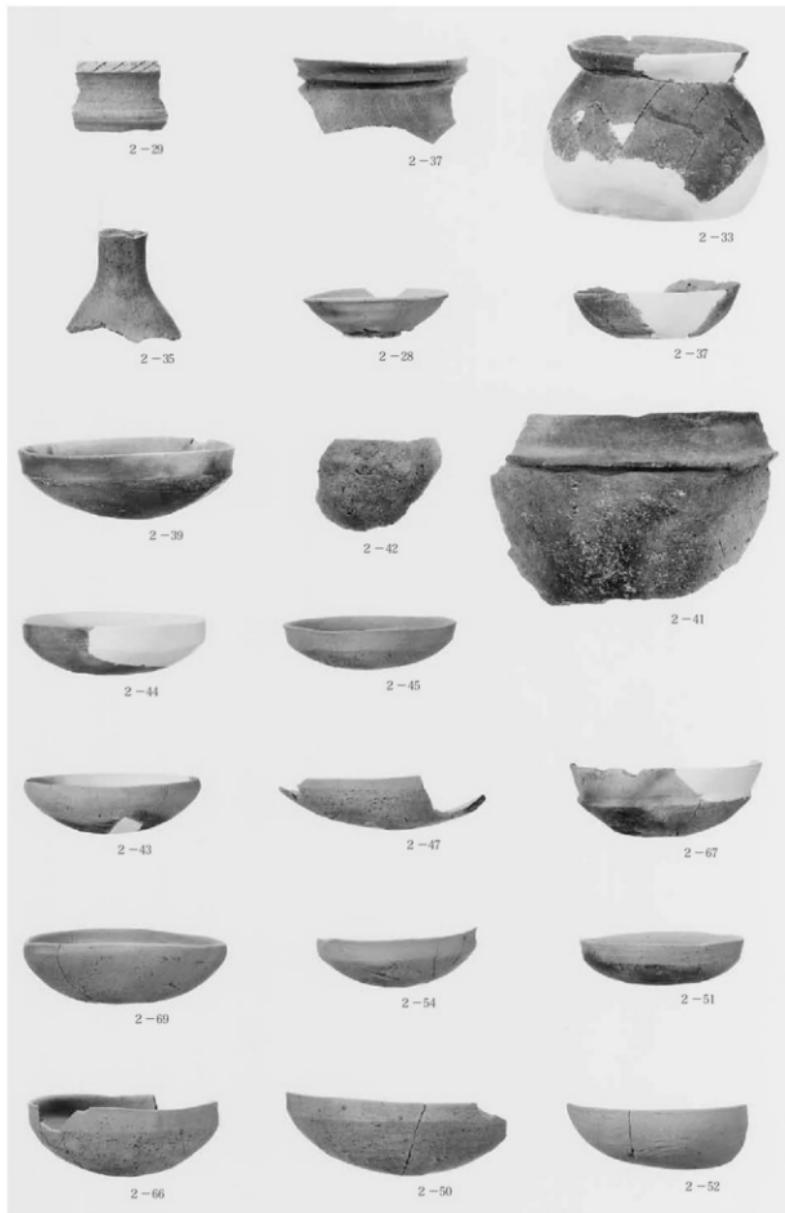
3区 W-2号溝跡北部全景（北から）



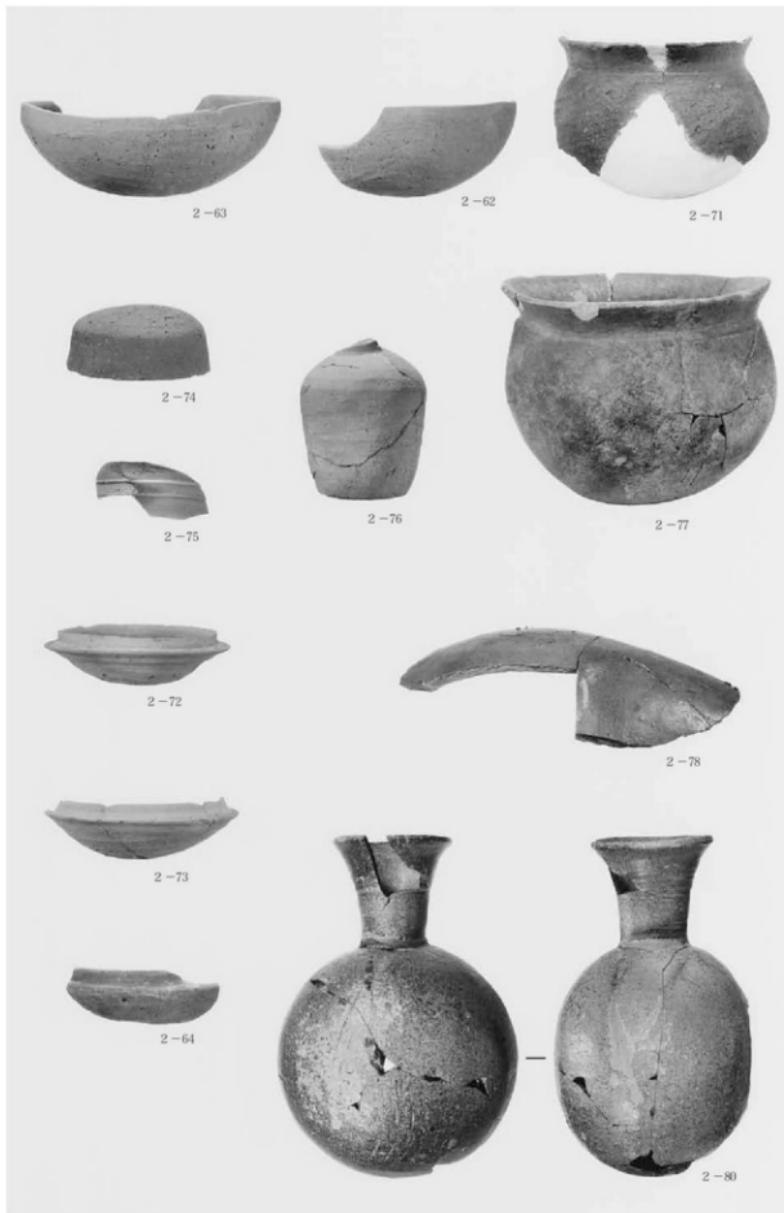
3区 W-2号溝跡南部全景（北から）



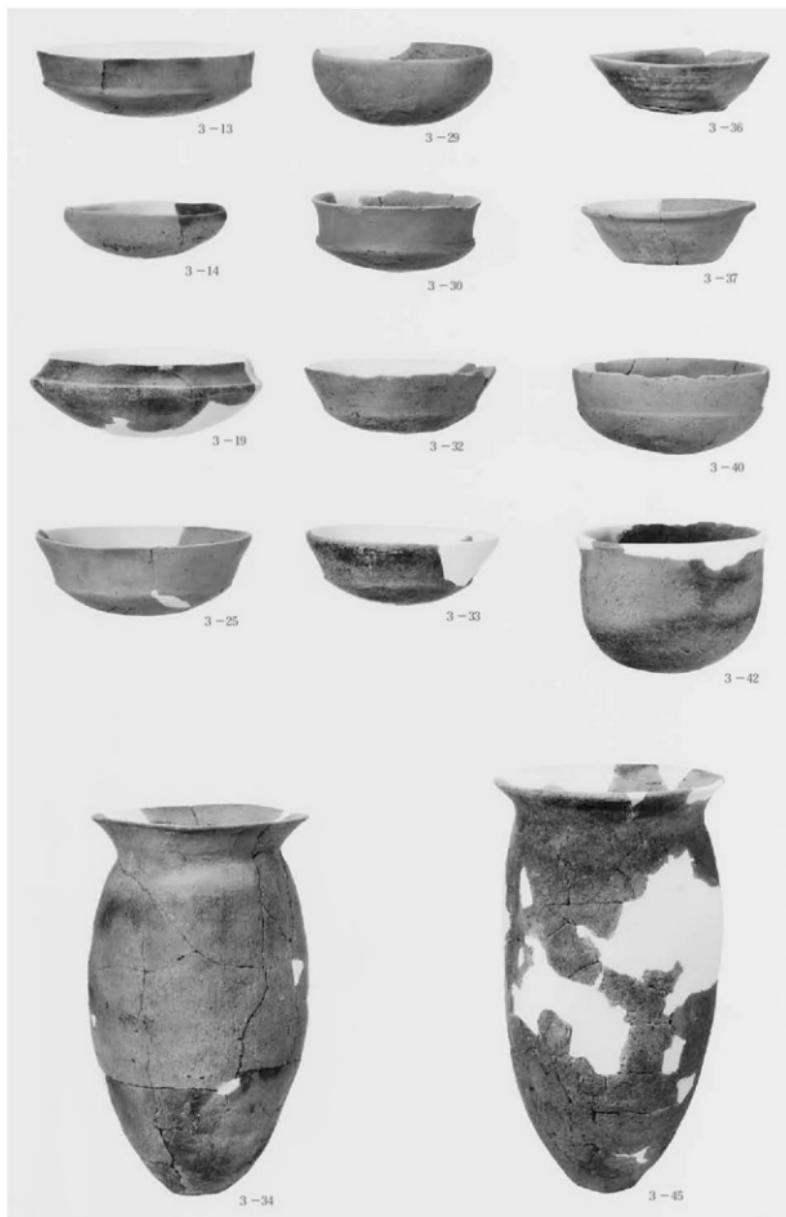
元絶社舊海遺跡群 (32) 2区



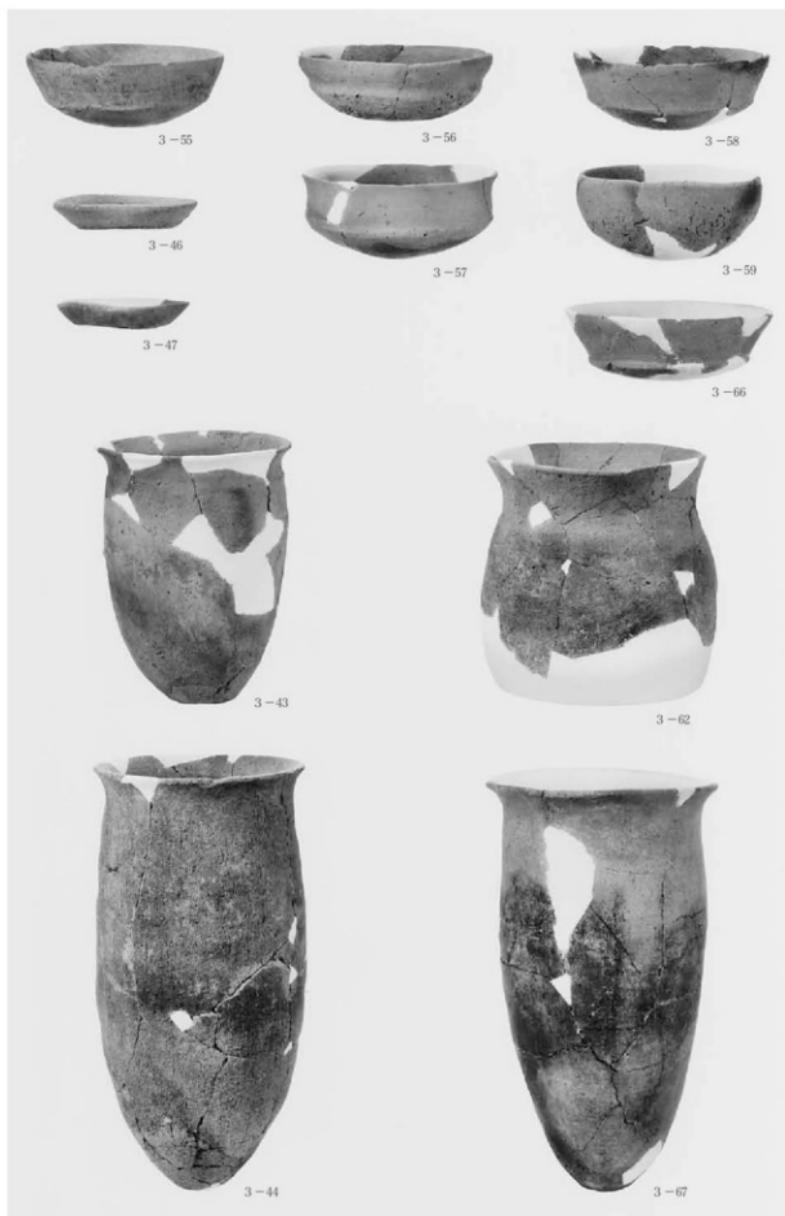
元總社舊海遺跡群 (32) 2区



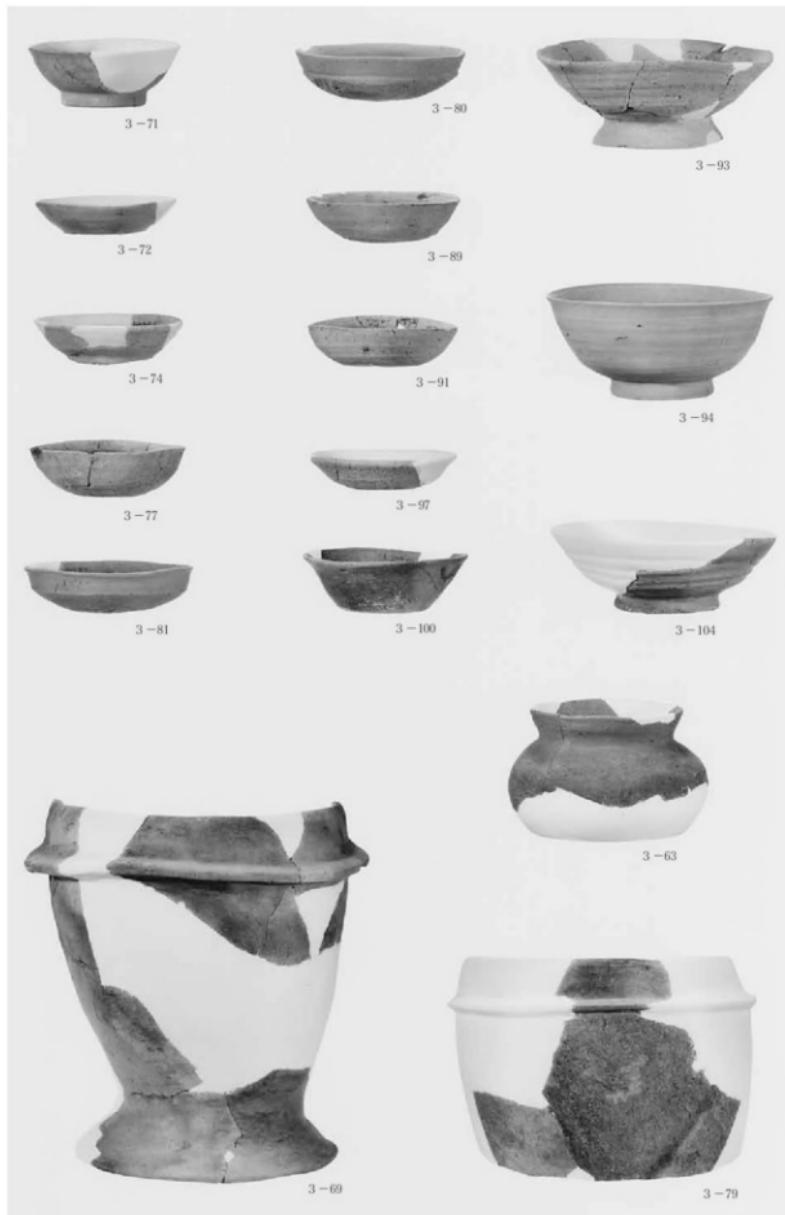
元總社舊海遺跡群 (32) 2 区



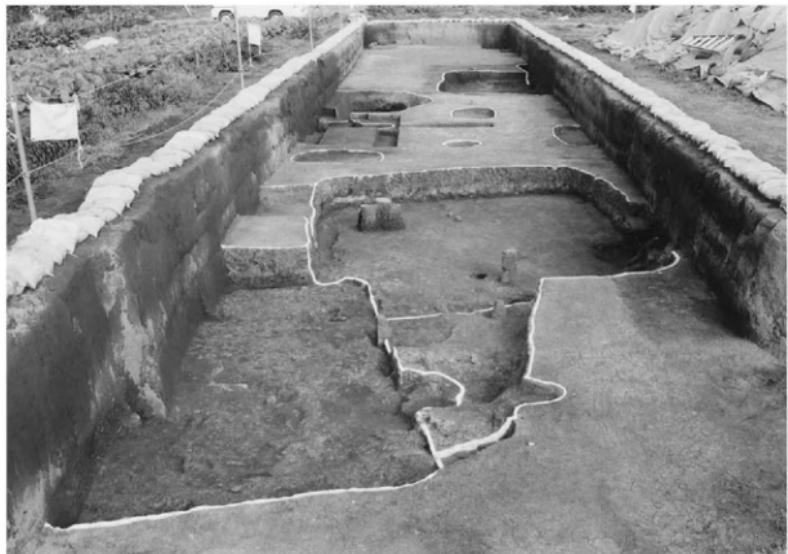
元總社舊海遺跡群 (32) 3区



元總社舊海遺跡群 (32) 3区



元祐社舊海遺跡群 (32) 3区



I区 椰柵区全景（南から）



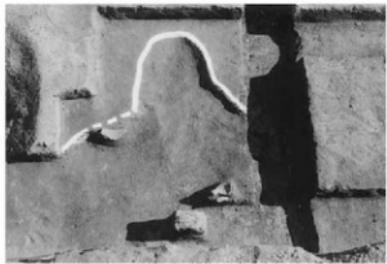
I区 H-1号住居跡全景（西から）



I区 H-2号住居跡遺物出土状況（西から）



I区 H-2号住居跡遺物出土状況（西から）



I区 H-2号住居跡全貌（西から）



1区 H-3・4・5号住居跡全景（北から）



1区 H-3号住居跡遺全景（西から）



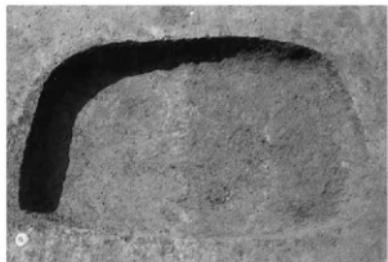
1区 H-6号住居跡遺物出土状況（南から）



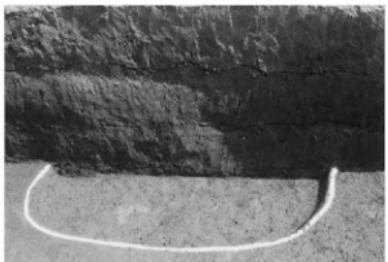
1区 H-6号住居跡遺全景（北から）



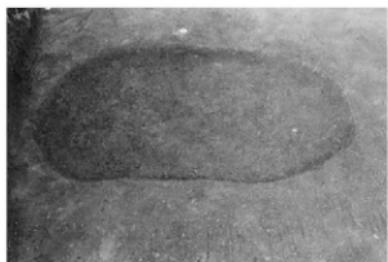
1区 基本土層



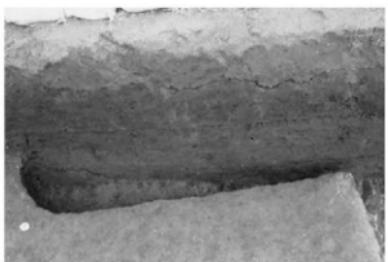
I区 D-1号土坑全景（南から）



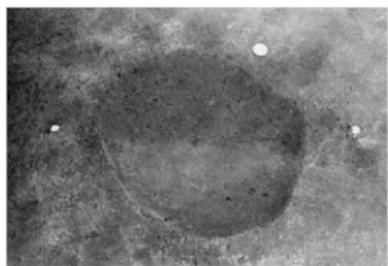
I区 D-2号土坑全景（西から）



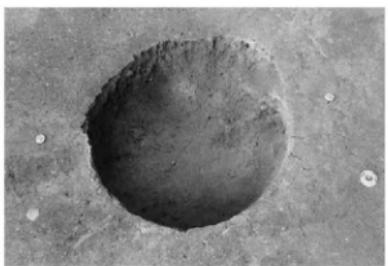
I区 D-3号土坑全景（南から）



I区 D-4号土坑全景（西から）



I区 P-1号柱穴全景（南から）



I区 P-2号柱穴全景（南から）



I区 I-1号井戸跡全景（東から）



I区 作業風景（南から）



2区 I-3号井戸跡全景（南から）



2区 I-4号井戸跡全景（南から）



2区 I-5号井戸跡全景（東から）



2区 I-6号井戸跡全景（東から）



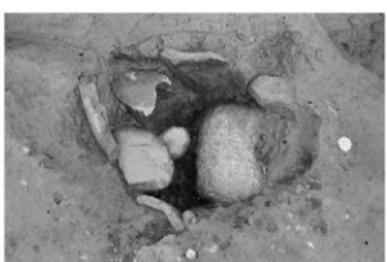
2区 D-6号土坑全景（南から）



2区 O-1号落ち込み全景（東から）



2区 H-13号住居跡硬化範囲全景（東から）



2区 H-14号住居跡電全景（南から）



2区 H-7号住居跡全景（西から）



2区 H-7号住居跡竈全景（西から）



2区 H-7号住居跡遺物出土状況（西から）



2区 H-7号住居跡遺物出土状況（西から）



2区 H-7号住居跡遺物出土状況（西から）



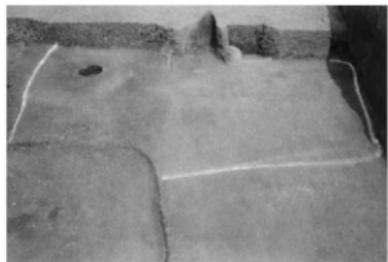
2区 H-7号住居跡遺物出土状況（北から）



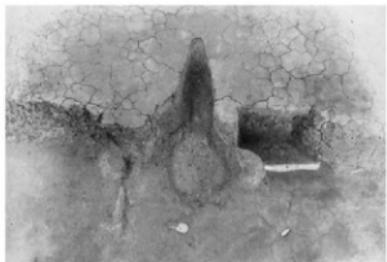
2区 H-7号住居跡床下土坑全景（西から）



2区 H-8号住居跡全景（西から）



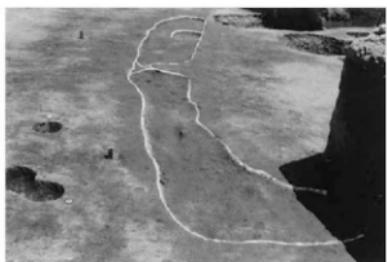
2区 H-9号住居跡全景（西から）



2区 H-9号住居跡竪全景（西から）



2区 H-10号住居跡全景（西から）



2区 W-1号溝跡全景（南から）



2区 DB-1号土坑墓人骨出土状況（西から）



2区 W-2号溝跡全景（南から）



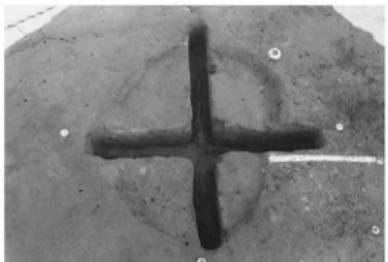
2区 W-2号溝跡人骨出土状況（西から）



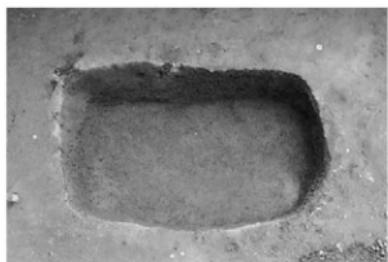
2区 I-2号井戸跡全景（南から）



2区 D-28号土坑全景（南から）



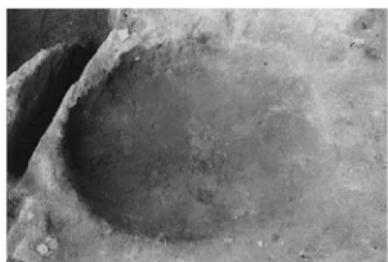
2区 D-29号土坑全景（南から）



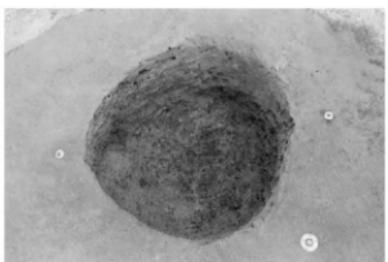
2区 D-30号土坑全景（西から）



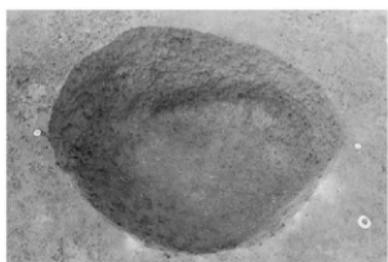
2区 D-31号土坑全景（南から）



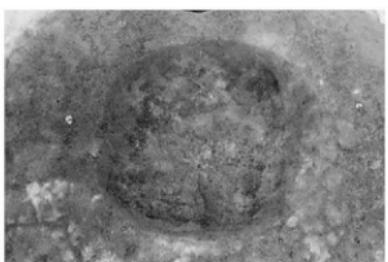
2区 D-33号土坑全景（南から）



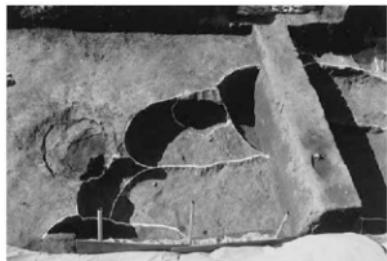
2区 D-34号土坑全景（南から）



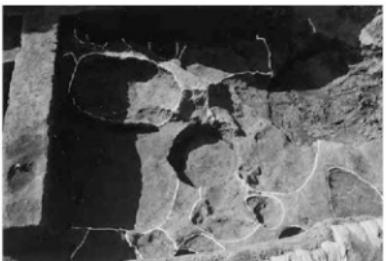
2区 D-35号土坑全景（南から）



2区 D-36号土坑全景（南から）



2区 粘土探掘坑南側（東から）



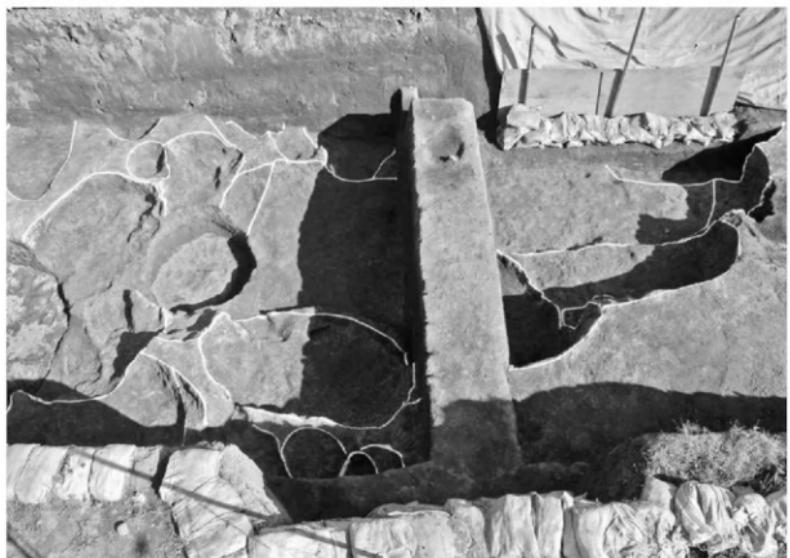
2区 粘土探掘坑北側（東から）



2区 1号粘土探掘坑全景（西から）



2区 1号粘土探掘坑工具痕（東から）



2区 粘土探掘坑全景（東から）



2区 粘土探掘坑5号・6号確認状況（西から）



2区 粘土探掘坑5号・6号セクション（南から）



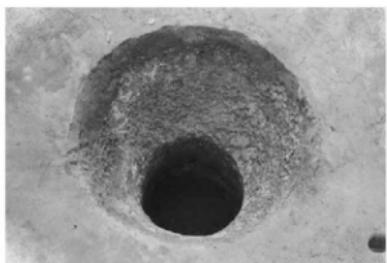
2区 粘土探掘坑9号・10号セクション（南から）



2区 粘土探掘坑（北から）



2区 I-8号井戸跡全景（東から）



2区 I-9号井戸跡全景（北から）



2区 I-10号井戸跡全景（東から）



2区 I-11号井戸跡全景（北から）



3区 H-15号住居跡全景（西から）



3区 H-16号住居跡全景（北から）



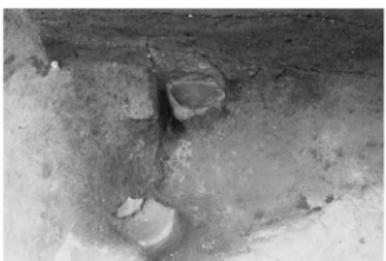
3区 H-17号住居跡全景（西から）



3区 H-17号住居跡遺物出土状況（西から）



3区 H-18号住居跡遺全貌（西から）



3区 H-19号住居跡遺全貌（東から）



3区 H-21・22・24号住居跡、O-1号全景（東から）



3区 H-21・22・23・24号住居跡、O-1号全景（西から）



3区 H-23号住居跡出土遺物状況（西から）



3区 H-25号住居跡全景（西から）



3区 H-25号住居跡全景（西から）



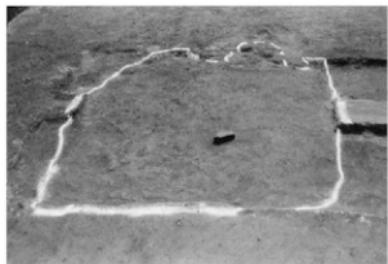
3区 H-26・27号住居跡全景（南から）



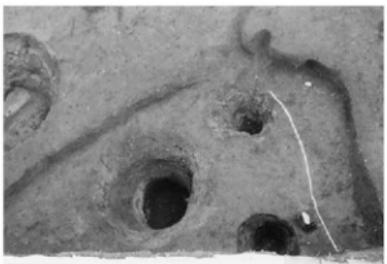
3区 H-28号住居跡全景（西から）



3区 H-28号住居跡全景（西から）



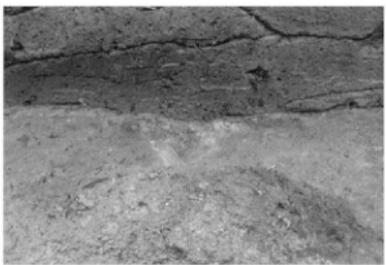
3区 H-11号住居跡全景（西から）



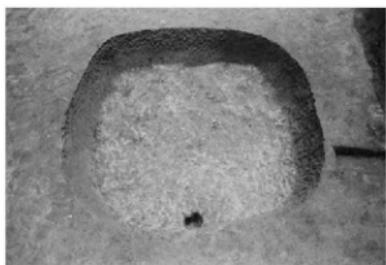
3区 H-12号住居跡全景（西から）



3区 H-12号住居跡遺セクション（南から）



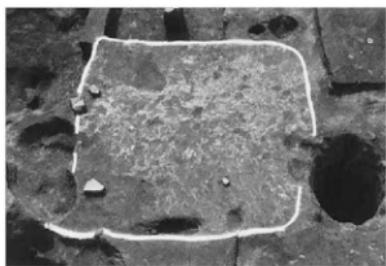
3区 H-12号住居跡炉（東から）



3区 T-1号堅穴状遺構全景（西から）



3区 T-2号堅穴状遺構全景（西から）



3区 T-3全景（東から）



3区 W-4全景（西から）



3区 W-3号溝跡（西から）



3区 W-5全景（西から）



3区 W-6全景（北から）



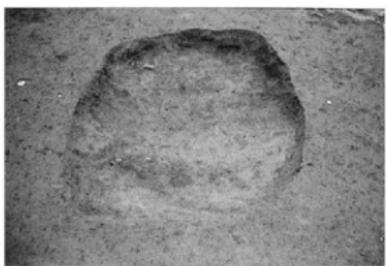
3区 W-6作業風景（北から）



3区 D-25土坑遺物出土状況（南から）



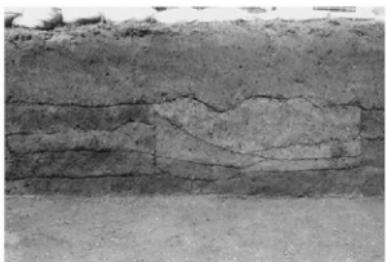
3区 D-23風景（西から）



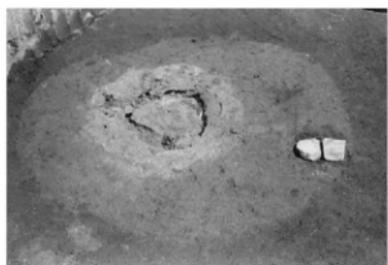
3区 D-24全景（南から）



3区 D-45全景（北から）



3区 D-47全景（西から）



3区 1-7号井戸跡確認面（南から）



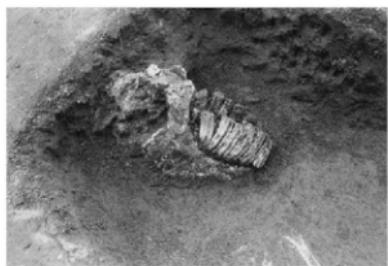
3区 1-7号井戸跡東西セクション（南から）



3区 DB-2号土坑墓人骨出土状況（南から）



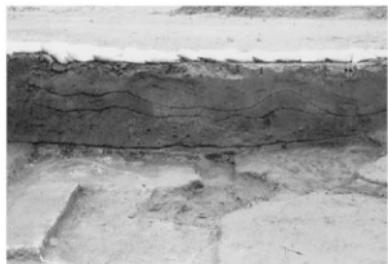
3区 DB-3号土坑墓馬骨出土状況（南から）



3区 DB-3号土坑墓馬骨出土状況（南から）



3区 DB-3号土坑墓馬骨出土状況（南から）



3区 O-2号落ち込み全景（南から）



3区 中世面全景（西から）



4区 H-29号住居跡全景（西から）



4区 H-31号住居跡全景（西から）



4区 H-31号住居跡全景（西から）



4区 H-32・33号住居跡全景（西から）



4区 H-32号住居跡全景（西から）



4区 H-32号住居跡高盤出土状況（西から）



4区 H-35号住居跡全景（北西から）



4区 H-36号住居跡全景（南から）



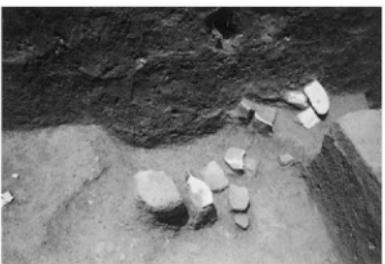
4区 H-37号住居跡全景（東から）



4区 H-37号住居跡内焼土検出状況（南東から）



4区 白磁出土状況



4区 H-38号住居跡焼土検出状況（東から）



4区 H-39号住居跡全景



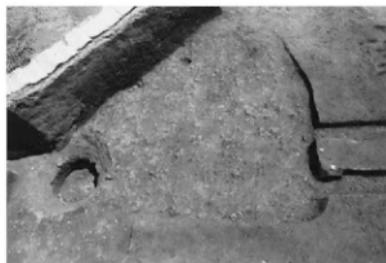
4区 H-39号住居跡焼土検出状況（西から）



4区 H-40号住居跡遺物出土状況（西から）



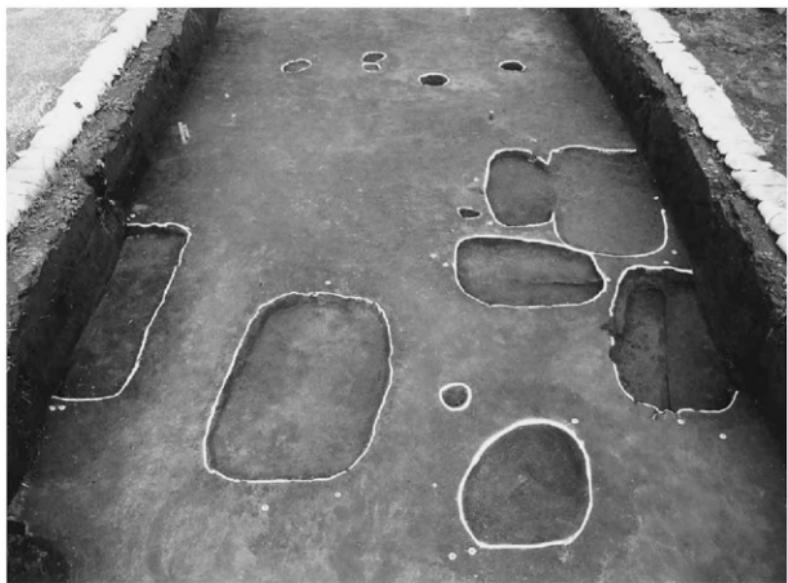
4区 H-40号住居跡焼土検出状況（北西から）



4区 H-41号住居全景（北から）



4区 H-42号住居全景



4区 中世土坑群分布状況図（北半）（南から）



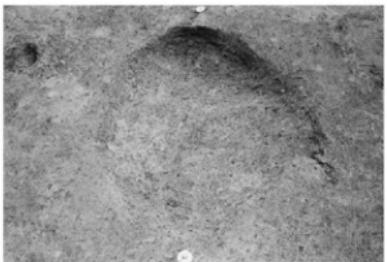
4区 D-48号・49号土坑全景（北から）



4区 D-50号土坑全景（西から）



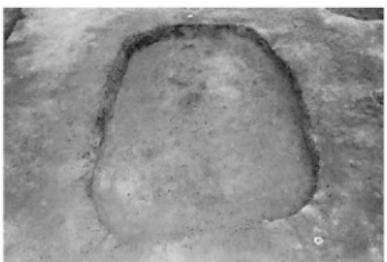
4区 D-51号土坑全景（北から）



4区 D-52号土坑全景（南西から）



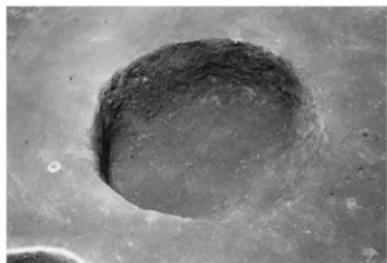
4区 D-53号土坑全景（南から）



4区 D-54号土坑全景（南から）



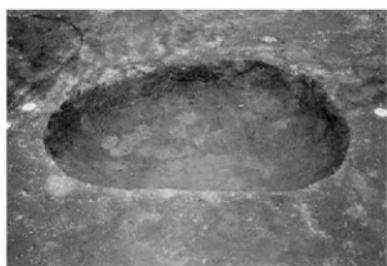
4区 中世土坑群分布状況図（南半）（南から）



4区 D-55号土坑全景（南から）



4区 D-56号土坑遺物出土状況（南から）



4区 D-56号土坑全景（東から）



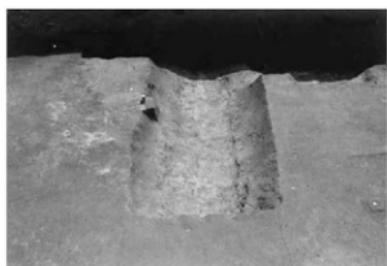
4区 D-57号土坑全景（西から）



4区 D-58号土坑遺物出土状況（西から）



4区 D-59号土坑全景（西から）



4区 W-8号溝全景（西から）



4区 I-14井戸全景（南東から）



5区 H-43号住居遺全景（西から）



5区 H-44号住居遺全景（東から）



5区 H-45号住居遺全景（東から）



5区 H-45号住居遺物出土状況（南から）



6区 H-45号住居遺物出土状況（南から）



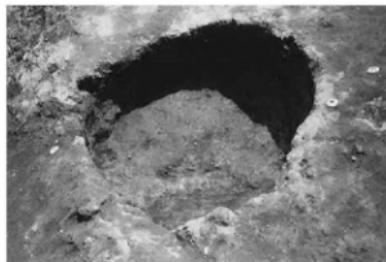
5区 H-46号住居遺物出土状況（西から）



5区 H-47号住居遺検出状況（西から）



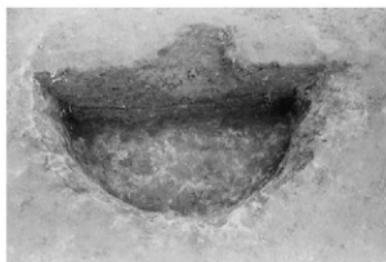
5区 H-48号住居遺全景（南から）



5区 D-62号土坑全景（西から）



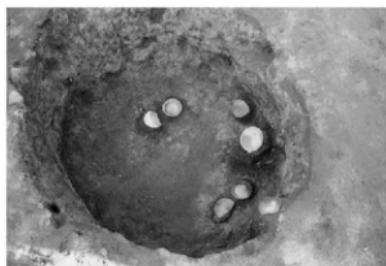
5区 D-64号土坑（東から）



5区 D-65号土坑全景（南から）



5区 D-66号土坑全景（南から）



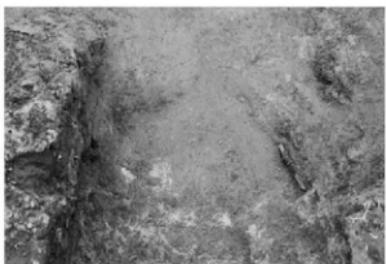
5区 D-67号土坑遺物出土状況（南から）



5区 D-68号土坑全景（北から）



5区 D-69号土坑全景（北から）



5区 D-69号土坑遺物出土状況（北から）



5区 D-71号土坑全景（南から）



5区 D-72号土坑遺物出土状況（西から）



5区 W-10号溝全景（北から）



5区 W-10号溝調査前状況



5区 W-10号溝全景（北西から）



5区 W-12号溝全景



5区 W-13号溝全景



5区 W-14号溝全景



5区 W-15号溝全景



5区 I-15号井戸全景



5区 W-15号溝全景



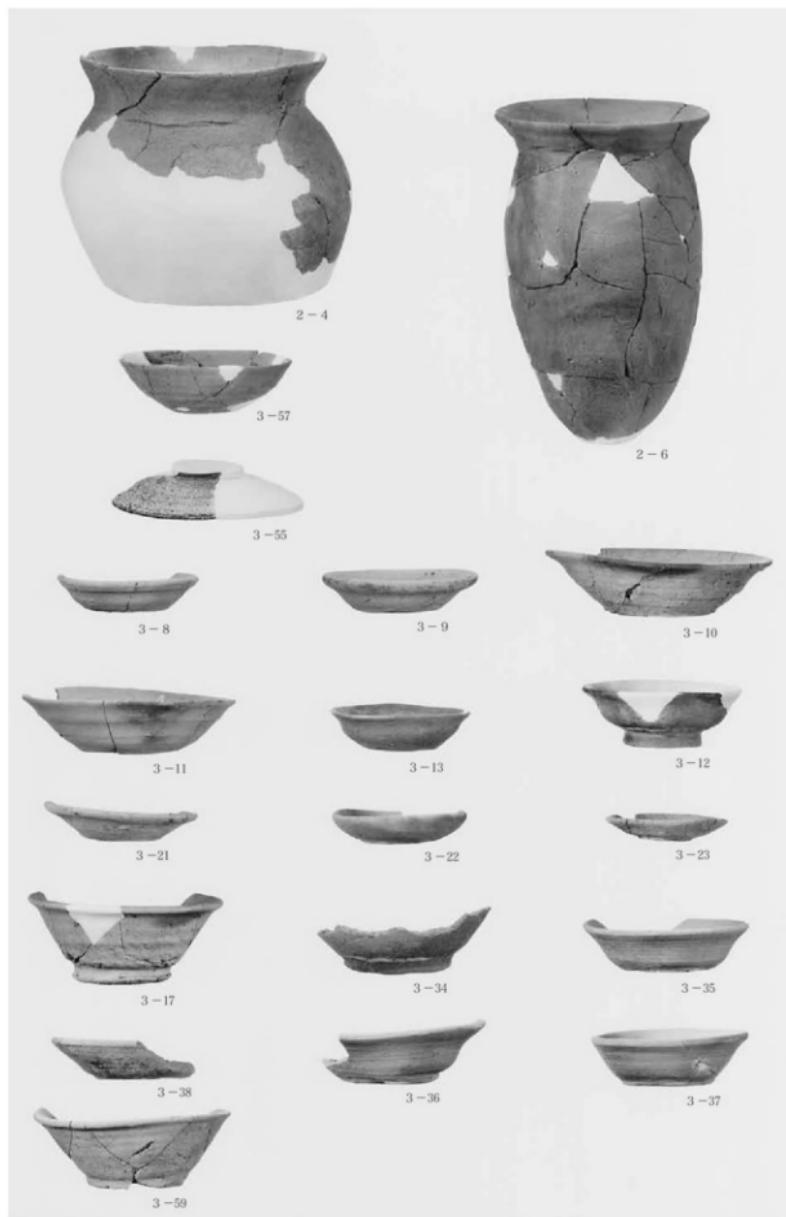
5区 I-16号井戸全景



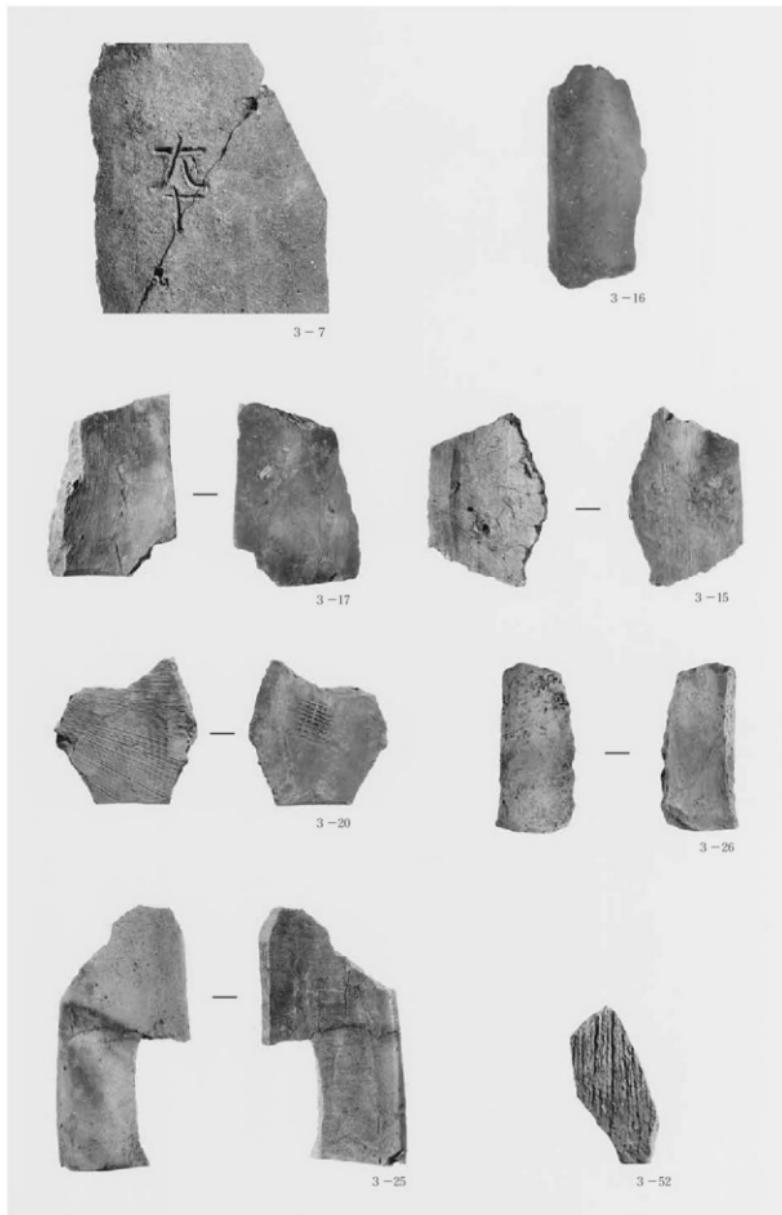
5区 I-16号井戸付近石造物出土状況



元總社蒼海遺跡群 (33) 1区・2区



元總社蒼海遺跡群 (33) 2区・3区



元紹社舊海遺跡群 (33) 3 区



3-39



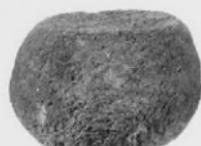
3-40



3-41



3-43



3-44



3-45



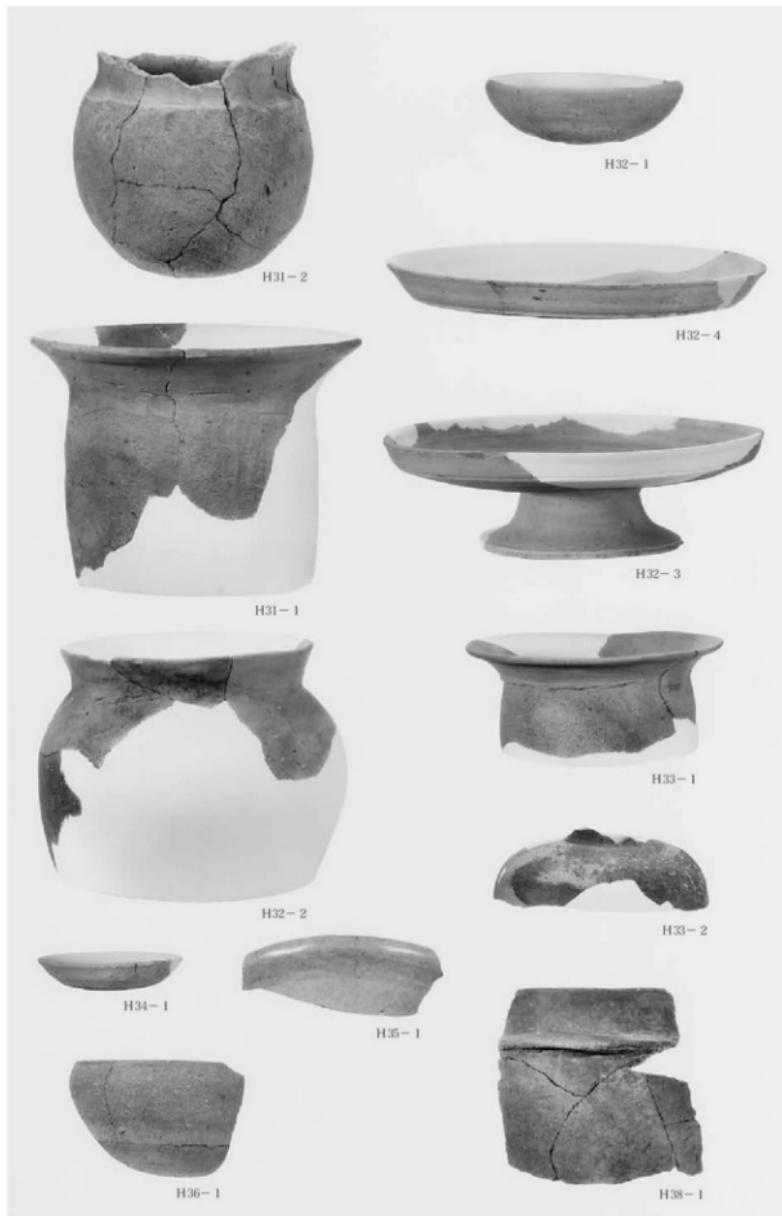
3-46



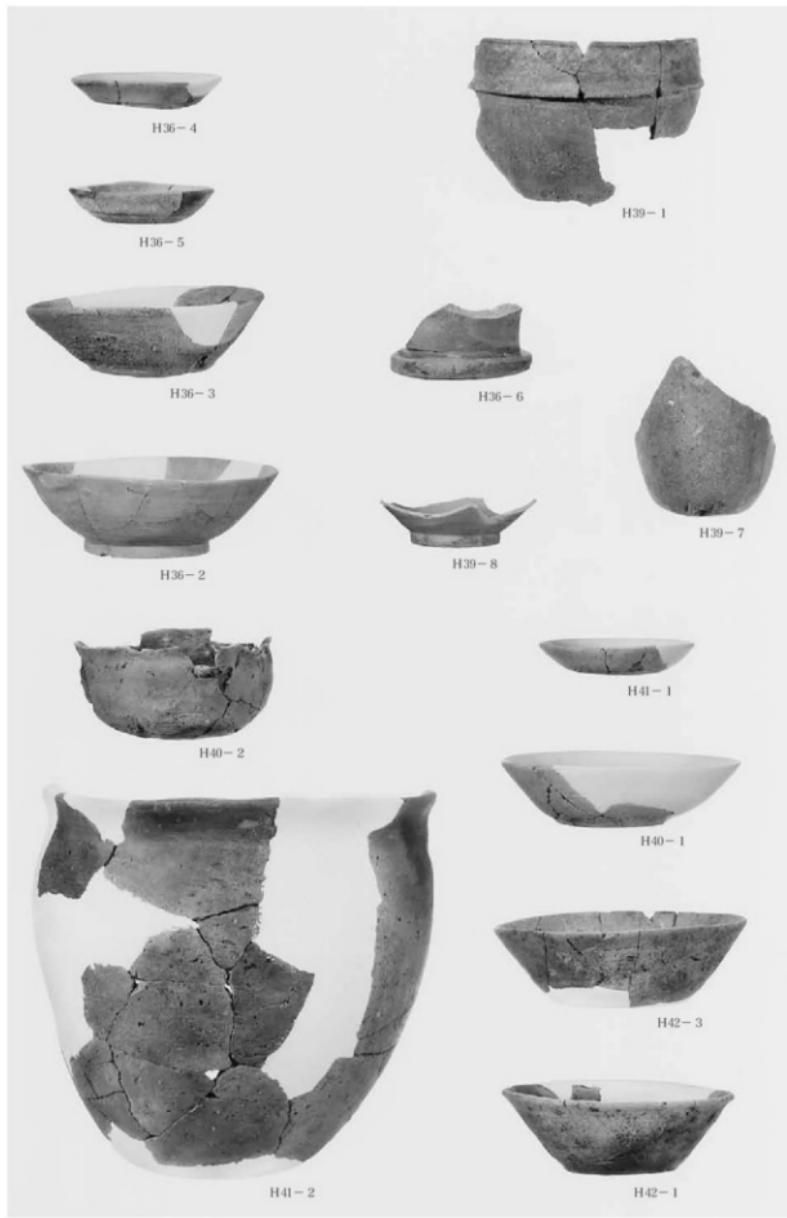
3-47



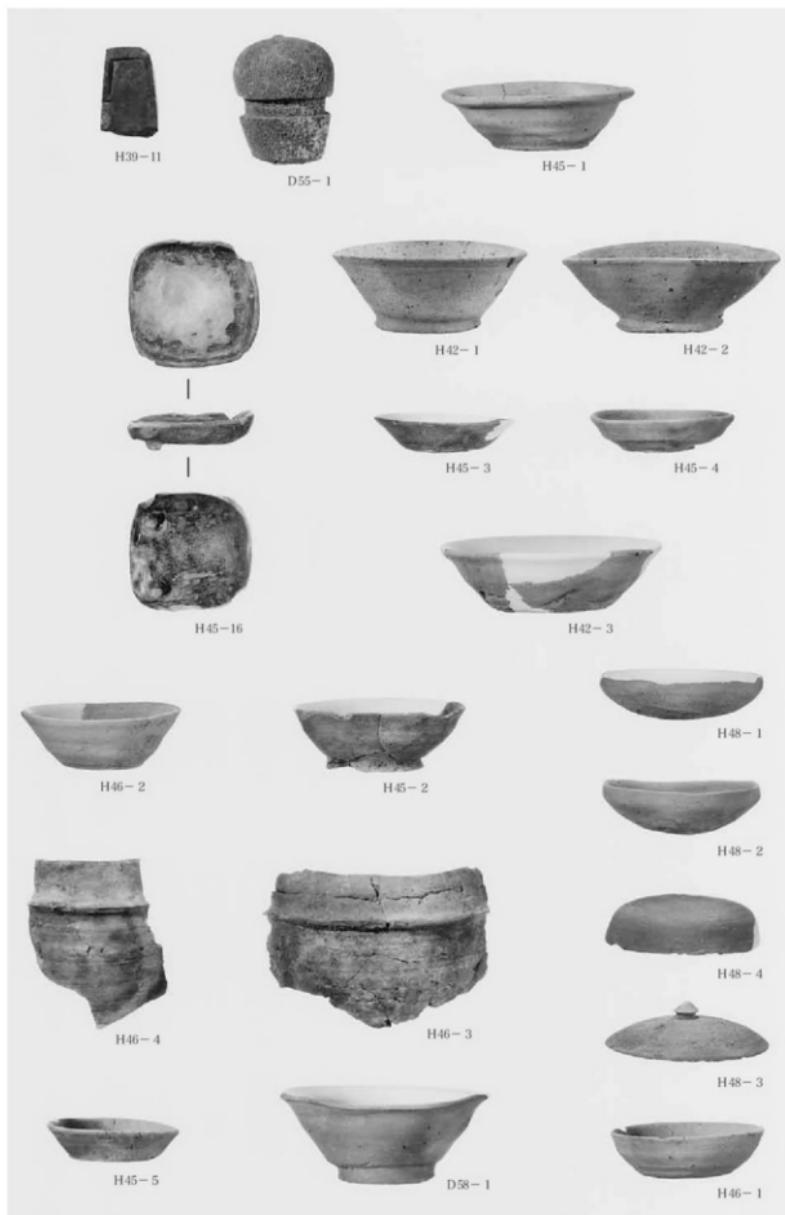
3-48



元絶社舊海遺跡群 (33) 4 区



元絶社舊海遺跡群 (33) 4 区



元總社蒼海遺跡群 (33) 4区・5区



W14-1



W15-2



W15-4



W15-6



W15-5



W15-11



W15-8



W15-9



W15-10



I14-1



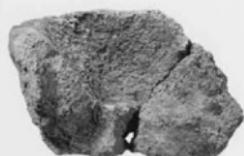
I 16-1



I 16-6



I 16-13



I 16-2



I 16-17



I 16-18



I 16-23

抄 錄

フリガナ	モトソウジャオウミセキグン (32、33)
書名	元総社蒼海遺跡群 (32、33)
副書名	前橋都市計画事業元総社蒼海地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	山下歳信・阿久澤智和、並木勝洋・瀧澤重雄、福田貫之・坂本高広
編集機関	前橋市教育委員会
編集機関所在地	〒371-0018 群馬県前橋市三俣町二丁目10-2
発行年月日	西暦2011年3月23日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		位 置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東經			
元総社蒼海遺跡群 (32)	前橋市元総社町1802-1ほか	10201	22A130-32	36°23'24"	139°02'11"	20090518 ~ 20101110	約1,510m ²	前橋都市計画事業元総社蒼海地区画整理事業
元総社蒼海遺跡群 (33)	前橋市元総社町1802-1ほか	10201	20A130-33	36°23'16"	139°02'04"	20090518 ~ 20101224	約1,930m ²	前橋都市計画事業元総社蒼海地区画整理事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
元総社蒼海遺跡群 (32)	集落跡	古墳時代 奈良・平安時代 中世 不明	竪穴住居跡7軒 竪穴住居跡3軒、溝跡1条 竪穴状遺構2基、溝跡4条 住居跡2軒、土坑3基、道跡1条	土師器、須恵器 他 土師器、須恵器、鉄製品、石製品、瓦 鉄製品、石製品	
元総社蒼海遺跡群 (33)	集落跡	古墳時代 奈良・平安時代 中世	竪穴住居跡5軒 竪穴住居跡43軒、溝跡1条 住居跡3軒、竪穴状遺構2基、溝跡15条、井戸17基	土師器、須恵器 他 土師器、須恵器、鉄製品、石製品、瓦 鉄製品、石製品	32号住居跡より高盤出土。 粘土探掘坑。

元総社蒼海遺跡群 (32)

元総社蒼海遺跡群 (33)

2011年3月18日 印刷
2011年3月23日 発行

発行・編集 前橋市教育委員会
前橋市三俣町二丁目10-2
印 刷 朝日印刷工業株式会社